

HP Operations Manager

UNIX および Linux オペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 9.20

管理 UI ヘルプ

ドキュメントリリース日: 2014 年 5 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1993–2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®および®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

HP 9000コンピューターに搭載のHP-UX リリース 10.20以降および11.00以降 (32ビットおよび64ビット構成) はすべて、Open Group UNIX 95ブランドの製品です。

Intel®、Itanium®、Pentium® は米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標です。

Javalは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポート オンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

このPDF版オンラインヘルプについて

本ドキュメントはPDF版のオンラインヘルプです。このPDFは、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷したり、オンラインヘルプをPDF形式で閲覧できるようにするために提供されています。このコンテンツは本来、オンラインヘルプとしてWebブラウザで閲覧することを想定して作成されているため、トピックによっては正しいフォーマットで表示されない場合があります。また、インタラクティブトピックの一部はこのPDF版では提供されません。これらのトピックは、オンラインヘルプから正しく印刷することができます。

目次

目次	4
HP Operations Manager 管理 UI	12
第1章: HPOM オブジェクトのオンラインヘルプ	13
HPOM メニューおよびオプション	14
HPOM オブジェクトの操作	15
オブジェクト一覧のソート	16
オブジェクト一覧のフィルター処理	17
[編集] メニュー	18
ノードの追加/変更	20
ノードの[プロパティ] タブ	22
ノードの[管理] タブ	24
ノードの[インストール] タブ	26
[ノードの通信] タブ	28
[ノードの詳細] タブ	29
ノードの[仮想] タブ	31
ノードグループの追加	33
ノード階層の追加	34
レイアウトグループの追加	36
メッセージグループの追加	37
ポリシーの追加	38
[プロパティ] タブ	43
[しきい値] タブ	44
[開始アクション] タブ	45
[続行アクション] タブ	50
[終了アクション] タブ	51
[インスタンスフィルタ] タブ	52
[アクション] タブ	53
[条件] タブ	53
[詳細] タブ	54

[相関処理] タブ	55
[カスタム属性] タブ	55
[指示] タブ	56
新しいポリシーの [ソース] タブ	56
[条件] タブ	61
[内容] タブ	63
[メッセージ デフォルト] タブ	64
[モニタ] タブ	71
[オプション] タブ	72
[パラメータ] タブ	74
[定期タスク] タブ	75
[サービス自動検出] タブ	77
[スケジュール] タブ	78
ポリシーグループの追加	79
新しいカテゴリ	81
ツールの追加	82
ツールの [プロパティ] タブ	83
[OM ツール] タブ	84
[内部ツール] タブ	85
ツールグループの追加	85
ユーザーの追加/編集	87
[オペレータ] タブ	88
[プロパティ] タブ	89
ユーザー プロファイルの追加	91
グループ替え条件の追加	92
指示文 インタフェースの追加	94
通知 サービスの追加	96
トラブルチケット インタフェースの編集	98
管理 サーバー設定 の編集	99
DB 保守設定 の編集	100
レポートの追加	102

[参照] メニュー	103
すべてのノードの一覧表示	106
ノード詳細の表示	108
HPOM 管理対象ノードの設定	110
ノード設定詳細の参照	112
メッセージカタログ	114
リソースカタログ	115
通知カタログ	116
指示カタログ	117
メッセージ相関処理	119
すべてのノードグループの一覧表示	120
ノードグループの編集	121
すべてのノード階層の一覧表示	123
ノード階層の編集	124
レイアウトグループの一覧表示	125
レイアウトグループの編集	127
すべてのノードデフォルト	128
ノードデフォルトの詳細の表示	129
すべてのメッセージグループ	131
メッセージグループ詳細の参照	132
メッセージグループの編集	133
メッセージグループの変更	134
すべての HPOM ポリシー	135
ポリシー詳細の表示	137
ポリシーまたはポリシーグループの詳細の参照	138
ポリシー (グループ) アクションの実行	140
ポリシーの編集	142
ポリシーの比較	144
パターンのテスト	145
メッセージソースポリシーにおけるパターンマッチ	147
選択演算子	149

アンカー文字	149
変数 への代入	150
角かっこ	151
マスク演算子	151
複数の文字にマッチ	152
NOT 演算子	153
数値の範囲	154
通常文字	155
セパレータ	156
メッセージソースポリシーにおける変数	156
ログファイルエントリポリシーにおける変数	158
メッセージソースアクションにおける変数	159
スケジュール済みアクションポリシーにおける変数	160
SNMPトラップポリシーにおける変数	161
しきい値モニターポリシーにおける変数	163
すべてのポリシーグループ	163
ポリシーグループの編集	165
すべてのポリシー割り当て	166
ポリシーバージョンの割り当ての更新	168
すべてのカテゴリ	170
カテゴリ詳細の参照	171
カテゴリの変更	172
すべてのポリシータイプ	174
ポリシータイプ詳細の表示	177
ポリシータイプ設定詳細の参照	178
設定ファイルポリシータイプ	179
設定ファイルポリシーの構文とキーワード	179
イベント関連処理ポリシータイプ	180
イベント関連処理コンポーザーポリシータイプ	181
フレキシブル管理ポリシータイプ	181
ログファイルエントリポリシータイプ	181

測定しきい値ポリシータイプ	182
ノード情報ポリシータイプ	183
ノード情報ポリシーでのパラメータの指定	183
オープンメッセージインタフェースポリシータイプ	183
リモートアクションセキュリティポリシータイプ	184
SNMP インターセプタポリシータイプ	184
定期タスクポリシータイプ	185
サービス自動検出ポリシータイプ	185
サービスプロセスモニタリングポリシータイプ	185
サービスモニターの設定	186
プロセスモニターの設定	187
開始アクションの設定	189
続行アクションの設定	190
終了アクションの設定	191
SiteScope ポリシータイプ	192
サブエージェントポリシータイプ	192
Windows イベントログポリシータイプ	192
イベントログソースの設定	193
Windows イベントログポリシーでのメッセージデフォルトの設定	193
イベントログ条件の設定	194
Windows イベントログポリシーでのアクションの設定	194
イベントログポリシーオプションの設定	194
Windows Management Interface ポリシータイプ	194
WMI の[ソース] タブの設定	195
WMI ポリシーでのメッセージデフォルトの設定	197
WMI 条件の設定	198
WMI ポリシーオプションの設定	198
すべての Smart Plug-in の一覧表示	198
Smart Plug-in の詳細の表示	199
すべてのツール	200
ツールの詳細の表示	202

ツールの編集	203
ツール(グループ)の変更	204
ツール(グループ)詳細の参照	206
すべてのツールグループ	207
ツールグループの詳細の表示	208
ツールグループの編集	209
すべての HPOM ユーザー	210
HPOM ユーザーまたはユーザープロファイルの設定	212
ユーザー(ユーザープロファイル)設定詳細の参照	213
ユーザー詳細の表示	215
ユーザー作業範囲	216
ユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲の編集	217
ビューの編集	219
選択項目の編集	222
すべてのユーザープロファイル	224
ユーザープロファイル詳細の表示	225
管理ノードインストールメンテーション	226
ファイルの追加/編集	227
ショッピングカート	228
サーバー設定メニュー	229
すべての指示文インタフェース	231
指示文インタフェースの編集	232
グループ替え条件の一覧表示	234
通知サービスの一覧表示	235
通知サービスの詳細の表示	236
通知サービスの編集	236
トラブルチケットインタフェース	238
管理サーバーの設定	238
管理サーバーのポリシー	239
データベースの設定の表示	240
設定パラメータ	241

フレキシブル管理ファイルの一覧表示	242
フレキシブル管理設定ファイルの表示	243
フレキシブル管理詳細の参照	244
フレキシブル管理設定の変更	245
新しいフレキシブル管理設定ファイル	246
[プロパティ] タブ	247
選択的配布	248
すべてのレポート	248
レポートの詳細	249
SQL レポートスクリプト	250
SQL レポートスクリプトアクション	251
[検索] メニュー	252
HPOM オブジェクトの検索	253
[解析] メニュー	256
[配布] メニュー	257
HPOM for UNIX の設定の配布	258
新しいエージェントのインストール	259
新しいエージェントのインストールの概要	260
エージェントインストールのログ	262
ペンディングの証明書要求	263
[タスク] メニュー	264
すべてのオペレータに通知	266
[統合] メニュー	267
[サーバー] メニュー	268
第2章: HP Operations 管理サーバーのオンラインヘルプ	269
すべてのサーバーメニューおよびオプション	269
[参照] メニュー	270
すべてのタスク	271
サーバーログファイルについて	272
すべての要求結果	275
すべてのパスエイリアス	276

パスエイリアスの表示	277
[タスク] メニュー	278
第3章: 管理のオンラインヘルプ	279
メニューとオプション	279
HP Operations Manager ユーザーモデル	280
[編集] メニュー	282
ユーザーの追加	283
ユーザー グループの追加	285
ユーザーロールの追加	287
[ユーザー ロール] の [プロパティ] タブ	288
[ユーザー ロール] タブ	290
[参照] メニュー	292
すべてのユーザー	293
ユーザー詳細の表示	294
ユーザー設定詳細の参照	295
すべてのユーザーアクション	298
ユーザー設定の編集	300
ユーザーグループへのユーザーの割り当て	301
すべてのユーザー グループ	302
ユーザーグループ詳細の表示	303
すべてのユーザーロール	304
ユーザーロール詳細の表示	305
ユーザーグループへのユーザーロールの割り当て	307
すべてのロック	307
すべての復元ポイント	309
すべての通知	310
[解析] メニュー	311
[サーバー] メニュー	312

HP Operations Manager 管理 UI

HPOM 管理 UI では、作業に使用するデータコンテキストをツールバーのアイコンを使って設定します。データコンテキストを設定することで、表示されるメニューとメニューオプションに関する情報が提供され、使用可能なオンラインヘルプに影響を与えます。メニューおよびメニューオプションは、作業中のデータコンテキストに応じて変化します。HPOM 管理 UI オンラインヘルプは、次のデータコンテキストに関する情報を提供します。

HPOM 管理 UI ナビゲーションアイコン

アイコン	データコンテキスト	説明
	ホーム	ツールバーのホームアイコンをクリックすると HP Operations Manager 管理 UI のスタートページに戻ります。
	HPOM	[HPOM for UNIX の設定] セクションには、HPOM データコンテキストで作業する際に表示されるユーザーインターフェースの情報が表示されます。HPOM コンテキストでは、HPOM に関連するすべてのオブジェクト (ノード、ポリシー、アプリケーション、HPOM ユーザー、メッセージグループなど) を管理します。ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、HP Operations Manager for UNIX オブジェクトの一覧を表示します。これらのオブジェクトに対しては、HPOM 管理 UI からドキュメント (ノード、テンプレート、アプリケーションなど) を生成することができます。ログインしているユーザーに付与されている権限および作業範囲によって、表示されているオブジェクトへのアクセス権限が決定されます。
	サーバー	[サーバー] セクションには、サーバーデータコンテキストで作業する際に表示されるユーザーインターフェースの情報が表示されます。サーバーコンテキストでは、HP Operations Manager サーバー上の作業を管理し、ログファイルの詳細を参照できます。
	管理者	[管理者] セクションには、HPOM 管理 UI の管理者データコンテキストで作業する際に表示されるユーザーインターフェースに関する情報が表示されます。管理者コンテキストでは、HPOM 管理 UI にログオンする admin ユーザー、HPOM 管理 UI で管理するサーバーを設定/管理できます。ツールバーの管理者アイコンをクリックすると、HPOM 管理 UI 自体を管理するためのオプション (ユーザー、ユーザーグループ、ユーザーロールなど) が表示されます。
	ヘルプ	ヘルプアイコンをクリックすると、HPOM 管理 UI のオンラインヘルプシステムが表示されます。

第1章: HPOM オブジェクトのオンラインヘルプ

HPOM (HP Operations Manager for UNIX) のオンラインヘルプへようこそ。このヘルプが表示されたのは、ツールバーで **HPOM** アイコンをクリックしてデータコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定したためです。HPOM コンテキストでは、ノード、ポリシー、アプリケーション、HPOM ユーザーなどの HPOM オブジェクトを設定/管理できます。表示されるメニューとメニューオプションは、セッションの開始時に設定したデータコンテキストと、ログオンに使用した名前のユーザーに割り当てられているロール/作業範囲によって異なります。たとえば、参照するデータコンテキストとして [HPOM] を選択した場合は、グローバル権限を持つ管理ユーザーである場合には、すべてのメニューのすべてのメニューオプションが表示されます。ログインユーザーが実行権限を持たないメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを示します。HPOM メニューおよびメニューオプションに関する詳細は、「[すべての HPOM メニューおよびオプション](#)」を参照してください。

HPOM オブジェクトの一覧

カラムタイトル	説明
すべてのオブジェクト	HPOM の各種オブジェクトタイプのすべてのオブジェクト (ノード、ポリシー、アプリケーションなど) の一覧。
フレキシブル管理の設定	HPOM の各種フレキシブル管理設定オブジェクトタイプ (テンプレート、計画休止、選択的配布設定、アクティブなフレキシブル管理ファイルなど) の一覧。
登録オブジェクト	HPOM オブジェクトの最上位グループの一覧。HPOM の登録グループには、そのオブジェクトタイトルが参照するすべての物理オブジェクトが含まれます。たとえば、登録ノードには、論理グループに関係なく、HPOM が認識しているすべてのノードが含まれます。
サーバー設定	HP Operations の各種管理サーバー設定オブジェクトタイプ (指示文インタフェース/トラブルチケット/通知サービスの設定、サーバー/データベースの設定など) の一覧。

[すべてのオブジェクト タイプ] ページでは、HPOM オブジェクトを表示/変更し、インストールされている HPOM に変更内容を適用したり、選択したオブジェクトの現在の状態に関するドキュメントを HP Operations Manager を使って生成できます。また、表示されている (またはその他の HPOM の) オブジェクトに対して管理タスクを実行することもできます。HPOM の [すべてのオブジェクト タイプ] ページに表示されている情報の利用方法については、以下の項目を参照してください。

- [HPOM オブジェクトの詳細の表示](#)
- [HPOM オブジェクトに対する管理者タスクの実行](#)
- [HPOM オブジェクトに関連するヘルプトピックの印刷](#)

関連項目

- [すべての HPOM メニューおよびオプション](#)

HPOM メニューおよびオプション

HPOM コンテキストでは、ノード、ポリシー、ツール、ユーザーなどの HPOM オブジェクトを設定/管理できます。

表示されるメニューとメニューオプションは、セッションの開始時に設定したデータコンテキストと、ログインに使用したユーザーアカウントに割り当てられているロール/作業範囲によって異なります。たとえば、参照対象のデータコンテキストとして HPOM を選択すると、以下に示されるメニューが表示され、ログインユーザーが実行権限を持たないメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを示します。

HPOM 設定メニューの一覧

メニュータイトル	説明
解析	[解析] メニューに用意された一連のオプションを使用すると、HP Operations 管理サーバーで定義されているオブジェクト一覧の特定箇所を一覧表示できます (例、ユーザーに割り当てられていないすべてのノードの一覧)。
参照	[参照] メニューに用意された一連のオプションを使用すると、データコンテキストの設定時に選択した HP Operations 管理サーバー上で使用可能なすべての HPOM 要素 (例、ノード、ポリシー、ユーザー、ユーザープロファイル、ツールグループ) の一覧の表示および参照が可能です。
配布	[配布] メニューに用意されている一連のオプションを使用すると、HP Operations Agent and Configuration のインストールやサーバーポリシーの配布に関連する HPOM 管理タスクを実行できます。たとえば、HP Operations Agent のインストールまたは削除、設定パッケージの管理対象ノードへの配布、HPOM 証明書要求が保留中でないかどうかの確認が可能です。
編集	[編集] メニューに用意された一連のオプションを使用すると、新しい HPOM 要素の作成や、既存の HPOM 要素の編集が可能です (例、ノード、ポリシー、ツールグループなど)。
検索	[検索] メニューに用意された一連のオプションを使用すると、データコンテキストの設定時に選択した HP Operations 管理サーバー上で使用可能なすべての HPOM 要素 (例、ノード、ポリシー、ユーザー、ユーザープロファイル、ツールグループ) の検索および特定が可能です。
統合	[統合] メニューに用意された一連のオプションを使用すると、インストール済みまたはこれからインストールする追加のツールの管理が可能です (例、HP Operations Manager アドオンおよび Plug-in、HPOM の Java GUI)。
サーバー設定	[サーバー設定] メニューに用意された一連のオプションを使用すると、HP Operations 管理サーバーで定義されているサービスの選択項目を設定できます (例、指示文 インタフェース、グループ替え条件、通知サービス、DB 保守設定、管理サーバー設定)。

HPOM 設定メニューの一覧 (続き)

サーバー	[サーバー]メニューには、HP Operations サーバー上で使用可能な HP Operations 管理サーバーが一覧表示されます。サーバーを選択して、参照するデータコンテキストを設定します。
タスク	[タスク]メニューに用意されている一連のオプションを使用すると、HPOM 管理サーバー上の特定のタスクを実行できます (例、HPOM ユーザーへのメッセージ送信、ログオンしているすべての HPOM ユーザー、現在のサーバーステータスの表示、サーバーログファイルの参照、サーバーまたは HBP ステータスの表示、設定要素のダウンロード、カテゴリのチェック)。

関連項目

- [ユーザーの作成](#)
- [ユーザーグループの作成](#)
- [ユーザーロールの作成](#)

HPOM オブジェクトの操作

[すべてのオブジェクト] ページでは、HPOM オブジェクトを表示/変更し、インストールされている HPOM に変更内容を適用したり、選択したオブジェクトの現在の状態に関するドキュメントを HP Operations Manager を使って生成できます。また、表示されている (またはその他の HPOM の) オブジェクトに対して管理タスクを実行することもできます。

表示または変更する HPOM オブジェクトの詳細情報を表示するには:

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [すべてのオブジェクト (オブジェクト タイプ別)] 一覧で、表示/変更するオブジェクトを特定します。
3. そのオブジェクトのリンクをクリックします。

HPOM オブジェクトに対して管理タスクを実行するには:

HP Operations Manager には、表示される HPOM オブジェクトに対して管理者アクセスするための各種メニューおよびメニューオプションが用意されています。HPOM オブジェクトを一覧表示/編集/作成するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. メニューバーに表示されるメニューを確認します。
3. 実行する管理タスクに適したオプションを選択します。タスクごとに用意されている詳細なヘルプも参照できます。

関連項目

- [すべてのHPOM メニューおよびオプション](#)

オブジェクト一覧のソート

オブジェクトの一覧が表示されるすべてのページでは、ソート機能を利用できます。この機能を使うことで、[名前]、[タイプ]、[ラベル]などのカラムの内容に基づいて一覧の情報を表示できます。テーブルを構成するカラムの数とタイプは、一覧表示されるオブジェクトのタイプ(ノード、ポリシー、ツール、タスク、ユーザーなど)によって異なります。オブジェクトの名前の降順でオブジェクト一覧をソートするには、[名前]カラムの最上部の[名前]というタイトルをクリックします。ソートの基準となっているカラムは、上向き矢印(^)で示されます。ラベルを基準にしてオブジェクト一覧をソートするには、[ラベル]カラムの最上部の[ラベル]というタイトルをクリックします。ただし、すべてのカラムタイトルがソート機能に対応しているわけではありません。

長すぎて1ページに表示しきれないオブジェクト一覧は、HP Operations Managerの複数のページに表示されます。この場合、テーブルヘッダーにナビゲーションアイコンと一連の番号が表示され、複数のページが存在することを示します。一覧のページの切り替えには、**ページング**機能を利用できます。たとえば、オブジェクト一覧の総ページ数が3の場合、テーブルヘッダーに1、2、3の番号が表示され、それぞれが対応するページにリンクされます。いずれかの番号をクリックすると、対応するページを直接呼び出すことができます。

ページング機能の使用

アイコン	アクション	説明
	先頭	一覧の最初のページに戻ります。
	前ページ	一覧の前のページに戻ります。
1, 2, 3	ページ番号	一覧の指定のページ番号(1、2、3など)に移動します。
	次ページ	一覧の次のページに進みます。
	最後	一覧の最後のページに進みます。
	すべて表示	要素一覧が複数ページにまたがる場合に、すべての項目が表示されます。

HPOM オブジェクトの一覧をソートするには:

選択したHPOM オブジェクトをオブジェクトの名前順で表示するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、一覧オプションを選択します。たとえば、**[すべてのノード]**をクリックすると、HP Operations 管理サーバーで認識されているすべての管理対象ノードの一覧が表示されます。
3. 表示されるノード一覧の最上部で、**[名前]**というカラムタイトルをクリックします。

関連項目

- [HPOM オブジェクトの検索](#)
- [HPOM オブジェクトのフィルター処理](#)

オブジェクト一覧のフィルター処理

フィルター機能はすべてのページの最上部から使用できます。オブジェクトの一覧を表示し、名前、ラベル、タイプなどに応じて一覧に表示するオブジェクトを制限するためのルールおよび条件を設定できます。フィルターのルールや条件の定義に使用するフィールドの組み合わせやドロップダウンメニューは、一覧表示させるオブジェクトのタイプ(ノード、ポリシー、ツール、タスクなど)によって異なります。タスクの一覧にフィルターを適用する場合は、タスク名、ラベルまたはタスクを実行するコンテキストを使用できます。また、**[フィルタのリセット]** オプションを使用すると、フィルターをリセットできます。HPOM オブジェクトの検索の詳細は、「[HPOM オブジェクトの検索](#)」の表を参照してください。

フィルター方法の選択

いずれかのフィルター方法を選択して、入力するフィルター文字列の評価方法を定義します(例、「部分一致」、「完全一致」、「パターンマッチ」)。文字列の評価方法によって表示結果が異なります。下の表は、フィルター方法ごとの違い、およびそれらを使用してフィルター一覧を表示した場合に予想される結果を表しています。フィルター方法およびオブジェクトの検索の詳細は、「[オブジェクトの検索方法](#)」の表を参照してください。

HPOM オブジェクトの一覧にフィルターを適用するには

定義したフィルターに基づいて選択した HPOM オブジェクトのみを表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、一覧オプションを選択します。たとえば、**[すべてのノード]** をクリックすると、HP Operations 管理サーバーで認識されているすべての管理対象ノードの一覧が表示されます。
3. 表示されたノード一覧の上部にある、**[フィルタ]** オプションをクリックします。
4. ドロップダウンメニューを使用し、フィルター文字列の評価方法を選択します(例、「部分一致」、「完全一致」、「パターンマッチ」)。
5. すぐ横のボックスにフィルター文字列を入力します。これが評価フィルターとなります。
6. **[フィルタの適用]** ボタンをクリックして操作を終了します。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [HPOM オブジェクトの検索](#)
- [すべての管理対象ノードの一覧表示](#)

- [すべてのノードグループの一覧表示](#)
- [すべてのメッセージグループの一覧表示](#)
- [すべてのツールの一覧表示](#)
- [すべてのポリシーの一覧表示](#)

[編集] メニュー

メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、管理 UI の起動時に設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、[編集] メニューには以下の設定オプションが表示されます。

HPOM メニュー: 編集オプション

メニューオプション	説明
カテゴリの追加	[カテゴリの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上で使用可能なカテゴリの一覧に、新しいポリシーカテゴリを追加できます。
指示文 インタフェースの追加	[指示文 インタフェースの追加] ページが表示され、新しい指示文インタフェースを定義できます。このインタフェースを使用すると、Web ブラウザなどの外部アプリケーションを通じて HPOM ユーザーに指示文を送信できます。メッセージ条件が一致してメッセージが生成されると、Web ブラウザが起動します。
レイアウトグループの追加	[レイアウト グループの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいノードレイアウトグループを定義、追加できます。ノードレイアウトグループの階層を折りたためば、表示されるノードの数を、ノードレイアウトグループが存在する特定のレベルまたは階層の数に制限できます。レイアウトグループを使用することで、多数の管理対象ノードをより管理しやすいグループに分類できます。
メッセージグループの追加	[メッセージ グループの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいメッセージグループを定義、追加できます。メッセージグループを使用すると、タイプの類似するメッセージの論理セットを定義し、メッセージの対象となる技術分野を担当するユーザーに割り当てることができます。
ノードの追加	[ノードの追加] ページが表示され、現在アクティブな HPOM 管理サーバーに新しい管理対象ノードを定義、追加できます。その後 HPOM ユーザーにノードを割り当てられます。
ノードグループの追加	[ノード グループの追加] ページが表示され、現在アクティブな HPOM 管理サーバーに新しいノードグループを定義、追加できます。ノードグループは管理対象ノードの論理コレクションであり、HPOM ユーザーへの割り当てが可能です。

HPOM メニュー: 編集オプション (続き)

ノード階層の追加	[ノード階層の追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいノード階層を定義、追加できます。ノード階層は、HPOM 内のノードおよびノードグループの最上位のグループです。たとえば、登録ノードはデフォルトの HPOM ノード階層として HPOM 登録ノード階層に含まれます。
通知サービスの追加	[通知サービスの追加] ページが表示され、HPOM への外部通知サービスを設定できます。HPOM では電子メール、ポケットベルまたはショートメッセージサービス (SMS) などの外部通知サービスを利用して、HPOM オペレータに重要なイベントを通知できます。
ポリシーの追加	[すべてのポリシー タイプ] ページが表示され、サーバーリストから選択した HPOM for UNIX 管理サーバーに新しいポリシーのタイプを定義し、新しいポリシーを追加できます。
ポリシーグループの追加	[ポリシーグループの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいポリシーグループを定義、追加できます。
グループ替え条件の追加	[グループ替え条件の追加] ページが表示され、新しいグループ替え条件を定義できます。グループ替え条件は、HPOM for UNIX 管理サーバーが受信したメッセージをフィルター処理し、あるメッセージグループまたはサービスから送信されたメッセージを別のグループまたはサービスに再構成します。
レポートの追加	[レポートの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいレポートを定義、追加できます。
ツールの追加	[ツールの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいツールを定義、追加できます。
ツールグループの追加	[ツールグループの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しいツールグループを定義、追加できます。
ユーザーの追加	[ユーザーの追加] ページが表示され、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーに新しい HPOM ユーザーを定義、追加できます。HPOM ユーザーには、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するオペレータ、管理者、ポリシー管理者などが含まれます。
ユーザー プロファイルの追加	[ユーザー プロファイルの追加] ページが表示され、HP Operations 管理サーバーに追加した新規 HPOM ユーザーに適用するプロファイルを定義できます。

HPOM メニュー: 編集オプション (続き)

DB 保守設定の編集	[DB 保守設定の編集] ページが表示され、HPOM データベースにおける HPOM メッセージの格納および保守の設定、管理が可能です。たとえば、警告メッセージがメッセージブラウザに送信されるまでに HPOM に保持されるアクティブ、ペンディングおよび履歴メッセージの最大数を指定したり、受諾メッセージのファイルに自動ダウンロードを設定します。
管理サーバー設定の編集	[管理サーバー設定の編集] ページが表示され、HP Operations 管理サーバーの詳細オプションを設定できます。たとえば、外部メッセージストリームインタフェースの定義、グローバルオプションの設定が可能です。
トラブルチケットインタフェースの編集	[トラブル チケット インタフェースの編集] ページが表示され、HPOM でトラブルチケットインタフェースを使用するように設定できます。このページを使用すると、トラブルチケットインタフェースを起動および停止させるシステムコールを定義できます。

関連項目

- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバーメニュー](#)

ノードの追加/変更

[ノードの追加] または [ノードの編集] ページには、新しい HPOM 管理対象ノードを定義 (または既存の管理対象ノードを変更) して、新しい設定を HPOM 環境に適用するためのオプションが表示されます。ノードタイプを選択して各種プロパティタブのフィールドに情報を入力し、管理対象ノードを定義します。情報の入力が必要なタブの数と種類は、作成するノードのタイプによって異なります (例、標準 (IP)、外部 (非 IP))。次の表は、ネットワークタイプごとに必要とされる情報の概要を示しています。

ノードの編集: [設定] タブ

ノードタイプ	プロパティ	管理	インストール	通信	詳細	仮想
標準 (IP)	✓	✓	✓	✓	✓	--
外部 (非 IP)	✓	✓	--	--	--	--

ノードの追加または変更をする場合は、ノード名、IP アドレス、メッセージの管理に関する詳細、ノードが自身の現在のステータスを判断する方法 (回数)、ソフトウェアのインストール方法といった、各種情報を入力する必要があります。上記の表では、各ノードタイプのノード設定タブで入力する必要のある情報が表示されています。情報を入力する際、青いアスタリスク (*) は入力が必要となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ノードを作成または編集するには

新しいノードを作成するか既存のノードを編集して、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. 新規ノードの場合は、**[編集]**メニューで**[ノードの追加]**をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]**メニューで**[すべてのノード]**をクリックしてから、変更するノードを選択し、アクションメニューで**[編集...]**をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **管理対象ノードのプロパティの設定**
ユーザーインターフェイスでの新しいノードの表示方法を定義します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
 - **管理対象ノードの管理オプションの設定**
メッセージ管理およびステータス情報を定義します。
 - **管理対象ノードのインストールオプションの設定**
標準ノードのみ。管理対象ノード上のソフトウェアのインストールおよび更新方法を定義します。
 - **管理対象ノードの通信オプションの設定**
標準ノードのみ。管理対象ノードと管理サーバーの通信方法を定義します。
 - **管理対象ノードの詳細オプションの設定**
標準ノードのみ。メッセージ処理、ログ、ターミナル設定などの詳細オプションを設定します。
 - **仮想クラスタノードのオプションの設定**
ノードデフォルト以外。高可用性クラスタに設定するノードのオプションを設定します (例、リソースグループ、クラスタに設定する物理ホストの名前)。
4. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]**ボタンを使用すると、このバックアップセッションを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。

- **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
- **キャンセル**
新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [新しいノードグループの追加](#)
- [新しいノード階層の追加](#)
- [新しいノードレイアウトグループの追加](#)

ノードの [プロパティ] タブ

ノードの [プロパティ] タブには、新しい (または既存の) HPOM 管理対象ノードを定義 (または変更) し、HPOM 環境に追加するためのオプションが表示されます。ノードの [プロパティ] タブには、ノード名やIP アドレスなどの情報を指定する必要があります。以下の表では、ノードの [プロパティ] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ノード: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ノード タイプ	管理対象ノードに設定されているネットワークのタイプ (IP、非 IP、外部など)。「非 IP」は、HPOM の機能が制限されているノードを意味します。たとえば、IP アドレスを持たないノード (SNA、DECnet)、または特定のホスト名パターンまたは IP アドレス範囲の IP ノードセットを定義するノードが該当します。	✓
ホスト名	標準 (IP) ノード用の設定です。作成する新しいノードのホスト名を指定します。DNS によって解決される、ホストの完全修飾名を指定する必要があります。	✓
IP/ホスト パターン	外部 (非 IP) ノード用の設定です。192.168.100.*、または *.domain.com のように、パターンマッチを使って IP アドレスまたはホスト名の範囲を指定します。Novell の名前では、「^NAME\$_*」と指定することで、「_*」以外の部分が「NAME」であるすべての Novell ノードを指定できます。この場合、「_*」以外の部分が「NAME」とは異なる、NAME1_*、FIRSTNAME_* などは除外されます。	✓

ノード: [プロパティ] タブ (続き)

パターンタイプ	外部 (非 IP) ノードのみ。ドロップダウンメニューを使用し、外部ノードパターンの定義方法を選択します。たとえば、IP アドレスの範囲、ホスト名のパターン、その他 (Novell など) の方法で定義できます。	✓
ラベル	新たに作成するノードのラベルです。ユーザーインターフェースに表示されるのは、このラベルです。ラベルを指定しない場合は、ホストの短縮名が使用されます。	--
IP アドレス	標準 (IP) ノードのみ。[ホスト名] フィールドで指定したホストに関連付けられている IP アドレスを示します。ホストが複数の IP アドレスを持つ場合は、HPOM で使用されるアドレスをドロップダウンリストから選択できます。	✓
情報	オプション。必要と考えられる追加情報を入力するためのフリーテキストフィールドです。	--
親グループ	オプション。新しいノードを所属させるレイアウトグループを、その領域を保持する登録 HPOM ノード (またはノード階層) から選択します。	--

ノードのプロパティを作成または編集するには:

新規または既存ノードのプロパティを作成または編集し、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. 新規ノードの場合は、**[編集]** メニューで **[ノードの追加]** をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]** メニューで **[すべてのノード]** をクリックし、変更するノードを選択します。
3. 表示されたフィールドに情報を入力します。どれが必須フィールドであるか、どのような値を入力できるかについては、上の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードのプロパティ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に

赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。

- **キャンセル**
新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [管理対象ノードの管理オプションの設定](#)
- [管理対象ノードのインストールオプションの設定](#)
- [管理対象ノードの通信オプションの設定](#)
- [管理対象ノードの詳細オプションの設定](#)
- [クラスタノードのオプションの設定](#)
- [新しいノードグループの追加](#)
- [新しいノード階層の追加](#)
- [新しいノードレイアウトグループの追加](#)

ノードの[管理]タブ

[ノードの管理]タブに表示されるオプションを使用すると、新規 (または既存の) HPOM 管理対象ノードの管理設定を定義し、HPOM 環境にその設定を適用できます。作成または変更する管理対象ノードのタイプに関する詳細情報を入力する必要があります (管理対象、モニター専用、メッセージ対象、無効など。その他に、ノードが自身のステータスを表示する方法および頻度)。以下の表では、[ノードの管理]タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必須となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ノード: [管理] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
管理タイプ	管理対象ノードから取得する情報のタイプと量 (「管理対象」(すべてのメッセージ、すべてのアクション)、「モニター専用」(すべてのメッセージ、アクションなし)、「メッセージ対象」(HP Operations Agent なし、メッセージ許可)、「無効」(一時的に非アクティブ) など) です。外部 (非 IP) ノードでは「メッセージ対象」と「無効」のみが選択できます。	✓
定期ポーリング周期	定期ポーリングモニターの頻度です (例、0h10m0s (10 分おき))。管理サーバーは管理対象ノードが利用可能かどうかをチェックします。	✓

ノード: [管理] タブ (続き)

ポーリングタイプ	定期ポーリングモニターにおいて、管理対象ノードが、使用可能であることを管理サーバーに通知する方法 (例、通常、RPC (ファイアウォール用)、ping コマンド、ポーリングなし) です。	✓
アライブパケットの送信	[アライブパケットの送信] オプションを有効にすると、ノードから利用可能な管理サーバーに対して定期的に情報を送信するよう設定できます。	--

ノードの管理オプションを作成または編集するには

新規または既存ノードの管理オプションを作成または編集し、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. 新規ノードの場合は、**[編集]** メニューで **[ノードの追加]** をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]** メニューで **[すべてのノード]** をクリックし、変更するノードを選択します。
3. 表示されたフィールドに情報を入力します。どれが必須フィールドであるか、どのような値を入力できるかについては、上の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。

- **バックアップ**

現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。

- **復元**

[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードの管理設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- **保存**

すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。

- **キャンセル**

新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [管理対象ノードのプロパティの設定](#)
- [管理対象ノードのインストールオプションの設定](#)

- [管理対象ノードの通信オプションの設定](#)
- [管理対象ノードの詳細オプションの設定](#)
- [クラスターノードのオプションの設定](#)
- [新しいノードグループの追加](#)
- [新しいノード階層の追加](#)
- [新しいノードレイアウトグループの追加](#)

ノードの [インストール] タブ

ノードの [インストール] タブでは、新しい (または既存の) HPOM 管理対象ノードへの HPOM エージェントソフトウェアのインストールと更新のオプションを定義できます。ソフトウェアのインストール方法や、ソフトウェアパッケージの場所などの情報を指定します。以下の表では、ノードの [インストール] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。入力が必要なオプションは、インストール先管理対象ノードのタイプ (HP-UX、Linux、Windows) によって異なります。

ノード: [インストール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
自動 (アン) インストール	HP Operations Agent ソフトウェアの自動的なインストール、アンインストール、更新を有効/無効にします。	--
このユーザーで (アン) インストール	HP Operations Agent ソフトウェアのインストール/アンインストールに使用されるアカウントの OS ユーザー名。	--
システムリソースファイルの自動更新	管理対象ノード上の登録および起動ファイルを自動的に更新します。たとえば、エージェントのユーザー/グループアカウントを作成し、システムの起動時にエージェントが起動されるようにエージェントを登録します。	--
インストール中に SSH を使用	このオプションは、管理対象ノードと管理サーバーの両方が SSH をサポートしている場合にのみ使用できます。	--

ノードのインストールオプションを作成または編集するには

新規または既存ノードのインストールオプションを作成または編集し、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。

2. 新規ノードの場合は、**[編集]**メニューで**[ノードの追加]**をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]**メニューで**[すべてのノード]**をクリックしてから、変更するノードを選択し、**[インストール]**タブをクリックします。
3. 表示されたフィールドに情報を入力します。どれが必須フィールドであるか、どのような値を入力できるかについては、上の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。
5.
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]**ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ]オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードのインストール設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。
 - **キャンセル**
新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [管理対象ノードのプロパティの設定](#)
- [管理対象ノードの管理オプションの設定](#)
- [管理対象ノードの通信オプションの設定](#)
- [管理対象ノードの詳細オプションの設定](#)
- [クラスターノードのオプションの設定](#)
- [新しいノードグループの追加](#)
- [新しいノード階層の追加](#)
- [新しいノードレイアウトグループの追加](#)

[ノードの通信] タブ

[ノードの通信] タブに表示されるオプションを使用すると、新しい、または既存の管理対象ノードと管理サーバーとの通信方法を定義できます。通信タイプ、使用するネットワークセキュリティプロトコル、および必要なセキュリティレベルに関する情報を入力します。以下の表では、[ノードの通信] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

[ノードの通信] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
通信タイプ	ノードと管理サーバー間の通信方法 (HTTPS など)。	✓
コア ID	HTTPS ノードのみ。HPOM データベースに登録されているノードのコア ID 番号です。HPOM データベースにノードの情報がない場合は、0 の文字列 (「000...0000」) が表示されます。	-
バッファサイズの上限	管理サーバーが一時的に使用できない際に、メッセージを管理対象ノードにローカルに格納するために使用するディスク容量を制限する場合に有効にします。この機能はデフォルトでは無効になっており、すべての使用可能な容量が使用されます。ローカルの自動アクションは実行されたままですが、アクションからの応答はすべて無視されます。格納されたメッセージは、管理サーバーが使用可能になり次第、管理サーバーに転送されます。	✓

ノードの通信オプションを作成または編集するには

新規または既存ノードの通信オプションを作成または編集し、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. 新規ノードの場合は、**[編集]** メニューで **[ノードの追加]** をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]** メニューで **[すべてのノード]** をクリックし、変更するノードを選択します。
3. 表示されたフィールドに情報を入力します。どれが必要フィールドであるか、どのような値を入力できるかについては、上の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。
5. **■ バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。

- **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードの通信設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
- **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。
- **キャンセル**
新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [管理対象ノードのプロパティの設定](#)
- [管理対象ノードの管理オプションの設定](#)
- [管理対象ノードのインストールオプションの設定](#)
- [管理対象ノードの詳細オプションの設定](#)
- [クラスタノードのオプションの設定](#)
- [新しい管理対象ノードの追加](#)

[ノードの詳細] タブ

[ノードの詳細] タブでは、管理対象ノード上で HP Operations Agent がメッセージを処理する方法、ログを格納する場所、リモートログオンに使用するターミナルのタイプを定義できます。次の表では、[ノードの詳細] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

[ノードの詳細] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
仮想ターミナル	ノードでリモートターミナルセッションを開くときに使用するターミナルのタイプを指定します。たとえば、dtterm、hpterm、xtermなどを指定できます。	--

[ノードの詳細] タブ (続き)

物理ターミナルコマンド	管理対象ノードとのリモートターミナル接続を確立するときに HP Operations 管理サーバーで実行するコマンド (またはスクリプト) の名前を指定します。このコマンドは管理対象ノードの定義済みホスト名を使用し、ユーザー名とパスワードを必要とします。[物理ターミナルオプション] フィールドに追加のパラメータを定義することもできます。	--
物理ターミナルオプション	管理対象ノードとのリモート接続を確立するときに実行されるコマンド/スクリプトに渡される追加オプションを指定します。	--
キャラクタセット	HP Operations Agent が使用する内部キャラクタセットを選択します。ここで選択するキャラクタセットには、HP Operations 管理サーバーにインストールされた HPOM データベースに設定されているキャラクタセットとの互換性が必要です。	✓
仮想ターミナルフォント	[キャラクタセット] フィールドで定義したキャラクタセットで利用できるフォントを示します。	--
MSI: 出力可能	プログラムがメッセージストリームインタフェース (MSI) アプリケーションプログラミングインタフェース (API) にアクセスできるように、メッセージを MSI にコピーまたは転用します。	--
MSI: 自動アクション	MSI がメッセージを処理する際、およびメッセージを HPOM 管理サーバーに渡す前に、メッセージに関連付けられている自動アクションを外部プログラムが変更できるようにします。	--
MSI: オペレータ起動アクション	MSI がメッセージを処理する際、およびメッセージを HPOM 管理サーバーに渡す前に、メッセージに関連付けられているオペレータ起動アクションを外部プログラムが変更できるようにします。	--

ノードの詳細オプションを作成または編集するには

新規または既存ノードの詳細オプションを作成または編集し、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. 新規ノードの場合は、**[編集]** メニューで **[ノードの追加]** をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]** メニューで **[すべてのノード]** をクリックしてから、変更するノードを選択し、**[詳細]** タブをクリックします。

3. 表示されたフィールドに情報を入力します。どれが必須フィールドであるか、どのような値を入力できるかについては、上の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。
 - **キャンセル**
新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [管理対象ノードのプロパティの設定](#)
- [管理対象ノードの管理オプションの設定](#)
- [管理対象ノードのインストールオプションの設定](#)
- [管理対象ノードの通信オプションの設定](#)
- [クラスタノードのオプションの設定](#)
- [ノードの追加/編集](#)

ノードの [仮想] タブ

ノードの [仮想] タブでは、高可用性クラスタ内に設定されているノードのオプションを設定できます。たとえば、クラスタが属するリソースグループの名前や、クラスタに設定されている物理ホストの名前などを設定できます。次の表は、ノードの [仮想] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。管理対象ノードのその他のオプションとプロパティの詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ノードの [仮想] タブ

仮想ノード	HTTPS ノードのみ。高可用性クラスタで使用される仮想ノードを設定する場合は、このボックスをチェックします。このオプションを有効にする場合は、他のフィールドにも情報を指定する必要があります。	✓
HA リソースグループ名	HTTPS ノードのみ。高可用性クラスタで使用されるノードが属すリソースグループの名前を指定します。	✓
物理ノード	HTTPS ノードのみ。高可用性クラスタで使用される物理ノードの完全修飾ホスト名を指定します。ここで追加したノード名は、 [物理ノード] ボックスの下の一覧に表示されます。	✓

仮想ノードのオプションを作成/編集するには

新規または既存ノードの仮想ノードオプションを作成または編集し、設定の変更を HPOM に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. 新規ノードの場合は、**[編集]** メニューで **[ノードの追加]** をクリックします。
既存ノードの場合は、**[参照]** メニューで **[すべてのノード]** をクリックし、変更するノードを選択します。
3. **[仮想]** タブをクリックします。
4. **[仮想ノード]** ボックスをチェックし、表示されるフィールドに情報を入力します。どれが必須フィールドであるか、どのような値を入力できるかについては、上の表を参照してください。
5. 以下のボタンを使用すると、ノードの詳細を保存または破棄できます。
6.
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードの仮想設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードの定義が保存されます。

- キャンセル
新しいノードについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [管理対象ノードのプロパティの設定](#)
- [管理対象ノードの管理オプションの設定](#)
- [管理対象ノードのインストールオプションの設定](#)
- [管理対象ノードの通信オプションの設定](#)
- [ノードの追加/編集](#)

ノード グループの追加

[[ノード グループの追加](#)] ページには、新しい HPOM 管理対象ノードグループのパラメータが表示され、ノードグループを迅速かつ完全に定義できます。ノードグループは管理対象ノードの論理コレクションであり、HPOM ユーザーへの割り当てが可能です。新しいノードグループの作成、および HPOM 環境へのノードグループの追加には、[[ノード グループの追加](#)] ページを使用します。以下の表では、[新しいノード グループ] の [プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ノードグループの追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいノードグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。	✓
ラベル	作成する新しいノードグループの名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	--
詳細	ノードグループの簡単な説明です。新しいノードグループに含まれるノード (またはノードグループ) のタイプが分かかります。	--
情報	テキストボックスを使用して、新しいノードグループについての追加情報を入力できます。	--
作業範囲からノードグループを隠す	新しいノードグループを作業範囲マトリックスに表示するかどうかを示します。	--

新しいノードグループを作成するには

新しいノードグループを作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[ノード グループの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
プロパティ:
ユーザーインタフェースでの新しいノードグループの表示方法に関する詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいノードグループの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノードグループの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] ボタンをクリックして作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログオンしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法についての詳細は、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいノードグループに関して入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [新しいノードの追加](#)
- [新しいノード階層の追加](#)
- [新しいノードレイアウトグループの追加](#)

ノード階層の追加

[ノード階層の追加] ページには、新しい HPOM 登録ノード階層のパラメータが表示され、新しい HPOM ノード階層を迅速かつ完全に定義できます。ノード階層は、HPOM 内のノードおよびノードグループの最上位のグループです。たとえば、登録ノードはデフォルトの HPOM ノード階層として HPOM 登録ノード階層に含まれます。このページを使用すると、運用中の IT 環境のユーザーが使用可能な新しいノード階層を作成できます。以下の表では、[新しいノード階層] の [プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいノード階層: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
詳細	新しいノード階層の簡単な説明です。新しいノード階層に含まれるノードのタイプが分かります。	--
情報	テキストボックスを使用して、新しいノード階層についての追加情報を入力できます。	--
ラベル	作成する新しいノード階層の名前です。これはユーザーインタフェースに表示されるラベルです。	--
名前	作成する新しいノード階層の名前です。この名前は内部参照用です。	✓

新しいノード階層を作成するには

新しいノード階層を作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]**メニューで**[ノード階層の追加]**をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
プロパティ:
ユーザーインタフェースに表示される、新しいノード階層の表示方法に関する詳細です。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいノード階層の詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいノード階層の定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード階層設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいノード階層に関して入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [新しいノードの追加](#)
- [新しいノードグループの追加](#)
- [新しいノードレイアウトグループの追加](#)

レイアウトグループの追加

[レイアウトグループの追加] ページには、新しいHPOMレイアウトグループのパラメータが表示され、レイアウトグループを完全に定義できます。レイアウトグループは折りたたみ可能な階層です。特定のレベル(階層)のノードのみが表示されるよう、表示されるノードの数を制限できます。レイアウトグループを使用することで、多数の管理対象ノードをより管理しやすいグループに分類できます。新しいレイアウトグループの作成、およびHPOM環境へのレイアウトグループの追加には、[レイアウトグループの追加] ページを使用します。次の表は、[レイアウトグループの追加] ページの[プロパティ] タブのフィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

レイアウトグループの追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	新たに作成するレイアウトグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。	✓
ラベル	新たに作成するレイアウトグループのラベルです。ユーザーインターフェースに表示されるのは、このラベルです。	--
詳細	レイアウトグループの簡単な説明です。これは、新しいレイアウトグループに含まれるノード (またはレイアウトグループ) のタイプをユーザーが確認する上で役立ちます。	--
親のレイアウトグループまたはノード階層	作成するレイアウトグループを含むレイアウトグループまたはノードの階層の名前です。	✓

新しいレイアウトグループを作成するには

新しいレイアウトグループを作成してHPOMに追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOMアイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [編集] メニューで [レイアウトグループの追加] をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
HPOM ユーザーインターフェースでの新しいレイアウトグループの表示方法に関する詳細情報を

示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。

4. 以下のボタンを使用すると、新しいレイアウトグループの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいレイアウトグループの定義が保存されます。
 - **キャンセル**
新しいレイアウトグループについて入力したすべての詳細が破棄されます。

関連項目

- [新しいノードの追加](#)
- [新しいノードグループの追加](#)
- [新しいノード階層の追加](#)

メッセージグループの追加

[メッセージグループの追加] ページに表示されるパラメータを使用すると、新しい HPOM メッセージグループの詳細を定義できます。ユーザーが正しいメッセージを受信できるように、新しいメッセージグループを HPOM ユーザーに割り当てることができます。新しいメッセージグループの作成、および HPOM 環境へのメッセージグループの追加には、[新しいメッセージグループ] ページを使用します。以下の表では、[新しいメッセージグループ] の [プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいメッセージグループ: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいメッセージグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。	✓
ラベル	作成する新しいメッセージグループの名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	--
詳細	新しいメッセージグループの簡単な説明です。メッセージグループに含まれるメッセージのタイプがわかります。	--
情報	テキストボックスを使用して、新しいメッセージグループについての追加情報を入力できます。	--

新しいメッセージグループを作成するには

新しいメッセージグループを作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[メッセージ グループの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
[プロパティ] タブには、新しいメッセージグループがユーザーインターフェースに表示される際の表示方法に関する詳細が表示されます。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいメッセージグループの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいメッセージグループの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] ボタンをクリックして作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、メッセージグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいメッセージグループに関して入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [新しいユーザーの追加](#)
- [新しいユーザープロファイルの追加](#)

ポリシーの追加

[ポリシーの追加] ページには、新しい HPOM ポリシーのパラメータが表示されます。新しいポリシーの作成/定義、および HPOM 環境へのポリシーの追加には、このページを使用します。ポリシーを定義するときは、各種プロパティタブのフィールドに情報を入力します。情報の入力が必要なタブの数と種類は、作成するポリシーのタイプによって異なります。次の表は、ポリシータイプごとに必要とされる情報の概要を示しています。

ポリシー: 設定タブ

ポリシータイプ	プロパティ	ソース	メッセージデフォルト	しきい値	条件	オプション	モニター	定期タスク	内容	サービス検出	スケジュール	デバッグ (オプション)
設定ファイル	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--
イベント 関連 処理	✓	✓	--	--	--	✓	--	--	--	--	--	--
イベント 関連 処理 コン ポー ザー	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--
フレ キシ ブル 管理	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--
ログ ファイ ルエ ントリ	✓	✓	✓	--	✓	✓	--	--	--	--	--	✓
測定 しき い値	✓	✓	✓	✓	--	✓	--	--	--	--	--	--
ノー ド情 報	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--
オー プン メッ セー ジイ ンタ フェ ース	✓	--	✓	--	✓	✓	--	--	--	--	--	✓

ポリシー: 設定タブ (続き)

定期 タ スク	✓	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--	--
サー ビス 自動 検出	✓	--	--	--	--	--	--	--	--	✓	✓	--
サー ビス プロ セス モニ タリ ング	✓	--	✓	--	--	--	✓	--	--	--	--	--
SNM P イ ン ター セ プ タ	✓	--	✓	--	✓	✓	--	--	--	--	--	--
サブ エ ー ジェ ント	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--
Wind ows Man age ment Interf ace	✓	✓	✓	--	✓	✓	--	--	--	--	--	--
Wind ows イ ベ ント ログ	✓	✓	✓	--	✓	✓	--	--	--	--	--	✓

ポリシー: 設定タブ (続き)

リ モ ー ト ア ク シ ョ ン セ キュ リ ティ	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--
Site Scop e	✓	--	--	--	--	--	--	--	✓	--	--	--

新しいポリシーを作成するには

新しいポリシーを作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[ポリシーの追加]** をクリックし、**[すべてのポリシータイプ]** ページで、追加する新しいポリシーのタイプを選択します。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。**[ポリシーの追加]** または **[ポリシーの編集]** ウィンドウに表示されるタブの数と種類は、選択したポリシーのタイプによって異なります。
 - **条件:**
設定されているメッセージの条件の一覧。一覧内を上下に移動したり、条件または条件の一部を切り取る/貼り付けるには、アイコンを使用します。
 - **内容:**
設定ファイルポリシー、エージェント、またはサブエージェントを管理対象ノードに配布するときに管理対象ノードに書き込まれる設定ファイルを修正します。
 - **メッセージ デフォルト:**
生成されるメッセージのタイプに関する情報。メッセージに含まれるテキスト、重要度レベル、メッセージが属するメッセージグループなどの情報があります。メッセージ指示、使用するメッセージストリームインターフェース、関連処理でメッセージを考慮するかどうかなどの情報を追加することもできます。
 - **モニター:**
サービスプロセスモニタリングポリシータイプでモニターする Windows サービス/プロセスに関する情報。
 - **オプション:**
一致する(または一致しない)メッセージをログに記録するかどうか、およびメッセージをサーバーに転送するか管理対象ノード上でローカルにロギングするかに関する情報。

- **プロパティ:**
作成するポリシーの名前やタイプなどの一般詳細情報。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
 - **定期タスク:**
コマンドまたは Visual Basic/Perl スクリプトを実行する定期タスクポリシーのパラメータに関する情報。
 - **サービス自動検出:**
サービスの検出に使用するサービスタイプ定義が含まれる管理モジュールを指定します。
 - **スケジュール:**
サービス検出の実行間隔を指定します。
 - **ソース:**
ポリシーの情報ソース、ソースを読み取る頻度、重要視する情報、メッセージを生成して HPOM に送信するタイミングに関する情報。
 - **しきい値:**
モニター/測定するしきい値の一覧。複数のしきい値 (またはインスタンス) を同時にモニターするようにポリシーを設定できます。このタブは、ポリシータイプが測定しきい値である場合にのみ表示されます。
4. HPOM メッセージソースポリシーで HPOM 変数とユーザー定義の変数を使用して、たとえば、新しいポリシーによって生成されるメッセージを作成できます。また、指示文インターフェースを使用することで、アクション呼び出しのパラメータとして変数を使用したり、外部アプリケーションに変数を渡すこともできます。HPOM 変数は、これ以外の目的 (ユーザー定義変数の作成など) には使用できません。メッセージソースポリシーでの変数の使用についての詳細は、「[新しいポリシーでの変数の使用](#)」を参照してください。
5. 新しいポリシーを設定したら、以下のボタンを使用してポリシーの詳細を保存または破棄します。
- **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ポリシーの構文がチェックされ、ポリシーが保存されます。特に指定されていない場合、バージョンは自動的に次に使用可能な番号に設定されます。すでに使用されている番号を新しいバージョン番号として手動入力すると、既存のバージョン番号の上書き、別のバージョン番号の入力、新しいポリシー名の入力、または保存操作のキャンセルを促すメッセージが表示されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、作成したポリシーのバックアップバージョンを呼び

戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- **キャンセル**

ポリシーに加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [ログファイル条件内のパターンのテスト](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

[プロパティ] タブ

[新しいポリシー] ページの [プロパティ] タブには、新しい HPOM ポリシーの一般パラメータが表示されます。新しいポリシーの定義、および HPOM 環境へのポリシーの追加には、このページを使用します。次の表は、[新しいポリシー] ページの [プロパティ] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシー: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいポリシーの名前です。名前は、HPOM の [すべてのポリシー] ページウィンドウのポリシー一覧に表示されます。	✓
タイプ	作成するポリシーのタイプです。ポリシーのタイプは、すでにハードコードされています。これは、「新規ポリシーの追加」ステップ後のユーザー選択に基づいたポリシータイプを反映します。	✓
バージョン	バージョン番号の管理方法 (手動、手動で強制上書き、保存時に自動) を指定します。テキストボックスは、ドロップダウンリストからいずれかの手動バージョン管理オプションを選択した場合にのみアクティブ化されます。	✓
最新バージョン	編集したポリシーの最新バージョンを表します。新しいポリシーの場合、この値は「対象外」です。	--
詳細	新しいポリシーの簡単な説明を示します。これは、生成されるメッセージのタイプの確認に役立ちます。	✓

新しいポリシー: [プロパティ] タブ (続き)

親グループ	新しいポリシーを所属させるポリシーグループを選択します。使用できるポリシーグループの一覧を表示するために、[ポリシーグループ] ダイアログの[フィルタ] ボタンのクリックが必要となる場合があります。	--
-------	---	----

関連項目

- [メッセージポリシーの内容](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[しきい値] タブ

新しいポリシーしきい値の [しきい値] タブには、新しいポリシーによるモニターの対象となる個々のしきい値の詳細が表示されます。しきい値モニターによる短時間のピーク(急増)の処理方法や、リセット時に使用する値を定義するときは、このページを使用します。

新しいポリシーしきい値の [しきい値] タブに表示されるフィールドは、作成するポリシーのタイプ(測定しきい値など)によって異なります。次の表は、[新しいポリシー] ページの [しきい値] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値: [しきい値] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
詳細	定義するしきい値の範囲を示す簡単な説明を入力します。	✓
しきい値	しきい値のモニター値を、たとえば「80.0」のように入力します。	✓

測定しきい値: [しきい値] タブ (続き)

短時間のピークの動作	しきい値ポリシーが断続的なピークを完全に無視するかどうか、また特定の時間帯に無視するかどうかを示します。ピークを無視する時間帯を指定する場合は、指定する時間帯の開始/終了時刻を定義する必要があります。	--
リセット	しきい値のリセット時に使用する値を指定します。特定の値、またはデフォルト値 (しきい値と同じ値) を指定できません。	--

関連項目

- [\[インスタンスフィルタ\] タブ](#)
- [\[開始アクション\] タブ](#)
- [\[続行アクション\] タブ](#)
- [\[終了アクション\] タブ](#)

[開始アクション] タブ

新しいポリシーしきい値の **[開始アクション]** タブでは、しきい値ポリシーによって生成されるメッセージに関連付けるアクション (複数も可) を定義できます。開始アクションは、モニター対象の値が、ポリシーに定義されているしきい値を初めて超過した場合に実行されます。モニター対象の値が、複数のポリシールールに指定されているしきい値を超過した場合は、重要度の値が最も高いルールのアクションが実行されます。

表示されるタブとフィールドは、選択した設定によって異なります。以下の表では、新しいポリシーしきい値の **[開始アクション]** タブのフィールドに入力する情報を説明しています。HPOM 管理 UI で青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

- [開始アクション: メッセージ](#)
- [開始アクション: アクション](#)
- [開始アクション: カスタム属性](#)
- [開始アクション: 相関処理](#)
- [開始アクション: 指示](#)
- [開始アクション: 詳細](#)

次の表では、しきい値ポリシータイプについて、**[開始アクション: メッセージ]** タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。HPOM 管理 UI で青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [メッセージ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
重要度	しきい値ポリシーによって生成されるメッセージに割り当てる重要度をドロップダウンメニューから選択します。重要度は、メッセージの原因となったイベントの重要性をオペレータに伝えます。	✓
ノード	メッセージが割り当てられるノードの名前を指定します。ローカルノードを表すデフォルトの <MSG_NODE>、または管理サーバーノードを表す変数 <OPC_MGMTSV> も使用できます。エージェントを使用しないモニターでは、出力元ノードの名前を指定します。メッセージまたは指示文には、URL へのハイパーリンクも追加できます。	✓
アプリケーション	メッセージを生成するアプリケーションの名前を指定します。「アプリケーション」は、通常は一般的なプログラムの名前を表します。	✓
メッセージグループ	このポリシーによって生成されるメッセージに割り当てるメッセージグループの名前を指定します。コンソールと Web コンソールのメッセージフィルターでは、メッセージグループ名の長さは 32 文字に制限されます。	✓
オブジェクト	メッセージを生成するオブジェクトの名前を指定します。「オブジェクト」は、通常はプロセスまたはサブプログラムの名前を表します。	✓
メッセージテキスト	メッセージの内容となるテキストを入力します。HP Operations Manager サービス設定変数を使用すると、メッセージの原因となったイベントに固有のメッセージを作成できます。	✓
サービス ID	このメッセージに関連付けるサービスの名前 (ID) を指定します。サービス ID は、サービス階層内のサービスの一意の識別子です。サービス ID が割り当てられたメッセージが管理サーバーに送信されると、その ID と一致するサービスのステータス計算にそのメッセージの重要度が反映されます。	✓
メッセージタイプ	たとえば、同じメッセージグループに属す 2 種類のメッセージを区別できるように、このメッセージに別の構成カテゴリを作成するときは、このボックスを使用します。	✓
サービスの実行ホスト	サービスをホストしているノードを示します。	✓

次の表では、しきい値ポリシータイプについて、[開始アクション: アクション] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [アクション] タブ

フィールド	内容の説明	必須情報
サーバーのログ専用	このオプションは、新しいポリシー条件に一致するメッセージを管理サーバーに記録し、それ以上のHPOMによる処理は行わない場合に選択します。このオプションを選択すると、メッセージはアクティブメッセージブラウザには表示されず、設定されたすべてのアクション、トラブルチケット転送、および通知は無視されます。管理サーバーにのみ記録されるメッセージは、他のすべての受諾メッセージとともにメッセージ履歴データベースに格納されることに注意してください。	✓
自動	処理後に一致したメッセージに自動アクションを付加したい場合は、[自動]オプションを選択します。アクションが呼び出すコマンド、さらにコマンドを実行する必要がある管理対象ノードの名前を指定する必要があります。参照ボタン[...]をクリックし、使用可能な管理対象ノードを参照します。また、自動アクションが正常終了した場合にメッセージが自動的に受諾され、コマンド出力が注釈として受諾メッセージに付加されるように指定することも可能です。注釈には、アクションの開始/終了時間、出力内容、および終了値が含まれます。	✓
オペレータ起動	メッセージがメッセージブラウザに表示された後でオペレータが起動することができるアクションを、一致するメッセージに付加したい場合に、[オペレータ起動]オプションを選択します。アクションが呼び出すコマンド、さらにコマンドを実行する必要がある管理対象ノードの名前を指定する必要があります。参照ボタン[...]をクリックし、使用可能な管理対象ノードを参照します。また、オペレータ起動によるアクションが正常終了した場合にメッセージが自動的に受諾され、コマンド出力が注釈として受諾メッセージに付加されるように指定することも可能です。注釈には、アクションの開始/終了時間、出力内容、および終了値が含まれます。オペレータ起動によるアクションが失敗した場合、デフォルトで注釈が提供されることに注意してください。	✓

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [アクション] タブ (続き)

トラブルチケットに転送	一致するメッセージがHP Operations 管理サーバーに到達したとき、設定されたトラブルチケットシステムに対して通知を行う場合に、このオプションを選択します。また、一致するメッセージが自動的に受諾され、アクティブメッセージブラウザに表示されないように指定することも可能です。	✓
通知	一致するメッセージを外部の通知サービスに転送したい場合に、このオプションを選択します。指定した通知サービスは設定される必要があり、メッセージが管理サーバーで受信されたときに使用可能でなければならないことに注意してください。	✓

次の表は、新しいポリシーしきい値の[しきい値]タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [カスタム属性] タブ

フィールド	内容の説明
名前	新しいメッセージ属性の名前を入力します。入力した名前は、Java GUI メッセージブラウザの追加カラムに表示されます。
値	[名前] フィールドに定義した属性に割り当てる値を指定します。次のいずれかの値を指定できます。 + ハードコードされたテキスト + HPOM のパターンマッチ構文によって返される変数 + 事前定義のHPOM 変数

以下の表では、しきい値ポリシータイプについて、[開始アクション: 相関処理]タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [相関処理] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
メッセージ キー	別のプロセスがメッセージを識別できるように、このポリシーによって生成されるメッセージに割り当てるメッセージキーを指定します。メッセージキーは、メッセージ ID とは異なります。すべてのメッセージには一意のメッセージ ID が割り当てられ、特定のポリシーによって生成されるすべてのメッセージには同じメッセージキーが割り当てられます。複数のポリシーで同じメッセージキーを使用できます。	✓

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [関連処理] タブ (続き)

右側のメッセージキーパターンに一致するメッセージを受諾	指定したメッセージキーが割り当てられたすべてのメッセージを自動的に受諾する場合は、これをチェックします。受諾されたメッセージは直ちに履歴ブラウザに送信され、アクティブメッセージブラウザには表示されません。	✓
フィールドセパレータ	パターンマッチ操作で使用するフィールドセパレータを指定します。	✓
大文字小文字を区別	パターンマッチ操作で大文字と小文字の違い(「A」と「a」)を区別するかどうかを指定します。	✓

以下の表では、しきい値ポリシータイプについて、[開始アクション: 指示] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [指示] タブ

フィールドラベル	内容の説明	
タイプ	オペレータに指示文を伝える方法をドロップダウンメニューから選択します。たとえば、「指示文を使用しない」、手動入力した指示文、指示文インタフェースからの指示などを指定できます。	
	指示文を使用しない	一致メッセージに指示を追加しません。
	指示文	表示されるボックスを使用して、一致メッセージに追加する指示文を入力します。
	指示文インタフェース	一致メッセージに追加する指示文を生成するときに使用するインタフェース名のタイプをドロップダウンリストから選択します。[パラメータ] フィールドには、指示文生成プログラムに渡す追加オプションを指定できます。指定できるパラメータのタイプは、ハードコードされた値、HPOM 変数 (\$MSG_NODE)、パターンマッチング文字列で定義した変数の3種類です。

以下の表では、しきい値ポリシータイプについて、[開始アクション: 詳細] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [詳細] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [詳細] タブ (続き)

エージェント MSI	エージェント MSI を有効にすると、[転用] または [コピー] のいずれかのオプションを選択できるようになります。メッセージを転用する場合は、ポリシーによって生成されたメッセージはメッセージブラウザではなく、メッセージストリームインタフェースに送信されます。メッセージをコピーする場合は、メッセージはメッセージブラウザに直接送信され、メッセージのコピーがメッセージストリームインタフェースに送信されます。	✓
サーバー MSI	サーバー MSI を有効にすると、[転用] または [コピー] のいずれかのオプションを選択できるようになります。メッセージを転用する場合は、ポリシーによって生成されたメッセージはメッセージブラウザではなく、メッセージストリームインタフェースに送信されます。メッセージをコピーする場合は、メッセージはメッセージブラウザに直接送信され、メッセージのコピーがメッセージストリームインタフェースに送信されます。	✓

関連項目

- [\[インスタンスフィルタ\] タブ](#)
- [\[しきい値\] タブ](#)
- [\[続行アクション\] タブ](#)
- [\[終了アクション\] タブ](#)

[続行アクション] タブ

新しいポリシーしきい値の [続行アクション] タブでは、各ポーリング周期でリセット値に達していない場合に、測定しきい値ポリシーによって生成されるメッセージに関連付けるアクション (複数も可) を定義できます。

表示されるタブとフィールドは、選択した設定によって異なります。次の表は、新しいポリシーしきい値の [続行アクション] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの [続行アクション] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
どの '続行アクション' も開始しない	ポリシーの各ポーリング周期で、しきい値のリセット値に達していない場合でも、生成されるメッセージによってアクションの実行が指定/要求されることはありません。	✓
指定された '開始アクション' を使用	ポリシーの各ポーリング周期で、しきい値のリセット値に達していない場合に、[開始アクション] タブの設定と同じアクションを実行します。	✓

測定しきい値ポリシーモニターの [続行アクション] タブ (続き)

特別な '続行アクション' を定義	ポリシーの各ポーリング周期で、しきい値のリセット値に達していない場合に実行される、特別なアクションを定義します。「続行」アクションの定義に使用するタブとフィールドは、 [開始アクション] の定義に使用するものと同じです。詳細は、後述の関連項目の一覧にある「 測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション 」を参照してください。	✓
-------------------	---	---

関連項目

- [\[インスタンスフィルタ\] タブ](#)
- [\[しきい値\] タブ](#)
- [\[開始アクション\] タブ](#)
- [\[終了アクション\] タブ](#)

[終了アクション] タブ

新しいポリシーしきい値の **[終了アクション]** タブでは、しきい値ポリシーによって生成されるメッセージに関連付けるアクション (複数も可) を定義できます。終了アクションは、しきい値がリセット値を超過した後実行されます。モニター対象の値が、複数のポリシールールに指定されているしきい値を超過した場合は、重要度の値が最も高いルールのアクションが実行されます。

表示されるタブとフィールドは、選択した設定によって異なります。次の表は、新しいポリシーしきい値の **[終了アクション]** タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値ポリシーモニターの [終了アクション] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
いずれの終了アクションも開始しない	ポリシーの各ポーリング周期で、しきい値のリセット値に達した場合でも、生成されるメッセージによってアクションの実行が指定/要求されることはありません。	✓
特別な終了アクションを定義	ポリシーの各ポーリング周期で、しきい値のリセット値に達した場合に実行される、特別なアクションを定義します。「終了」アクションの定義に使用するタブとフィールドは、 [開始アクション] の定義に使用するものと同じです。詳細は、後述の関連項目の一覧にある「 測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [メッセージ] タブ 」を参照してください。	✓

関連項目

- [\[インスタンスフィルタ\] タブ](#)
- [\[しきい値\] タブ](#)
- [\[開始アクション\] タブ](#)
- [\[続行アクション\] タブ](#)

[インスタンス フィルタ] タブ

新しいポリシー測定しきい値の [インスタンス フィルタ] タブには、新しいポリシーによるモニターの対象となるさまざまなしきい値の詳細が表示されます。モニター対象となるしきい値、および個々のインスタンスをモニターするかどうか(必要な場合)を定義するには、このページを使用します。

[しきい値] タブに表示されるフィールドは、作成するポリシーのタイプ(測定しきい値など)によって異なります。

次の表は、しきい値 モニターの [インスタンス フィルタ] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

しきい値 モニター: [インスタンス フィルタ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
詳細	しきい値 インスタンスフィルターの簡単な説明を入力します。	✓
インスタンスの動作	ポリシーのモニター対象となるしきい値のタイプ(単なる最大値/最小値、スクリプトを使った計算など)を選択します。デフォルト設定は「一致する場合、しきい値を評価する」です。	✓
オブジェクト名	メッセージを生成するオブジェクトの名前を指定します。「オブジェクト」は、通常はプロセスまたはサブプログラムの名前を表します。	--
パターン マッチ フィールド セパ レーター	パターンマッチ操作で使用するフィールドセパレータを指定します。	--
大文字小文字 を区別	パターンマッチ操作で大文字と小文字の違い(「A」と「a」)を区別するかどうかを指定します。	--

新しいインスタンスフィルターがある測定しきい値ポリシーを保存しようとしたときに、そのインスタンスのしきい値が設定されていない場合は、しきい値が設定されていないポリシーは保存できないことを示すエラーメッセージが表示されます。

関連項目

- [\[しきい値\] タブ](#)
- [\[開始アクション\] タブ](#)
- [\[続行アクション\] タブ](#)
- [\[終了アクション\] タブ](#)

[アクション] タブ

[新規ポリシー条件] ページの [開始アクション] タブの [アクション] タブでは、自動またはオペレータ起動によるアクションを定義し、一致するメッセージに付加することができます。このタブは、「一致条件のメッセージ」条件タイプのみで使用できます。一致するメッセージの属性を設定するには、「[測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: \[アクション\] タブ](#)」の表に示されている情報を使用します。

関連項目

- [新規ポリシー条件の定義](#)
- [カスタム属性の設定](#)
- [メッセージ相関条件の設定](#)
- [指示文インターフェースの指定](#)
- [メッセージストリームインターフェース詳細の設定](#)

[条件] タブ

[新規ポリシーの追加] の [条件] タブでは、管理対象ノードに配布する HPOM ポリシーの条件を作成/変更できます。受信メッセージと一致させる条件を定義するときは、このタブを使用します。条件には、受信メッセージの重要度、メッセージテキスト、受信メッセージが属すメッセージグループ、メッセージの送信元管理対象ノードの名前を定義します。新しい条件を作成して新しいポリシーに追加するには、次の表で説明する情報を入力する必要があります。

新規ポリシーの追加: [条件] タブ

フィールド	内容の説明
重要度	受信メッセージの重要度をドロップダウンリストから選択します。この重要度と受信メッセージの重要度が一致した場合、さらに処理が行われます。
ノード	ノードブラウザを使って管理対象ノードを選択します。受信メッセージの送信元がこのノードと一致した場合、さらに処理が行われます。複数のノードを指定するときは、「nodeName1 nodeName2」のように、ノード名をパイプ記号「 」で区切ります。
アプリケーション	受信メッセージを生成したアプリケーションの名前を指定します。複数のアプリケーションを指定するときは、「ApplicationName1 ApplicationName2」のように、アプリケーション名をパイプ記号「 」で区切ります。

新規ポリシーの追加: [条件] タブ (続き)

メッセージグループ	オブジェクトブラウザを使ってメッセージグループを選択します。受信メッセージがこのメッセージグループに属している場合、さらに処理が行われます。複数のメッセージグループを指定するときは、グループ名をパイプ記号「 」で区切ります。
オブジェクト	受信メッセージに関連付けられている HPOM オブジェクトの名前を指定します。複数のオブジェクトを指定するときは、オブジェクト名をパイプ記号「 」で区切ります。
一致テキスト	受信メッセージのテキストとの一致を評価するメッセージテキストを指定します。メッセージテキストの指定には、パターンマッチを使用できます。たとえば、<*> は文字列、<n*> は長さ「n」の文字列、<#> は整数、<n#> は長さ「n」の整数、<_> はセパレータ、<n_> は「n」個のセパレータ、<@> は単語または OR 演算子、<! []> は NOT 演算子、[] は角かっこグループ、<[].var> は変数 (var) へのサブパターンの割り当てを表します。数値の比較では、<[] -eq n> (等しい)、<[] -ne n> (等しくない)、<[] -lt n> (未満)、<[] -le n> (以下)、<[] -gt n> (より大きい)、<[] -ge n> (以上) のパターンを使用できます。

関連項目

- [メッセージアクションの定義](#)
- [カスタム属性の設定](#)
- [メッセージ関連条件の設定](#)
- [指示文インターフェースの指定](#)
- [メッセージストリームインターフェース詳細の設定](#)

[詳細] タブ

[新規ポリシー条件] ページの [開始アクション] タブの [詳細] タブでは、大文字と小文字を区別するパターンマッチを使って一致メッセージのテキストを確認する方法、一致メッセージにアクションが割り当てられている場合の処理、一致メッセージを管理対象ノードまたは管理サーバー上のメッセージストリームインターフェース (MSI) にコピー/転用するかどうかを定義できます。一致するメッセージの属性を設定するには、「測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [詳細] タブ」の表に示されている情報を使用します。

関連項目

- [新規ポリシー条件の定義](#)
- [メッセージアクションの定義](#)
- [カスタム属性の設定](#)

- [メッセージ相関条件の設定](#)
- [指示文インタフェースの指定](#)

[相関処理] タブ

[新規ポリシー条件] ページの [開始アクション] タブの [相関処理] タブでは、特定のメッセージキーまたはキーパターンと一致するメッセージを関連付け、さらに重複するメッセージをどのように除外するかを決定することができます。このタブは、「一致条件のメッセージ」条件タイプのみで使用できます。一致するメッセージの相関処理を定義するには、「[測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: \[相関処理\] タブ](#)」の表に示されている情報を使用します。

関連項目

- [新規ポリシー条件の定義](#)
- [メッセージアクションの定義](#)
- [カスタム属性の設定](#)
- [指示文インタフェースの指定](#)
- [メッセージストリームインタフェース詳細の設定](#)

[カスタム属性] タブ

[新規ポリシー条件] ページの [開始アクション] タブの [カスタム属性] タブでは、HPOM が捕捉した後的一致メッセージに情報を追加するための独自の属性 (例、カスタム名、サービスレベル契約 (SLA)、デバイスタイプ) を定義できます。このタブは、「一致条件のメッセージ」条件タイプのみで使用できます。カスタムメッセージ属性は、Java GUI のブラウザウィンドウのみに表示されます。このウィンドウでは、オペレータはこれらの属性を利用してメッセージをソートしたり、フィルター処理できます。カスタム属性を追加できるメッセージのタイプは、ログファイルエントリ、SNMP インターセプタ、測定しきい値のみです。一致メッセージのカスタム属性を追加するには、次の表に示される情報を使用します。このページ内の属性は削除することもできます。[カスタム属性] タブのフィールドの説明については、「[測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: \[カスタム属性\] タブ](#)」の表を参照してください。

関連項目

- [新規ポリシー条件の定義](#)
- [メッセージアクションの定義](#)
- [メッセージ相関条件の設定](#)
- [指示文インタフェースの指定](#)
- [メッセージストリームインタフェース詳細の設定](#)

[指示] タブ

[新規ポリシー条件] ページの [開始アクション] タブの下にある [指示] タブでは、一致メッセージで説明されている障害をオペレータが解決する上で役立つ指示があれば、その指示を定義できます。このタブは、「一致条件のメッセージ」条件タイプのみで使用できます。メッセージに指示を追加する方法には、指示文を実際に書き込む方法と、指示文インターフェースを使用して、指示文を生成する外部プログラムを呼び出す方法の2つがあります。[指示] タブを使用して、定義するポリシー条件に一致するメッセージに指示を含めるには、「測定しきい値ポリシーモニターの開始アクション: [指示] タブ」の表に示されている情報を使用します。

関連項目

- [新規ポリシー条件の定義](#)
- [メッセージアクションの定義](#)
- [カスタム属性の設定](#)
- [メッセージ関連条件の設定](#)
- [メッセージストリームインターフェース詳細の設定](#)

新しいポリシーの [ソース] タブ

新しいポリシーの [ソース] タブには、新しい HPOM ポリシーでモニターする情報のソースの詳細が表示されます。このページを使用すると、情報の検索先、情報ソースのチェック頻度、問題発生時の対処方法を定義できます。

[ソース] タブに表示されるフィールドは、作成するポリシーのタイプ (ログファイル、モニター、SNMPトラップなど) によって異なります。以下の表では、いくつかのポリシータイプで、新しいポリシーの [ソース] タブの各フィールドに入力することが必要な情報について説明しています。使用可能なすべてのポリシータイプのリストは、「[ポリシータイプ](#)」を参照してください。

以下の表では、イベント関連処理の [ソース] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

イベント関連処理: [ソース] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
EC サーキット ファイル	新しいポリシーで使用するイベント関連処理サーキットのパスと名前です。	✓
EC ソースファイル	新しいポリシーで使用するイベント関連処理ソースのパスと名前です。	✓

以下の表では、ログファイルの [ソース] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ログファイルエントリ: [ソース] タブ

フィールドラベル	説明	必須情報
ログファイル	モニターするログファイル。該当する管理対象ノード上でこのログファイルのフルパスを入力するか、ログファイルのパスと名前を返すスクリプトまたはコマンドを呼び出すことができます。後者の方法は、ログファイルのパスを動的に決定する場合や、モニターするログファイルのインスタンスが複数ある場合に非常に便利です。構文は、 <code><`command`></code> です。ここで、コマンドは、モニターするログファイルのパスと名前を stdout に返すスクリプトの名前です。	--
実行	ログファイルをプリプロセスするコマンドまたはプログラムの名前。コマンドまたはプログラムを必要なパラメータおよびオプションとともに入力します。取得するファイルは、[ファイルの読み取り] フィールドで指定する必要があります。 このオプションは、モニタリングを開始する前に、元のログファイルを再フォーマットしなければならない場合に使用します。	--
ファイルの読み取り	ログファイルエンキャプスレータが、[ログファイル] フィールドで定義されたログファイルの代わりに読み取るログファイルの名前。 このフィールドでパスを指定すると、エージェントはそのログファイルを読み取ります。このフィールドを空のままにした場合は、[ログファイル] フィールドで指定したログファイルをエージェントが読み取ります。	--

ログファイルエントリ: [ソース] タブ (続き)

読み取るファイル	<p>ポリシーで処理するのがログファイル全体なのか、新しいログファイルエントリのみなのかを示します。使用可能な読み取りモードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加部分のみ: ポリシーが管理ノードで有効な間にログファイルに新しく書き込まれた追加エントリのみを読み取ります。このオプションは、ポリシーが有効なときに発生したログファイルエントリのみに関心がある場合に選択します。 先頭 (初回のみ): ポリシーが有効になるか、またはエージェントが管理ノードで再起動されるたびに、ログファイル全体を読み取ります。このオプションを選択するのは、ポリシーが有効な間は、ログファイル内の既存および今後のすべてのエントリをポリシーで確実に処理するようにする場合です。 先頭 (常時): ログファイルが変更されたことをポリシーが検出するたびに、ログファイル全体を読み取ります。このオプションは、追加されるのではなく上書きされるログファイルをモニターする場合に選択します。 <p>すべてのポリシーは、他のポリシーとは無関係に同じログファイルを読み取ります。つまり、たとえば、読み取りモードが「最初から読み取る (初回)」のポリシー 1 があるノードで有効にされる場合は、同じノードに同じ読み取りモードのポリシー 2 がすでに存在していても、ポリシー 1 は有効になった後でログファイル全体を読み取ります。</p>	--
コードセット	定義されたログファイルの内容をポリシーが検索する際に想定されるコードセットを選択します。	--
ログファイル不在メッセージ	指定したログファイルが存在しない場合に HPOM からメッセージを送信するのであれば、有効にします。	--
読み込み後クローズ	ポリシーがログファイルを読み取った後で、そのログファイルを閉じる場合は選択します。	--
ポーリング設定	ポリシーが指定のログファイルを読み取る回数を定義します。	--

以下の表では、しきい値の [ソース] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

測定しきい値: [ソース] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

測定しきい値: [ソース] タブ (続き)

ソースタイプ	ソースを確認し、ドロップダウンリストからソースのタイプを選択します (例、「外部」、「組み込みパフォーマンスコンポーネント」、「MIB」、「プログラム」、「リアルタイムパフォーマンス測定」、「WMI」)。入力する情報は、しきい値のソースのタイプによって異なります。たとえば、MIB (管理情報ベース) では ID と ID が生成されたノードの名前が必要になります。[組み込みパフォーマンスコンポーネント] では、データソース (CODA)、オブジェクト名 (GLOBAL) およびメトリック名 (GBL_CPU_TOTAL_UTIL) が必要になります。	✓
短縮名	モニターするしきい値の名前を入力します。	✓
詳細	モニターするしきい値の簡単な説明を入力します。説明を入力しておく、他のユーザーがしきい値モニターの対象と理由を判別できます。	--
データソース	参照ボタン [...] をクリックすると、データソースブラウザが表示されます。ここでは、ポリシーがメトリックを収集するのに使用するデータソースのタイプを選択できます (例、CODA (組み込みパフォーマンスコンポーネント))。	✓
オブジェクト	データソースブラウザでデータソースを選択すると、 [オブジェクト] ドロップダウンリストにデータが自動的に設定されます。そのリストを使用して、パフォーマンスをモニターするオブジェクトを選択できます。	✓
メトリック	データソースブラウザでオブジェクトを選択すると、 [メトリック] ドロップダウンリストにデータが自動的に設定されます。そのリストから、パフォーマンスモニターで使用するメトリックを選択できます。	--

以下の表では、Windows イベント ログポリシーの [ソース] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

Windows イベント ログ: [ソース] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
イベント ログ名	新しいポリシーによってモニターするエントリを持つイベントログの名前です (例、システム、セキュリティ、アプリケーション)。モニターする別のイベントログの名前を入力する場合は「名前を指定」を選択し、表示されるテキストボックスにイベントログの名前を入力します。	--
読み取るファイル	イベントファイルの読み取り方法を指定します (例、毎回ファイルの最初から、または、ファイルの末尾に追加されたエントリのみ)。	--

Windows イベント ログ: [ソース] タブ (続き)

イベント ログが存在しない場合にメッセージを送信	ポリシーがモニターしているイベント ログが存在しない場合に通知メッセージを送信します。	--
--------------------------	---	----

以下の表では、WMI (Windows Management Interface) の [ソース] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

Windows Management Interface: [ソース] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ノード	新しいポリシーのオブジェクトが配置されている管理対象ノードの名前です。[...] ボタンを使用し、既知のノードの一覧から管理対象ノードを選択します。ノード一覧を表示するのに [フィルタ] ボタンのクリックが必要となる場合があります。	--
WMI 名前空間	新しいポリシーのモニター対象のオブジェクトが含まれる WMI 名前空間の名前です。	✓
オブジェクト タイプ	新しいポリシーがモニターするオブジェクト タイプを選択します。[イベント] (一時的)、[インスタンス] (静的)、[WMI リポジトリ] のいずれかを選択できます。	--
クラス名	新しいポリシーがモニターするオブジェクト (データ) を含むクラスの名前です。クラスは、WMI リポジトリに格納される情報に定義されるデータプロパティの集合体です。	✓
非エージェント ユーザーとして接続	新しいポリシーを非エージェントユーザーアカウントで実行する場合は、このボックスをチェックします。ログオン情報は入力する必要があります。このアカウントは管理対象ノードに必須のアカウントで、ローカルの管理者権限を付与する必要があります。選択しない場合は、エージェントアカウントが使用されます。	--
照会タイプ	新しいポリシーのポーリングを有効/無効にするかを指定します。	--
グローバル WQL フィルタ (WQL の Where 句)	新しいポリシーで呼び出されるプログラムの名前です。	--

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)

- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[条件] タブ

新しいポリシーの[条件]タブでは、管理対象ノードに配布予定のHPOMポリシーの条件を作成または変更できます。このタブを使用すると、新規ポリシー条件を定義し、優先度に応じて条件を分類できます。必要に応じて、ポリシー条件に定義したパターンマッチングルールをテストできます。条件タイプ(一致、一致するものを除外、一致しないものを除外)または条件の詳細情報に応じて、表示される条件をフィルター処理することができます。

条件を作成、変更、削除するには、次の表に説明のある使用可能なアイコンを使用します。

新しいポリシー: 条件のアクションドロップダウンメニューの使用

ボタン/フィールド名	アクション
条件の追加	条件ダイアログが開き、メッセージの生成方法、時間、理由を定義できます。新しい条件は条件のタイプの簡単な説明(例、「一致」、「除外」、「一致しないものを除外」とともに、条件一覧に表示されます。
条件の削除	ポリシーから条件を削除します。
条件のコピー	選択した条件を内部ストレージにコピーします。そうすることで条件一覧内の任意の場所にそのコピーを配置したり、他のポリシーに配置することができます。
条件の編集	選択した条件を編集します。
条件の貼り付け	事前にコピーしてあった条件を、条件一覧の末尾に貼り付けます。
条件を上に移動	選択した条件を、条件一覧内で1つ上に移動させます。
条件を下に移動	選択した条件を、条件一覧内で1つ下に移動させます。
条件の移動先...	ある条件を、条件一覧内の別の位置に移動させます。新しい位置を入力するための小さなポップアップダイアログが表示されます。

新しい条件を作成して新しいポリシーに追加するには、次のタブに情報を入力する必要があります。選択した条件のタイプ(-条件に一致するものを除外、=条件に一致しないものを除外、+一致条件のメッセージ)によって、以下の一覧にあるように、表示されるタブの数(およびタイプ)が決まります。

- **条件**
条件タブで、受信メッセージに一致させる条件を定義できます。条件では、メッセージの重要度、照合するテキスト、メッセージのアプリケーション、受信メッセージが所属するメッセージグループ、メッセージのオブジェクト、メッセージを送信する管理対象ノードの名前を定義できます。
- **メッセージ**
メッセージ属性を使用して、HPOM が捕捉した後の一致メッセージの形式、つまりHPOM メッセージブラウザで表示される際のメッセージの形式を定義します。たとえば、メッセージの重要度、ノード、アプリケーション、オブジェクト、サービスID、サービスの実行ホスト、メッセージタイプ、メッセージテキスト、生成されたメッセージが所属するメッセージグループ、メッセージを送信する管理対象ノードの名前などを定義できます (一致条件のメッセージのみ)。
- **アクション**
条件によって生成されたメッセージへの自動アクションまたはオペレータ起動アクションの付加、トラブルチケットシステムへのメッセージの転送、メッセージの自動受諾の設定などを行い、出力を注釈として追加します (一致条件のメッセージのみ)。
- **カスタム属性**
カスタム属性を使用すると、HPOM が捕捉した後の一致メッセージに、カスタム名、サービスレベル契約 (SLA) のタイプ、デバイスタイプなどの情報を追加できます (一致条件のメッセージのみ)。
- **関連処理**
新しい条件および他のメッセージに存在する関係に一致するメッセージに関連付けられるメッセージキーの詳細を定義します。 (一致条件のメッセージのみ)。
- **指示**
メッセージを生成するのに、指示文および必要に応じて外部インターフェースを使用するかどうかを定義します。[指示] タブで指定した指示文を生成、表示するのに使用するインターフェースを定義します (一致条件のメッセージのみ)。
- **詳細**
[詳細] タブでは、フィールドセパレータのパターンマッチ、大文字小文字の区別、およびエージェント MSI とサーバー MSI のメッセージストリームインターフェイスを設定できます。また MSI を設定しないことも可能です。

関連項目

- [ログファイル条件内のパターンのテスト](#)
- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)

- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)
- [サービス自動検出](#)

[内容] タブ

[ポリシーを追加 (Raw モード)] の [内容] タブでは、管理対象ノードへの設定ファイルポリシー、エージェント、またはサブエージェントの配布時に管理対象ノードに書き込まれる設定ファイルを作成/変更できます。[ポリシーを追加 (Raw モード)] の [内容] タブには、テキストエディタが表示され、選択したポリシーの生データを作成 (または変更) できます。デフォルトでは、変更した内容の構文チェックは行われません。ただし、一部の Smart Plug-in (SPI) は独自のチェックメカニズムを備えています。詳しくは、SPI のドキュメントを参照してください。

Raw 編集モードで新規ポリシーを追加する場合は、**[プロパティ]** タブで指定するポリシー名と、生データ内で指定される名前 (**[内容]** タブに表示) が一致する必要があります。既存のポリシーのソースファイルを編集する場合は、ポリシータイプを除くすべての情報を変更できます。また、ポリシー名は **[プロパティ]** タブの **[名前]** フィールドでのみ変更可能です。ポリシーの生データでポリシー名を変更しないでください。

「生データ編集」モードでのポリシーの作成/編集は、上級者以外にはお勧めできません。

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[メッセージ デフォルト] タブ

[ポリシーの追加] の [メッセージ デフォルト] タブには、デフォルトのメッセージ属性に関する一般情報が表示されます。条件 (メッセージの重要度レベルや、メッセージが属するグループなど) と一致した場合に新しいポリシーが生成するメッセージを定義するときは、このページを使用します。

[メッセージ デフォルト] タブに表示されるフィールドは、作成するポリシーのタイプ (ログファイルエントリ、測定しきい値、SNMP インターセプタなど) によって異なります。次の表は、[ポリシーの追加] の [メッセージ デフォルト] タブのフィールドに入力する情報について説明しています。

- 一般: [メッセージ デフォルト] タブ

- サービスプロセス: [メッセージ デフォルト] タブ

次の表で、オープンメッセージインタフェース、Windows イベントログ、ログファイルエントリ、測定しきい値、SNMP インターセプタ、サービスプロセスモニタリングの各ポリシーについて、[メッセージ デフォルト] タブの各フィールドに指定する必要がある一般的な情報を説明します。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必須となるフィールドを表しています。

一般: [メッセージ デフォルト] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
重要度	新しいポリシーによって生成されるメッセージに割り当てる重要度レベルを選択します。	--
アプリケーション	新しいポリシーによって生成されるメッセージに関連付けるアプリケーションの名前を指定します。	--
オブジェクト	新しいポリシーによって生成されるメッセージに関連付ける HPOM オブジェクトを指定します。	--
ノード	新しいポリシーが生成されるメッセージの出力元管理対象ノードの名前を指定します。[...] ボタンをクリックすると、その時点で認識されているノードが一覧表示されます。	--
メッセージグループ	新しいポリシーが生成されるメッセージが属する HPOM メッセージグループの名前を指定します。[...] ボタンをクリックすると、その時点で認識されているメッセージグループが一覧表示されます。	--
サービス ID	新しいポリシーが生成されるメッセージに関連付けるサービスを指定します。	--
サービスの実行ホスト	新しいポリシーがモニターするサービスが実行されている管理対象ノードの名前を指定します。[...] をクリックしてノードの一覧を表示し、そこからノードを選択できます。	--

一般: [メッセージ デフォルト] タブ (続き)

指示	メッセージに付加する指示のタイプをドロップダウンメニューから選択します。「指示文」を選択した場合は、表示されるボックスに手動でテキストを入力する必要があります。「指示文 インタフェース」を選択した場合は、指示文 インタフェースの起動方法、指示文を解決するためのパラメータ、指示文の表示方法を指定する必要があります。	--
メッセージ相関処理	[...] ボタンをクリックしてメッセージキーを指定し、実行する相関処理のタイプをドロップダウンメニューから選択します。たとえば、重複メッセージを除外するかどうかなどを指定できます。	--
詳細	エージェント上、または管理サーバー上のメッセージストリームインタフェース (MSI) を介してメッセージを渡すかどうかを指定します。MSI を有効にするときは、MSI が元のメッセージとそのコピーのどちらを処理するかを指定してください。	--

以下の表では、サービス/プロセスモニターポリシーについて、[メッセージ デフォルト] タブの各フィールドに指定する必要がある一般的な情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

サービス プロセス: [メッセージ デフォルト] タブ

アクションタイプ	タブ名	フィールドラベル	内容の説明	必須情報
開始アクション	メッセージ	重要度	新しいポリシーによって生成されるメッセージに割り当てる重要度レベルを選択します。	--
		アプリケーション	新しいポリシーによって生成されるメッセージに関連付けるアプリケーションの名前を指定します。	--
		オブジェクト	新しいポリシーによって生成されるメッセージに関連付ける HPOM オブジェクトを指定します。	--

サービス プロセス: [メッセージ デフォルト] タブ (続き)

		ノード	新しいポリシーが生成されるメッセージの出力元管理対象ノードの名前を指定します。[...] ボタンをクリックすると、その時点で認識されているノードが一覧表示されます。	--
		メッセージ グループ	新しいポリシーが生成されるメッセージが属す HPOM メッセージグループの名前を指定します。[...] ボタンをクリックすると、その時点で認識されているメッセージグループが一覧表示されます。	--
		メッセージ テキスト	メッセージの内容となるテキストを入力します。HP Operations 変数を使用して、メッセージの原因となったイベントに固有のメッセージを作成できます。	--
		サービス ID	新しいポリシーによって生成されるメッセージに関連付けるサービスを指定します。	--

サービス プロセス: [メッセージ デフォルト] タブ (続き)

		サービスの実行ホスト	新しいポリシーがモニターするサービスが実行されている管理対象ノードの名前を指定します。[...]をクリックしてノードの一覧を表示し、そこからノードを選択できます。	--
		メッセージ タイプ	新しいポリシーによって生成されるメッセージのタイプを指定します。	--
	アクション	サーバーのログ専用	メッセージの受信を管理サーバー上のファイルにロギングします。	--
		自動アクション	メッセージの受信時に自動的に開始するアクションを指定します。	--
		オペレータ起動	メッセージの受信時にオペレータが開始するアクションを指定します。	--
		トラブルチケットに転送	受信したメッセージのコピーを指定のトラブルチケットシステムに自動的に転送します。	--
		通知	通知メッセージを送信します。	--

サービス プロセス: [メッセージ デフォルト] タブ (続き)

	カスタム属性		受信メッセージ用に定義されているカスタム属性を一覧表示します。	--
		属性の追加	カスタム属性を追加します。	
		属性の削除	カスタム属性を削除します。	
	相関処理	メッセージ キー	[...] ボタンをクリックしてメッセージキーを指定し、実行する相関処理のタイプをドロップダウンメニューから選択します。たとえば、重複メッセージを除外するかどうかなどを指定できます。メッセージキーと照合する文字列を指定し、重複メッセージを自動的に受諾することもできます。	--
	パターン マッチング	右側のメッセージキーパターンに一致するメッセージを受諾	このメッセージキーパターンに一致するメッセージを受諾します。	--
		フィールド セパレータ	フィールドセパレータです。	--
	大文字小文字を区別		このチェックボックスで、大文字小文字を区別するかどうか指定できます。	--

サービス プロセス: [メッセージ デフォルト] タブ (続き)

	指示	タイプ	メッセージに付加する指示のタイプをドロップダウンメニューから選択します。「指示文」を選択した場合は、表示されるボックスに手動でテキストを入力する必要があります。「指示文インタフェース」を選択した場合は、指示文インタフェースの起動方法、指示文を解決するためのパラメータ、指示文の表示方法を指定する必要があります。	--
	詳細	MSI	エージェント上、または管理サーバー上のメッセージストリームインタフェース (MSI) を介してメッセージを渡すかどうかを指定します。MSI を有効にするときは、MSI が元のメッセージをコピーするか転用するかを指定してください。	--
続行アクション		どの'続行アクション'も開始しない	「続行」イベントの発生時にアクションを開始しない場合は、ドロップダウンリストから [アクションなし] を選択します。	--

サービス プロセス: [メッセージ デフォルト] タブ (続き)

		指定された '開始アクション' を使用	「続行」イベントが発生した場合に、[開始アクション] タブに定義されているアクションが開始されるようにするには、ドロップダウンメニューリストからこのオプションを選択します。	--
		特別な '続行アクション' を定義	「続行」イベントが発生した場合に、ここで明示的に定義するアクションが開始されるようにするには、ドロップダウンメニューリストからこのオプションを選択します。	--
終了アクション		どの '終了アクション' も開始しない	「終了」イベントの発生時にアクションを開始しない場合は、ドロップダウンリストから [アクションなし] を選択します。「終了」イベントは、しきい値をリセットするイベントです。	--
		特別な '終了アクション' を定義	「終了」イベントが発生した場合に、[開始アクション] タブに定義されているアクションが開始されるようにするには、ドロップダウンリストからこのオプションを選択します。	--

注記: オープンメッセージインタフェースポリシーによって生成されるメッセージのデフォルト設定は、その他のポリシーによって生成されるメッセージの設定とは異なり、一部のフィールドとテキストボックスには情報を指定する必要がない、または表示されません。

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[モニタ] タブ

[新しいポリシー] ページの [サービス プロセス モニタリング] タブには、オペレーティングシステムのプロセスまたはサービスをモニターするポリシーのパラメータが表示されます。既存のパラメータ値を設定/変更するときは、このページを使用します。ポリシーがプロセス/サービスの可用性を確認する周期を設定したり、モニター対象サービスが想定どおりに動作していない場合にポリシーが実行するアクションを詳細に定義することができます。次の表は、[新しいポリシー] ページの [サービス プロセス モニタリング] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシー: [パラメータ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
タイプ	ポリシーのモニター対象がプロセスであるか、Windows サービスであるかをドロップダウンメニューから選択します。	✓
ポーリング周期	選択したプロセス/サービスをポリシーがチェックする頻度を時分秒で指定します。	✓

新しいポリシー: [パラメータ] タブ (続き)

条件	ポリシーがモニターする Windows サービスまたはプロセスの詳細情報を指定します。たとえば、モニターするサービス/プロセスの名前を入力します。重複する名前を指定したり、空にすることはできません。また、指定したプロセスやサービスが存在するかどうかはチェックされません。サービスが存在しない場合に、そのサービスの名前を通知で受け取るには、[メッセージを送信] をクリックします。[表示名] の名前は、ポリシーエディタのみが内部的に使用する名前です。モニター結果に基づいてポリシーにアクションを実行させる場合は、適切なタブで独自のカスタムアクションを定義するか、メッセージ用に定義されているデフォルトアクションを使用できます。	✓
----	--	---

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[オプション] タブ

新規ポリシーログファイルエントリの [オプション] タブには、メッセージのロギングと転送に関する一般パラメータが表示されます。不一致メッセージは、条件と一致しないメッセージであり、不一致の多くは、新しいまたは未定義のソースが原因です。これらのメッセージへの対応を定義するには、[オプション] タブを使用します。次の表は、新規ログファイルエントリポリシーの [オプション] タブのフィールドについて説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシー: [オプション] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

新しいポリシー: [オプション] タブ (続き)

メッセージ条件に一致するメッセージをログ	一致したメッセージに関する情報をローカルログファイルに保存します。	--
除外条件に一致するメッセージをログ	除外されるメッセージに関する情報をローカルログファイルに保存します。	--
一致しないメッセージをログ	不一致メッセージに関する情報をローカルログファイルに保存します。不一致メッセージは、定義されているどの条件とも一致しないメッセージです。	--
サーバーに転送	不一致メッセージを HP Operations 管理サーバーに転送します。	--
サーバーのログ専用	不一致メッセージに関する情報をログに記録しますが、メッセージを転送しません。	--

イベント関連処理ポリシーの [オプション] タブには、ECS のログ処理の有効な方法が表示されます。

イベント関連処理ポリシー: [オプション] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ECS 出力ログ	ローカルログの出力チェックボックス。	--
ECS 入力ログ	ローカルログの入力チェックボックス。	--

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[パラメータ] タブ

新しい測定しきい値ポリシーの [パラメータ] タブには、VBScript または Perl のいずれかを使用する測定しきい値モニターポリシーのパラメータが表示されます。既存のパラメータ値をリセット/変更するときは、このページを使用します。モニタータイプ (VBScript または Perl) を選択するときに値が「最小」または「最大」に設定されている場合、[パラメータ] タブは生成されません。次の表は、[新しいポリシー] ページの [パラメータ] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシー: [パラメータ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
データタイプ	データタイプは、パラメータのタイプを示します。	--
名前	値をリセット/変更するパラメータの名前。	✓
キャプション	表示されるパラメータの機能に関する簡単な説明。	--
値	表示されるパラメータの現在の設定。新しい値をテキストボックスに入力できます。	--
デフォルト	表示されるパラメータのデフォルト設定。	✓
ノード情報	ノード情報を無効化	--
	ノード情報からパラメータ値を取得します。パラメータ名を使用。	--
	ノード情報からパラメータ値を取得します。カスタム名を使用: ¹	--
セッション	セッションを無効化。	--
	セッションのパラメータ値を格納。パラメータ名を使用。	--
	セッションのパラメータ値を格納。カスタム名を使用: ²	--

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)

¹このオプションが選択されている場合は、情報 (青のアスタリスク (*) でマーク) を要求する新しい情報ボックスが作成されます。

²このオプションが選択されている場合は、情報 (青のアスタリスク (*) でマーク) を要求する新しい情報ボックスが作成されます。

- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[定期タスク] タブ

新しいポリシー「定期タスク」の [定期タスク] タブには、VB スクリプト、Perl スクリプト、またはコマンドを使用する定期タスクポリシーのパラメータが表示されます。タスクの実行スケジュールを設定/変更するときは、このタブを使用します。たとえば、時間帯 (時間、分)、曜日などを指定できます。次の表は、新しいポリシー「定期タスク」の [定期タスク] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシー: [定期タスク] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

新しいポリシー: [定期タスク] タブ (続き)

スケジュール	<p>表示されるフィールドを使用して、タスク実行スケジュールの詳細情報を指定します。アスタリスク (*) などのワイルドカードは使用できないことに注意してください(すべての値と一致させるには、そのフィールドを空白のままにします)。ただし、コンマ(,)とハイフン(-)を使用して範囲を表すことは可能です。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>分: 0 ~ 59 の数値 毎正時の15分後にタスクを開始する場合は「15」と入力し、30分おきにタスクを開始する場合は「0,30」と入力します。毎正時後 10 ~ 20 分の間に1分おきにタスクを開始する場合は「10-20」と入力します。</p> <p>時間: 0 (深夜零時) ~ 23 の数値 (24 時間制) 正午にタスクを開始する場合は「12」と入力し、午前6時と午後6時にタスクを開始する場合は「06,18」と入力します。午後2時から午後6時まで1時間おきにタスクを開始する場合は「14-18」と入力します。</p> <p>日: 1 ~ 31 の数値 毎月1日を指定する場合は「1」、5日と15日を指定する場合は「5,15」、毎日を指定する場合は「1-31」と入力します。月の日数が28、29、または30であっても、「31」は月の最終日として解釈されます。このフィールドの設定と「曜日」の設定が重なった場合、定期アクションは2回開始されます。</p> <p>月: 1 ~ 12 の数値 4月と5月を指定する場合は「4,5」、6 ~ 8月を指定する場合は「6-8」と入力します。</p> <p>年: 定期タスクを実行する年 2009年の場合は「2009」と入力します。値は4桁で指定する必要があります。2009年を表すには、単に「09」とするのではなく、「2009」と入力する必要があります。</p> <p>曜日: 0 (日曜日) ~ 6 (土曜日) の数値 月曜日、火曜日、および水曜日を指定する場合は「1,2,3」、木曜日から土曜日までの毎日を指定する場合は「4-6」と入力します。この設定と「日」の設定が重なった場合、定期アクションは2回開始されます。</p>	--
タスク	<p>実行するタスクのタイプ(コマンド、VB スクリプト、Perl スクリプトなど)。ドロップダウンメニューから選択します。選択した項目により、追加の必須情報が決定されます。たとえば、「コマンド」を選択する場合、実行するコマンドと、そのコマンドの実行に使用されるユーザーアカウントのユーザー名を指定する必要があります。</p>	--
コマンド	<p>設定された周期で実行するコマンド。</p>	✓

新しいポリシー: [定期タスク] タブ (続き)

実行	コマンドの実行に資格情報が使用されるユーザー。デフォルトユーザーは「\$AGENT_USER」です。エージェント以外のユーザーとしてコマンドを実行する場合は、そのユーザーの認証資格情報を入力し、値 [ユーザーとして実行] を選択する必要があります。	✓
メッセージの送信	定期タスクの開始前、正常完了後、または実行失敗時にメッセージを送信するかどうかを示します。	--

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[サービス自動検出] タブ

新しいサービス自動検出ポリシーの [サービス自動検出] タブでは、サービスタイプ定義を含む管理モジュールを指定して、サービス検出プロセスで使用されるサービスタイプ定義を設定できます。設定するサービスタイプ定義を選択してください。表示されるサービスタイプ定義一覧から定義を特定し、表示されるテキストボックスを使って編集可能パラメータを入力/変更できます。次の表は、[新しいポリシー] ページの [サービス自動検出] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシー: [サービス自動検出] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
Custom Discovery	カスタムサービス自動検出の管理モジュール。	✓
SiteScope Integration	SiteScope 統合の管理モジュール。	✓

新しいポリシー: [サービス自動検出] タブ (続き)

Virtualization Infrastructure	仮想化インフラストラクチャの管理モジュール。	✓
Systems Infrastructure	システムインフラストラクチャの管理モジュール。	✓
HA Cluster Infrastructure	HA クラスタインフラストラクチャの管理モジュール。	✓

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーのタスクスケジュール](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス検出のスケジュール](#)

[スケジュール] タブ

サービス自動検出の [スケジュール] タブでは、サービス検出プロセスを実行する日時と頻度を指定できます。たとえば、頻度 (毎時、毎日、毎週、毎月、単独実行)、カスタム間隔 (エキスパートモードを使用)、時間帯 (時間、分)、曜日などを指定できます。[スケジュール] タブの内容は、選択項目によって変化します。たとえば、[毎日] オプションを選択すると、[時刻] テキストボックスが表示されます。このボックスでは、自動検出が行われる正確な時間と、再実行する場合の間隔 (再実行する場合) を設定できます。また、[エキスパートモード] を選択すると、自動サービス検出プロセスの実行日時と頻度をより詳細に定義できます。

新しいポリシー: [ポーリングスケジュール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
スケジュール	自動サービス検出プロセスを実行する間隔 (毎時、毎日、毎週など)。[エキスパートモード] を選択すると、詳細な制御が可能となり、検出プロセスを実行する正確な時刻と日付を指定できます。	--

新しいポリシー: [ポーリング スケジュール] タブ (続き)

時刻	サービス検出プロセスを実行する(または繰り返す)時刻を指定します。特定の時刻を指定する場合は、06:30 や 18:15 のように 24 時間制を使用します。複数の時刻を定義する場合は、表示されるチェックボックスを使用します。	✓
----	---	---

関連項目

- [メッセージポリシーのプロパティ](#)
- [メッセージポリシーのソース](#)
- [メッセージポリシーのデフォルト](#)
- [メッセージポリシーの条件](#)
- [メッセージポリシーのしきい値](#)
- [メッセージポリシーのオプション](#)
- [メッセージポリシーのプロセスモニター](#)
- [メッセージポリシーの内容](#)
- [サービス自動検出](#)

ポリシーグループの追加

[ポリシーグループの追加] ページには新しい HPOM ポリシーグループのパラメータが表示され、ポリシーグループを完全に定義できます。新しいポリシーグループの作成、および HPOM 環境へのポリシーの追加には、このページを使用します。次の表では、[ポリシーグループの追加] ページの [プロパティ] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいポリシーグループ: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいポリシーグループの名前です。名前は、HPOM の [メッセージ ソース ポリシー] ウィンドウのポリシー一覧に表示されます。	✓
詳細	作成中のポリシーグループの簡単な説明です。管理 UI に表示される説明を見ると、ポリシーがポリシーグループに生成するメッセージのタイプが分かります。	--
情報	テキストボックスを使用して、新しいポリシーグループについての追加情報を入力できます。	--
親グループ	作成中のポリシーグループを含むグループの名前です。	--

新しいポリシーグループを作成するには

新しいポリシーグループを作成して HPOM に追加するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[ポリシー グループの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。

プロパティ:

作成する新しいポリシーグループの情報が表示されます。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。

4. 新しいポリシーを設定したら、以下のボタンを使用してポリシーの詳細を保存または破棄します。

■ 保存

すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、新しいポリシーグループの定義が保存されます。

■ バックアップ

現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。

■ 復元

[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ポリシーグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

■ キャンセル

ポリシーグループに加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [新しいポリシー](#)
- [ポリシーグループの編集](#)

新しいカテゴリ

[カテゴリの追加] ページに表示されるパラメータを使用すると、新しいHPOM ポリシーおよびノードのカテゴリを定義できます。[カテゴリの追加] ページで新しいカテゴリを作成し、HPOM 環境に追加することで、たとえば、新しいカテゴリをポリシーやノードに関連付けることができます。次の表は、[カテゴリの追加] ページの[プロパティ] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

カテゴリの追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいカテゴリの名前です。ラベル定義が指定されていない場合は、この名前がHPOM 管理 UI で使用されます。入力する名前には、疑問符 (?)、アスタリスク (*)、スラッシュ (/) は使用できません。これは、[カテゴリディレクトリの作成] がチェックされている場合、ここに入力するカテゴリ名は新しいカテゴリに対するインストルメンテーションを保持するために作成される新しいディレクトリの名前として使用されるためです。	✓
詳細	新しいカテゴリの簡単な説明です。このカテゴリが所属するポリシーまたはノードのタイプが分かります。	--
カテゴリディレクトリの作成	新しいカテゴリに対して新しいディレクトリを作成する場合はチェックを入れます。ディレクトリは、HP Operations 管理サーバーの以下の場所に作成されます。 /var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/instrumentation/.ディレクトリの名前は、[名前] フィールドに入力するカテゴリの名前と同じになります。ファイルおよびディレクトリ名の制限についての詳細は、上記の「Name」の内容を参照してください。	--

新しいカテゴリを作成するには

新しいカテゴリを作成してHPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[カテゴリの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
[プロパティ] タブには、新しいカテゴリがユーザーインターフェースに表示される際の表示方法に関する詳細が表示されます。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいカテゴリの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に

赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいカテゴリの定義が保存されます。

- **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
- **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、カテゴリ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
- **キャンセル**
新しいカテゴリに関して入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [すべてのカテゴリの一覧表示](#)
- [新しいポリシーの追加](#)
- [新しいポリシーグループの追加](#)

ツールの追加

[ツールの追加] ページには、新しい HPOM ツールのパラメータが表示され、ツールを完全に定義できます。新しいツールの作成、および HPOM 環境へのツールの追加には、このページを使用します。ツールを定義するときは、各種プロパティタブのフィールドに情報を入力します。情報の入力が必要なタブの数と種類は、作成するツールのタイプによって異なります。次の表は、ツールタイプごとに必要とされる情報の概要を示しています。

ツールの追加: [設定] タブ

ポリシータイプ	プロパティ	内部ツール	OM ツール
内部ツール	✓	✓	--
OM ツール	✓	--	✓

ツールを作成/編集するには

新しいツールを作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[ツールの追加]** をクリックします。

3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。表示されるタブは、追加するツールのタイプによって異なります。
 - **ツールのプロパティ:**
新しいツールがユーザーインターフェースにどのように表示されるかについて、詳細情報を指定する必要があります。
 - **内部ツール:**
名前、実行プラットフォーム、実行ユーザーの名前/パスワードなど、内部ツールに関する詳細情報を指定する必要があります。
 - **OM ツール:**
起動する新しいコマンド/ツールと実行場所に関する詳細情報を指定する必要があります。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいツールの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいツールの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ツール設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいツールに関して入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [ツールの \[プロパティ\] タブ](#)
- [\[内部ツール\] タブ](#)
- [\[OM ツール\] タブ](#)

ツールの [プロパティ] タブ

任意のタイプのツールを新規に作成したり、既存のツールを編集するときは、まず、[プロパティ] タブに情報を入力する必要があります。その後、追加/編集するツールのタイプに応じて、その他のタブ ([内部ツール] タブ、[OM ツール] タブなど) に追加情報を入力します。

次の表は、ツールの [プロパティ] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。管理 UI 内の青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいツール: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ツール名	新たに作成するツールの名前。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。	✓
ラベル	新たに作成するツールのラベル。ユーザーインターフェースに表示されるのは、このラベルです。	--
詳細	新しいツールに関する簡単な説明。これは、新しいユーザーがツールの機能を確認する上で役立ちます。	✓
ツールタイプ	追加するツールのタイプ (内部ツール、OM ツールなど)。ドロップダウンメニューから選択します。どのタイプのツールを選択するかで、追加で表示されるプロパティタブが決まります。既存のツールを変更するときに、ツールのタイプを変更することはできません。編集モードでは、このフィールドはアクティブ化されません。	✓
親グループ	新しいツールが属すツールグループの名前。	--

関連項目

- [\[内部ツール\] タブ](#)
- [\[OM ツール\] タブ](#)
- [ツールの作成/編集](#)

[OM ツール] タブ

HPOM ツールは、HPOM の登録ツールにシンボルとして表示されるか、ツールグループシンボルの下の階層の一部として表示されます。

HPOM ツールを新規に作成するか、既存の HPOM ツールを編集するときは、[プロパティ] タブの他に、[OM ツール] または [内部ツール] のどちらかのタブにも情報を入力する必要があります。次の表は、[OM ツール] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。管理 UI 内の青いアスタリスク(*) が表示されている部分は、入力が必須となるフィールドを表しています。

新しいツール: [OM ツール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ツール呼び出し	新しいツールの起動時に実行するコマンド呼び出し。	✓
パラメータ	[ツール呼び出し] フィールドに指定したコマンドのパラメータとオプション (例、\$OPC_NODES)。	--
起動	新しいツールを実行する場所 (管理サーバー、管理対象ノードなど)。ドロップダウンメニューを使って指定します。	✓

新しいツール: [OM ツール] タブ (続き)

表示	ドロップダウンメニューを使用して、実行中のツールについて表示する情報と表示場所を指定します。たとえば、ウィンドウ(出力のみ)を指定すると、コマンド出力のみを専用ウィンドウに表示するように設定できます。	✓
ユーザー名	新しいツールの実行に使用されるユーザーの名前。	✓
パスワード	[ユーザー名] フィールドに指定したユーザーのパスワード(パスワードが必要な場合)を指定します。	--

関連項目

- [ツールの \[プロパティ\] タブ](#)
- [ツールの作成/編集](#)

[内部ツール] タブ

内部ツールとは、ブロードキャストなどのアプリケーションのことです。新しい内部ツールを作成する、または既存の内部ツールを編集するときは、ツールの [プロパティ] タブ、および [内部ツール] タブに情報を入力する必要があります。次の表は、[内部ツール] タブの各フィールドに入力する情報について説明しています。管理 UI 内の青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいツール: [内部ツール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
内部ツールタイプ	このフィールドは非アクティブであり、変更できません。デフォルトの値は [ブロードキャスト] です。	✓
ユーザー	UNIX プラットフォームのログオンまたは MS プラットフォームのログオンで内部ツールを起動するユーザーの名前を指定します。	--
パスワード	[ユーザー] フィールドに指定したユーザーのパスワードを指定します。	--

関連項目

- [ツールの \[プロパティ\] タブ](#)
- [ツールの作成/編集](#)

ツールグループの追加

[ツールグループの追加] ページには、新しいツールグループのパラメータが表示され、ツールグループを迅速かつ完全に定義できます。新しいツールグループの作成、および HPOM 環境へのツールグループの追加には、このページを使用します。次の表は、[ツールグループの追加] ページの [プロパティ] タブ

ブの各フィールドに入力する情報について説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ツールグループの追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいツールグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。	✓
ラベル	作成する新しいツールグループの名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	--
詳細	ツールグループの簡単な説明です。ツールグループに含まれるツール(またはツールグループ)のタイプが分かります。	--
情報	テキストボックスを使用して、新しいツールグループについての追加情報を入力できます。	--
親グループ	変更中のツールグループを含むツールグループの名前です。	--

新しいツールグループを作成するには

新しいツールグループを作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[ツールグループの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
プロパティ:
ユーザーインターフェースでの新しいツールグループの表示方法に関する詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいツールグループの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力がチェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいツールグループの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます(作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ツールグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧

表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- **キャンセル**
新しいツールグループに関して入力した詳細が破棄されます。

ユーザーの追加/編集

[ユーザーの追加]/[ユーザーの編集] ページには、新しい HPOM ユーザーのパラメータが表示されます。このページでは、新しいユーザーを迅速かつ完全に定義できます。HPOM ユーザーには、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するオペレータ、管理者、ポリシー管理者などが含まれます。[ユーザーの追加] ページを使用すれば、新しい HPOM オペレータを作成し、HPOM 環境に追加できます。

ユーザーを作成または変更するには

新しいユーザーを作成し (または既存のユーザーを変更し)、設定を HPOM に適用するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[ユーザーの追加]** をクリックして新しいユーザーを作成するか、**[参照]** メニューから **[すべてのユーザー]** を選択します。変更するユーザーを一覧から選択し、アクションメニューから **[編集...]** を選択します。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ:**
ユーザー名とパスワードに関する詳細を定義します。
 - **オペレータ:**
追加/変更する HPOM ユーザーの権限 (実行できるアクション、メッセージの所有、メッセージ属性の変更など) に関する詳細を定義します。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザーの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力がチェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ユーザー設定のバックアップバージョンを呼び戻す

ことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

■ キャンセル

新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [新しいユーザープロファイルの追加](#)
- [新しいメッセージグループの追加](#)

[オペレータ] タブ

[ユーザーの追加] の [オペレータ] タブでは、新規または既存の HPOM オペレータの権限を定義できます。たとえば、メッセージの所有および受諾、メッセージに関連付けられているアクションの実行をオペレータに許可するかどうかを指定します。以下の表では、[新しいユーザー] の [オペレータ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。HP Operations Manager で青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいユーザー: [オペレータ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
アクションの実行/停止	メッセージに関連付けられたオペレータ起動アクションの起動/停止をユーザーに許可する場合に有効にします。	--
メッセージ属性の変更	メッセージ属性 (例、重要度レベル、メッセージが所属するメッセージグループ) の変更をユーザーに許可する場合に有効にします。	--
所有	メッセージの所有/所有解除をユーザーに許可する場合に有効にします。メッセージの所有者はメッセージが関係する障害の解決を担当します。	--
メッセージの受諾/受諾解除	メッセージの受諾および受諾解除をユーザーに許可する場合に有効にします。受諾メッセージは履歴メッセージブラウザに移動しますが、定義済みスケジュールに従ってファイルにダウンロードするよう設定することもできます。メッセージの受諾解除を実行すると、メッセージがアクティブなメッセージブラウザに戻されます。このメッセージは再所有可能です。	--
ノード階層	[...] ボタンを使用して、追加または変更するユーザーのノード階層を選択します。ノード階層には、新しい (または変更した) ユーザーが担当するノードおよびノードグループが含まれます。	✓

新しいユーザーを作成するには

新しいユーザーを作成して HPOM に追加するには、以下の手順を実行します。

1. 新しいユーザーの追加: HPOM の **[編集]** メニューで **[ユーザーの追加]** をクリックします。
既存のユーザーの変更: HPOM の **[参照]** メニューで **[すべてのユーザー]** をクリックし、変更するユーザーを探します。次に、アクションメニューの **[編集...]** をクリックして **[ユーザーの編集]** ページを開きます。
2. **[オペレータ]** タブのフィールドに情報を入力します。このタブのフィールドについては、上の表を参照してください。
3. 以下のボタンを使用すると、ユーザーの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ユーザー設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [ユーザーの \[プロパティ\] タブ](#)
- [新しいユーザープロファイルの追加](#)
- [新しいメッセージグループの追加](#)

[プロパティ] タブ

新しいユーザーの **[プロパティ]** タブには、新しい HPOM オペレータの一般パラメータが表示されます。HPOM ユーザーには、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するオペレータ、管理者、ポリシー管理者などが含まれます。新しいユーザーの名前とパスワードを定義するときは、**[プロパティ]** タブを使用します。以下の表では、**[ユーザーの追加]** の **[プロパティ]** タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいユーザー: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

新しいユーザー: [プロパティ] タブ (続き)

ユーザー名	作成する新しいユーザーの名前です。たとえば、標準のHPOM オペレータであれば「opc_op」、HPOM Smart Plug-inを担当するオペレータであれば「spi_op」となります。[ラベル]フィールドにラベルが定義されていない場合は、[ユーザー]の[名前]フィールドに入力した名前が管理UIで使用されます。	✓
情報	作成する新しいユーザーについて、さらに役に立つデータが表示されます。ユーザーの一般的な概要には表示されません。	--
ラベル	新たに作成するユーザーに割り当てるラベルです。ユーザーインターフェースに表示されるのは、このラベルです。	--
実際の名前	新たに作成するユーザーの名前です。[ラベル]フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理UIにはこの名前が表示されます。	--
パスワード/パスワードの確認	新たに作成するユーザーのパスワードを指定します。	✓
詳細	新しいユーザーの簡単な説明です。HPOM 管理者が、そのユーザーのタイプを確認する上で役立ちます。	--

ユーザープロパティを追加または変更するには

新しいユーザープロパティを追加し(または既存のユーザープロパティを変更し)、設定をHPOMに適用するには、以下の手順を実行します。

- 新しいユーザーの追加: **[編集]** メニューで **[ユーザーの追加]** をクリックします。
既存のユーザーの変更: **[参照]** メニューで **[すべてのユーザー]** をクリックし、変更するユーザーを探します。次に、アクションメニューの **[編集...]** をクリックして **[ユーザーの編集]** ページを開きます。
- [プロパティ] タブのフィールドに情報を入力します。このタブのフィールドについては、上の表を参照してください。
- 以下のボタンを使用すると、ユーザーの詳細を保存または破棄できます。
 - 保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - 復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている

場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ユーザー設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- **キャンセル**
新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [ユーザーの \[オペレータ\] タブ](#)
- [新しいユーザープロファイルの追加](#)
- [新しいメッセージグループの追加](#)

ユーザー プロファイルの追加

[ユーザー プロファイルの追加] ページには、新しい HPOM ユーザープロファイルのパラメータが表示されます。このページでは、新しいユーザープロファイルを迅速かつ完全に定義できます。HPOM ユーザープロファイルは、HP Operations 管理サーバーに追加する新しい HPOM ユーザー (オペレータおよび管理者など) に適用できます。[新しいユーザー プロファイル] ページを使用すれば、新しい HPOM ユーザープロファイルを作成し、HPOM 環境に追加できます。以下の表では、[新しいユーザー プロファイル] の [プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。HP Operations Manager で青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

[新しいユーザー プロファイル]: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
プロファイル名	作成する新しいユーザープロファイルの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。	✓
情報	作成する新しいユーザープロファイルについて、さらに役に立つデータが表示されます。ユーザープロファイルの一般的な概要には表示されません。	--
ラベル	作成する新しいユーザープロファイルに適用する名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	--
詳細	新しいユーザープロファイルの簡単な説明です。これにより、プロファイルを適用するユーザーのタイプを HPOM 管理者が確認できます。	--

新しいユーザープロファイルを作成するには

新しいユーザープロファイルを作成して HPOM に追加するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。

2. **[編集]** メニューで **[ユーザー プロファイルの追加]** をクリックします。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザープロフィールの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザープロフィールの新しい定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ユーザープロフィールのバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいユーザープロフィールについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [新しいユーザープロフィールの追加](#)
- [新しいメッセージグループの追加](#)

グループ替え条件の追加

[グループ替え条件の追加] ページに表示されるパラメータを使用すると、メッセージが所属するメッセージグループを変更できます。メッセージを HPOM により統合、フィルターした後、一致するメッセージを管理サーバー上の新しいメッセージグループ (例、オペレータの作業および担当に特化した新しくカスタマイズされたメッセージグループ) に移動するよう指定します。メッセージのグループ替えを実行すれば、メッセージソースポリシー自体を個別に変更したり、あるメッセージグループから別のグループにメッセージを移動させるポリシーを再配布する必要はありません。新しいメッセージグループを作成し、管理サーバーがメッセージを受信した後にそのメッセージを新しいグループに移動します。以下の表では、[グループ替え条件の追加] ページのフィールドに入力する情報を説明しています。HP Operations Manager で青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

[グループ替え条件の追加] ページ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

[グループ替え条件の追加] ページ (続き)

詳細	グループ替え条件の簡単で有益な説明です。グループ替え条件の内容を理解できるテキストを入力します。	✓
一致条件	<p>一致するメッセージを別のメッセージグループに転送させるためのメッセージ詳細を指定します (例、メッセージの重要度、メッセージを生成したノード名またはアプリケーション名、元のメッセージが所属するメッセージグループ、メッセージおよびメッセージテキストに関連付けられている HPOM オブジェクト)。メッセージテキストの全部または一部を指定したり、パターンマッチを使用してメッセージテキストの解釈方法を指定することもできます。また、複数の重要度を指定できます (危険域または重要警戒域または警戒域)。ただし、メッセージの重要度に加えて (さらに詳細に設定するために) 他のフィールドに入力した値を解釈させる場合、以下のように指定します。</p> <p>Severity="Critical" "Major", Node="Nodename", Application="Oracle", Message Text="Tablespace"</p> <p>重要度が危険域または重要警戒域で、かつノード「Nodename」から発信され、かつ Oracle で生成され、かつメッセージテキストに単語「Tablespace」を含むすべてのメッセージを、[新しいメッセージグループ] フィールドに指定したメッセージグループに移動します。</p>	--
パターン マッチング	<p>メッセージテキストフィールドのテキストのブロックを区別するのに使用する文字を指定します。コンマ(,)、セミコロン(;)、文字 (a、B) など、任意の文字を使用できます。空白文字もフィールドセパレータとして解釈されますので、特別に指定する以外は、選択した文字の前後にスペースが含まれていないことを確認してください。セミコロン (;) を使用して一覧内のフィールドを区切る場合は、セミコロンを [フィールド セパレータ] フィールドに入力し、セミコロンの前後にスペースを入れないように注意します。フィールドセパレータとして文字を指定する場合 (例、abc、ABC)、大文字と小文字を区別するオプションを有効にして、グループ替え条件で小文字と大文字を区別するよう指定します。たとえば、フィールドセパレータとして文字「a」を入力して大文字と小文字を区別するオプションを有効にすると、大文字 A はフィールドセパレータとして認識されません。</p>	--
新しいメッセージグループ	メッセージがグループ替え条件に一致した場合に、メッセージを移動させる新しいメッセージグループの名前を入力します。	✓
新しいサービス名	メッセージがグループ替え条件に一致した場合に、メッセージを関連付ける新しいサービスの名前を入力します。	--

新しいグループ替え条件を作成するには

新しいグループ替え条件を作成して HPOM に追加するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]**メニューで**[グループ替え条件の追加]**をクリックします。
3. 表示されたフィールドに情報を入力します。それぞれのフィールドで必須、予想、許可される情報に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいグループ替え条件の詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しいメッセージのグループ替え条件が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、**「すべての復元ポイント (バックアップ) の一覧表示」**を参照してください。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、作成したグループ替え条件設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、**「すべての復元ポイント (バックアップ) の一覧表示」**を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいグループ替え条件に関して入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [新しいメッセージグループの追加](#)
- [メッセージグループの詳細の表示](#)

指示文インタフェースの追加

[指示文インタフェースの追加] ページには、メッセージ条件との一致によってメッセージが生成される場合に、Web ブラウザなどの外部アプリケーションを通じて HPOM ユーザーに指示文を伝えるよう設定する際に必要なパラメータが表示されます。問題の解決に役立つ指示文を HPOM オペレータに表示する、外部アプリケーションの呼び出しを作成するときは、このページを使用します。以下の表では、[新しい指示文インタフェース] ページの [プロパティ] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

指示文インタフェースの追加: [設定] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

指示文 インタフェースの追加: [設定] タブ (続き)

名前	指示文 インタフェース呼び出しの一意の名前です。	必須
詳細	指示文 インタフェース呼び出しの簡単な説明です。	--
呼び出し	HPOM ユーザーに指示文を表示するアプリケーションを起動するコマンドです。コマンドは、[起動] フィールドに指定した管理対象ノード上で、[ユーザーとして実行] フィールドに指定したユーザーのコンテキストで実行されます。また、そのコマンドへの絶対パス、またはデフォルト HPOM アプリケーションディレクトリからの相対パスも指定する必要があります。	✓
ユーザーとして実行	指示文表示アプリケーションを実行するユーザーです。	✓
出力モード	(出力専用): 指示文 インタフェース呼び出しによって起動されるアプリケーションの出力先が stdout である場合は、このオプションを選択します。指示文は、シンプルなウィンドウに表示されます。 ウィンドウなし (X アプリケーション): アプリケーションが指示文の表示用に独自の出力ウィンドウを表示できる場合は、このオプションを選択します。	✓
トラブルチケット インタフェースまたは通知 インタフェースにメッセージを転送するとき	指示文を無視: 指示文 インタフェース呼び出しによって起動されたアプリケーションが X ウィンドウを必要とする場合、またはメッセージ内の変数の解決に長時間かかる場合は、このオプションを選択します。 指示文を解決: 指示文 インタフェースからの指示文を通知サービスとトラブルチケット インタフェースに使用させる場合は、このオプションを選択します。この場合、メッセージを表示する上で、変数の解決が必要になることがあります。	--
起動先	指示文表示アプリケーションを起動する場所として、HP Operations 管理サーバー、または HP Operations Agent が稼働中の管理対象ノードのいずれかを選択します。	✓

新しい指示文を作成するには

新しい指示文を作成し、HPOM ユーザーが利用できるようにするには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで、**[指示文 インタフェースの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
設定:
指示文表示アプリケーションの詳細情報、アプリケーションの起動場所、指示文の表示方法

を示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。

4. 以下のボタンを使用すると、指示文の詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、新しい指示文の定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、指示文インタフェース設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しい指示文について入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [新しい通知サービス](#)
- [すべての指示文インタフェースの一覧表示](#)

通知サービスの追加

[通知設定] ページでは、電子メール、またはショートメッセージサービス (SMS) などの外部通知サービスを利用して、HPOM オペレータに重要なイベントを通知するよう指定できます。さまざまな通知サービスを異なる時刻にスケジュールすることができます (例、日中は SMS、夜間はポケットベル)。以下の表では、[通知設定] の [通知サービス] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

通知設定: [通知サービス] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	使用する通知サービスの名前です。	必須
呼び出し	通知サービスを起動するのに使用するコマンドです。	必須

以下の表では、[通知スケジュール] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。通知スケジュールはオプションです。

通知設定: [通知スケジュール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
日	ドロップダウンメニューを使用し、通知 サービスを開始する日を選択します。通知 サービスには複数のスケジュールを設定できます。ドロップダウンメニューの横にあるアイコンをクリックすると、追加のスケジュールを一覧に追加したり、一覧から削除できます。	オプション
開始時刻	通知スケジュールを開始する時刻です。複数の開始時刻を設定できます。	オプション
終了時刻	通知スケジュールを終了する時刻です。複数の終了時刻を設定できます。	オプション

新しい通知サービスを定義するには

新しい通知サービスを定義するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[通知サービスの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **通知サービス**
重要なイベントをHPOM のオペレータに通知するために使用する外部通知サービスの詳細と、その通知サービスを開始する方法およびタイミングを表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
 - **通知スケジュール**
通知サービスを使用するタイミングおよび頻度についての詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、通知サービスの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、通知サービスの定義が保存されます。
 - **キャンセル**
通知サービスについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [既存の通知サービスの編集](#)
- [既知の通知サービスを追加の一覧表示](#)

トラブルチケット インタフェースの編集

[トラブル チケット インタフェースの編集] ページでは、HPOM でトラブルチケット インタフェースを使用するように設定できます。トラブルチケット インタフェースの起動/停止、およびシステムコールの定義は、このページで行います。インタフェースを起動するのに使用するシェルスクリプトの最初の行には、文「#!/usr/bin/sh」を含める必要があります。この文がないと、スクリプトまたはプログラムが失敗します。次の表では、[設定] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

トラブルチケットインタフェース: [設定] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
トラブルチケットシステムを使用	このチェックボックスで、トラブルチケットシステムインタフェースを有効または無効にすることができます。	✓
トラブルチケットの呼び出し	トラブルチケット インタフェースの起動に使用するコマンドのフルパスおよび名前を入力します。ここに指定するコマンドパラメータは、トラブルチケットで設定したすべてのメッセージに対して呼び出されます。HPOM は自身のメッセージパラメータを外部インタフェースに送信します。追加パラメータを必要とするコマンドは使用できない場合があります。	✓

トラブルチケットインタフェースを設定するには

トラブルチケットインタフェースを設定するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [編集] メニューで [トラブル チケット インタフェースの編集] をクリックします。
3. [設定] タブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **トラブル チケット システムを使用**
トラブルチケットシステムを有効または無効にします。
 - **トラブルチケットの呼び出し**
トラブルチケットシステムまたはスクリプトの名前です。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンで、トラブルチケットインタフェースの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたトラブルチケットインタフェースの定義を保存します。
 - **キャンセル**
トラブルチケットインタフェースに加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [管理サーバー設定の編集](#)
- [データベース保守設定の編集](#)

管理サーバー設定の編集

[管理サーバー設定の編集] ページを使用して HP Operations 管理サーバーを設定します。外部メッセージストリームインタフェースを定義するか、グローバルオプションを設定できます。次の表では、[サーバー設定] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

管理サーバー設定の編集: [サーバー設定] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
重複メッセージを注釈に追加	除外された重複メッセージに注釈を追加します。注釈は、他のメッセージの重複対象となる最初のメッセージに追加されます。注釈はトラブルシューティング目的に使用できます。	--
有効	起動メッセージを有効または無効にできます。有効にすると、表示されるテキストボックスに新しい起動メッセージテキストを指定できます。	--
自動アクション	外部アプリケーションでの、メッセージストリームインタフェースを用いた HPOM の自動アクションの定義を有効にする場合は、このオプションをチェックします。	--
出力可能	管理サーバー上の外部メッセージストリームインタフェース (MSI) のインスタンスへの出力を有効/無効にします。	--
オペレータ起動アクション	外部アプリケーションでの、メッセージストリームインタフェースを用いた HPOM のオペレータ起動アクションの定義を有効にする場合は、このオプションをチェックします。	--
同時配布	ドロップダウンメニューを使用して、配布マネージャが同時に処理できる管理対象ノードの最大数を設定します。	✓
サーバー MSI にすべてのメッセージを送信	すべてのメッセージをメッセージブラウザよりも前に MSI に送信する場合にはこのオプションをチェックします。このオプションを有効にする場合は、[送信モード] フィールドに値を設定します。	--

管理サーバー設定の編集: [サーバー設定] タブ (続き)

送信モード	ド롭ダウンメニューを使用して、MSI 経由のメッセージの転用方法を選択します。 メッセージの転用: 標準 HPOM メッセージパスからメッセージストリームインタフェースにメッセージを転用します。その後外部アプリケーションによってメッセージが修正され、メッセージマネージャに送信される場合があります。 メッセージのコピー: メッセージストリームインタフェースにメッセージのコピーを送信します。元のメッセージは直接メッセージブラウザに移動します。	✓
重複メッセージの除外とカウント	HP Operations 管理サーバー上の重複メッセージを除外します。重複メッセージとは、完全に一致するメッセージキーを持つメッセージのことです。	--

HP Operations 管理サーバーの設定を編集するには

HP Operations 管理サーバーの設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[管理サーバー設定の編集]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
サーバー設定
メッセージストリームインタフェースの使用、一部のグローバルオプションなどの、設定可能な管理サーバー要素の詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、管理サーバーの設定の詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更された管理サーバーの設定が保存されます。
 - **キャンセル**
すべての変更を破棄します。

関連項目

- [トラブルチケットインタフェースの編集](#)
- [データベース保守設定の編集](#)

DB 保守設定の編集

[DB 保守設定の編集] ページを使用して HPOM メッセージの格納と保守の管理を行います。たとえば、メッセージブラウザに警告メッセージが送信されるまでに HPOM がデータベースに保持するアクティブ、ペンディング、履歴メッセージの最大数を指定できます。次の表では、[データベースの設定] タブ

の各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

データベースの設定の編集: [データベース保守] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
アクティブおよびペンディングメッセージ: メッセージの送信	アクティブおよびペンディングメッセージの数が指定した限度を超えたら、メッセージを送信します。	必須
履歴ログ: メッセージの送信	履歴メッセージの数が指定した限度を超えたら、メッセージを送信します。	必須
履歴ログ: ダウンロード	このオプションをチェックすると、指定したスケジュールに従って、指定した年数を経過した受諾メッセージを指定のファイルにダウンロードします。このオプションを有効にするとダウンロード設定フィールドが表示されますので、ダウンロードされたメッセージの格納場所を[ディレクトリへ]フィールドに指定します。また、操作が完了したことを通知する機能を指定することもできます。	オプション

HPOM データベースの設定を編集するには

HPOM データベースの設定を定義または編集するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOMアイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]**メニューで**[DB 保守設定の編集]**をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
データベース保守
HPOM ユーザーに対して各メッセージデータベースがいつばいになったことを知らせるタイミング、また保存されたメッセージのダウンロード日時と場所に関する詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、データベースの設定の詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力がチェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符(!)が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたデータベースの設定が保存されます。
 - **キャンセル**
データベースの設定に加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [トラブルチケットインタフェースの編集](#)
- [管理サーバー設定の編集](#)

レポートの追加

[レポートの追加] ページに表示されるパラメータを使用すると、管理中の HPOM 環境用に生成する新しいレポートの範囲や内容を定義できます (例、メッセージグループや管理対象ノードに関する簡単な、または詳細なレポート)。HPOM レポートでは、管理対象ノードへのポリシーの配布や、ユーザーロールへのツールおよびメッセージグループの割り当てなどの情報を可視化できます。[レポートの追加] ページを使用し、新しいレポートを作成して、HPOM for UNIX 環境ですでに使用可能なレポートの一覧に追加します。以下の表では、[レポートの追加] の [プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。HP Operations Manager で青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

レポート定義の追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
レポート名	定義および生成する新しいレポートの名前です。名前は HPOM 管理 UI で使用されます。	✓
詳細	作成中のレポート定義で生成される新しいレポートの簡単で分かりやすい説明です。	--
実行ユーザー	新しいレポートを生成するアカウントを所有する HPOM ユーザーの名前です (例、管理者、オペレータ)。	✓
レポート実行タイプ	レポートを、HPOM により内部で生成するか (内部レポート)、外部プログラムで生成するか (プログラム) を指定します。レポート実行タイプに「プログラム」を選択した場合は、新しいレポートを生成するのに使用するプログラムを [プログラム] フィールドに指定し、[パラメータ] フィールドには指定したプログラムで呼び出される追加のパラメータを指定します。	✓
プログラム	新しいレポートの生成に使用する外部プログラムの名前です。プログラムが、システム PATH ではなく標準以外の場所にある場合は、次のようにプログラムにパスを含める必要があります。/opt/command	-- ✓
パラメータ	内部レポート (内部レポート) の範囲および内容を定義するのに使用するパラメータです。外部生成レポートの場合は、[プログラム] フィールドで指定したプログラムを変更するパラメータです。たとえば内部レポートの場合、「DETAILED, \$message_active」と指定すると、選択した管理サーバー上の現在アクティブなすべてのメッセージを対象とする詳細なレポートが定義されます。/bin/cat などの外部プログラムを使用してレポートにファイルを読み込む場合、読み込まれるファイル名がパラメータカラムに次のように表示されます。/var/opt/OV/log/System.txt	-- ✓

新しいレポート定義を作成するには

新しいレポート定義を作成して HPOM に追加するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[編集]** メニューで **[レポートの追加]** をクリックします。
3. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
[プロパティ] タブにレポート定義の詳細が表示されます。レポート定義によって新しいレポートの範囲と内容、さらに新しいレポートの作成方法が定義されます。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、新しいメッセージグループの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、レポートの新しい定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、レポート定義のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいレポート定義について入力した詳細が破棄されます。

関連項目

- [すべてのレポートの一覧表示](#)
- [レポート詳細の表示](#)
- [サーバー設定メニューオプションの一覧表示](#)

[参照] メニュー

メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、管理 UI の起動時に設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、[参照] メニューには以下の設定オプションが表示されます。

HPOM メニュー: 参照オプション

メニューオプション	説明
-----------	----

HPOM メニュー: 参照オプション (続き)

登録ノード	[ノードの階層 "HPOM 登録ノード" の要素] ページを開くと、HPOM 登録ノードの内容が表示されます。ここでは、登録ノードが階層構造で表され、ノードレイアウトグループやノードも含まれます。HPOM 登録ノードには、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーが管理するすべての管理対象ノードが含まれます。
登録ポリシー	[登録ポリシー] ページを開くと、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上で使用可能なすべてのポリシーとポリシーグループの一覧が表示されます。ポリシーの数が多数になる場合、一覧を作成するのに多少時間がかかる場合があります。
登録ツール	OM 登録ツールの内容を表示する [登録ツール] ページが開きます。OM 登録ツールには、サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上の HPOM ユーザーが使用できるすべてのツールが含まれています。
すべてのノード	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上の HPOM ユーザーに割り当て可能なすべての管理対象ノードが (階層状の表示ではなく) 一覧表示されます。
すべてのノードグループ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上の HPOM ユーザーに割り当て可能なすべての管理対象ノードグループが一覧表示されます。
すべてのノード階層	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上にあるすべての管理対象ノード階層が一覧表示されます。ノード階層は、HPOM 内のノードおよびノードグループの最上位のグループです。たとえば、登録ノードはデフォルトの HPOM ノード階層として HPOM 登録ノード階層に含まれます。
すべてのレイアウトグループ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上で使用可能なすべての管理対象ノードレイアウトグループが一覧表示されます。ノードレイアウトグループの階層を折りたためば、表示されるノードの数を、ノードレイアウトグループが存在する特定のレベルまたは階層の数に制限できます。レイアウトグループを使用することで、多数の管理対象ノードをより管理しやすいグループに分類できます。
すべてのノードデフォルト	さまざまなタイプの管理対象ノードのすべてのデフォルト設定を表示します。マシンのタイプ (Itanium 64/32、Sun SPARC)、通信タイプ (HTTPS)、オペレーティングシステムのタイプ (HP-UX、AIX、Solaris、Linux) などの情報も含まれます。
すべてのメッセージグループ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上の HPOM ユーザーに割り当て可能なすべてのメッセージグループが一覧表示されます。メッセージグループを使用すると、タイプの類似するメッセージの論理セットを定義し、メッセージの対象となる技術分野を担当するユーザーに割り当てることができます。
すべてのポリシー	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーが管理するノードに割り当て可能なすべてのポリシーが一覧表示されます。

HPOM メニュー: 参照オプション (続き)

すべてのポリシーグループ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーが管理するノードに割り当て可能なすべてのポリシーグループが一覧表示されます。
すべてのポリシー割り当て	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーが管理するノードへのすべての割り当て (ノード、ノードグループ、メッセージグループなど) が一覧表示されます。
すべてのカテゴリ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーが管理するノードに割り当て可能なすべてのカテゴリが一覧表示されます。カテゴリは、インストールメンテーション、ノード、ユーザープロファイルに関連付け可能なポリシーの論理区分であり、ポリシーを関連付ける際に対応するインストールメンテーションを同時に配布できます。
すべてのポリシータイプ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーで使用可能なすべてのポリシータイプが一覧表示されます。
すべての Smart Plug-in	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバー上のすべての Smart Plug-in 設定が一覧表示されます。
すべてのツール	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するユーザーに割り当て可能なすべてのツールが一覧表示されます。
すべてのツールグループ	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するユーザーに割り当て可能なすべてのツールグループが一覧表示されます。
すべてのユーザー	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するデフォルトおよび定義済みのすべてのユーザー (オペレータ、管理者、ポリシー管理者など) が一覧表示されます。
すべてのユーザープロファイル	サーバーリストから選択した HP Operations 管理サーバーの管理対象ノードを担当するユーザーの設定に使用する、デフォルトおよび定義済みのすべてのユーザープロファイルが一覧表示されます。
管理ノード インストールメンテーション	/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/ の下にあるすべてのファイルおよびディレクトリ (カスタム、インストールメンテーション、ベンダーツリー) を参照できます。管理 UI の Web インタフェースを使用すると、ファイルをアップロード、編集、削除できます。
ダウンロード	HP Operations 管理サーバーにダウンロード済みのファイルおよびパッケージが一覧表示されます。
ショッピングカート	[サーバーのショッピングカート] ページを開くと、将来使用するために保存しておいたオブジェクトのスナップショットが表示されます。たとえば、ショッピングカートを使用すれば、設定ダウンロード定義を保存しておいて、保存したすべての設定を一度にダウンロードできます。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理 サーバー設定 メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理 サーバーメニュー](#)

すべてのノードの一覧表示

[すべてのノード] ページには、HPOM 管理 サーバーに属すノードが一覧表示されます。[すべてのノード] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、管理対象ノードの一覧を昇順/降順に並べ替えることができます。アクションボタン (🔍) をクリックすると、一覧に含まれるノードに対して実行できるアクションが一覧表示されます。参照ボタン (🔗) をクリックすると、表示できるノード設定詳細が一覧表示されます。

管理対象ノードの一覧をフィルター処理して表示数を減らすには、一覧の上部にある[フィルタ]リンクをクリックし、フィールドとドロップダウンメニューを使ってフィルター条件を定義します。名前、タイプ、ラベルなどの多様な条件に基づいてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。また、[解析]メニューのオプションを使用することで、ユーザーに割り当てられていないノードのみを表示したり、HPOM ポリシーが配布されていないノードのみを表示することもできます。管理対象ノードの一覧にフィルターを適用する場合、表示とアクション実行のための一部のデフォルトオプションを使用できないことがあります。使用できないオプションはグレー表示され、選択できません。

管理対象ノードの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のノードを選択するためのチェックボックス。選択したノードは、表の最下部にある[アクションを選択...]ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション(「レイアウトグループに移動...」、「ノードグループにノードを割り当て...」など)の対象となります。
タイプ	ノードのタイプ(IP、その他、外部ノード)をアイコンで示します。カーソルをアイコンに重ねると、ノードタイプの簡単な説明が表示されます。
ラベル	ノード(またはノードグループ)に割り当てられているラベルを示します。これは、管理UIに表示されるラベルです。ラベルは、そのラベルのアイコンとともに表示メカニズムとして使用されます。

管理対象ノードの一覧 (続き)

名前	DNS によって解決される、管理対象ノードの短い名前を示します。ノード名をクリックすると、そのノードの詳細情報が表示されます。ノード名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ノードの詳細情報を表示したり、ノードに対してアクションを実行できます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したノードについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なノードの詳細情報については、「 ノード設定詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧内のノードに対して実行できるアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ノードアクションの一覧表示 」を参照してください。
IP	タイプが IP のノードの IP アドレス (たとえば、192.168.123.18) を示します。
ネットワークタイプ	ノードのネットワークタイプ (IP、その他、外部 IP 名、IP パターンなど) を示します。
マシンタイプ	管理対象ノードのハードウェアタイプを示します。たとえば、オペレーティングシステム (HP-UX)、ハードウェア (PA-RISC) などが表示されます。
コントロールタイプ	ノードの現在の設定状態を示します。たとえば、「無効 (メッセージを一時的に送信していない)」、「管理対象 (HPOM によってモニター/管理されている)」、「モニター専用 (エージェントは稼働しているが、アクションは許可されない)」、「メッセージ対象 (メッセージは受け付けられるが、HP Operations Agent は稼働していない)」などの状態があります。
ポリシー	ノードにポリシーが割り当てられているかどうかを示します。

管理対象ノードを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーが管理しているすべてのノードを一覧表示するには、次の手順を実行します。一覧は、階層ツリーまたはフラットリストとして表示できます。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. ノードの一覧を階層ツリーで表示する場合は、[\[参照\]](#)メニューから[\[登録ノード\]](#)を選択します。フラットリストとして表示する場合は、[\[すべてのノード\]](#)を選択します。ノードの数が多いときは、ノードの一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [ノード一覧のソート](#)
- [ノード一覧のフィルター処理](#)
- [ノード一覧の解析](#)
- [ノードアクションの一覧表示](#)

- [ノード設定詳細の参照](#)
- [すべてのノードグループ](#)
- [すべてのノード階層](#)
- [すべてのレイアウトグループ](#)
- [すべてのノードデフォルト](#)
- [ペンディングのセキュリティ証明書要求](#)
- [ポリシーバージョンの割り当ての更新](#)

ノード詳細の表示

[ノード詳細] ページには、[すべてのノード] ページに表示される各ノードの設定に関する詳細情報が表示されます。[ノード詳細] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。ページタイトルをクリックすると、表示されているノードに対して実行できるアクションが一覧表示されます。参照ボタン (🔍) をクリックすると、表示できるノード設定詳細が一覧表示されます。

ノード詳細

属性	値
名前	[新しいノード] ウィンドウに指定されている管理対象ノードの名前。
オペレーティングシステムバージョン	オペレーティングシステムのバージョン (UNIX システムの場合、カーネルのバージョン) を表示します。
コア ID	セキュリティ証明書要求を送信した管理対象ノードの UUID を示します。UUID は、セキュリティ証明書の要求 ID の作成に使用されます。
証明書の状態	通信タイプとして HTTPS を使用する管理対象ノードに対して、証明書サーバーからセキュリティ証明書が付与されているかどうかを示します。
ラベル	HPOM のグラフィカルユーザーインターフェースに表示される、特定の管理対象ノードのラベルです。
IP アドレス	選択した管理対象ノードの IP アドレス。
ネットワークタイプ	管理対象ノードに設定されているネットワークのタイプ (IP、非 IP、外部など)。
マシンタイプ	管理対象ノードをホストしているマシンのタイプ (HP PA-RISC、Itanium 64/32、IBM RS/6000 など)。
コントロールタイプ	管理対象ノードから取得する情報のタイプと量 (管理対象、モニター専用 (メッセージなし)、メッセージ対象、無効など)。

ノード詳細 (続き)

通信タイプ	ノードと管理サーバー間の通信方法 (HTTPS など)。
ポーリングタイプ	管理対象ノードが、使用可能であることを管理サーバーに通知する方法 (通常、RPC (ファイアウォール用)、ポーリングなしなど)。
定期ポーリング有効	定期ポーリングが有効/無効であることを示します。
定期ポーリング周期	管理対象ノードが、使用可能であることを管理サーバーに通知する頻度。
アライブパケットの送信	エージェントが、稼働中であり、使用可能であることを yes/no で管理サーバーに伝えます。
自動インストール/更新	HP Operations Agent ソフトウェアのインストール設定。
ターミナル/ターミナルフォント	HPOM アプリケーションからの情報の表示に使用されるターミナルのタイプ (および使用フォント)。
MSI 出力/MSI が許可される自動アクション/MSI が許可されるオペレータ起動アクション	管理対象ノードからのメッセージをメッセージストリームインタフェースに渡すかどうか、およびそれらのメッセージに関連付けられているアクションを実行するかどうかを示します。
バッファサイズの上限	管理対象ノードでローカルに保存できるメッセージの最大数。
インストール方法	HPOM が管理対象ノードにエージェントソフトウェアをインストールする方法 (opc、手動など)。
コードセット	管理対象ノードからの HPOM メッセージを生成/表示するためのキャラクタセット (iso88591 など)。

管理対象ノードの詳細情報を表示するには

選択しているノードまたはノードグループの現在の設定詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのノード]** をクリックします。ノードの数が多いときは、ノードの一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. **[名前]** カラムで、詳細情報を確認するノードの該当リンクをクリックします。

関連項目

- [ノードアクションの一覧表示](#)
- [ノード設定詳細の参照](#)
- [ポリシー詳細の表示](#)
- [ノード/ポリシー配布の表示](#)

HPOM 管理対象ノードの設定

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン () を使用すると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。いずれのオプションも使用できない場合は、ページタイトルの横にあるアクションボタン () を使用します。次の表は、ノードの詳細を表示して修正したり、ポリシーの割り当てを編集するなどの、ノードおよびノードグループ上で実行可能なアクションの一覧です。

[アクション] メニュー: 管理対象ノード/グループ/階層/レイアウト

アクション	説明
表示	選択した管理対象ノードの詳細情報を表示します。
編集...	選択した管理対象ノードの定義を修正します。
コピー...	選択した管理対象ノードの定義をコピーします。
割り当てとともにコピー...	選択した管理対象ノード、すべてのポリシー、ポリシーグループおよびカテゴリの割り当ての定義をコピーします。
ノードグループにノードを割り当て...	登録ノードグループが開き、管理対象ノードを割り当てるノードグループを選択できます。
ポリシー/ポリシーグループを割り当て...	登録ポリシーグループが開き、管理対象ノード、ノードグループまたはノード階層に配布するポリシーまたはポリシーグループを選択できます。
レイアウトグループに移動...	登録ノードが開き、選択したノードの移動先となるノードレイアウトグループを選択できます。

[アクション] メニュー: 管理対象ノード/グループ/階層/レイアウト (続き)

タスクを実行...	選択したノード、ノードグループ、ノード階層、またはノードレイアウトグループに現在設定されているタスクの一覧を持つサブメニューが表示されます。たとえば、HP Operations Agent のステータスやインストール済みパッケージのインベントリが表示されます。表示されたタスクは、いずれもすぐに実行できます。HPOM 管理サーバーに設定されているタスクの一覧表示については、 [タスク] メニューを参照してください。
エージェントをインストール...	選択した管理対象ノードにエージェントをインストールします。
エージェントをアンインストール...	選択した管理対象ノードからエージェントを削除します。
設定を配布...	ブラウザウィンドウが表示され、選択した管理対象ノードに配布する HPOM インストールメンテーション (ポリシー、アクション、コマンドまたはモニター) を指定します。 [強制更新] オプションを使用すると、配布操作によって既存のデータが上書きされます。
削除...	HPOM 登録ノードから管理対象ノードを削除します。
ダウンロード...	HPOM データベースから管理対象ノード設定をダウンロードします。
カテゴリを割り当て...	登録カテゴリが開き、選択した管理対象ノード、ノードグループまたはノード階層に割り当てるカテゴリを選択できます。カテゴリとはノードまたはポリシーに割り当て可能な論理タグのことで、選択したノードまたはポリシーに適切なインストールメンテーションを自動で配布するのに使用します。
割り当てを更新...	ドロップダウンリストのあるダイアログが開き、管理対象ノード (またはノードグループ) にポリシーを割り当てるための更新方針を定義できます。更新対象および更新方法を詳細に指定できます。たとえば、現在のポリシーバージョンを、「固定」バージョン (表示されたポリシーバージョンを割り当て)、「最新」バージョン (表示されたポリシーの最新バージョンを割り当て)、「マイナーを最新に」バージョン (メジャーバージョンの代わりにマイナーバージョンを常に割り当て)。 例、「1」や「2」ではなく、1.*) に置き換えることができます。
ショッピングカートに追加	選択したノードオブジェクトをショッピングカートに追加します。ショッピングカートの内容をクリップボードディレクトリにダウンロードできます。クリップボードディレクトリからはパッケージを任意の管理サーバーにアップロードしたり、単に後で適切な時間に使用するためにパッケージをアーカイブしておくことができます。
ノードを有効化...	管理対象ノードを有効にするとノード上のエージェントが起動し、メッセージの送信が可能になります。
ノードを無効化...	管理対象ノードを無効にするとノード上のエージェントが停止します。ノードが無効になっているとメッセージは送信されません。

ノード関連のアクション一覧を表示するには

選択した管理対象ノード、ノードグループ、ノードレイアウトグループまたはノード階層上で実行可能なアクションの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOMアイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのノード]**(すべてのノードグループ、すべてのノード階層、すべてのレイアウトグループ)をクリックします。
3. 表示された管理対象ノード一覧で、アクションの実行対象となる管理対象ノードを特定します。
4. アクションボタン()をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、下の表を参照してください。

関連項目

- [ノード設定詳細の表示](#)
- [すべてのノードの一覧表示](#)
- [ノード詳細の表示](#)
- [ノード詳細の追加/編集](#)
- [すべてのノードレイアウトグループの一覧表示](#)
- [ショッピングカートの中身の表示](#)
- [ポリシーバージョンの割り当ての更新](#)
- [ポリシーの比較](#)

ノード設定詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン()を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン()を使用します。次の表は、HPOM ノード、ノードグループ、ノード階層、またはノードレイアウトグループについて表示できる詳細情報を示しています。たとえば、ノード (またはノードグループ) に割り当てられているポリシーや、ノード (またはノードグループ) を担当するユーザーなどを確認できます。

[参照] メニュー: 管理対象ノード

設定の詳細	説明
-------	----

[参照] メニュー: 管理対象ノード (続き)

ポリシー(グループ)の直接割り当て	選択した管理対象ノードまたはノードグループに直接割り当てられているポリシー(ノードグループから継承されたポリシーではありません)を一覧表示します。
カテゴリ	選択した管理対象ノードが割り当てられているカテゴリを一覧表示します。
有効なポリシー割り当て	選択した管理対象ノードに配布されているすべてのポリシーを一覧表示します。ノードグループ以下の上位階層のポリシーグループ(複数も可)からの継承によって割り当てられたポリシーも含まれます。
有効なサブエージェント割り当て	選択した管理対象ノードに配布されるすべてのサブエージェントを一覧表示します。
インストルメンテーション	選択した管理対象ノードが割り当てられているインストルメンテーションを一覧表示します。
ノードグループ	選択した管理対象ノードが割り当てられているノードグループを一覧表示します。
ノード デフォルト	選択した管理対象ノードのノードデフォルト設定を表示します。
レイアウトグループ	選択した管理対象ノードが割り当てられているノードレイアウトグループを一覧表示します。
ユーザー	選択したノード、ノードグループ、ノードレイアウトグループ、またはノード階層が割り当てられているHPOMユーザーを表示します。
プロフィール	ノード、ノードグループ、ノードレイアウトグループ、またはノード階層が割り当てられているHPOMユーザープロフィールを表示します。
メッセージカタログ	選択した管理対象ノードのメッセージカタログを表示します。選択した管理対象ノードのメッセージカタログには、そのノードに割り当てられているポリシーによって生成されるすべてのメッセージが含まれます。
リソースカタログ	選択した管理対象ノードのリソースカタログを表示します。リソースカタログには、選択した管理対象ノードに割り当てられているポリシーが参照するリソース(ログファイル、スクリプトなど)の一覧が含まれます。ファイル名やパスなどの情報が表示されます。
通知カタログ	選択した管理対象ノードの通知カタログを表示します。通知カタログは、選択した管理対象ノードに割り当てられているポリシーに含まれるすべての条件の一覧です。メッセージは、これらの条件に基づいて通知インターフェースまたはトラブルチケットシステムに転送されます。
指示カタログ	選択した管理対象ノードの指示カタログを表示します。指示カタログには、選択した管理対象ノードに割り当てられているすべてのポリシーまたはポリシーグループに含まれるすべての条件に関連するすべての指示文が含まれます。
メッセージ相関処理	選択したノードと相関性があるメッセージを一覧表示します。メッセージを生成したポリシーの名前、生成の原因となった条件、メッセージキー、相関処理結果などの情報が表示されます。

ノード設定詳細を表示するには

ノードの設定に関する詳細情報を要求するためのオプションを一覧表示するには、次の手順を実行します。メニューに表示されるオプションは、表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのノード]**(すべてのノード階層、すべてのノードグループ、すべてのレイアウトグループ)をクリックします。要素数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 表示された管理対象ノード (またはノードグループ) 一覧で、設定を表示する管理対象ノードを特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、選択したノードで表示できる設定詳細が一覧表示されます。
5. 表示されたメニューで、表示する設定詳細をクリックします。表示できる設定詳細については、上の表を参照してください。

関連項目

- [ノードアクションの一覧表示](#)
- [すべてのノードの一覧表示](#)

メッセージ カタログ

選択した管理対象ノードのメッセージカタログには、そのノードに割り当てられているポリシーによって生成されるすべてのメッセージが含まれます。つまり、管理対象ノードに割り当てられたポリシー (直接割り当てられたもの、ポリシーグループから継承したもの) および配布されたポリシーの「一致」条件で生成されたすべてのメッセージになります。一覧には、アプリケーション、オブジェクト、メッセージテキストなどの最も重要な属性が含まれます。

使用可能なカラム

カラム	説明
重要度	ポリシー条件によって生成されたメッセージの重要度です。
ポリシー	メッセージを生成した条件を含むポリシーの名前です。
条件	メッセージを生成した一致条件の名前です。
アプリケーション	メッセージの生成原因となった先の障害を担当するアプリケーションの名前です。
オブジェクト	生成されたメッセージに関連付けられたオブジェクトの名前です。
メッセージ	ポリシーに記載してあるとおりに作成されたメッセージのメッセージテキストです。メッセージテキストには HPOM パターンマッチング文字列と変数が含まれる場合があります。
バージョン	メッセージを生成した条件を含むポリシーバージョンを表示します。

メッセージカタログを表示するには

現在選択している管理対象ノードに配布されたポリシーのメッセージカタログの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのノード]** (すべてのノードグループ、すべてのポリシー、すべてのポリシーグループ) をクリックします。
3. 表示された管理対象ノード一覧で、アクションの実行対象となる管理対象ノードを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、**[メッセージ カタログ]** をクリックします。

関連項目

- [リソースカタログの表示](#)
- [通知カタログの表示](#)
- [指示カタログの表示](#)
- [相関処理されたメッセージの一覧](#)

リソースカタログ

[リソース カタログ] ページには、現在選択している管理対象ノードに割り当て/配布されているポリシーによって生成されたメッセージに関連付けられている、ログファイル、モニタープログラム、スクリプトが一覧表示されます。情報は、以下の形式のテーブルとして表示されます。

使用可能なカラム

カラム	説明
タイプ	ポリシーのタイプ (例、ログファイル、モニター、SNMPトラップ)。
ポリシー	選択したリソースと関連付けられているメッセージを生成するポリシーの名前。
リソース	ポリシーと関連付けられているリソースの名前。リソースには、ファイル (ログファイルなど)、プログラム、スクリプトなどがあります。たとえば、ログファイルポリシーでは、モニター対象ログファイルの名前が [リソース] に表示されます。「モニター」ポリシーでは、モニターポリシーによって呼び出されるスクリプトの名前が [リソース] に表示されます。
間隔	選択したリソースへのアクセスに使用されるモニター周期。たとえば、ログファイルを 10 分おきに読み取ります。

使用可能なカラム (続き)

バージョン	選択したリソースと関連付けられているメッセージを生成したポリシーバージョンを示します。
リソースタイプ	ポリシーに関連付けられているリソースタイプ(実行可能ファイルなど)を示します。

リソースカタログを表示するには

現在選択している管理対象ノードに配布されたポリシーのリソースカタログの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOMアイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのノード]**(すべてのノードグループ、すべてのポリシー、すべてのポリシーグループ)をクリックします。
3. 表示された管理対象ノード一覧で、アクションの実行対象となる管理対象ノードを特定します。
4. アクションボタン(🔍)をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、**[リソースカタログ]**をクリックします。

関連項目

- [メッセージカタログの表示](#)
- [通知カタログの表示](#)
- [指示カタログの表示](#)
- [関連処理されたメッセージの一覧](#)

通知カタログ

選択した管理対象ノードの通知カタログを表示します。通知カタログは、選択した管理対象ノードに割り当てられている(配布済み)ポリシーに含まれるすべての条件の一覧です。これらの条件では、生成されたメッセージのコピーを通知インターフェースまたはトラブルチケットシステムに転送するように設定されています。

使用可能なカラム

カラム	説明
ポリシー	通知インターフェースまたはトラブルチケットインターフェースに送信するメッセージを生成した条件を含むポリシーの名前です。
条件	通知インターフェースまたはトラブルチケットインターフェースに転送されるメッセージを生成した一致条件の名前です。

使用可能なカラム (続き)

通知	通知 インタフェースへの転送を yes または no で設定します。この設定は「 新規ポリシー条件: [アクション] タブ 」で確認、変更できます。
TTS	トラブルチケットシステム (TTS) への転送を yes または no で設定します。この設定は「 新規ポリシー条件: [アクション] タブ 」で確認、変更できます。
受諾	通知 サービスまたはトラブルチケットシステムに転送される自動受諾されたメッセージを yes または no で設定します。この設定は「 新規ポリシー条件: [アクション] タブ 」で確認、変更できます。
バージョン	通知トラブルチケット インタフェースに送信されるメッセージを生成した条件を含むポリシーバージョンを示します。

通知カタログを表示するには

現在選択している管理対象ノードに配布されたポリシーの通知カタログの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [\[参照\]](#) メニューで、[\[すべてのノード\]](#) (すべてのノードグループ、すべてのポリシー、すべてのポリシーグループ) をクリックします。
3. 表示された管理対象ノード一覧で、アクションの実行対象となる管理対象ノードを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、[\[通知カタログ\]](#) をクリックします。

関連項目

- [メッセージカタログの表示](#)
- [リソースカタログの表示](#)
- [指示カタログの表示](#)
- [相関処理されたメッセージの一覧](#)

指示カタログ

[\[指示カタログ\]](#) ページには、選択した管理対象ノードの指示カタログの内容が表示されます。指示カタログには、選択した管理対象ノードに配布されたすべてのポリシーに含まれるすべての条件のための指示文が含まれます。情報は、以下の形式で表内に表示されます。

指示カタログ: 内容

カラム	説明
ポリシー	現在選択している管理対象ノードに配布されているポリシーの名前です。ポリシー条件には指示文が含まれる場合と、含まれない場合があります。
条件	メッセージを生成するポリシー条件の名前です。このメッセージには、メッセージを生成した障害を把握し解決するのに役立つ指示が記載されます。
タイプ	提供される指示文のタイプです (例、「直接」、「指示なし」)。マウスカーソルをアイコンに重ねると、指示文のタイプの簡単な説明が表示されます。
デフォルト	指示文が (インストールされたポリシーによって) デフォルトで提供されたものか、後になって (管理者などによって) 追加されたものかを示します。
指示	変数を含む指示文全体のコピーです (例、$\\$THRESHOLD$、$\\$INST_DIR$)。
バージョン	指示が利用できる条件を含むポリシーバージョンを示します。

指示文カタログを表示するには:

特定の管理対象ノードの指示文カタログの内容を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM ボタンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのノード]** (すべてのノードグループ、すべてのポリシー、すべてのポリシーグループ) をクリックします。
3. アクションボタン () をクリックし、表示されたメニューから **[指示カタログ]** オプションを選択します。選択した管理対象ノードに配布されているポリシーの指示カタログが一覧形式で表示されます。

関連項目

- [メッセージカタログの表示](#)
- [リソースカタログの表示](#)
- [通知カタログの表示](#)
- [相関処理されたメッセージの一覧](#)
- [設定された指示文 インタフェースの一覧](#)
- [新しい指示文 インタフェースの追加](#)
- [既存の指示文 インタフェースの編集](#)

メッセージ相関処理

[メッセージ相関処理] ページには、選択したノードで相関処理されたメッセージが一覧表示されます。メッセージを生成したポリシーの名前、生成の原因となった条件、メッセージキー、相関処理結果などの情報が表示されます。一覧には、ポリシー (またはポリシーグループ) のメッセージキーおよびメッセージキー関連属性に基づいた、ポリシー条件間のすべての相関処理が表示されます。

メッセージ相関処理の一覧表示

カラム	説明
重要度	相関処理されたメッセージの重要度です (例、危険域、重要警戒域)。
ポリシー	相関処理されたメッセージを生成したポリシーの名前です。
条件	相関処理されたメッセージの生成原因となった、一致したポリシー条件の名前です。
メッセージキー	相関処理されたメッセージのメッセージキーです。メッセージキーとは、プロセスがメッセージを識別できるようにメッセージに割り当てる識別子のことです。メッセージキーは、メッセージ ID とは異なります。特定のポリシー条件で作成されたすべてのメッセージには同じメッセージキーが割り当てられます。複数のポリシーまたは条件で同じメッセージキーを使用できます。同一のメッセージキーを持つメッセージは重複メッセージとして処理されます。
メッセージキー関連	[メッセージキー関連] には、相関処理されたメッセージ間のリンクが表示されます。これは、表示しているメッセージから、相関処理プロセスの結果として受諾され、アクティブメッセージブラウザに表示されていないメッセージへのリファレンスです。
相関処理	メッセージポリシーの定義に従って相関処理されたメッセージのテキストです。テキストには、HPOM パターンマッチング文字列および変数を含めることができます (例、 <code>^Utilization of tablespace <*.tspace> (<*.msg_rest>\$)</code>)。
バージョン	相関処理メッセージを生成したポリシーバージョンを表示します。

相関処理されたメッセージを一覧表示するには

現在選択している管理対象ノードに配布されたポリシーのメッセージカタログの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照] メニューで、[すべてのノード] (すべてのノードグループ、すべてのポリシー、すべてのポリシーグループ) をクリックします。
3. 表示された管理対象ノード一覧で、アクションの実行対象となる管理対象ノードを特定します。

4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、[メッセージ関連処理] をクリックします。

関連項目

- [メッセージカタログの表示](#)
- [リソースカタログの表示](#)
- [通知カタログの表示](#)
- [指示カタログの表示](#)

すべてのノードグループの一覧表示

[すべてのノードグループ] ページには、HP Operations 管理サーバーに配布されたノードグループが一覧表示されます。[すべてのノードグループ] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、管理対象ノードグループの一覧を昇順/降順に並べ替えることができます。アクションボタン () をクリックすると、一覧に含まれるノードグループに対して実行できるアクションが一覧表示されます。参照ボタン () をクリックすると、表示できるノードグループ設定詳細が一覧表示されます。

管理対象ノードグループの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のノードグループを選択するためのチェックボックス。選択したノードグループは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「ノードグループを追加...」、「ノードを割り当て...」、「削除...」など) の対象となります。
ラベル	管理対象ノードグループのラベルを示します。
名前	管理対象ノードグループの名前を示します。ノードグループ名をクリックすると、そのノードグループの詳細情報 (ノードグループに含まれるノードなど) が表示されます。ノードグループ名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ノードグループの詳細情報を表示したり、ノードグループに対してアクションを実行できます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したノードグループについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なノードの詳細情報については、「 ノード設定詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧内のノードグループに対して実行できるアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ノードアクションの一覧表示 」を参照してください。
ノード	現在選択しているノードグループに含まれるノード数を示します。

管理対象ノードグループの一覧 (続き)

詳細	選択したノードグループの内容に関する簡単な説明を示します。
表示可能	ノードグループアイコンが表示されるかどうかを示します。
ポリシー	ノードグループにポリシーが割り当てられているかどうかを示します。

管理対象ノードグループを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーが管理しているすべてのノードグループを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで**[すべてのノードグループ]**をクリックし、ノードグループをフラットリストで表示します。ノードグループ数が多い場合は、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ノードグループアクションの一覧表示](#)
- [ノードグループ設定詳細の参照](#)
- [すべてのノード階層](#)
- [すべてのノードデフォルト](#)
- [すべてのレイアウトグループ](#)
- [ポリシーバージョンの割り当ての更新](#)

ノードグループの編集

[ノードグループの編集] ページでは、既存のノードグループの定義を変更できます。IT 環境に存在するノードグループのパラメータを変更/更新するときは、このページを使用します。

次の表では、[ノードグループの編集] ページの[プロパティ] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ノードグループの編集: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

ノードグループの編集: [プロパティ] タブ (続き)

名前	変更するノードグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。変更中のノードグループの名前を変更することはできません。このフィールドはアクティブ化されません。	必須
情報	作成するノードグループに関連する便利なデータが含まれています。ノードグループの一般的な概要には表示されません。	オプション
作業範囲からノードグループを隠す	このノードが作業範囲マトリックスには表示されないことを示します。	オプション
ラベル	変更するノードグループの名前です。ユーザーインターフェイスに表示されるのは、このラベルです。	オプション
詳細	ノードグループの簡単な説明。ユーザーが、ノードグループに含まれるノード (またはノードグループ) のタイプを確認する上で役立ちます。	オプション

ノードグループの変更

ノードグループを変更し、変更内容を環境に適用するには、次の手順を実行します。

- 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - プロパティ**
ノードグループがユーザーインターフェイスにどのように表示されるかに関する詳細情報を示します。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
- 以下のボタンを使用すると、ノードグループへの変更を保存または破棄できます。
 - 保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたノードグループの定義が保存されます。
 - バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - 復元**
[バックアップ] ボタンをクリックして作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノードグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - キャンセル**
ノードグループに加えたすべての変更を破棄します。

すべてのノード階層の一覧表示

[すべてのノード階層] ページには、HP Operations 管理サーバー上に設定されているノード階層が一覧表示されます。[すべてのノード階層] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されません。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、管理対象ノード階層の一覧を昇順/降順に並べ替えることができます。アクションボタン (●) をクリックすると、一覧内のノード階層で実行可能なアクションが一覧表示され、参照ボタン (☐) をクリックすると、ノード階層について表示可能な設定の詳細が一覧表示されます。

管理対象ノード階層の一覧表示

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のノード階層を選択するためのチェックボックス。選択したノード階層は、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「ノード階層の追加」、「削除...」、「ダウンロード...」など) の対象となります。
名前	管理対象ノード階層の名前を示します。ノード階層名をクリックすると、そのノード階層の詳細情報 (ノード階層に含まれるノードなど) が表示されます。ノード階層名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ノード階層の詳細情報を表示したり、ノード階層に対してアクションを実行できます。[参照] メニュー、[アクション] メニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の関連項目の一覧を参照してください。
☐	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したノード階層について表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なノード詳細については、「 ノード階層詳細の参照 」を参照してください。
●	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧内のノード階層に対して実行できるアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ノード階層アクションの一覧表示 」を参照してください。
詳細	一覧表示されたノード階層の簡単な説明を示します。

管理対象ノード階層を一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されているすべてのノード階層を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照] メニューで [すべてのノード階層] をクリックし、ノード階層をフラットリストで表示します。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)

- [ノード階層アクションの一覧表示](#)
- [ノード階層設定詳細の参照](#)
- [すべてのノードグループ](#)
- [すべてのノードデフォルト](#)
- [すべてのレイアウトグループ](#)

ノード階層の編集

[ノード階層の編集] ページでは既存ノード階層のパラメータを変更できます。このページを使用すると、ノード階層を変更および更新し、運用中のIT環境のユーザーに対してその変更点を有効にします。

ノード階層を変更し、変更内容を環境に適用するには、次の手順を実行します。

1. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
ユーザーインターフェースに表示される、変更したノード階層の表示方法に関する詳細です。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
2. 以下のボタンを使用すると、変更したノード階層の詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたノード階層の定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード階層設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
変更したノード階層に関して入力した詳細が破棄されます。

以下の表では、新しい[ノード階層の編集] の[プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

変更されたノード階層: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	変更するノード階層の名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。変更中のノード階層の名前は変更できません。フィールドは無効となります。	必須
情報	作成するノード階層に関連する便利なデータが含まれています。ノード階層の一般的な概要には表示されません。	オプション
ラベル	変更するノード階層の名前です。これはユーザーインターフェイスに表示されるラベルです。	オプション
詳細	ノード階層の簡単な説明です。変更したノード階層に含まれるノード (またはノードグループ) のタイプがわかります。	オプション

レイアウトグループの一覧表示

[すべてのレイアウト グループ] ページには、HP Operations 管理サーバー上に設定されているレイアウトグループが一覧表示されます。[すべてのレイアウト グループ] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。アクションボタン (ⓘ) をクリックすると、一覧内のレイアウトグループで実行可能なアクションが一覧表示され、ナビゲーションボタン (☐) をクリックすると、レイアウトグループについて表示できる設定の詳細が一覧表示されます。

レイアウトグループの一覧にフィルター処理をして表示される数を減らしたい場合は、一覧の上部にある [フィルタ] リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。広範な条件 (例: 名前、タイプ、ラベル) に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

管理対象レイアウトグループの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のレイアウトグループを選択するためのチェックボックス。選択したレイアウトグループは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「レイアウトグループを追加...」、 「削除...」など) の対象となります。
タイプ	レイアウトグループのタイプを表示します。
ラベル	レイアウトグループに適用するラベルです。定義済みの場合は、ユーザーインターフェイスのレイアウトグループ一覧では、ユーザーを表すのにラベルが使用されます。
内容	レイアウトグループ内に内容 (ノード、レイアウトグループ) があるかどうかを表示します。

管理対象レイアウトグループの一覧 (続き)

ノード階層	レイアウトグループが属するノード階層のタイプを表示します。
詳細	レイアウトグループの簡単な説明を表示します。また、このレイアウトグループに含まれるノードやその他のレイアウトグループのタイプなどの情報も表示します。
名前	レイアウトグループの名前を表示します。レイアウトグループ名をクリックすると、選択したレイアウトグループに含まれるノードやレイアウトグループなど、選択したレイアウトグループに関するより詳細な情報が表示されます。カラムタイトルをクリックすると、レイアウトグループの一覧を昇順または降順に並べ替えます。レイアウトグループ名の横にあるアイコンのいずれかをクリックするとメニューが表示され、レイアウトグループの情報を参照したり、レイアウトグループに対してアクションを実行できます。[参照]メニュー、[アクション]メニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の関連項目の一覧を参照してください。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したレイアウトグループについて参照できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なレイアウトの詳細情報については、「 レイアウトグループ詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、選択したノードレイアウトグループに対して実行できるアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 レイアウトグループアクションの一覧表示 」を参照してください。

レイアウトグループの一覧を表示するには

HP Operations 管理サーバーが管理しているすべてのレイアウトグループを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照]メニューで [すべてのレイアウトグループ](#) をクリックし、レイアウトグループをフラットリストで表示します。

関連項目

- [ノード一覧のソート](#)
- [ノード一覧のフィルター処理](#)
- [ノード一覧の照会](#)
- [レイアウトグループアクションの一覧表示](#)
- [レイアウトグループ設定詳細の参照](#)
- [すべてのノードグループ](#)

- [すべてのノード階層](#)
- [すべてのレイアウトグループ](#)

レイアウトグループの編集

[レイアウトグループの編集] ページでは既存ノードのパラメータを定義できます。このページを使用すると、運用中のIT環境のユーザーが使用可能なノードを含む既存のレイアウトグループに変更を加えることができます。

レイアウトグループを編集し、変更内容を環境に適用するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の [参照] メニューで、[すべてのレイアウトグループ] をクリックします。変更するレイアウトグループを選択して、[アクション] メニューの [編集...] をクリックします。
2. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
HPOM ユーザーインターフェースでの変更したレイアウトグループの表示方法に関する詳細情報を示します。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
3. 以下のボタンを使用すると、レイアウトグループへの変更を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力がチェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたノードレイアウトグループの定義が保存されます。
 - **キャンセル**
レイアウトグループに加えたすべての変更を破棄します。

次の表では、[レイアウトグループの編集] ページの [プロパティ] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

レイアウトグループの編集: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	変更するノードレイアウトグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。変更中のノードレイアウトグループの名前は変更できません。フィールドは無効となります。	必須
ラベル	変更するノードレイアウトグループの名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	オプション
詳細	レイアウトグループの簡単な説明です。レイアウトグループに含まれるノード (またはレイアウトグループ) のタイプが分かれます。	オプション

すべてのノードデフォルト

[すべてのノード デフォルト] ページでは、さまざまなタイプの管理対象ノードのすべてのデフォルト設定が表示されます。マシンのタイプ (Itanium 64/32、Sun SPARC)、通信タイプ (HTTPS)、オペレーティングシステムのタイプ (HP-UX、AIX、Solaris、Linux) などの情報も含まれます。これらの設定は、このタイプのノードが追加されたとき、またはネットワークで検出されたときに使用されます。

[すべてのノード デフォルト] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、管理対象のノードデフォルトの一覧を昇順/降順に並べ替えることができます。アクションボタン (●) をクリックすると、一覧内のノードデフォルトで実行可能なアクションが一覧表示され、参照ボタン (☐) をクリックすると、ノードデフォルトについて表示可能な設定の詳細が一覧表示されます。

管理対象ノードデフォルトの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のノードデフォルト設定を選択するためのチェックボックス。選択したノードデフォルト設定は、表の最下部にある [アクションを選択...] メニューオプションを使用して実行するアクション (「ダウンロード...」など) の対象となります。
名前	管理対象ノードのデフォルト設定の名前を表示します。デフォルト設定の名前をクリックすると、より詳細な情報が表示されます。ノード名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ノードデフォルトの詳細情報を表示したり、ノードデフォルト設定に対してアクションを実行できます。[参照] メニュー、[アクション] メニュー、およびそれぞれのオプションについては、下の表を参照してください。
ラベル	ラベルは、HPOM の GUI で「名前」を表すために使用される文字列です。
☐	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したノードについて表示できるデフォルト設定の詳細を一覧表示します。表示可能な詳細情報については、「 ノードデフォルトの詳細の参照 」を参照してください。
●	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧内のノードに対して実行できるアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ノードデフォルトアクションの一覧表示 」を参照してください。
ネットワークタイプ	ノードデフォルト設定のネットワークタイプを示します (例: IP ネットワーク、非 IP)。
マシンタイプ	管理対象ノードのデフォルトハードウェアタイプを示します (例: Itanium 64/32、Sun SPARC、など)。また、通信タイプには HTTPS、オペレーティングシステムタイプには HP-UX、AIX、Solaris、Linux があります。
オペレーティングシステム	インストールされたデフォルトのオペレーティングシステムを示します (例: HP-UX、AIX、Solaris、Linux)。

管理対象ノードデフォルトを一覧表示するには

HP Operations 管理 サーバーで使用可能なすべてのノードデフォルト設定を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべてのノード デフォルト]** をクリックし、ノードデフォルトをフラットリストで表示します。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ノードデフォルトアクションの一覧表示](#)
- [ノードデフォルト詳細の参照](#)
- [すべてのノードグループ](#)
- [すべてのノード階層](#)
- [すべてのレイアウトグループ](#)

ノードデフォルトの詳細の表示

[ノード デフォルトの詳細] ページには、個々のノードタイプ (HP PA-RISC、Itanium など) のデフォルト設定に関する詳細情報が表示されます。**[ノード デフォルトの詳細]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。アクションアイコン (🔍) をクリックすると、選択したノードデフォルト設定に対して実行可能なアクションが一覧表示されます。参照アイコン (📄) をクリックすると、選択したノードデフォルト設定について参照可能な設定詳細が一覧表示されます。たとえば、現在選択しているノードデフォルト設定を使用するすべてのノードを一覧表示したり、選択したノードデフォルト設定を表示、編集、ダウンロードできます。

ノード詳細

属性	値
ネットワークタイプ	管理対象ノードに設定されているネットワークのタイプ (IP、非 IP、外部など)。
マシンタイプ	管理対象ノードをホストしているマシンのタイプ (HP PA-RISC、Itanium 64/32、IBM RS/6000 など)。
コントロールタイプ	管理対象ノードから取得する情報のタイプと量 (管理対象、モニター専用 (メッセージなし)、メッセージ対象、無効など)。
通信タイプ	ノードと管理サーバーの間の通信方法 (HTTPS など)。

ノード詳細 (続き)

定期ポーリング有効	定期ポーリングが有効であるかどうかを示します。管理サーバーは、管理対象ノードが稼働し、使用可能であることを定期ポーリングによって確認します。
ポーリングタイプ	管理対象ノードが使用可能であることを管理サーバーが確認する方法 (通常、RPC、ping コマンドなど)。
定期ポーリング周期	管理対象ノードが使用可能であることを管理サーバーが確認する頻度。
アライブパケットの送信	エージェントが稼働し、使用可能であることを、定義されている頻度で管理サーバーに通知するようにエージェントが設定されているかどうか (yes、no など) を示します。
自動インストール	HP Operations Agent ソフトウェアのインストール設定 (有効、無効など)。
自動更新	HP Operations Agent ソフトウェアの更新設定 (有効、無効など)。
ターミナル	HPOM アプリケーションからの情報の表示に使用されるターミナルのタイプ (xterm、hpterm など)。
ターミナルフォント	HPOM アプリケーションからの情報を表示するターミナルで使用できるフォントの種類。
MSI 出力	管理対象ノードからのメッセージをメッセージストリームインターフェースに渡すかどうか (有効、無効など) を示します。
MSI が許可されるオペレータ起動アクション	メッセージストリームインターフェースに渡されるメッセージに関連付けられているオペレータ起動アクションが許可されるかどうか (有効、無効など) を示します。
MSI が許可される自動アクション	メッセージストリームインターフェースに渡されるメッセージに関連付けられている自動アクションが許可されるかどうか (有効、無効など) を示します。
バッファサイズの上限	管理対象ノードでローカルに保存できるメッセージの最大数 (有効、無効など)。有効にする場合は、上限を定義する必要があります。
インストール方法	HPOM が管理対象ノードにエージェントソフトウェアをインストールする方法 (opc、手動など)。
インストールユーザー	管理対象ノードへのエージェントソフトウェアのインストールおよびアップグレード時に、HPOM が使用するアカウントのユーザー (root など)。
コードセット	管理対象ノードからの HPOM メッセージを生成/表示するためのキャラクタセット (iso88591、utf8 など)。

設定済みノードデフォルトの詳細情報を表示するには

設定済みノードデフォルトの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. **[参照]**メニューで、**[すべてのノード デフォルト]**をクリックします。ノード数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
2. **[名前]**カラムで、デフォルト設定を確認するノードの該当リンクをクリックします。

関連項目

- [ノードデフォルトの一覧表示](#)
- [ノードアクションの一覧表示](#)
- [ノード設定詳細の参照](#)

すべてのメッセージグループ

[すべてのメッセージグループ] ページには、HP Operations 管理サーバーに配布された HPOM メッセージグループが一覧表示されます。**[すべてのメッセージグループ]** ページでは、情報は表形式で表示されます。

メッセージグループの一覧をフィルター処理して表示数を減らすには、一覧の上部にある **[フィルタ]** リンクをクリックし、フィールドとドロップダウンメニューを使ってフィルター条件を定義します。名前、タイプ、ラベルなどの多様な条件に基づいてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

メッセージグループの一覧表示

名前	説明
すべて	すべて、または個々のメッセージグループを選択するためのチェックボックス。選択したメッセージグループは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション ([削除...] 、 [メッセージグループを追加...] など) の対象となります。
ラベル	メッセージグループに割り当てられているラベルを示します。これは、管理 UI に表示されるラベルです。ラベルは、そのラベルのアイコンとともに表示メカニズムとして使用されます。
名前	選択した HP Operations 管理サーバーで使用できるメッセージグループの名前を示します。カラムタイトルをクリックすると、 [名前] カラムの内容を昇順または降順に並べ替えます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したメッセージグループについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能な詳細情報については、 [メッセージグループ設定詳細の参照] を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧で選択したメッセージグループに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、 [メッセージグループ詳細の変更] を参照してください。
詳細	一覧表示されたメッセージグループの簡単な説明を示します。

すべてのメッセージグループを一覧表示するには

HP Operations 管理 サーバー上に設定されているすべてのメッセージグループを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのメッセージ グループ]** をクリックします。

注: メッセージグループ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [メッセージグループ設定 詳細の参照](#)
- [メッセージグループ詳細の変更](#)
- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [すべてのノードグループの一覧表示](#)
- [新しいユーザーの追加](#)
- [すべてのメッセージソースポリシーの一覧表示](#)

メッセージグループ詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン (🔍) を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン (🔍) を使用します。次の表は、HPOM メッセージグループに対して表示可能な詳細を示しています。たとえば、メッセージグループが割り当てられているユーザー (またはユーザープロフィール) を一覧表示することができます。

[参照] メニュー: メッセージグループ

設定の詳細	説明
メッセージグループを使用するユーザー	選択したメッセージグループが割り当てられているユーザー (選択したメッセージグループに属すメッセージを担当するユーザー) を一覧表示します。
メッセージグループを使用するプロフィール	選択したメッセージグループが割り当てられている、すべての HPOM ユーザープロフィールを一覧表示します。
バージョン	バージョンコントロールツールに基づいて、選択したメッセージグループオブジェクトのバージョンを一覧表示します。

メッセージグループの設定詳細を表示するには

選択した HPOM メッセージグループの現在の設定について参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのメッセージグループ]**をクリックします。メッセージグループ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 表示された一覧で、設定詳細を参照するメッセージグループを特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能な設定詳細の一覧が表示されます。
5. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細のタイプに対応するオプションをクリックします。表示できる設定詳細については、上の表を参照してください。

関連項目

- [すべてのメッセージグループの一覧表示](#)
- [メッセージグループ設定の変更](#)

メッセージグループの編集

[メッセージグループの編集] ページでは、メッセージタイプの管理に使用する既存メッセージグループを変更できます。ユーザーが正しいメッセージを受信できるように、変更したメッセージグループを HPOM ユーザーに再割り当てすることができます。

既存のメッセージグループを変更し、変更内容を HPOM 環境に適用するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の **[参照]**メニューで、**[すべてのメッセージグループ]** をクリックします。メッセージグループの一覧から変更するメッセージグループを選択して、**[アクション]**メニューの **[編集...]** をクリックします。
2. 表示される **[メッセージグループの編集]** ページの以下のタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
[プロパティ] タブには、変更されたメッセージグループがユーザーインターフェースに表示される際の表示方法に関する詳細が表示されます。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
3. 以下のボタンを使用すると、メッセージグループへの変更を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたメッセージグループの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップセッションを後で呼び戻して作業を続けることができます。

- 復元

[バックアップ] ボタンをクリックして作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、メッセージグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- キャンセル

変更したメッセージグループに加えたすべての変更を破棄します。

次の表では、[メッセージグループの編集] ページの[プロパティ] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

メッセージグループの編集: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	変更するメッセージグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。変更中のメッセージグループの名前は変更できません。フィールドは無効となります。	オプション
情報	メッセージグループについての簡単な情報です。	オプション
ラベル	作成する新しいメッセージグループの名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	必須
詳細	新しいメッセージグループの簡単な説明です。メッセージグループに含まれるメッセージのタイプが分かります。	オプション

メッセージグループの変更

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン (ⓘ) を使用すると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。いずれのオプションも使用できない場合は、ページタイトルの横にあるアクションボタン (ⓘ) を使用します。次の表は、HPOM メッセージグループに対して実行できるアクションを示しています。たとえば、表示、編集などのアクションを実行できます。

[アクション] メニュー: メッセージグループ

アクション	説明
表示	選択した HPOM メッセージグループの詳細情報を表示します。

[アクション] メニュー: メッセージグループ (続き)

編集...	選択した HPOM メッセージグループの定義を変更します。
コピー...	既存のメッセージグループをコピーできるように、メッセージグループ編集ページを表示します。このページでは、コピー操作の実行中に詳細情報を変更できます。
削除...	HPOM 登録メッセージグループからメッセージグループを削除します。
ダウンロード...	HPOM データベースからメッセージグループの設定をダウンロードします。
ショッピングカートに追加	選択したメッセージグループをショッピングカートに追加します。ショッピングカートの内容をクリップボードディレクトリにダウンロードできます。クリップボードディレクトリからは、パッケージを任意の管理サーバーにアップロードしたり、単に後で適切な時間に使用するためにパッケージをアーカイブしておくことができます。

メッセージグループに対して実行できるアクションを一覧表示するには

選択したメッセージグループに対して実行できるアクションを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのメッセージグループ]**をクリックします。メッセージ (またはメッセージグループ) 数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. アクションの実行対象となるメッセージグループを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、上の表を参照してください。

関連項目

- [すべてのメッセージグループの一覧表示](#)
- [メッセージグループ設定詳細の参照](#)
- [メッセージグループ設定詳細の編集](#)

すべての HPOM ポリシー

[登録ポリシー] ページには、HP Operations 管理サーバー上で現在使用可能なすべてのポリシーとポリシーグループが表示されます。表示されるポリシーの数とタイプは、使用中の HPOM のバージョンによって異なります。**[登録ポリシー]** ページの情報は、下記の情報とともに表内に表示されます。**[名前]** カラムのタイトルをクリックすると、ポリシーの一覧を昇順または降順に並べ替えることができます。ポリシーで実行可能なアクションおよび参照可能な設定の詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ポリシーの一覧にフィルター処理をして表示される数を減らしたい場合は、一覧の上部にある[フィルタ]リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。幅広い条件(例、名前、タイプ、ラベル)に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

HPOM ポリシーの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のポリシーまたはポリシーグループを選択するためのチェックボックス。選択したポリシーまたはポリシーグループは、表の最下部にある[アクションを選択...]ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション(「コピー...」、「ポリシーグループに割り当て」など)の対象となります。
タイプ	アイコンによりポリシーのタイプを表します。ポリシーのタイプおよびそれを表すアイコンについては、「 ポリシータイプ 」の表を参照してください。
名前	ポリシーまたはポリシーグループの名前が表示されます。ポリシー名をクリックすると、選択したポリシーの詳細情報が表示されます。ポリシー名の横のアイコンのいずれかをクリックするとメニューが表示され、選択したポリシーの追加情報を参照したり、アクションを実行できます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したポリシーについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なポリシーの詳細情報については、「 ポリシー(グループ)の詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧で選択したポリシーに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ポリシー(グループ)詳細の設定 」を参照してください。
内容	ポリシーグループのみ。ポリシーグループ内のポリシーの数が表示されます。ポリシーの場合は、このカラムには何も表示されません。
バージョン	現在ノードに割り当てられて使用されているポリシーのHPOMバージョンを表示します。使用可能なポリシーバージョンを一覧表示するには、「 バージョン 」オプションを使用します。
最新	存在するポリシーの最新バージョンが表示されます。割り当て済みのポリシーと同じ場合は、2つのバージョン番号が同じになります。
Smart Plug-in	ポリシーが所属するSmart Plug-inがあれば、そのSmart Plug-inが表示されます。リンクをクリックすると、ポリシーが所属するSmart Plug-inの詳細が表示されます。
カテゴリ	一覧表示されているポリシーに割り当てられているカテゴリがあれば、そのカテゴリが表示されます。カテゴリとはノードまたはポリシーに割り当て可能な論理タグのことで、選択したノードまたはポリシーに適切なインストールメンテーションを自動で配布するのに使用します。リンクをクリックすると、選択したポリシーに割り当てられているカテゴリの詳細が表示されます。
詳細	ポリシーおよびポリシーグループの簡単な説明が表示され、ポリシーの内容を確認できます(例、「HP-UX 10.x/11.xでの不正ログオン履歴」)。

ポリシーを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーで使用可能なすべてのポリシーを一覧表示するには、次の手順を実行します。ポリシーおよびグループは、階層ツリーまたはフラットリストで一覧表示できます。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、ポリシーおよびポリシーグループを階層ツリーで表示する場合は **[登録ポリシー]** を、フラットな一覧で表示する場合は **[すべてのポリシー]** または **[すべてのポリシー グループ]** をクリックします。ポリシーおよびポリシーグループの数が多い場合は、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [ポリシー \(グループ\) 詳細の設定](#)
- [ポリシー \(グループ\) の参照](#)
- [ポリシータイプについて](#)
- [すべてのポリシーカテゴリの一覧表示](#)
- [ポリシー割り当ての更新](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

ポリシー詳細の表示

[ポリシー詳細の表示] ページには、選択したポリシーに関する詳細情報 (すべての条件など) が表示されます。条件は、最初の条件から順に1つずつ表示されます。左側で条件名をクリックすると、その条件が使用されているポリシーが強調表示されます。ポリシー内に表示されるノードとメッセージグループには、それぞれに対応するノード、ノードグループ、メッセージグループの詳細ページへのリンクが自動的に設定されます。

ポリシー詳細

ポリシー詳細	説明
属性	選択したポリシーに関する一般的な詳細情報。たとえば、名前、 ポリシータイプ (logfile、opcmsg など)、実行周期、ログファイルの場所、メッセージの生成に使用されるコードセットなどの情報が表示されます。詳細情報には、 割り当てられているカテゴリ に関する情報 (およびリンク) も含まれます。
メッセージ デフォルト	メッセージが HPOM メッセージブラウザに表示される場合に、選択したポリシーによるメッセージの生成に適用されるデフォルト属性の一覧。たとえば、メッセージの重要度、メッセージグループ、アプリケーション、一致しないメッセージを自動的に転送するかどうか、重複メッセージを除外するかどうかなどの属性があります。
メッセージ条件	ポリシーに定義されているすべての条件の一覧。たとえば、条件名と条件番号、条件に基づいて生成されるメッセージのテキスト、生成されるメッセージの重要度などの情報が表示されます。

ポリシーの詳細を表示するには

選択したポリシーの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのポリシー]**をクリックします。ポリシー数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 詳細を表示するポリシーを特定してクリックします。**[名前]**カラムヘッダーと**[タイプ]**カラムヘッダーをクリックすると、ポリシーの名前またはタイプで一覧をフィルター処理して、ポリシーを見つけるプロセスをより簡単にします。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能な設定アクションの一覧が表示されます。
5. **[表示]**をクリックすると、選択したポリシーの詳細が表示されます。

関連項目

- [カテゴリの一覧表示](#)
- [Smart Plug-in の一覧表示](#)

ポリシーまたはポリシーグループの詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン () を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン () を使用します。次の表は、HPOM ポリシー (またはポリシーグループ) について表示できる詳細を示しています。たとえば、ポリシーに割り当てられているノード (またはノードグループ) の一覧、ポリシー (またはグループ) が割り当てられているメッセージグループの表示などを確認できます。

ポリシーバージョンの一覧に表示されているポリシーの詳細を参照する場合、参照要求の結果は、選択したポリシーの一覧表示されているバージョンに限定されるという点に留意してください。たとえば、ポリシーの特定のバージョンの割り当てを参照すると、選択したポリシーバージョンの割り当てのみが表示されます。これは同じポリシーの他のバージョンの割り当てとは異なる場合があります。

[参照] メニュー: HPOM ポリシー

設定の詳細	説明
ポリシー	ポリシーグループに割り当てられているポリシーの一覧を表示します。
親ポリシーグループ	ポリシー (またはポリシーグループ) が所属するポリシーグループが表示されます。
ノード (グループ) の直接割り当て	選択したポリシーまたはポリシーグループが割り当てられているノードまたはノードグループの一覧を表示します。

[参照] メニュー: HPOM ポリシー (続き)

有効なノード割り当て	他のポリシーグループから継承された割り当てが一覧表示されます。
インストルメンテーション	選択したポリシーに関連付けられているインストルメンテーションの詳細を表示します。インストルメンテーションは次の場所に保存されています。/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/
カテゴリ	選択したポリシーが所属するカテゴリが一覧表示されます。
ポリシータイプ	選択したポリシーのポリシータイプの詳細を表示します。
Smart Plug-in	ポリシーが属す Smart Plug-in の詳細を表示します。
メッセージカタログ	選択したポリシーまたはポリシーグループのメッセージカタログを表示します。選択したポリシーのメッセージカタログには、選択したポリシーまたはポリシーグループが生成したすべてのメッセージが記録されています。
リソースカタログ	選択したポリシーまたはポリシーグループのリソースカタログを表示します。リソースカタログには、選択したポリシーまたはポリシーグループが参照するリソース(ログファイル、しきい値または SNMP トラップ)の一覧が記録されています。
通知カタログ	選択したポリシーまたはポリシーグループの通知カタログを表示します。通知カタログは、選択したポリシー(またはポリシーグループ)内のすべての条件の一覧です。これらの条件によってメッセージが通知 インタフェースまたはトラブルチケットシステムに転送されます。
指示カタログ	選択したポリシーまたはポリシーグループの指示カタログを表示します。指示カタログには、選択したポリシー(または選択したポリシーグループのポリシー)のすべての条件に関連付けられているすべての指示文が記録されています。
メッセージ相関処理	選択したポリシーまたはポリシーグループに相関されたメッセージを表示します。
バージョン	選択したポリシーのすべての HPOM バージョンを一覧表示します。

ポリシー (グループ) の詳細を参照するには

選択したポリシー(またはポリシーグループ)について参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照] メニューで、[すべてのポリシー] または [すべてのポリシー グループ] をクリックします。ポリシー(またはグループ)の数が多い場合、一覧を作成するのに多少時間がかかる場合があります。
3. 表示された一覧で、設定詳細を参照するポリシー(またはグループ)を特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能な設定詳細の一覧が表示されます。

- 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細に対応するオプションをクリックします。一部のメニューオプションは常に使用できるわけではありません。選択した HPOM ポリシーまたはポリシーグループのタイプによって、表示されるメニューオプションが変化します。使用可能なメニューオプションについては、上の表を参照してください。

関連項目

- [ポリシー \(グループ\) 詳細の設定](#)
- [ポリシータイプの表示](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

ポリシー (グループ) アクションの実行

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン () を使用すると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。いずれのオプションも使用できない場合は、ページタイトルの横にあるアクションボタン () を使用します。次の表は、HPOM ポリシー (またはポリシーグループ) に対して実行可能なアクションの一覧です。ポリシー (またはポリシーグループ) の内容の表示/編集、ポリシー割り当ての編集、ポリシーグループ間でのポリシーの移動などのアクションがあります。

ポリシーバージョンの一覧に表示されるポリシーに対して、次の表に記載されているアクションを実行した場合の結果は、一覧に表示されているバージョンに「限定」されるという点に留意してください。たとえば、ポリシーの特定のバージョンの割り当てを表示すると、選択したポリシーバージョンの割り当てのみが表示されます。これは同じポリシーの他のバージョンに設定されている割り当てとは異なる場合があります。

[アクション] メニュー: HPOM ポリシー (グループ)

アクション	説明
表示	選択したポリシーまたはポリシーグループの詳細情報を表示します。
表示 (Raw モード)	選択したポリシーファイルの内容を表示します。
編集...	編集のために選択したポリシーまたはポリシーグループを表示します。ポリシーでは、ポリシータイプを除くすべての詳細を変更できます。

[アクション] メニュー: HPOM ポリシー (グループ) (続き)

編集 (Raw モード)...	選択したポリシーのソースファイルを編集用を開きます。ポリシータイプを除くすべての情報を変更できます。また、ポリシー名は [プロパティ] タブの [名前] フィールドでのみ変更可能です。ポリシーの生データで名前を変更しないでください。Raw モードで新規ポリシーを追加する場合は、 [プロパティ] タブで指定するポリシー名は、 [内容] タブに表示されている生データ内で指定されている名前と「同じもの」にする必要があります。Raw モードでのポリシーの作成は、上級者以外にはお勧めできません。
ポリシーグループに割り当て...	ポリシーグループ階層が開き、選択したポリシーの割り当て先のポリシーグループを選択できます。割り当てには、現在表示されているポリシーのバージョンが使用されます。
コピー...	選択したポリシーまたはポリシーグループとその内容をコピーします。
ポリシーグループ構造をコピー...	選択したポリシーグループおよびすべての割り当てをノード、ノードグループ、ポリシー、ポリシーグループにコピーします。
ポリシーグループに移動...	選択したポリシー (またはポリシーグループ) を所属するポリシーグループから新規ポリシーグループに移動させます。選択したポリシー (またはポリシーグループ) は元の場所から削除されます。
ノード/ノードグループに割り当て...	選択したポリシー (またはポリシーグループ) をノード (またはノードグループ) に割り当てます。表示されているノードおよびノードグループ一覧から新規ノード (またはノードグループ) を選択できます。
カテゴリを割り当て...	選択したポリシーをカテゴリに割り当てます。カテゴリとはポリシー (またはノード) に割り当て可能な論理タグのことで、選択したノードまたはポリシーに適切なインストールメンテーションを自動で配布するのに使用します。
比較...	登録ポリシーを開き、類似したポリシー同士を比較できます。選択したポリシーがバージョンコントロールにチェックインされている場合は、選択したポリシーまたはポリシーグループのバージョンも比較できます。たとえば、Cron (10.x/11.x HP-UX) と Cron (RedHat Linux) の比較か、ポリシーバージョンの一覧で Cron (10.x/11.x HP-UX) バージョン 1.2 と Cron (10.x/11.x HP-UX) バージョン 1.1 の比較が可能です。ポリシーセレクトウインドウ内のフィルター処理機能を使用すると、ポリシーの HPOM バージョン (OM バージョン) と、バージョンコントロールシステム (VCS バージョン) にチェックインされているポリシーのバージョンの両方を表示、選択できます。
比較対象 (Raw モード)...	登録ポリシーを開き、類似したポリシー同士をテキスト形式で比較できます。選択したポリシーがバージョンコントロールにチェックインされている場合は、選択したポリシーのバージョンも比較できます。たとえば、Cron (10.x/11.x HP-UX) と Cron (RedHat Linux) の比較か、ポリシーバージョンの一覧で Cron (10.x/11.x HP-UX) バージョン 1.2 と Cron (10.x/11.x HP-UX) バージョン 1.1 の比較が可能です。ポリシーセレクトウインドウ内のフィルター処理機能を使用すると、ポリシーの HPOM バージョン (OM バージョン) と、バージョンコントロールシステム (VCS バージョン) にチェックインされているポリシーのバージョンの両方を表示、選択できます。

[アクション] メニュー: HPOM ポリシー (グループ) (続き)

削除...	選択したポリシー (またはポリシーグループ) の最新バージョンを一覧から削除します。
削除 (すべてのバージョンを含めて)...	選択したポリシーの現在バージョン、さらに存在する他のすべてのバージョンを一覧から削除します。
ダウンロード...	HPOM データベースからポリシー (またはポリシーグループ) の設定をダウンロードします。
ショッピングカートに追加	選択したポリシー (またはポリシーグループ) オブジェクトをショッピングカートに追加します。ショッピングカートの内容をクリップボードディレクトリにダウンロードできます。クリップボードディレクトリからはパッケージを任意の管理サーバーにアップロードしたり、単に後で適切な時間に使用するためにパッケージをアーカイブしておくことができます。

ポリシー (グループ) アクション一覧を表示するには

選択した HPOM ポリシー (またはポリシーグループ) に対して実行可能なアクションの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのポリシー]** (グループ、割り当て) をクリックします。
3. アクションの実行対象となる HPOM ポリシー、ポリシーグループ、またはポリシー割り当てを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。

関連項目

- [ポリシー \(グループ\) の参照](#)
- [ポリシータイプの表示](#)
- [ポリシー割り当ての更新](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

ポリシーの編集

[ポリシーの編集] ページには、HPOM ポリシーのパラメータが表示されます。このページを使用すると、既存のポリシーを変更し、HPOM 環境にポリシーを再配布できます。ポリシーを定義するときは、各種プロパティタブのフィールドに情報を入力します。情報の入力が必要なタブの数と種類は、変更す

るポリシーのタイプによって異なります。**ポリシー: [設定] タブ**の表は、ポリシータイプごとに必要とされる情報の概要を示しています。

既存のポリシーを変更するには

既存のポリシーを変更して、それをHPOMに再配布するには、次の手順を実行します。

1. **[参照]**メニューで、**[すべてのポリシー]**をクリックします。ポリシーの一覧から、変更するポリシーを選択します。**[アクション]**メニューで**[編集...]**オプションをクリックします。
2. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。たとえば以下のように、**[ポリシーの編集]**ウィンドウに表示されるタブの数と種類は、選択したポリシーのタイプによって異なります。
 - **プロパティ:**
変更するポリシーの名前やタイプなどの一般詳細情報。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細。
 - **ソース:**
ポリシーの情報ソース、ソースを読み取る頻度、重要視する情報、メッセージを生成してHPOMに送信するタイミングに関する情報。
 - **メッセージ デフォルト:**
生成されるメッセージのタイプに関する情報。メッセージに含まれるテキスト、重要度レベル、メッセージが属するメッセージグループなどの情報があります。メッセージ指示、使用するメッセージストリームインターフェイス、相関処理でメッセージを考慮するかどうかなどの情報を追加することもできます。
 - **条件:**
設定されているメッセージの条件の一覧。一覧内を上下に移動したり、条件または条件の一部を切り取る/貼り付けるには、アイコンを使用します。
 - **オプション:**
一致する(または一致しない)メッセージをログに記録するかどうか、およびメッセージを転送するかに関する情報です。
3. ポリシーを変更したら、以下のボタンをクリックしてポリシーの詳細を保存または破棄します。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符(!)が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、新しいポリシーの定義を保存します。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]**ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ]オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます(作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、作成したポリシーのバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「**すべての復元ポイント(バックアップ)の一覧表示**」を参照してください。

- キャンセル
ポリシーに加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [新しいポリシーグループ](#)

ポリシーの比較

[**ポリシーの比較**] ページでは、類似したポリシー同士を比較できます。選択したポリシーがバージョンコントロールにチェックインされている場合は、選択したポリシーのバージョンも比較できます。たとえば、ポリシー Cron (10.x/11.x HP-UX) と類似ポリシー Cron (RedHat Linux) を比較したり、ポリシーバージョンの一覧で、Cron (10.x/11.x HP-UX) バージョン 1.2 と Cron (10.x/11.x HP-UX) バージョン 1.1 を比較できます。

ポリシー比較機能は、比較しているポリシーに差異のある箇所、さらに、それがどの程度の差異であるかを色分けして表示します。次の表は、比較対象ポリシー間の差異を表す色の意味を示しています。

ポリシーの差異: 色付け

テキストの色	説明
黄	オレンジ色のテキストは、「変更された」テキストを表します。これは、比較しているポリシーの間で変更されたテキストです。
赤	赤色のテキストは、「新しい」テキストを表します。これは、選択したポリシーに追加されたテキストです。
緑	緑色のテキストは、「古くなった」テキストを表します。これは、選択したポリシーから削除されたテキストです。

2つのポリシーを比較するには

確認のために2つのポリシーを比較して差異を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOMアイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [**参照**]メニューで、[**すべてのポリシー**]をクリックします。ポリシー数が多いときは、ポリシーの一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 比較する2つのHPOMポリシーの最初のポリシーを特定し、選択します。
4. アクションボタン()をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、[**比較対象...**]をクリックします。[**比較対象 (Raw モード)...**]オプションを使用することで、差異をテキスト形式で比較できます。ただし、Raw モードでのテキスト形式のポリシーの操作は、上級者以外にはお勧めできません。

6. **[セレクト]** ウィンドウで **[登録ポリシー]** または **[すべてのポリシー]** をクリックし、比較する2番目のポリシー (またはポリシーグループ) を特定します。
7. **[OK]** をクリックします。ブラウザウィンドウに比較結果が並んで表示されます。差異を表す色の意味については、上の表を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシーの表示](#)
- [すべてのポリシータイプの表示](#)
- [ポリシー \(グループ\) に対するアクションの実行](#)
- [ポリシー \(グループ\) の参照](#)

パターンのテスト

[[パターンのテスト](#)] ページでは、モニター対象アプリケーションによってログファイルに書き込まれるエントリを HP Operations Manager がモニターする方法を改善するための、パターンマッチングのルールの設定およびテストが可能です。その後、アプリケーションログファイルをモニターするポリシーにパターンマッチング文字列を適用してから、ポリシーを管理対象ノードに配布します。条件にパターンマッチングを追加することで、モニター中のログファイル内の最も重要なエントリをより正確に指定できます。このページを使用して、モニター中のログファイルへの変更をモニターする方法を調整します。以下の表には、ログファイルエントリポリシーのパターンマッチング文字列を作成、変更、テスト、削除するのに役立つ情報が記載されています。

ログファイルポリシー: [[パターンのテスト](#)] ページの使用

インタフェース要素	アクションの詳細
条件のパターン	編集中のログファイルエントリポリシーにあるパターンマッチングルールの条件の一覧です。
リセット	ポリシーから元の条件をロードします。条件内のパターンに変更を加えた後で、元の状態に戻したい場合に便利です。
検証	新しいパターン、修正したパターンの構文エラーテストを行います。エラーの原因となった条件および文字が表示されます。エラーとなった条件にマウスのカーソルを合わせた際に表示されるツールチップに、より詳しい情報が表示されます。
テスト	アップロードしたファイル内のデータにパターンのクイックテストを実行します。テストは、 [データのテスト] ウィンドウに表示されているファイルの一部に対してのみ実行されます。デフォルトでは20行分表示されますが、50行または100行 (最大) まで拡張可能です。マッチした箇所があるとその時点でテストが停止し、結果テーブルにテストの結果が表示されます。

ログファイルポリシー: [パターンのテスト] ページの使用 (続き)

OK	現在編集中のログファイルエントリポリシーに、定義済みのパターンマッチングルールを適用します。変更をポリシーにコミットする前に、ポリシー自体を別に保存しておく必要があります。
キャンセル	すべての変更点を破棄し、パターンテストのエディタを閉じます。
データのテスト	テスト対象のデータを表示します。デフォルトでは、20行が表示されます。50行/ページまで拡張可能です。[データのテスト] ウィンドウに表示されているこれらの行のみがテスト対象になります (20、50、100行)。最大値は100行です。ファイルに変更を加えることで、仮定の場合をテストできます (マッチングが多すぎるまたは少なすぎるのを防ぎます)。ただし、変更した行とは別のページに移動したり、エディタを閉じたりすると、その時点でファイルへの変更点が失われます。
結果テーブル	パターンマッチングテストの結果を表示します。アップロードされたログファイルのうち、定義したルールに指定されたパターンにマッチする箇所が表示されます。結果では、ログファイル内のマッチした行、マッチした内容、およびマッチの原因となった条件が表示されます。[<] および [>] ボタンを使用すると、現在表示されている結果ページの冒頭および末尾にジャンプできます。結果テーブル内の行を選択すると、選択した行内でマッチした変数があればその変数と、マッチした変数の値が (テーブルの下に) 表示されます。[結果テーブル] に表示された情報を使用することで、ログファイルエントリの項目により正確にマッチする条件を微調整できます。
アクションドロップダウンメニュー: ローカルコンピュータからファイルをアップロード...	ファイルアップロードダイアログが開きます。このダイアログを使用すると、ブラウザセッションを実行中のマシン上のファイルシステムからアップロードするログファイルを特定できます。アップロードするファイルには、新規または修正済みのパターンマッチングルールをテストに使用するデータが含まれています。

ログファイルエントリポリシー内のパターンをテストするには

ログファイルエントリポリシーで定義するパターンをテストするには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照] メニューで、[すべてのポリシー] をクリックします。
3. ポリシーを logfile_entry タイプでフィルターし、表示されたポリシー一覧で、条件をテストするログファイルを特定してクリックします。
4. 表示されたログファイルのページで、アクション () メニューの [編集] オプションをクリックします。
5. [条件] タブの [パターンのテスト] ボタンをクリックします。パターンテストエディタは別のポップアップウィンドウに表示されます。ウィンドウが表示されない場合は、HP Operations Manager サーバーからブラウザでポップアップウィンドウを許可していることを確認します。
6. 対応する [条件のパターン] フィールドに、各条件でテストするパターンを入力します。

7. 新しいパターンのテストに使用するログファイルをロードします。テストログファイルはローカルのファイルシステム (ブラウザを実行中のマシン) または HP Operations Manager 管理サーバー上のファイルシステムからロードできます。
8. パターンマッチングが予想どおりに動作する場合は、以下のオプションを使用して、現在選択しているログファイルエントリポリシーに変更を加えることができます。
 - OK
現在のセッションで行った変更をすべて保存し、パターンテストウィンドウを閉じます。
 - キャンセル
現在のセッションで行った変更をすべて破棄し、パターンテストウィンドウを閉じます。

関連項目

- [\[メッセージポリシーの条件\] タブ](#)
- [新しいメッセージポリシー条件の追加](#)

メッセージソースポリシーにおけるパターンマッチ

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。以下のテーブルは、パターンマッチルールの定義に使用する構文に使用できる文字のタイプの一覧です。

メッセージソースポリシー: パターンマッチルール

要素	説明	例
通常文字	通常文字は、文字そのものを表す表現です。サポートしているキャラクタセットのすべての文字を使用できます。	A、a、Z、z、やすべての特殊文字を使用できます。ただし、特殊文字 [] < > ^ \$ を通常文字として使用するには、直前に円記号 (\) を指定して特殊性をマスクする必要があります。アンカー文字 (表現の先頭または末尾の文字) として使用しない場合は、^ および \$ は通常文字として扱われます。
マスク演算子	円記号 (\) は、文字 [] < > ^ \$ の特殊な意味をマスクするのに使用されます。円記号 (\) が前に付いた特殊文字は、特殊文字そのものとマッチする式として認識されます。	\\ (\ と解釈) または \[([と解釈)
アンカー文字	表現の先頭および末尾の文字列とマッチさせるときは、それぞれキャレット (^) とドル記号 (\$) を使用します。	「^ab」は、行「abcde」の「ab」とはマッチしますが、行「xabcde」の「ab」とはマッチしません。「de\$」は、行「abcde」の「de」とはマッチしますが、行「abcdex」の「de」とはマッチしません。

メッセージソースポリシー: パターンマッチルール (続き)

複数の文字に マッチ	パターンを使用すると、任意の数の文字から成る文字列をマッチさせることができますが、以下の式を1つ以上使用する必要があります。	*n*#n#-n_@
角かっこ	角かっこ ([および]) は、グループ表現の区切り文字として使用されます。パフォーマンスを向上させるために、必要のない場合は角かっこの使用は避けます。角かっこで囲まれた式は、通常、選択演算子および NOT 演算子とともに使用されます。また、値を変数に割り当てる際にも角かっこをしばしば使用します。	パターン [ab c]d は文字列「abd」および文字列「cd」にマッチします。
選択演算子	縦棒の選択演算子 () で区切られた2つの表現は、いずれかの表現とマッチする文字列とマッチします。	パターン [ab c]d は文字列「abd」および文字列「cd」にマッチします。
変数への代入	<*> や<#> などの単一の表現を使用できるだけでなく、変数に文字列を代入することもできます。また、変数代入演算子を用いて、多数の演算子で構成される複雑なサブパターンを作成することもできます。変数代入演算子を他のかっこ式で使用する場合は、角かっこを使用します。	<[Warning Error].var> は、メッセージテキスト内の文字列「Warning」または「Error」にマッチし、文字列「Warning」を「var」に代入します。
NOT 演算子	NOT 演算子を使用すると、文字列にマッチしないテキストにマッチできます。NOT 演算子を使用する場合は必ず角かっこで区切ります。	<![WARNING]> は文字列「WARNING」を含まないすべてのテキストにマッチします。
数値の範囲	数字の範囲を定義するパターンは、「より大きい」や「等しい」などの演算子で区切ります。	-le (以下)、-lt (より小さい)、-ge (以上)、-gt (より大きい)、-eq (等しい)、-ne (等しくない)。
セパレータ	セパレータを使用すると、メッセージテキスト内の文字またはテキストブロックを区切ることができます。	-n (改行)、-r (キャリッジリターン) または -t (タブ文字)。

関連項目

- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

選択演算子

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。次の表は、選択演算子と、パターンマッチルールを定義する際に従わなければならない構文について説明しています。

縦棒の選択演算子 (|) で区切られた2つの表現は、いずれかの表現とマッチする文字列とマッチします。この演算子を使用することで、1つの長い文字列を使用して、複数の文字列とマッチさせることができます。

メッセージソースパターンマッチ: 選択演算子

演算子	説明	例
	縦棒の選択演算子 () で区切られた2つの表現は、いずれかの表現とマッチする文字列とマッチします。	[abc]d は、文字列「abd」および「cd」とマッチします。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

アンカー文字

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

表現の先頭および末尾の文字列とマッチさせるときは、それぞれキャレット (^) とドル記号 (\$) を使用します。次の表は、メッセージソースポリシーのパターンマッチに使用できるアンカー文字と、使用時に従わなければならない構文を示しています。

メッセージソースパターンマッチ: アンカー演算子

演算子	説明	例
^	表現の先頭の文字列とマッチさせます。	^ab は、行「abcde」の「ab」とはマッチしますが、行「xabcde」の「ab」とはマッチしません。
\$	表現の末尾の文字列とマッチさせます。	de\$ は、行「abcde」の「de」とはマッチしますが、行「abcdex」の「de」とはマッチしません。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

変数への代入

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

<*> や <#> などの単一の表現を使用できるだけでなく、変数に文字列を代入することもできます。また、変数代入演算子を用いて、多数の演算子で構成される複雑なサブパターンを作成することもできます。変数代入演算子でかっこ表現を使用する場合は、角かっこを使用します。たとえば、<[Warning|Error].var> は、メッセージテキストに含まれる文字列「Warning」または「Error」にマッチし、マッチした文字列 (Warning または Error) を「var」に代入します。

値がマッチした文字列を変数に代入する場合の基本パターンは、<[サブパターン].var> です。たとえば、<[<@>file.tmp].fname> のように指定します。この例では、「file」と「tmp」の間のピリオド (.) はドット文字として扱われますが、「]」と「fname」の間のピリオドは必須構文です。この例のパターンは、「Logfile.tmp」などの文字列にマッチし、その文字列そのものを変数「fname」に代入します。

メッセージソースパターンマッチ: 変数への代入

演算子	説明	例
*	サブパターン内の文字列とマッチさせ、マッチ結果を変数に代入します。	
#	サブパターン内の数字とマッチさせ、マッチ結果を変数に代入します。	

<[Warning|Error].var> の例では、パターンはメッセージテキストに含まれる文字列インスタンス「Warning」または「Error」にマッチします。メッセージテキストが「Warning and Error: Shutdown」の場合は、文字列「Warning」が変数「var」に代入されます。代入されるのは、最初にマッチした文字列インスタンスです。

<[Error[<#.n><*.msg>]].complete> の例では、「Error」という単語の後に数字が続くすべての行で、その数字を変数「n」に代入し、その後続くテキストを変数「msg」に代入します。そのうえで、数字 (変数「n」内) とテキスト (変数「msg」内) の両方を変数「complete」に代入します。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

角かっこ

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

角かっこ ([および]) は、グループ表現の区切り文字として使用されます。パフォーマンスを向上させるために、必要のない場合は角かっこの使用は避けます。角かっこで囲まれた式は、通常、[選択演算子](#)および NOT 演算子とともに使用されます。また、[変数代入演算子](#)との組み合わせもよく使用されます。

メッセージソースパターンマッチ: 角かっこ演算子

演算子	説明	例
[グループ表現の開始を示します。	[ab]cd は、文字列「abd」および「cd」にマッチします。
]	グループ表現の終了を示します。	[ab]cd は、文字列「abd」および「cd」にマッチします。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

マスク演算子

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

円記号 (\) は、特殊文字 [] < > | ^ \$ の特殊な意味のマスキングに使用されます。これらの特殊文字の直前に円記号 (\) を指定すると(たとえば、\|)、パターンマッチ表現は、その特殊文字自体(この例では「|」)にマッチします。^ および \$ が特殊な意味を持つのは、それぞれがパターンの先頭または末尾に指定された場合のみであるため、パターンの内側(つまり、先頭と末尾以外)で使用する場合は、マスキングの必要はありません。パターンマッチ表現でタブ文字を使用するときは、\t を使用します。

メッセージソースパターンマッチ: 角かっこ演算子

演算子	説明	例
\	特殊文字の特殊性をマスクします。「マスクされた文字」は、通常文字として扱われます。	\\ (解釈は \)、\^ (解釈は ^)、\\$ (解釈は \$) など。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

複数の文字にマッチ

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

パターンを使用することで、任意の数の文字から成る文字列にマッチさせることができますが、* n* # n# -n_@ のうち1つ以上の表現を使用する必要があります。

メッセージソースパターンマッチ: 複数文字演算子

演算子	説明	例
<*>	セパレータを含むゼロ個以上の任意の文字にマッチします。	
<n*>	セパレータを含むn個の任意の文字にマッチします。	
<#>	1桁以上の数字にマッチします。	
<n#>	n桁の数字にマッチします。	
<->	1文字以上のセパレータ文字にマッチします。セパレータ文字はパターンごとに設定できます。デフォルトでは、セパレータは空白とタブ文字です。	<_> は、任意の1つのセパレータ文字にマッチします。
<n_>	n個のセパレータにマッチします。セパレータ文字はパターンごとに設定できます。デフォルトでは、セパレータは空白とタブ文字です。	<2_> は2文字のセパレータ文字にマッチします。
<@>	セパレータ文字を含まない任意の文字列 (セパレータ以外の連続する1つ以上の文字)にマッチします。単語にマッチさせる場合に使用できます。<@> と<_> は、それぞれを変数に代入する必要がある、連続する単語から構成される入力行にマッチさせるように設計されています。	^Error 101: <@.date><_ ><@.node><_ ><@.errid><_ ><*.msg> この表現は、次のエラーメッセージにマッチします。 "Error 101: 4/9/93 nd001 101_2534 Couldn't write log file"

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

NOT 演算子

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

NOT 演算子 (!) は、特定の文字、数字、または複雑な文字列を含まない文字列の検索とマッチングに使用できます。NOT 演算子 (!) は、範囲指定の角括弧と組み合わせて使用する必要があります。たとえば、`<![WARNING]>` は、「WARNING」という文字列を含まないすべてのテキストにマッチします。

メッセージソースポリシー: パターンマッチルール

演算子	説明	例
!	特定の文字、数字、または複雑な文字列を含まないパターンにマッチさせることができます。	SU <code><*></code> + <code><@.tty></code> <code><![root [user[1 2]]].from>-<*.to></code> は、root ユーザー、user1、または user2 以外の任意のユーザーの「ユーザー切り替え」メッセージを生成します。つまり、このパターンはメッセージ SU 03/25 08:14 + ttyp2 user11-root にはマッチしますが、メッセージ SU 03/25 08:14 + ttyp2 user2-root には「user2」への参照が含まれるためマッチしません。

NOT 演算子を使用するときは、キャレット (^、行頭) またはドル記号 (\$、行末) を明示的に指定して否定しない限り、すべてのパターンの前後にワイルドカード (*) が指定されているものと見なされるので注意してください。つまり、`<![backup completed].text>` というパターンは、実際には `<*><![backup completed].text><*>` として評価されます。パターンの各部分は、できるだけ少ない文字とのマッチを試みるため、これによって予期せぬ結果が生じる可能性があります。

たとえば、「The backup failed at 2:42」という文字列は、パターン `<![backup completed].text>` にマッチします。しかし、パターンの最後に `<*>` が指定されているものと見なされるため、変数「text」には値は割り当てられず、空のままです。

文字列「The backup failed at 2:42」は、パターン `<![backup completed].text>$` にもマッチします。この場合は、NOT 演算子が適用される文字列が「\$」で区切られているため、変数 text の値は「The backup failed at 2:42」となります。

NOT 演算子 (!) を含むサブパターンとのマッチが見つからない場合、NOT 演算子は `<*>` のように機能します。つまり、ゼロ個以上の任意の文字にマッチすることになります。このため、HPOM では UN*X 表現「`[!123]`」を重複させることはできません。HPOM の `<![1|2|3]>` は、1、2、3 以外の任意の 1 文字、または任意の個数の文字にマッチし、UN*X 演算子は 1、2、3 以外の任意の 1 文字にマッチします。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

数値の範囲

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。以下のテーブルは、パターンマッチルールの定義に使用する構文に使用できる文字のタイプの一覧です。

数値の範囲は数字の範囲を定義するパターンであり、「より大きい」や「等しい」などの演算子で区切ります。例、-le (以下)、-lt (より小さい)、-ge (以上)、-gt (より大きい)、-eq (等しい)、-ne (等しくない)。

メッセージソースパターンマッチ: 数値演算子

演算子	説明	例
-le	以下	<<#> -le 45> は、45 以下の数字を含むすべてのメッセージにマッチします (メッセージの例、ATTENTION: Error 40 has occurred)。パターン内の数字 45 は実際の数値であり、文字列ではありません。「4545」などの45 よりも大きい数字は、たとえ「45」の組み合わせを含んでいてもマッチしません。
-lt	より小さい	<15 -lt <2#> -le 87> は、最初の2桁の数字が16 ~ 87 の範囲にあるメッセージにマッチします。たとえば、メッセージ Error Message 3299 はマッチしますが、文字列 Error Message 9932 はマッチしません。また、「より小さい」演算子は開区間とも呼ばれます。また、「以下」演算子は閉区間を作成します。
-ge	以上	^ERROR_<57 -ge <#.err>> は、文字列「ERROR_」で始まっていて、そのすぐ後に57以下の数字が続くテキストにマッチします。たとえば、メッセージ ERROR_34: processing stopped にマッチし、文字列「34」が変数「err」に代入されます。「^」式アンカーを使用すると、文字列「ERROR_34」が行頭にある場合にのみマッチします。

メッセージソースパターンマッチ: 数値演算子 (続き)

-gt	より大きい	<120 -gt [<#>1] -gt 20> は最後の桁に 1 を持つ 21 から 119 までのすべての数字にマッチします。たとえば、21、31、41、101 ... 111 といった数を含むメッセージです。あるいは、「Temperature <*> <@.plant>: <<#> -gt 100> F\$」の例では、「Actual Temperature in Building A: 128 F」といった文字列にマッチし、文字「A」が変数「plant」に代入されます。「\$」式アンカーの使用に注意してください。また、「より大きい」演算子は开区間とも呼ばれます。また、「以上」演算子は閉区間を作成します。
-eq	等しい	Error <<#> -eq 1004> は、文字列「Error」の後に数字列「1004」が続くテキストを含むメッセージにマッチします。たとえば、Warning: Error 1004 has occurred はこのパターンにマッチします。ただし、Error 10041 はマッチしません。
-ne	等しくない	WARNING <<#> -ne 107> は、文字列「WARNING」に空白と「107」以外の 1 桁以上の数字が続くテキストを含むメッセージにマッチします。たとえば、メッセージ Application Enterprise (94/12/45 14:03): WARNING 3877 はマッチします。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

通常文字

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージ (またはメッセージ内の文字列) をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

通常文字は、文字そのものを表す表現です。サポートしているキャラクタセットのすべての文字を使用できます。A、a、Z、z など以外に、すべての特殊文字を使用できます。ただし、特殊文字 [] < > | ^ \$ を通常文字として使用するには、直前に円記号 (\) を指定して特殊性をマスクする必要があります。表現のアンカー文字 (表現の先頭または末尾の文字) として使用しない場合は、^ および \$ は通常文字として扱われます。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

セパレータ

HPOM メッセージソースポリシー内でパターンマッチルールを使用することで、特定のメッセージやメッセージ内の文字列をターゲットにしたり、メッセージブラウザに転送するカスタムメッセージを作成できます。

メッセージテキストパターン内では、フィールドセパレータはセパレータ文字として使用されます。最大 7 個のセパレータを指定できます。セパレータは、文字列中に空白文字なしで入力します。次の各セパレータの先頭には円記号が指定されていますが、1 つのセパレータ文字としてカウントされます。

メッセージソースパターンマッチ: セパレータ演算子

演算子	説明
\n	改行 (NL)
\t	水平タブ (HT)
\v	垂直タブ (VT)
\b	バックスペース (BS)
\r	キャリッジリターン (CR)
\f	フォームフィード (FF)
\a	アラート (BEL)
\\	バックスラッシュ (円記号) (\)

デフォルトのセパレータは、空白文字と水平タブ文字です。

関連項目

- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)
- [新しいポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)

メッセージソースポリシーにおける変数

HPOM メッセージソースポリシーで HPOM 変数とユーザー定義の変数を使用して、たとえば、新しいポリシーによって生成されたメッセージを組み立てたり、外部アプリケーションで使用する場合は、指示文インターフェースを使用してパラメータをアクション呼び出しに渡したりできます。HPOM 変数は、これ以外の目的 (ユーザー定義変数の作成など) には使用できません。

次の表に示す変数は、ログファイル、HPOM インタフェース、しきい値モニター、SNMPトラップのポリシー設定ダイアログのほとんどのフィールドとテキスト入力ボックスで使用できます。変数は HPOM 内

で使用できるほか、外部プログラムに渡すこともできます。正常に処理するには、山かっこ「<」および「>」内に入力する必要があります。詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。

メッセージソースポリシー: 一般的な HPOM 変数

変数名	説明
<\$MSG_APPL>	メッセージに関連付けられているアプリケーションの名前を返します。この名前は、[ポリシーの編集] ダイアログボックスの[メッセージ デフォルト] セクションで設定します。ただし、コンソールメッセージがこのフィールドの値をすでに持っている場合は、[ポリシーの編集] ダイアログボックスに入力しても <\$MSG_APPL> は上書きされません。この変数はログファイルポリシーでは使用できません。出力例: /usr/bin/su(1) Switch User。
<\$MSG_GEN_NODE>	メッセージを送信したノードの IP アドレスを返します。出力例: 14.136.122.123 (IPv4 の場合)、fec0::94f6:cff:fe4d:ccdd (IPv6 の場合)
<\$MSG_GEN_NODE_NAME>	メッセージを送信したノードの名前を返します。出力例: gfn.gfn.com
<\$MSG_GRP>	[ログファイルエントリポリシー]、[ポリシーの編集]、または [オープンメッセージ インタフェース] ダイアログボックスの[メッセージ デフォルト] セクションに設定された、メッセージのデフォルトのメッセージグループを返します。出力例: Security
<\$MSG_ID>	メッセージエージェントが生成したメッセージの一意的な ID 番号を返します。(除外されたメッセージは ID を持ちません。)出力例: 6e998f80-a06b-71d0-012e-0f887a7c0000。
<\$MSG_NODE>	メッセージの送信元ノードの IP アドレスを返します。出力例: 14.154.162.13 (IPv4 の場合)、fec0::94f6:cff:fe4d:ccdd (IPv6 の場合)。
<MSG_NODE_ID>	イベントが発生したノードの名前を返します。出力例: richie.c.com。この変数は [サービス名] フィールドでのみ使用できます。
<\$MSG_NODE_NAME>	メッセージの送信元ノードの名前を返します。これは、ノードのネームサービスによって返される名前です。出力例: geefn.gfn.com
<\$MSG_OBJECT>	イベントに関連付けられているオブジェクトの名前を返します。これは、[SNMP インターセプタポリシー] ダイアログボックスの[メッセージ デフォルト] セクションで設定されます。この変数は条件ウィンドウで設定したオブジェクトではなく、デフォルトのオブジェクトを返します。この変数はログファイルポリシーでは使用できません。
<\$MSG_SERVICE>	メッセージに関連したサービス名を返します。この変数は、自動アクションとオペレータ起動アクションでも使用できます。出力例: Application_Server
<\$MSG_SEV>	メッセージの重要度のデフォルト値を返します。これは、[ログファイルエントリポリシー]、[ポリシーの編集]、または [オープンメッセージ インタフェース] ダイアログボックスの[メッセージ デフォルト] セクションで設定されます。出力例: Normal

メッセージソースポリシー: 一般的な HPOM 変数 (続き)

<\$MSG_TEXT>	メッセージのオリジナルテキストを返します。これは、各条件内のメッセージテキストパターンにマッチしたソーステキストです。しきい値モニターポリシーで使用すると、この変数は空の文字列を返します。出力例: SU 03/19 16:13 + ttyp7 bill-root
<\$MSG_TIME_CREATED>	メッセージが作成された時間を、1970 年 1 月 1 日からの秒数で返します。出力例: 950008585
<\$MSG_TYPE>	[ポリシーの編集] ダイアログボックスの [条件] タブから開く [条件番号] ウィンドウで設定されているメッセージタイプのデフォルト名を返します。
<\$OPTION(N)>	opcmsg または opcmon (例、<\$OPTION(A)> <\$OPTION(B)>) によって設定したオプション変数の値を返します。この変数の設定方法については、opcmsg (1) または opcmon (1) のマニュアルページを参照してください。

メッセージソースポリシーの特定のタイプ (例、ログファイル、SNMPトラップ) の設定時に表示される各種フィールドおよびテキストボックスで変数を使用する方法についての詳細は、以下の関連項目の一覧を参照してください。

関連項目

- [SNMPトラップポリシーでの変数の使用](#)
- [スケジュール済みアクションポリシーでの変数の使用](#)
- [ポリシーアクションでの変数の使用](#)
- [ログファイルポリシーでの変数の使用](#)
- [しきい値ポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)

ログファイルエントリポリシーにおける変数

次の変数は、ほとんどのログファイルポリシーのフィールドとテキストボックスで使用できます。変数は HPOM 内で使用できるほか、外部プログラムに渡すこともできます。

ログファイルエントリポリシー: 使用可能な変数

変数名	説明
<\$1>	Windows イベント ログのみ。Windows イベントの一部である、1 つまたは複数の使用可能パラメータを返します。(<\$1> は最初のパラメータを返し、<\$2> は 2 番目のパラメータを返します。)

ログファイルエントリポリシー: 使用可能な変数 (続き)

<\$EVENT_ID>	Windows イベント ログのみ。Windows イベントのイベント ID を返します。<\$EVENT_ID> は、複数行のイベント ログメッセージの処理を簡略化します。イベントを一意に識別するには、イベントの [ソース] フィールドの情報と <\$EVENT_ID> が必要です。出力例: 0x0000600F
<\$LOGFILE>	モニター対象ログファイルの名前を返します。出力例: sulog
<\$LOGPATH>	モニター対象ログファイルの完全パスを、ファイル名を含めて返します。出力例: /var/adm/sulog

関連項目

- [SNMPトラップポリシーでの変数の使用](#)
- [スケジュール済みアクションポリシーでの変数の使用](#)
- [ポリシーアクションでの変数の使用](#)
- [しきい値ポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)

メッセージソースアクションにおける変数

次の変数は、オペレータ起動アクションを定義するときに [ノード] フィールド (テキストボックス) でのみ使用できます (変数 <\$OPC_MGMTSVL> は、すべてのフィールドで使用できます。)。変数 <\$OPC_MGMTSVL>、<\$OPC_Administration UI_CLIENTL> および <\$OPC_Administration UI_CLIENT_WEBL> は、山かっこ「<」、>」で囲む必要があります。変数を文字列の一部として使用したり、ネストすることはできません。

メッセージソースポリシー: ポリシーアクションにおける変数

変数名	説明
<\$OPC_ENV(環境変数)>	HPOM を起動したユーザーの環境変数の値を返します。この変数はオペレータ起動アクションでのみ使用できます。これは、アクション呼び出しで解決されます。出力例: PATH, NLS_LANG, EDITOR, SHELL, HOME, TERM。たとえば、SHELL が /usr/bin/ksh に設定されており、オペレータ起動アクションとして echo \$OPC_ENV(SHELL) を設定した場合、オペレータ起動アクションとして echo /usr/bin/ksh コマンドが実行されます。
<\$OPC_GUI_CLIENT>	Java GUI が現在実行されているクライアントで、アプリケーションまたはアクションを実行します。Java GUI クライアントが現在実行されていない場合、アプリケーションまたはアクションは管理サーバーで起動されます。
<\$OPC_GUI_CLIENT_WEB>	Java GUI が現在実行されているクライアント上の Web ブラウザを起動します。Java GUI クライアントが現在実行されていない場合、Web ブラウザは管理サーバーで起動されます。

メッセージソースポリシー: ポリシーアクションにおける変数 (続き)

<\$OPC_MGMTSV>	現在の HP Operations 管理 サーバーの名前を返します。この変数はアクションに関係するすべてのフィールドで使用できます。出力例: gfn.gfn.com
\$OPC_USER	現在、管理サーバーにログオンしている HPOM ユーザー名を返します。この変数はオペレータ起動アクションでのみ使用できます。これは、アクション呼び出しで解決されます。出力例: opc_adm

関連項目

- [SNMPトラップポリシーでの変数の使用](#)
- [スケジュール済みアクションポリシーでの変数の使用](#)
- [ログファイルポリシーでの変数の使用](#)
- [しきい値ポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)

スケジュール済みアクションポリシーにおける変数

次の変数は、スケジュール済みアクションポリシーの[スケジュール済みアクション-開始(成功、失敗)メッセージ]ウィンドウで使用できます。変数はHPOM内で使用できるほか、外部プログラムに渡すこともできます。

スケジュール済みアクションメッセージソースポリシー: 使用可能な変数

変数名	説明
<\$PROG>	スケジュール済みアクションポリシーによって実行されるプログラムの名前を返します。出力例: opcsv
<\$USER>	スケジュール済みアクションの実行に使用されるユーザーの名前を返します。出力例: root

関連項目

- [SNMPトラップポリシーでの変数の使用](#)
- [ポリシーアクションでの変数の使用](#)
- [ログファイルポリシーでの変数の使用](#)
- [しきい値ポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)

SNMP トラップポリシーにおける変数

以下に一覧表示されている変数は、SNMPトラップメッセージソースポリシーの設定の際に表示される大部分のフィールドおよびテキスト入力ボックスで使用できます(使用できないものについては別途記載)。変数はHPOM内で使用できるほか、外部プログラムに渡すこともできます。

SNMPトラップポリシー: 使用可能な変数

変数名	説明
< \$# >	企業固有のSNMPトラップ内の変数の数を返します(一般トラップ6企業固有ID)。出力例: 2
< \$* >	トラップに割り当てられたすべての変数を返します。出力例: [1] .1.1 (OctetString): arg1 [2] .1.2 (OctetString): kernighan.c.com
< \$@ >	イベントが受信された時間を、時間表現を使用して、エポック(1970年1月1日)からの秒数で返します。出力例: 859479898
< \$1 >	SNMPトラップの一部である、1つまたは複数の使用可能なトラップパラメータを返します。(< \$1 > は最初の変数を返し、 < \$2 > は2番目の変数を返します。)
< \$ > 1 >	nより大きなすべての属性を値の文字で返します。これは、引数の変数値を出力する場合に便利です。 < \$ > 0 > は、シーケンス番号、名前、タイプのない \$* と等価です。出力例: geefn.gfncom
< \$ > + 1 >	nより大きなすべての属性を名前: 値文字で返します。出力例: .1.2: geefn.gfncom
< \$+ 2 >	n番目の変数バインディングを名前: 値で返します。(このパラメータは、Commandフィールドでは有効になりません。)出力例: .1.2: geefn.gfncom
< \$ > - n >	nより大きなすべての属性を、[シーケンス番号] 名前 (タイプ): 値文字で返します。出力例: [2] .1.2 (OctetString): geefn.gfncom
< \$- 2 >	n番目の変数バインディングを、[シーケンス番号] 名前タイプ: 値で返します。(このパラメータは、Commandフィールドでは有効になりません。)出力例: [2] .1.2 (OctetString): geefn.gfncom
< \$A >	トラップを作成したノードを返します。出力例: geefn.gfncom
< \$C >	トラップのコミュニティを返します。出力例: public
< \$E >	トラップの企業IDを返します。出力例: private.enterprises.hp.nm.OpMgt.hpOpMgt
< \$e >	企業オブジェクトIDを返します。出力例: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1
< \$F >	イベントが転送された場合の、リモート pmd のマシンのテキスト名を返します。出力例: geefn.gfncom

SNMP トラップポリシー: 使用可能な変数 (続き)

<\$G>	一般トラップ ID を返します。出力例: 6
<\$N>	Event Configurator で定義した、イベントのフォーマット化に使用されるイベントフォーマット仕様のイベント名 (テキストの別名) を返します。出力例: OM_Node_Down
<\$O>	イベントの名前 (オブジェクト ID) を返します。出力例: private.enterprises.hp.nm.opmgt.hpOpMgt.0.58916872
<\$o>	イベントの数値オブジェクト ID を返します。出力例: .1.3.6.1.4.1.11.2.17.1
<\$R>	イベントの実際のソースを返します。この値は、イベントを提供した転送メカニズムによって推測されます。出力例: geefn.gfn.com
<\$r>	イベントの暗示ソースを返します。実際のソースが別のソースのプロキシとなっているような場合 (例、ローカルで実行されるモニターアプリケーションがリモートノードの情報を報告しているような場合) は、この値がイベントの実際のソースとは異なります。出力例: geefn.gfn.com
<\$S>	特定のトラップ ID を返します。出力例: 5891686
<\$s>	イベントの重要度を返します。出力例: Normal
<\$T>	トラップのタイムスタンプを返します。出力例: 0
<\$V>	イベントを受信した転送に基づいて、イベントタイプを返します。現在サポートされているタイプは、SNMPv1、SNMPv2、SNMPv2C、CMIP、GENERIC、SNMPv2INFORM です。出力例: SNMPv1
<\$X>	イベントが受信された時間を、ローカル時間で返します。出力例: 17:24:58
<\$x>	イベントが受信された日付を、ローカルの日付で返します。出力例: 03/27/97

関連項目

- [スケジュール済みアクションポリシーでの変数の使用](#)
- [ポリシーアクションでの変数の使用](#)
- [ログファイルポリシーでの変数の使用](#)
- [しきい値ポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)

しきい値モニターポリシーにおける変数

次に示す変数は、しきい値モニターポリシーの設定時に表示される大部分のフィールドおよびテキスト入力ボックスで使用できます (使用できないものについては別途記載)。変数は HPOM 内で使用できるほか、外部プログラムに渡すこともできます。

しきい値モニターポリシー: 使用可能な変数

変数名	説明
<\$NAME>	[ポリシーの編集] ダイアログボックスの [名前] フィールドに設定されている、しきい値モニターの名前を返します。\$NAME 変数は、[モニタ プログラム] または [MIB ID] フィールドでは使用できません。出力例: cpu_util
<\$THRESHOLD>	[条件番号] ウィンドウの [しきい値] フィールドに設定されている、モニターしきい値の値を返します。出力例: 95.00
<\$VALAVG>	しきい値モニターがレポートするすべてのメッセージの平均値を返します。出力例: 100.00
<\$VALCNT>	しきい値モニターがブラウザにメッセージを送信した回数を返します。出力例: 1
<\$VALUE>	しきい値モニターが計測した値を返します。出力例: 100.00

関連項目

- [SNMPトラップポリシーでの変数の使用](#)
- [スケジュール済みアクションポリシーでの変数の使用](#)
- [ポリシーアクションでの変数の使用](#)
- [ログファイルポリシーでの変数の使用](#)
- [新しいポリシーの作成](#)
- [新しいポリシーでのパターンマッチの使用](#)

すべてのポリシーグループ

[すべてのポリシーグループ] ページには、HP Operations 管理サーバーで現在使用可能なすべてのポリシーグループが一覧表示されます。[すべてのポリシーグループ] ページの情報は、下記の情報とともに表内に表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、ポリシーの一覧を昇順または降順に並べ替えることができます。アクションボタン (🔍) をクリックすると、一覧内のポリシーグループで実行可能なアクションが一覧表示され、参照ボタン (🔍) をクリックすると、選択したポリシーグループについて表示できる設定の詳細が一覧表示されます。ポリシーグループで実行可能なアクションおよび参照可能な設定の詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ポリシーグループの一覧にフィルター処理をして表示される数を減らしたい場合は、一覧の上部にある **[フィルタ]** リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。広範な条件 (例、名前、タイプ、ラベル) に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

HPOM ポリシーグループの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のポリシーグループを選択するためのチェックボックス。選択したポリシーグループは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「ポリシーグループに移動...」 、 「ポリシーを割り当て...」 、 「削除...」 など) の対象となります。
名前	ポリシーグループの名前が表示されます。ポリシーグループ名をクリックすると、選択したポリシーグループの詳細情報が表示されます。ポリシーグループ名の隣にあるアイコンのいずれかをクリックするとメニューが表示され、選択したポリシーグループの追加情報を参照したり、アクションを実行できます。
パス	サブグループがポリシーグループにネストされているかどうかを示す選択したポリシーグループの場所のパスです (例、/Policy Bank/SiteScope Integration/SiteScope Monitor Alerts/Development)。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したポリシーグループについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能な詳細情報については、 「ポリシー (グループ) の詳細の参照」 を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧で選択したポリシーグループに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、 「ポリシー (グループ) 詳細の設定」 を参照してください。
内容	ポリシーグループ内のポリシーの数が表示されます。
詳細	ポリシーグループの簡単な説明が表示されます。

ポリシーグループを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーで使用可能なすべてのポリシーグループを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべてのポリシー グループ]** をクリックし、ポリシーグループをフラットリストで表示します。ポリシーグループの数が多い場合は、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ポリシーアクションの実行](#)
- [ポリシー詳細の参照](#)
- [ポリシータイプについて](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)
- [ポリシーバージョンの割り当ての更新](#)

ポリシーグループの編集

[ポリシーグループの編集] ページには、既存の HPOM ポリシーグループのパラメータが表示され、ポリシーグループを完全に定義しなおすことができます。このページを使用すると、ポリシーグループを変更し、それを HPOM 環境に再配布できます。次の表では、[ポリシーグループの編集] ページの [プロパティ] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ポリシーグループの編集: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
情報	変更するポリシーグループについての簡単な情報です。	オプション
名前	変更するポリシーグループの名前です。名前は、HPOM の [メッセージソースポリシー] ウィンドウのポリシー一覧に表示されます。	必須
詳細	変更中のポリシーグループの簡単な説明です。管理 UI に表示される説明では、ポリシーグループのポリシーによって生成されるメッセージのタイプが分かります。	オプション

ポリシーグループを変更するには

既存のポリシーグループを変更して、それを HPOM に再配布するには、次の手順を実行します。

1. **[参照]** メニューで **[すべてのポリシーグループ]** を選択して、表示されるポリシーグループの一覧から変更するグループを選択します。[アクション] メニューから **[編集...]** を選択します。
2. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
プロパティ:
 変更するポリシーグループの詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。

3. ポリシーグループを設定したら、以下のボタンをクリックしてポリシーグループの詳細を保存または破棄します。
 - **保存**
すべての必須情報の入力がチェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、新しいポリシーグループの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] ボタンをクリックして作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ポリシーグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
ポリシーグループに加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

すべてのポリシー割り当て

[すべてのポリシー割り当て] ページには、参照している HP Operations 管理サーバーに属す管理対象ノード (またはノードグループ) に割り当てられているすべてのポリシーとポリシーグループが一覧表示されます。**[すべてのポリシー割り当て]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ポリシー割り当ての一覧

カラムタイトル	説明
一覧表示されるアイコン、タイトルなし	[名前] カラムに表示されるノード/ノードグループが、ノードであるか (🖥️) ノードグループであるか (👤) を示すアイコン。
ノード (グループ)	ポリシー割り当てを参照するノード (またはノードグループ) の名前を示します。ノード (またはノードグループ) の名前をクリックすると、それぞれの設定詳細が表示されます。

ポリシー割り当ての一覧 (続き)

直接割り当て	一覧表示されるポリシー (またはポリシーグループ) が、別のポリシーグループまたはノードグループからの継承によってではなく、管理対象ノード (またはノードグループ) に直接割り当てられていることをチェックマーク (✓) で示します。
ノードグループ経由の割り当て	一覧表示されるポリシー (またはポリシーグループ) が、すでに「親」ノードグループに割り当てられているため、またはノードグループの割り当てが変更されたため、継承によって間接的に割り当てられていることをチェックマーク (✓) で示します。
ポリシーグループ経由の割り当て	一覧表示されるポリシー (またはポリシーグループ) が、すでにノードグループに割り当て済みの別のポリシーグループに属しているため、継承によって間接的に割り当てられていることをチェックマーク (✓) で示します。
一覧表示されるポリシータイプ、タイトルなし	選択した管理対象ノード (またはノードグループ) に割り当てられているポリシー (またはポリシーグループ) のタイプ (ポリシーグループ、コンソール、ログファイル、測定しきい値、定期タスク、SNMP、イベント関連処理など) をさまざまなアイコンで示します。カーソルをアイコンに重ねると、ポリシータイプの簡単な説明が表示されます。ポリシー/ポリシーグループを表すアイコンの完全な一覧については、「 ポリシータイプ 」を参照してください。ポリシーのアイコンをクリックすると、そのポリシーの条件や関連メッセージグループなどの詳細情報が表示されます。
ポリシー (グループ)	一覧表示されるノード (またはノードグループ) に割り当てられているポリシー (またはポリシーグループ) の名前を示します。ポリシー (またはポリシーグループ) の名前をクリックすると、それぞれの設定詳細が表示されます。
バージョン	HPOM 9.* のみ。一覧表示されるノード (またはノードグループ) に割り当てられているポリシーのバージョン番号を表示します。複数のバージョンがあるときは、バージョン番号をクリックするとバージョン履歴が表示されます。
モード	HPOM 9.* のみ。選択したポリシー割り当ての実行方法を示します。「固定」は、指定されたバージョンを常に割り当てます。「最新」は、現在割り当てられているバージョンを最新バージョンに置き換えます。「マイナーを最新に」は、現在割り当てられているバージョンを最新のマイナーバージョンに置き換えます。この場合、たとえば、1.2 は 1.6 に置き換えられますが、1.2 から 2.0 への置き換えは行われません。

すべてのポリシー割り当てを一覧表示するには

HPOM 管理サーバーで管理されるノードへのすべてのポリシー割り当てを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのポリシー割り当て]** をクリックします。ノードとポリシーの数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. ノードの詳細を表示するには、**[ノード (グループ)]** カラムのリンクをクリックします。

4. ノードに配布されたポリシーの詳細を表示するには、[ポリシータイプ] カラムのポリシーアイコンをクリックします。

関連項目

- [ノードアクションの一覧表示](#)
- [ノード設定詳細の表示](#)
- [ポリシー\(グループ\)詳細の設定](#)
- [ポリシー\(グループ\)の参照](#)
- [すべてのHPOMポリシー](#)
- [すべてのHPOMポリシーグループ](#)
- [ポリシータイプ](#)
- [ポリシー詳細の表示](#)
- [ノード詳細の表示](#)

ポリシーバージョンの割り当ての更新

ノード、ノードグループ、ポリシーグループへのポリシーの割り当てには、特定のバージョンまたは割り当てモードが使用されます。たとえば、ノードに特定バージョン(1.1 または 1.5)のポリシーを割り当てることも、最新バージョン(存在する場合)のポリシーを割り当てることもできます。1回の操作で複数のポリシー割り当てを同時に更新する場合は、アクション()メニューの[割り当てを更新...]オプションを使用します。

ポリシー割り当ての更新方法については、後述の「[ポリシー割り当てを更新するには](#)」を参照してください。更新は、3つの手順で行われます。

1. フィルターを設定し、更新の対象となる割り当て済みポリシーを指定します。
2. 割り当て済みポリシーの更新処理に適用する、更新バージョンを指定します。
3. フィルター処理されたすべての割り当て済みポリシーに変更を適用します。

更新の対象となる割り当て済みポリシーを指定するには、次の表に示されるようにフィルターを設定する必要があります。

割り当て済みポリシーのフィルター処理

ラベル	説明
すべてのバージョン	選択したオブジェクト(ノード、ノードグループ、またはポリシーグループ)に割り当てられている、すべてのバージョンのポリシーが更新の対象となります。

割り当て済みポリシーのフィルター処理 (続き)

メジャーバージョンのすべてのバージョン	[バージョン] フィールドに指定したバージョン番号と同じメジャーバージョンの、すべてのマイナー (中間) バージョンの割り当て済みポリシーが更新の対象となります。
固定バージョン	[バージョン] フィールドに指定したバージョンと同じバージョンのすべての割り当て済みポリシーが更新の対象となります。
メジャーバージョンの最新バージョン	メジャーバージョンが [バージョン] フィールドに指定されたメジャーバージョン番号と一致し、マイナーバージョンが最新バージョンであるすべての割り当て済みポリシーが更新の対象となります。
すべての最新バージョン	割り当て済みバージョンがそのポリシーの最新バージョンである、すべての割り当て済みポリシーが更新の対象となります。

更新の対象となる割り当て済みポリシーを指定したら、割り当て済みポリシーの更新処理に適用する更新バージョンを定義する必要があります。次の表は、割り当て済みポリシーの更新処理に適用するポリシーバージョンを指定するオプションを示しています。

更新バージョンの指定

ラベル	説明
最新	割り当て済みポリシーのバージョンを、使用可能な最新のポリシーバージョンに更新します。
マイナーを最新に	割り当て済みポリシーのバージョンを、現在割り当てられているメジャーバージョンの最新のマイナー (中間) バージョンに更新します。
現在のメジャーバージョンの最新	割り当て済みポリシーのバージョンを、[バージョン] フィールドに指定したメジャーバージョンで利用できる最新のバージョンに更新します。たとえば、割り当て済みポリシーのバージョンが 1.3 で、[バージョン] フィールドに「2」を指定した場合、より新しいメジャーバージョン (バージョン 3.*) のポリシーを使用できる場合でも、バージョン 2 のポリシーで利用できる最新の中間バージョン (バージョン 2.*) に更新します。
固定	割り当て済みポリシーのバージョンを、指定した特定のバージョンに更新します。

ポリシー割り当てを更新するには

定義した 1 つの方針に基づいて、すべての割り当て済みポリシーを更新するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューの **[すべてのノード]**、**[すべてのノード グループ]**、または **[すべてのポリシー グループ]** をクリックし、選択したオブジェクトの内容をフラットリストで表示します。ノード、ノードグループ、またはポリシーグループの数が多い場合、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

3. アクションボタン () をクリックすると、一覧表示されたグループに対して実行できるアクションの一覧が表示されます。
4. **[アクション]** メニューで、**[割り当てを更新...]** をクリックします。
5. 表示されるドロップダウンメニューとダイアログボックスを使用して、適用するポリシー割り当て方針を指定します。ドロップダウンメニューに表示されるオプションの詳細は、上の表を参照してください。
6. 設定が完了したら **[OK]** をクリックします。ポリシー割り当ての更新が開始されます。

関連項目

- [ノードの一覧表示](#)
- [ノードグループの一覧表示](#)
- [ポリシーグループの一覧表示](#)

すべてのカテゴリ

[すべてのカテゴリ] ページには、選択した HPOM 管理サーバーで現在使用可能なすべてのカテゴリが一覧表示されます。カテゴリとは、ポリシーまたはノードの論理的な分類です。カテゴリを使用し、ポリシーをインストールメンテーション、ノード、およびユーザープロファイルと関連付けることができます。カテゴリを使用してポリシーをインストールメンテーションに関連付けると、ポリシーを関連付ける際に対応するインストールメンテーションを同時に配布できます。

[すべてのカテゴリ] ページの情報は、下記の情報とともに表内に表示されます。**[名前]** カラムのタイトルをクリックすると、カテゴリの一覧を昇順または降順に並べ替えることができます。アクションボタン () をクリックすると、一覧内のポリシーで実行可能なアクションが一覧表示され、参照ボタン () をクリックすると、選択したカテゴリについて表示できる設定の詳細が一覧表示されます。カテゴリで実行可能なアクションおよび参照可能な設定の詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

カテゴリの一覧にフィルター処理をして表示される数を減らしたい場合は、一覧の上部にある **[フィルタ]** リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。広範な条件 (例: 名前、タイプ、ラベル) に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

すべてのカテゴリの一覧表示

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のカテゴリを選択するためのチェックボックス。選択したカテゴリは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「カテゴリを追加」、「削除...」、「ノードに割り当て」、「ポリシーに割り当て」など) の対象となります。

すべてのカテゴリの一覧表示 (続き)

名前	カテゴリ名を示します。カテゴリ名をクリックすると、選択したカテゴリの詳細情報が表示されます。カテゴリ名の横のアイコンのいずれかをクリックするとメニューが表示され、選択したカテゴリの追加情報を参照したり、アクションを実行できます。[参照]メニュー、[アクション]メニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の関連項目を参照してください。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したカテゴリについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能な詳細情報については、「 カテゴリ詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧で選択したカテゴリに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 カテゴリの変更 」を参照してください。
詳細	ポリシーおよびポリシーグループの簡単な説明が表示され、ポリシーの内容を確認できます (例、「HP-UX 10.x/11.x での不正ログオン履歴」)。

カテゴリを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーで使用可能なすべてのカテゴリを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照]メニューで[すべてのカテゴリ]をクリックし、カテゴリを一覧表示します。カテゴリ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [カテゴリの変更](#)
- [カテゴリ詳細の参照](#)
- [ポリシータイプについて](#)
- [新規ポリシーカテゴリの追加](#)

カテゴリ詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン () を使用して表示可能な情報を一覧表示します。次の表は、HPOM カテゴリについて表示できる詳細を示しています。たとえば、カテゴリが割り当てられているノードおよびポリシーを一覧表示します。

[参照]メニュー: HPOM カテゴリ

設定の詳細	説明
-------	----

[参照] メニュー: HPOM カテゴリ (続き)

ノード	選択したカテゴリが割り当てられているノードグループまたはノードグループを一覧表示します。
ポリシー	選択したカテゴリが割り当てられているポリシーを一覧表示します。
インストールメンテーション	選択したカテゴリが所属するインストールメンテーションを表示します。

カテゴリ詳細を参照するには

選択したカテゴリについて参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照] メニュー**で、**[すべてのカテゴリ]**をクリックします。カテゴリ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 表示された一覧で、設定詳細を参照するカテゴリを特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、選択したカテゴリで表示できる設定詳細が一覧表示されます。
5. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細に対応するオプションをクリックします。使用可能なメニューオプションについては、上の表を参照してください。

関連項目

- [カテゴリの変更](#)
- [ポリシータイプについて](#)
- [新規ポリシーカテゴリの追加](#)

カテゴリの変更

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン (🔍) を使用すると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。次の表は、ノードおよびカテゴリに対して実行できるアクションを示しています。

[アクション] メニュー: HPOM カテゴリ

アクション	説明
-------	----

[アクション] メニュー: HPOM カテゴリ (続き)

空ディレクトリの削除	/opt/0V/bin/OpC/Utils/opcinstrumcfg -remove_empty コマンドを実行します。クリーンアップ操作では、選択したカテゴリごとにインストルメンテーションフォルダの有無が確認されます。フォルダが空の場合、そのフォルダは削除されます。
ショッピングカートに追加	選択したカテゴリをショッピングカートに追加します。ショッピングカートの内容をクリップボードディレクトリにダウンロードできます。クリップボードディレクトリからはパッケージを任意の管理サーバーにアップロードしたり、単に後で適切な時間に使用するためにパッケージをアーカイブしておくことができます。
すべてのディレクトリの作成	/opt/0V/bin/OpC/Utils/opcinstrumcfg -update_all コマンドを実行します。更新操作では、選択したカテゴリごとにインストルメンテーションフォルダの有無が確認され、存在しない場合、新しいカテゴリごとにインストルメンテーションディレクトリが新規作成されます。新しいディレクトリは、<データディレクトリ>\shared\Instrumentation に作成されます。
編集...	[カテゴリの編集] ページを表示します。このページでは、選択したカテゴリに定義されているプロパティを変更できます。
コピー...	[カテゴリのコピー] ページを表示します。このページでは、既存のカテゴリに定義されているプロパティを使用して、別の名前の新しいカテゴリを作成できます。
削除...	選択したカテゴリをデータベースから削除します。この削除操作では、対応するインストルメンテーションフォルダは削除されません。
ノードに割り当て...	[ノード セレクタ] ダイアログを表示します。このダイアログでは、現在選択しているカテゴリと関連付けるノードを選択できます。
ポリシーに割り当て...	[ポリシー セレクタ] ダイアログを表示します。このダイアログでは、現在選択しているカテゴリと関連付けるポリシーを選択できます。
ダウンロード...	選択したカテゴリをデータベースからダウンロードします。

カテゴリの詳細を変更するには

選択したカテゴリに対して実行できるその他の設定アクションを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのカテゴリ]** をクリックします。カテゴリ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 表示された一覧で、設定詳細を変更するカテゴリを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、選択したカテゴリに対して実行できるアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、上の表を参照してください。

関連項目

- [カテゴリ詳細の参照](#)
- [ポリシータイプの表示](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

すべてのポリシータイプ

[[すべてのポリシータイプ](#)] ページには、現在インストールされているバージョンの HPOM で使用できるすべてのポリシータイプが一覧表示されます。表示されるポリシーの数とタイプは、使用中の HPOM のバージョンによって異なります。HPOM のコマンドラインツールなどを使って新しいポリシータイプを追加した場合は、[[すべてのポリシータイプ](#)] ページにも新しいポリシータイプが表示されます。

HPOM ポリシータイプの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のポリシータイプを選択するためのチェックボックス。選択したポリシータイプは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクションの対象となります。
タイプ	アイコンによりポリシーのタイプを表します。ポリシーのタイプおよびそれを表すアイコンについては、後述の「 ポリシータイプ 」表を参照してください。
名前	ポリシータイプの名前が表示されます。ポリシータイプ名をクリックすると、選択したポリシータイプの詳細情報が表示されます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したポリシーについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なポリシーの詳細情報については、「 ポリシーまたはポリシーグループ詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧で選択したポリシーに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ポリシータイプアクションの表示 」を参照してください。
エージェントタイプ	エージェントベースのポリシーのタイプです (例、configfile (設定ファイル)、monitor (詳細しきい値モニターまたはしきい値モニター)、trapi (SNMP トラップインターセプタ))。詳細は、[エージェントタイプ] カラム内のリンクをクリックしてください。
エディタ	アイコンにより、選択したポリシータイプで使用するために登録されたエディタが表示されます (例、midas:logfile、midas:opcmsg)。エディタ登録はデフォルトの設定によって決まります。ただし、これらの設定は変更できます。また、新しいポリシータイプ用に新しいエディタを追加できます。
MIME タイプ	標準的な Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) を使用したポリシーの内容に関する情報です。この情報は、タイプとサブタイプ (例: text:plain) で構成されています。

[タイプ] カラムに一覧されるポリシータイプを参照し、追加するポリシータイプをクリックします。[すべてのポリシー] テーブルの [タイプ] カラムでは、使用できるポリシーのタイプがさまざまなアイコンで示されます。次の表は、ポリシータイプを識別するすべてのアイコンと、各アイコンが表す内容を示しています。

ポリシータイプ

アイコン	名前	説明
	設定ファイル	設定ファイルポリシーは、管理対象ノード上の HP Operations Agent の定義済み部分の設定に使用されます。
	イベント関連処理	イベント関連処理ポリシーは、重複または類似メッセージ数の削減に使用されます。イベント関連処理ソフトウェアを別途インストール/設定する必要があります。
	ECS コンポーザー	イベント関連処理コンポーザーポリシータイプでは、HP Correlation Composer を使用することで HPOM 管理サーバーまたは管理対象ノード上のメッセージを関連処理することができます。
	フレキシブル管理	フレキシブル管理ポリシータイプを表します。フレキシブル管理機能を利用することで、たとえば、1つ (または複数) の HP Operations 管理サーバーによって管理される HP Operations 管理サーバーのグループを表す、管理サーバーの階層を設定できます。管理対象ノードは、時間帯や地理的領域に応じて異なる管理サーバーにメッセージを送信するように設定できます。フレキシブル管理設定ファイルの詳細は、「 フレキシブル管理ファイルの一覧表示 」を参照してください。
	ログファイルエントリ	ログファイルポリシーはログファイルを読み取り、ログファイルへの入力と変更をモニターします。
	測定しきい値	短いスクリプトを使って複数のしきい値を処理し、それに応じてメッセージを生成するしきい値モニターを示します。スクリプトは、Visual Basic (Windows ノード) または Perl (Windows /UNIX ノード) で記述する必要があります。
	ノード情報	ノード情報ポリシーは、Microsoft Windows オペレーティングシステムが稼働する管理対象ノードの nodeinfo ファイルの上書きに使用されます。nodeinfo ファイルには、エージェントの通信タイプ (HTTPS)、エージェントのメッセージストリームインターフェースが有効であるかどうか (TRUE/FALSE) など、管理対象ノードの設定に関する情報が記録されています。
	オープンメッセージインターフェース	Open Message Interface メッセージポリシータイプを示します。メッセージポリシーは、HPOM コマンド opcmmsg(1) および opcmmsg(3) によって送信されるメッセージを捕捉します。

ポリシータイプ (続き)

	リモートアクションセキュリティ	定義されているアクションをリモートシステム上で実行する定期ポリシーを示します。
	SNMP インターセプタ	SNMPトラップポリシーは、選択されているSNMPトラップを捕捉し、それをレポートします。たとえば、管理サーバー上の opctrapi デーモンにトラップを送信するアプリケーションからのSNMPトラップや、HP Operations Manager for UNIXトラップデーモン ovtrapd が稼働している管理対象ノードからのSNMPトラップ、または選択した管理対象ノードのプラットフォームでポートアクセスモードで直接SNMPトラップを捕捉します。
	定期タスク	定義されているアクションを予定時刻に実行する定期タスクポリシーを示します。
	サービス自動検出	サービス検出ポリシーは、選択されている管理対象ノードから定義されているサービスを検索するスクリプトを実行します。
	サービスプロセスモニタリング	サービス/プロセスモニターポリシーは、Windows 管理対象ノードで稼働しているサービス/プロセスをモニターします。
	SiteScope	SiteScope ポリシーは、HPOM ポリシーに変換され、HPOM データベースにアップロードされる SiteScope テンプレートです。SiteScope ポリシーは、Business Service Management (BSM) 内のさまざまなアプリケーションで使用するデータを報告するのに使用できます。
	サブエージェント	HPOM サブエージェントのインストール、更新、削除を設定/管理するためのポリシーです。
	Windows イベントログ	Windows イベントログポリシーは、Windows イベントログのエントリをモニターし、定義されている文字パターンがイベントログに出現した場合にメッセージを生成します。Windows イベント ログのエントリをモニターする場合は、このポリシータイプを選択します。
	Windows Management Interface	Windows Management Interface ポリシーは、WMI クラス (およびクラスインスタンス) のプロパティをモニターし、プロパティの値が指定の値と一致した場合、または指定したクラスインスタンスが作成された場合にメッセージを生成します。たとえば、WMI ポリシーは、パーティションやドライブへの追加などの変更について、Windows 管理 インストールメンテーションフレームワークをモニターします。
		不明なポリシータイプを表します。不明なポリシーとは、認識されている上記ポリシータイプのいずれとも一致しないポリシーです。

すべてのポリシータイプを一覧表示するには

HP Operations 管理 サーバーで使用可能なすべてのポリシータイプを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのポリシータイプ]** をクリックします。

注: ポリシータイプ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [ポリシータイプアクションの表示](#)
- [ポリシータイプ詳細の参照](#)
- [ポリシータイプ詳細の表示](#)
- [新規ポリシーの追加](#)
- [新規ポリシーグループの追加](#)

ポリシータイプ詳細の表示

[**ポリシータイプ詳細**] ページには、選択したポリシータイプの詳細が表示されます (例: 名前、エージェントタイプ、選択したタイプのポリシーをエディタで開くために使用するコマンド、およびポリシーの配布前、配布中、または配布後に選択したタイプのポリシーに適用するすべてのコールバックコマンド)。

ポリシータイプ詳細

ポリシータイプ詳細	説明
名前	選択したポリシータイプの名前 (例: logfile_entry、event_correlation、flexible_management など)。
エージェントタイプ	目的のタイプのポリシーを対象としたエージェントのタイプ。たとえば、テキスト、EC (イベント相関処理)、mgrconf (フレキシブル管理) など。
編集	選択したタイプのポリシーを Web ベースのテキストエディタで開くために使用するコマンド。たとえば、 midas:mgrconf は、「フレキシブル管理」というタイプのポリシーをフレキシブル管理ポリシーエディタで開きます。エディタプロセスを起動する Web サーバーは、HP Operations Manager 管理サーバーまたは別のマシンのどちらでも稼働できることに注意してください。これについては、エディタを起動する http コマンドで明確にする必要があります (例: http://\$MGMT_SV/... または http://machine.name.com/...)。

ポリシータイプ詳細 (続き)

コールバック	選択したタイプのポリシーに対して、管理対象ノードへの配布前、配布中、および配布後に実行される何らかのコールバック「アクション」が定義されているかどうかを示します。たとえば、コールバックコマンドを定義することで、配布前のポリシーの編集、データベースにアップロードする前の新規ポリシーのチェック、管理対象ノードへのポリシーの配布、および配布後のクリーンアップなどが可能になります。コールバックコマンドの完了後には、一時的なファイルをすべて削除することをお勧めします。ポリシー関連の変数 (\$FILENAME、\$TYPE、\$VERSION、\$SYNTAX など) はコールバックコマンドで使用される場合があります。セキュリティのために、コールバックコマンドには一部制約があることに注意してください。コールバックコマンドのデフォルトのセキュリティレベルは「strict」(厳格)であり、root ユーザーがコールバック実行可能ファイルとそれが存在するディレクトリの所有者でない限り、コールバックは実行されません。他のセキュリティレベルの「Relaxed」(寛大)では、コールバック実行可能ファイル(またはそのディレクトリ)はグループと他のユーザーに対する書き込み権限を持っている必要があり、「None」(なし)ではコールバック実行可能ファイルの実行前に一切チェックを行いません。
--------	---

ポリシータイプの詳細を表示するには

選択したポリシータイプの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の **[参照]** メニューで、**[すべてのポリシータイプ]** をクリックします。
2. **[名前]** カラムで、詳細情報を確認するポリシータイプに該当する名前をクリックします。

関連項目

- [ポリシータイプアクションの表示](#)
- [ポリシータイプ詳細の参照](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

ポリシータイプ設定詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン (🔍) を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン (🔍) を使用します。次の表は、HPOM ポリシータイプについて表示できる詳細情報を示しています。たとえば、HP Operations 管理サーバーに存在する、選択したポリシータイプのすべてのポリシーを一覧表示できます。

[参照] メニュー: HPOM ポリシー

設定の詳細	説明
ポリシー	管理サーバーに存在する、選択したポリシータイプのすべてのポリシーを一覧表示します。

ポリシータイプの詳細を参照するには

選択したポリシータイプについて参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのポリシータイプ]**をクリックします。
3. 表示された一覧で、設定詳細を参照するポリシータイプを特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能なポリシー設定詳細の一覧が表示されます。
5. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細に対応するオプションをクリックします。使用可能なメニューオプションについては、上の表を参照してください。

関連項目

- [ポリシータイプアクションの表示](#)
- [ポリシータイプの表示](#)
- [新しいポリシー](#)
- [新しいポリシーグループ](#)

設定ファイルポリシータイプ

設定ファイルタイプのポリシーは、SAP や Microsoft Exchange など、特定のエンタープライズアプリケーションを対象とした管理機能の強化に、SPI が使用します。これらのアプリケーションには、HPOM ポリシータイプの標準セットでは行えない、高度なモニタリングおよび管理機能が必要になることがあります。

そのため、多くの SPI には、ノードへの配布後に設定する必要がある複雑なインストールメンテーションが含まれています。この設定タスクを行うのが設定ファイルポリシーです。これらのポリシーは、SPI のインストールメンテーションに使用するルールや指示がセットになった設定ファイルで構成されています。

設定ファイルポリシーでは、設定ファイルポリシーの配布後にエージェントでコールバックを実行し、OV Composer のファクトストアのロードといった後処理が行えます。エージェントでコールバックの実行を有効にする方法の詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)
- [設定ファイルポリシータイプ: 構文およびキーワード](#)

設定ファイルポリシーの構文とキーワード

設定ファイルで使用する構文とキーワードは、SPI によって決定されており、これらは SPI ドキュメントに記載されています。

設定ファイルポリシーをアプリケーションに関係するディレクトリに追加したり、またはこれらのディレクトリから削除する際、すべての設定ファイルの先頭に次の一般的なキーワードを使用して HP Performance Agent Software などの外部アプリケーションに通知できます。

キーワード	説明
<code>#\$Installcommand=<command></code> <code>#\$Deinstallcommand=<command></code>	<code><command></code> 必要パラメータすべてを含めて、実行するコマンドを指定します。必要に応じて、二重引用符を使用してすべてのプラットフォームを処理します。
<code>#\$Commandtype=<value></code>	<code><value></code> には、以下の使用するコマンドタイプを指定します。 1. 実行可能ファイル (デフォルト) コマンドタイプを指定しないと、設定ファイルポリシーはコマンドが実行可能ファイルであるとみなします。 2. VBScript またはシェルスクリプト .vbs または .sh 拡張子をコマンドに追加する必要はありません。Windows ノードと UNIX ノードの両方で単一のポリシーを実行できるように、適切な拡張子が自動的に追加されます。 3. Perl スクリプト
<code>Size=<value></code>	<code><value></code> にはポリシーのサイズ (たとえば、14454 バイト) を指定します。

設定ファイルポリシーのパラメータ例については、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。

イベント関連処理ポリシータイプ

イベント関連処理ポリシータイプでは、HP Event Correlation Services (ECS) を使用することで管理サーバーまたは管理対象ノード上のメッセージを関連処理することができます。イベント関連処理ポリシーは、イベント関連処理 (EC) サーキットを参照します。ECS には HPOM メッセージを関連処理するためのインターフェースとプロトコルが備えられています。HPOM 用にメッセージを関連処理するには、ECS が HPOM メッセージストリームインターフェースを介して HPOM メッセージフローにアクセスできるようにする必要があります。イベント関連処理ポリシーは、EC サーキットを統合しているため、EC サーキットを1つの場所から管理サーバーまたはノードに配布できます。

イベント関連処理の詳細、およびこのポリシータイプに使用できるポリシー本体の文法については、『HPOM Concepts Guide(HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。イベント関連処理の設定方法については、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)
- [イベント関連処理コンポーザーポリシータイプ](#)

イベント 相 関 処 理 コ ン ポ ー ザ ー ポ リ シ ー タ イ プ

イベント 相 関 処 理 コ ン ポ ー ザ ー ポ リ シ ー タ イ プ で は、HP Correlation Composer を使 用 す る こ と で HPOM 管 理 サーバ ー また は 管 理 対 象 ノ ード 上 の メ ッ セ ー ジ を 相 関 処 理 す る こ と が で き ま す。HP Correlation Composer は、HP Event Correlation Services (ECS) ラ ン タ イ ム の 最 上 位 に あ る グ ラ フ ィ カ ル ユ ー ザ ー イ ン タ フ ェ ー ス (GUI) で、こ の GUI を 使 用 す る と、事 前 定 義 さ れ た 相 関 処 理 ロ ジ ッ ク を HP Operations Manager (HPOM) 内 で 自 分 の 要 件 に 適 合 す る よ う に カ ス タ マ イ ズ で き ま す。イ ベ ン ト 相 関 処 理 コ ン ポ ー ザ ー ポ リ シ ー に よ っ て、デ ー タ ス ト ア フ ェ イ ル や フ ァ ク ト ス ト ア フ ェ イ ル な ど の 任 意 の フ ェ イ ル が 統 合 さ れ る の で、こ れ ら の フ ェ イ ル の 使 用 を 自 動 化 し た い 場 合 に、こ れ ら の フ ェ イ ル を 1 つ の 場 所 か ら HPOM 管 理 サーバ ー また は ノ ード に 配 布 で き る よ う に な り ま す。

イ ベ ン ト 相 関 処 理 の 詳 細 は、『HPOM Concepts Guide(HPOM コ ン セ プ ト ガ イ ド)』を 参 照 し て く だ さ い。イ ベ ン ト 相 関 処 理 の 設 定 方 法 に つ い て は、『HPOM 管 理 者 リ フ ェ レ ン ス ガ イ ド』を 参 照 し て く だ さ い。イ ベ ン ト 相 関 処 理 コ ン ポ ー ザ ー の 詳 細 は、『HPOM Correlation Composer ユ ー ザ ー ガ イ ド』を 参 照 し て く だ さ い。

関 連 項 目

- [すべてのポリシータイプ](#)
- [イベント 相 関 処 理 ポ リ シ ー タ イ プ](#)

フ レ キ シ ブ ル 管 理 ポ リ シ ー タ イ プ

フ レ キ シ ブ ル 管 理 ポ リ シ ー タ イ プ で は、時 間 と メ ッ セ ー ジ 属 性 に 基 づ い て 異 な る 管 理 サーバ ー に メ ッ セ ー ジ を 送 信 す る よ う に 管 理 対 象 ノ ード を 設 定 で き ま す。こ の 機 能 は、フ ロー ザ サ ン コ ン ト ロ ール を 使 用 す る こ と な ど に よ っ て、複 数 の タ イ ム ゾ ーン に 渡 っ て 世 界 規 模 の ネ ッ ト ワ ー ク を よ り 効 率 的 に 管 理 す る の に 役 立 ち ま す。ま た、専 門 技 術 セ ン タ ー を 作 成 す る こ と な ど で、効 率 性 を 高 め る こ と が で き ま す。詳 細 は、『HPOM Concepts Guide(HPOM コ ン セ プ ト ガ イ ド)』を 参 照 し て く だ さ い。

こ の タ イ プ の ポ リ シ ー は 1 つ の ノ ード に 1 つ し か 配 布 で き ま せ ン。

フ レ キ シ ブ ル 管 理 設 定 (フ レ キ シ ブ ル 管 理 ポ リ シ ー、時 間 ポ リ シ ー、メ ッ セ ー ジ 転 送 ポ リ シ ー な ど の 構 文 と キ ー ワ ー ド な ど) に つ い て の 詳 細 は、『HPOM 管 理 者 リ フ ェ レ ン ス ガ イ ド』を 参 照 し て く だ さ い。ま た、構 文 の 詳 細 は、opcmom の マ ニ ュ ア ル ペ ー ジ も 参 照 し て く だ さ い。

関 連 項 目

- [すべてのポリシータイプ](#)

ロ グ フ ェ イ ル エ ン ト リ ポ リ シ ー タ イ プ

ロ グ フ ェ イ ル エ ン ト リ ポ リ シ ー タ イ プ を 使 用 す る と、テ キ ス ト また は バ イ ナ リ の ロ グ フ ェ イ ル の エ ン ト リ を モ ニ タ ー で き ま す。指 定 す る 文 字 パ タ ー ン が モ ニ タ ー 対 象 の ロ グ フ ェ イ ル に 現 れ る と、ア ク シ ョ ン が 開 始 さ れ ま す (つ ま り、ロ グ フ ェ イ ル エ ン ト リ ポ リ シ ー タ イ プ は、ソ ー ス の ロ グ フ ェ イ ル と、特 定 の 種 類 の イ ベ ン ト に 応 答 し て ポ リ シ ー に よ っ て 実 行 さ れ る ア ク シ ョ ン を 定 義 す る ル ー ル を 指 定 し ま す)。各 ル ー ル は、次 の 要 素 で 構 成 さ れ ま す。

- **条件**
アクションをトリガする、ソース内のイベントの種類を説明するポリシーの一部。
- **アクション**
条件に一致するイベントが発生したときにポリシーが行う応答。

ポリシーは少なくとも 1 つのルールを含まなくてはなりません。ポリシーに複数のルールが含まれる場合、それらのルールは特定の順序で評価されます。ある条件が一致すると、それ以降のルールは評価されません。

アクションは、ルールの条件に一致するイベントまたは一致しないイベントが検出されたときに、ポリシーに従って実行すべき処理を定義するルール要素です。アクションは、次の 1 つまたは複数を作成できます。

- **アクティブなメッセージブラウザへのメッセージの送信**
これは、最も一般的なアクションです。メッセージは、イベントが発生したことをオペレータに通知します (メッセージには、イベントに応答するための手順と、オペレータが実行可能なコマンドへのリンクを含めることもできます)。メッセージの受諾や、重複するメッセージの抑制も可能です。
- **受諾済みメッセージブラウザへのメッセージの送信**
このメッセージは、受諾済みメッセージブラウザに直接送信されます。
- **コマンドの自動実行**
特定のイベントに対して特定のコマンドを常に実行しなければならない場合は、自動コマンドを設定できます。
- **なし**
場合によっては、(パフォーマンスを改善するために) ポリシーでイベントを評価しないようにして、オペレータに通知を何も送信しないようにすることもできます。

ログファイルメッセージおよびポリシーについての詳細と、このポリシータイプで使用可能なポリシー本体の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

測定しきい値ポリシータイプ

測定しきい値ポリシータイプはパフォーマンスデータを評価し、指定されたしきい値レベルからデータが外れた場合に対応します。このポリシータイプを使用すると、絶えず変化するパラメータ (CPU 負荷、ディスク容量、実行中のプロセス数など) をモニターできます。

しきい値モニターの設定と、このポリシータイプで使用可能なポリシー本体の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

ノード情報ポリシータイプ

ノード情報ポリシータイプでは、管理対象ノードの設定情報を変更できます。ノード情報ポリシーは、ovconfchg を使用して、ノード設定ファイルの修正とノード設定データベースの更新を行います。

関連項目

- [ノード情報ポリシーでのパラメータの指定](#)
- [すべてのポリシータイプ](#)

ノード情報ポリシーでのパラメータの指定

ノード情報ポリシータイプでは、パラメータを入力できる簡単なエディタを使用できます。各パラメータは、名前と文字列値で構成されています。ASCII 文字のみ使用できます。文字列に改行を含めることはできません。

ノード情報ポリシーの構文は、以下のとおりです。

```
;XPL config  
[<namespace>]  
<parameter_name> = <parameter_value>
```

;XPL config により、HTTPS エージェントの設定が開始されます。
[<namespace>] には、更新する名前空間を指定します。

この例では、;XPL config でエージェントの設定を開始し、[<namespace>] に指定した名前空間を更新します。

例:

```
;XPL config  
[eaagt]  
OPC_AGTMSI_ENABLE = TRUE  
OPC_AGTMSI_ALLOW_AA = FALSE  
[bbc.http]  
PROXY = proxy1.example.com:8080
```

パラメータが複数のポリシーに定義されている場合は、最後に配布されたポリシーの値が使用されます。ただし、ノード情報ポリシーがノードから削除された場合は、パラメータの値は元の値に戻らずに、デフォルト値が設定されます。そのため、実際のノードの設定状態の把握が難しくなることがあります。このような混乱を避けるため、1つのノードには1つのノード情報ポリシーを配布するか、個々の特定パラメータまたは一意のパラメータグループに対してノード情報ポリシーを1つ作成することをお勧めします。

オープンメッセージインタフェースポリシータイプ

オープンメッセージインタフェースポリシータイプでは、スクリプトやプログラムが opcmmsg コマンドを使用して生成するメッセージをモニターできます。また、メッセージに対してフィルター処理を行って管理サー

バーに送ることもできます。

オープンメッセージインタフェースポリシーは、メッセージにマッチ条件を定義することで、これらのメッセージに対してフィルター処理を行います。メッセージにマッチした場合は、管理サーバーにメッセージを送信します。そのほかのメッセージは、すべて除外されます。

メッセージソースポリシーの情報、およびこのポリシータイプに使用できるポリシー本文の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。詳細は、マニュアルの「opcmsg(1)」または「opcmsg(3)」ページも参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

リモートアクションセキュリティポリシータイプ

デフォルトでは、任意のノードがリモート自動アクションを含むメッセージを送信でき、管理サーバーがそのアクションをリモートノードで実行します。その一方で、リモート自動アクション要求を許可または拒否するように管理サーバーを設定することもできます。リモートアクションセキュリティポリシータイプは、この設定に使用します。リモートアクションセキュリティポリシーの作成後は、そのポリシーを設定する管理サーバーに配布する必要があります。

リモートアクションセキュリティポリシーは、管理サーバーがリモート自動アクションを開始するかどうかを決定します。リモートアクションセキュリティポリシーによって、ユーザーがリモート自動アクションを手動で開始することが妨げられることはありません。また、ユーザーによるリモートオペレータ起動アクションの開始も妨げられません。特定のノードでユーザーがアクションを開始するのを防ぐ場合は、ユーザーロールを設定できます。

リモートアクションについての詳細は、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』および『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

SNMP インターセプタポリシータイプ

SNMP インターセプタポリシータイプは、SNMP イベントをモニターし、選択した文字パターンが SNMP メッセージに見つかった場合に応答を返します。

SNMP インターセプタポリシーでは、配布先に指定できない SNMP デバイス (プリンター、ルーター、サポートされていないオペレーティングシステムが搭載されたコンピューターなど) を管理できます。

SNMP トラップ捕捉の詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。このポリシータイプに使用できるポリシー本文の文法は、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』にも記載されています。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

定期タスクポリシータイプ

定期タスクポリシータイプでは、複数の管理対象ノードでコマンドを1回実行するように、または特定のスケジュールに従って実行するように、設定できます。実行後は、コマンドの正否を示すメッセージが管理サーバーに送信されます。スケジュール設定の詳細は、「[\[定期タスク\] タブ](#)」を参照してください。

このポリシータイプに使用できるポリシー本文の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

サービス自動検出ポリシータイプ

サービス自動検出ポリシーは、管理対象環境でサービスを検出して、これらのサービスをサービスマップに表示するために SPI によって提供されています。通常、SPI Service Auto Discovery ポリシーは変更する必要がありません。ただし、特定の SPI では、管理対象ノード上の特定のアプリケーションへのアクセスと検出を可能にするために、ユーザー名やパスワードなどのパラメータデータを追加することでこのポリシーを設定する必要がある場合があります。

サービス自動検出ポリシーを使用すると、以下が可能になります。

- 事前定義された管理モジュール検出の設定
- カスタムサービス検出ポリシーの設定
- 管理モジュールによる検出の実行のスケジュール
- 必要に応じた追加パラメータの定義

サービス自動検出ポリシーを実行できるようにするには、事前に管理対象ノードにサービス自動検出ポリシーを配布する必要があります。サービス自動検出ポリシーを管理対象ノードから削除すると、検出されたサービスと関係がサービスマップから削除されます。

サービス自動検出ポリシーについての詳細は、『Service Discovery and Topology Synchronization Guide(サービス検出とトポロジ同期ガイド)』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

サービスプロセスモニタリングポリシータイプ

サービスプロセスモニタリングポリシータイプは、管理対象ノードで実行する Windows のサービスやプロセスを (サポートされている任意のオペレーティングシステム上で) モニターします。モニターするステータス、またはステータスが変った場合に行うアクションを定義できます。サービスプロセスモニタリングポリ

シーは、モニター対象サービスのステータスが(たとえば、実行中から停止中に)変わると、メッセージを送信します。

このポリシータイプに使用できるポリシー本文の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [サービスモニターの設定](#)
- [プロセスモニターの設定](#)
- [開始アクションの設定](#)
- [続行アクションの設定](#)
- [終了アクションの設定](#)
- [すべてのポリシータイプ](#)

サービスモニターの設定

新しいサービスをモニターに追加するには、以下の手順を実行します。

1. サービスプロセスモニタリングポリシーの **[モニター]** タブにある **[タイプ]** ドロップダウンメニューから **[サービス]** を選択します。
2. 追加するサービスの正確な名前が分かっている場合は、以下の手順を実行します。
 - a. 下のドロップダウンリストから **[サービスの追加]** を選択します。**[条件]** ダイアログボックスが表示されます。
 - b. **[条件]** ダイアログボックスで、以下の詳細を指定します。

- **サービス名**

モニターするサービスの「実際の」名前を入力します。

[サービス名] ボックスに入力した文字列は、ポリシーエディタによって、ポリシーに定義されている既存サービス名一覧との比較が行われます。重複する名前は認められません。また、特殊文字の \ (バックスラッシュ)、" (二重引用符)、: (コロン)、& (アンパサンド記号)、< > (山かっこ)、? (疑問符)、| (パイプ)、およびスペース () は認識されません。

ポリシーエディタでは、指定したサービスが存在するかどうかの確認は行いません(サービス名を正しく入力しなかった場合など)。

- **サービスが存在しない場合にメッセージを送信**

ポリシーをノードに配布する際に、ここで指定したサービスが「なかった」場合に HPOM から必ず通知を受け取るように、**[サービスが存在しない場合にメッセージを送信]** オプションを選択します。

- **表示名**

表示名は、情報提供の目的でのみ、ポリシーエディタで使用されます。サービスの特定には使用されません。デフォルトでは、表示名は [サービス] ダイアログボックスの [名前] カラムに表示される名前です。

- **サービスが次と異なる場合のアクション**

選択したサービスについてモニターする状態を選択します。たとえば、デフォルト モニタースタタスの [実行中] を選択すると、サービスが実行されているかどうかチェックされます。このほかに、[無効] や [停止] などを選択できます。選択したサービスの状態が変わったことがポリシーによって検出された場合は、下の [アクション] に定義されているアクションが開始されます。

- **メッセージ アクション**

サービスに定義されているデフォルト アクションを使用するか、独自のカスタムアクションを指定するかを選択します。

- **メッセージ デフォルトを使用**

ドロップダウンリストの [メッセージ デフォルトを使用] をクリックし、ポリシーに対して定義されているデフォルト アクションをプロセスモニターが使用するよう指定します。

- **カスタム メッセージ**

モニターに対してカスタムアクションを定義する場合は [カスタム定義] をクリックします。このオプションをチェックすると、ポリシーが一致項目を発見した場合に実行するアクションを設定する [開始アクション]、[続行アクション]、および [終了アクション] タブでのオプションの使用が必要になります。ここで使用するアクションタブは、メッセージと自動アクションまたはオペレータ起動アクションを定義する標準の HPOM タブです。

3. [時間]、[分]、および [秒] ボックスに適切な値を入力して [ポーリング周期] を設定します。
4. [保存] をクリックして、新しいプロセスモニターポリシーまたは変更したプロセスモニターポリシーを保存します。

プロセスモニターの設定

新しいプロセスをモニターに追加するには、以下の手順を実行します。

1. サービスプロセスモニタリングポリシーの [モニタ] タブにある [タイプ] ドロップダウンメニューから [プロセス] を選択します。
2. 追加するプロセスの名前が分かっている場合は、以下の手順を実行します。
 - a. 下のドロップダウンリストから [プロセスの追加] を選択します。[条件] ダイアログボックスが表示されます。

b. モニターするプロセスの詳細を入力します。

○ プロセス名

モニターするプロセスの名前です。

[プロセス名] ボックスに入力した文字列は、ポリシーエディタによって、ポリシーに定義されている既存プロセス名一覧との比較が行われます。重複する名前は認められません。また、特殊文字の \ (バックスラッシュ)、" (二重引用符)、: (コロン)、& (アンパサンド記号)、< > (山かっこ)、? (疑問符)、| (パイプ)、およびスペース () は認識されません。

Windows ノードの場合、「notepad.exe」といったファイル拡張子など、Windows で既知の文字列については、ここで入力した文字列がプロセスの名前と一致する必要があります。重複は認められません。

UNIX または Linux ノードの場合は、モニターするプロセスの実行可能ファイルの名前「のみ」指定します。パスは指定しません。

プロセスの複数のインスタンスは、インスタンスを区別するパラメータ (svchost.exe -k rpcss および svchost.exe -k netsvcs など) を使用してモニターできます。詳細は以下の「パラメータ」を参照してください。

○ パラメータ

一致させる必要のある文字列またはパラメータを定義します。このオプションを使用した場合は、指定したパラメータが実行中のプロセスの特定に使用されます。標準の HPOM パターンマッチングは、このボックスの内容の評価に使用されます。このとき、Windows では管理対象ノードの大文字と小文字は区別されません。以下の点に注意してください。

- **[パラメータ]** ボックスに何も指定されていない場合は、パラメータが定義されていない実行中のプロセスに対してのみ、ポリシーエディタによる一致確認が行われます。
- **[パラメータ]** ボックスにパターンマッチング文字列を含まない文字列が指定されている場合は、文字列が定義されているプロセスに対してのみ、ポリシーエディタによる一致確認が行われます。
- **[パラメータ]** ボックスにパターンマッチング文字列指定されている場合は、文字列が定義されているすべてのプロセスに対して、ポリシーエディタによる一致確認が行われます (たとえば、「<*>」の場合はすべてのパラメータ、「<*>abc<*>」の場合は文字列「abc」を含むすべてのパラメータに対して一致確認が行われます)。

○ プロセス数が次と異なる場合のアクション

選択したプロセスについてモニターする状態を選択します。[<=]、[>=]、および [>=] から選択できます。

○ メッセージ アクション

プロセスに定義されているデフォルトアクションを使用するか、独自のカスタムアクションを指定するかを選択します。

- **メッセージ デフォルトを使用:**

ドロップダウンメニューの**[メッセージ デフォルトを使用]**をクリックし、ポリシーに対して定義されているデフォルトアクションをプロセスモニターが使用するよう指定します。

- **カスタム メッセージ:**

プロセスモニターに対してカスタムアクションを定義する場合は**[カスタム メッセージ]**をクリックします。このオプションをチェックすると、ポリシーが一致項目を発見した場合に実行するアクションを設定する**[開始アクション]**、**[続行アクション]**、および**[終了アクション]**タブでのオプションの使用が必要になります。ここで使用するアクションタブは、メッセージと自動アクションまたはオペレータ起動アクションを定義する標準のHPOMタブです。

3. **[時間]**、**[分]**、および**[秒]**ボックスに適切な値を入力して**[ポーリング周期]**を設定します。

4. **[保存]**をクリックして、新しいプロセスモニターポリシーまたは変更したプロセスモニターポリシーを保存します。

開始アクションの設定

ポリシーに追加する個々のサービスまたはプロセスモニターには、開始アクションを指定できます。開始アクションは、サービスが指定した状態でない場合、またはプロセスの数が指定した数でない場合に実行されます。デフォルト開始アクションを変更しない場合、あらかじめ定義されている開始アクションが実行されます。

サービスモニターのデフォルト開始アクションは、アクティブメッセージブラウザにメッセージを送信します。メッセージには、ポリシーごとに異なる属性を指定できます。その一部は以下のとおりです。

- 重要度: 危険域
- メッセージ キー: <\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:START
- メッセージ テキスト: <\$MSG_TEXT>.(Service name, actual and expected service state)

例: Service Telnet is not running.Current state is stopped.

- 右側のメッセージ キー パターンに一致するメッセージを受諾: <\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:<*>

プロセスモニターのデフォルト開始アクションは、アクティブメッセージブラウザにメッセージを送信します。メッセージには、ポリシーごとに異なる属性を指定できます。その一部は以下のとおりです。

- 重要度: 危険域
- メッセージ キー: <\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:START

- メッセージ受諾時のメッセージ キー: <\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:<*>
- メッセージ テキスト: <\$MSG_TEXT>. (Process name, actual and expected number of running processes)

例: 0 processes "xterm" with parameter "<*>abc<*>" are running. Expected: 1 process.

デフォルトのメッセージ属性については「[メッセージ デフォルト](#) タブ」、条件定義の詳細は「[条件](#) タブ」を参照してください。

サービスプロセスモニタリングポリシーに開始アクションを設定するには、以下の手順を実行します。

1. すべてのサービスまたはプロセスモニターに適用されるデフォルト開始アクション、または個々のサービスまたはプロセスモニターに適用されるカスタム開始アクションを設定できます。
 - デフォルト開始アクションを設定するには、[メッセージ デフォルト](#) タブに続けて [開始アクション](#) タブをクリックします。メッセージを設定できる [メッセージ](#) タブが表示されます。
 - カスタムの開始アクションを設定するには、以下の手順を実行します。
 - i. [モニタ](#) タブで、サービスまたはプロセスを一覧から選択します。
 - ii. [条件](#) タブの [メッセージ アクション](#) ドロップダウンリストから [カスタム メッセージ](#) を選択します。 [開始アクション](#) タブが表示されます。
2. オプション。アクティブメッセージブラウザにメッセージを送る場合は、[モニタ](#) タブ -> [開始アクション](#) -> [アクション](#) を選択し、自動のオペレータ起動アクションを定義できます。

続行アクションの設定

ポリシーに追加する各サービスまたはプロセスモニターには、続行アクションを指定できます。実行開始後は、リセット値に達しない限り、その後の各ポーリング周期で続行アクションが実行されます。デフォルト続行アクションを変更しない場合、続行アクションは実行されません。

続行アクションを設定するには、以下の手順を実行します。

1. すべてのサービスまたはプロセスモニターに適用されるデフォルト続行アクション、または個々のサービスまたはプロセスモニターに適用されるカスタム続行アクションを設定できます。
 - デフォルト続行アクションを設定するには、[メッセージ デフォルト](#) タブに続けて [続行アクション](#) タブをクリックします。 [続行アクション](#) タブのドロップダウンメニューから [指定された '開始アクション' を使用](#) を選択します。
 - カスタム続行アクションを設定するには、以下の手順を実行します。
 - i. 一覧内のサービスまたはプロセスモニターをクリックしてから、[条件](#) タブの [カスタム メッセージ](#) をクリックします。

- ii. **[続行アクション]** タブのドロップダウンメニューから **[特別な '続行アクション' を定義]** を選択します。メッセージを設定できる **[メッセージ]** タブが表示されます。

2. オプション。アクティブメッセージブラウザにメッセージを送る場合は、[モニタ] タブ -> [開始アクション] -> [アクション] を選択し、自動のオペレータ起動アクションを定義できます。

終了アクションの設定

ポリシーに追加する個々のサービスまたはプロセスモニターには、終了アクションを指定できます。実行開始後は、サービスまたはプロセスが想定された状態に戻ってから、終了アクションが実行されます。終了アクションは、デフォルト続行アクションを変更しない場合に実行されます。

サービスモニターのデフォルト終了アクションは、アクティブメッセージブラウザにメッセージを送信します。メッセージには、ポリシーごとに異なる属性を指定できます。その一部は以下のとおりです。

- 重要度: 通常
- メッセージ キー: <\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:END
- メッセージ受諾時のメッセージ キー:
<\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:<*>
- メッセージ テキスト:
<\$SESSION(SERVICEDISPLAYNAME)> is <\$SESSION(SERVICEMONITORSTATE)>.

例: Service Telnet is running.

プロセスモニターにあらかじめ定義されているデフォルト終了アクション

プロセスモニターにあらかじめ定義されているデフォルト終了アクションは、アクティブメッセージブラウザにメッセージを送信します。メッセージには、ポリシーごとに異なる属性を指定できます。その一部は以下のとおりです。

- 重要度: 通常
- メッセージ キー: <\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:END
- メッセージ受諾時のメッセージ キー:
<\$NAME>:<\$MSG_NODE_NAME>:<\$MSG_OBJECT>:<*>
- メッセージ テキスト:
<\$SESSION(PROCESSNBRAVAILABLE)> process "<\$SESSION(PROCESSNAME)>" with parameter "<\$SESSION(PROCESSPARAMETERS)>" is running.

例: 1 processes "xterm" with parameter "<*>abc<*>" is running.

デフォルトのメッセージ属性については「[\[メッセージ デフォルト\] タブ](#)」、条件定義の詳細は「[\[条件\] タブ](#)」を参照してください。

終了アクションを設定するには、以下の手順を実行します。

1. 個々のサービスまたはプロセスモニターに適用されるカスタム終了アクションのみ設定できます。特別の終了アクションを設定するには、以下の手順を実行します。
 - a. **[モニタ]** タブで、サービスまたはプロセスを一覧から選択します。
 - b. **[条件]** タブの**[メッセージ アクション]** ドロップダウンリストから**[カスタム メッセージ]** を選択します。**[終了アクション]** タブが表示されます。ドロップダウンリストから**[特別な '終了アクション' を定義]** を選択します。メッセージを設定できる**[メッセージ]** タブが表示されます。
2. オプション。アクティブメッセージブラウザにメッセージを送る場合は、**[モニタ]** タブ -> **[開始アクション]** -> **[アクション]** を選択し、自動のオペレータ起動アクションを定義できます。

SiteScope ポリシータイプ

SiteScope と HPOM の機能を組み合わせると、SiteScope のテンプレートを HPOM で管理できる(つまり、SiteScope のテンプレートとモニターを HPOM のポリシーを割り当てて配布することで設定できる)効率的で詳細なモニタリングソリューションを利用できます。一般的に、SiteScope ポリシーとは、HPOM のポリシーに変換されて HPOM データベースにアップロードされた SiteScope のテンプレートのことで、このポリシータイプが `sitescope` です。

HPOM を使用した SiteScope 設定の配布についての詳細は、以下の場所にある『Deploying SiteScope Configuration with HPOM (HPOM を使用した SiteScope 設定の配布)』ドキュメントを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

サブエージェントポリシータイプ

サブエージェントポリシータイプでは、サブエージェント(つまり、HPOM の一部ではないものの、HP Operations 管理サーバーから部分的に管理できる製品)を管理できます。

サブエージェントポリシータイプの詳細は、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [すべてのポリシータイプ](#)

Windows イベント ログポリシータイプ

Windows イベント ログポリシータイプは、Windows イベント ログ内のエントリをモニターし、選択した文字パターンがイベント ログに見つかった場合に応答を返します。**[プロパティ]** タブに指定する必要がある設定の説明は、「[\[プロパティ\] タブ](#)」を参照してください。

このポリシータイプに使用できるポリシー本文の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [イベントログソースの設定](#)
- [イベントログポリシーオプションの設定](#)
- [Windows イベントログポリシーでのアクションの設定](#)
- [イベントログ条件の設定](#)
- [Windows イベントログポリシーでのメッセージデフォルトの設定](#)
- [すべてのポリシータイプ](#)

イベントログソースの設定

イベントログポリシーエディタの [ソース] タブでは、ポリシーが読み込むイベントログ、およびイベントログの読み込みをポリシーが開始する場所を指定できます。また、イベントログが見つからない場合にメッセージを受信することも選択できます。

[ソース] タブに指定する必要がある設定の説明は、[「\[ソース\] タブ」](#)を参照してください。

Windows イベントログポリシーでのメッセージデフォルトの設定

[メッセージ デフォルト] タブでは、ポリシーが送信するすべてのメッセージに対してデフォルトの属性を設定できます。

メッセージデフォルトは、新しいルールにのみ適用されます。個々のルールに対するデフォルトは、ルールの作成後に変更できます。ルールのメッセージに属性が指定されていない場合は、デフォルトの属性がエージェントで使用されます。以下の設定の詳細は、[「\[メッセージ デフォルト\] タブ」](#)を参照してください。

• メッセージ属性

イベントログポリシーに対するメッセージ属性です。

- **サービス ID:** デフォルトのサービス ID です。条件で無効にしない限り、生成されるメッセージで使用されます。
- **サービスの実行ホスト:** サービスをホストしているノードの名前を特定できます。必要な情報に合わせて、使用できるセレクトア ([フィルタ]、[すべてのノード グループ]、[すべてのノード階層]、および [すべてのノード]) から選択します。
- **メッセージ グループ:** メッセージグループを特定できます。デフォルト値は条件部分に設定されています。必要な情報に合わせて、使用できるセレクトア ([フィルタ] および [すべてのメッセージ グループ]) から選択します。
- **[指示] タブ:** 適切なオプションを [タイプ] ドロップダウンメニューから選択します。[指示文を使用しない]、[指示文]、および [指示文 インタフェース] のいずれかを選択します。

- **[関連処理] タブ:** メッセージキーを定義します。チェックボックスを選択して、重複するメッセージを除外するかどうかを指定します。
- **[詳細] タブ:** 詳細設定です。[パターン マッチング] (フィールドセパレータを定義し、チェックボックスを選択して大文字と小文字を区別させるかどうかを指定します) および[メッセージ ストリーム インタフェース] (エージェント MSI とサーバー MSI を使用するかどうかを指定します)などを設定できます。

イベントログ条件の設定

[条件] タブでは、Windows イベントログポリシーに対する条件を指定できます。このタブでは、ルールに関連付けられたアクションをルールに実行させるエントリを Windows イベントログに指定できます。ここで指定したアクションと一致するイベントログエントリをポリシーが発見すると、**[アクション]** タブで指定したアクションが実行されます。

[条件] タブに指定する必要がある設定の説明は、**[条件] タブ**を参照してください。

Windows イベントログポリシーでのアクションの設定

[アクション] タブでは、特定の条件の評価後にポリシーが行うことを指定します。ポリシーには、管理サーバーにメッセージを送信する、コマンドを起動する、またはオペレータが起動するコマンドを準備することができます。また、これらを組み合わせることもできるほか、何もしないことも可能です。

HPOM のアクション変数は、大半のメッセージおよびコマンドテキストボックスに使用できます (例外がある場合は表示されます)。変数、特にスペースを含む値を返すことがある変数は、引用符で囲むと往々にして使い勝手が良くなります。

[アクション] タブに指定する必要がある設定の説明は、**[アクション] タブ**を参照してください。

イベントログポリシーオプションの設定

Windows イベントログポリシーエディタの**[オプション]** タブでは、ポリシーの動作をいくつか設定できます。

[オプション] タブに指定する必要がある設定の説明は、**[オプション] タブ**を参照してください。

Windows Management Interface ポリシータイプ

Windows Management Interface (WMI) ポリシータイプは、WMI のクラスとインスタンスをモニターし、プロパティの値が選択した値と一致した場合や、選択したインスタンスが作成された場合に応答を返します。**[プロパティ]** タブに指定する必要がある設定の説明は、**[プロパティ] タブ**を参照してください。

このポリシータイプに使用できるポリシー本文の文法については、『HPOM Concepts Guide (HPOM コンセプトガイド)』を参照してください。

関連項目

- [WMI ポリシーソース](#)
- [WMI ポリシーオプション](#)
- [WMI ポリシーメッセージデフォルト](#)
- [WMI ポリシー条件](#)
- [すべてのポリシータイプ](#)

WMI の [ソース] タブの設定

WMI の [ソース] タブでは、WMI ポリシーでモニターするインスタンスやイベントを選択できます。

• オブジェクトパス

オブジェクトパスには、モニターする WMI オブジェクトを定義します。

WMI には、Windows の設定、および WMI の名前空間に他のプログラムが情報を書き込む設定に関する大量の情報が含まれています。使い勝手の良い WMI ポリシーを記述するには、WMI で使用できる情報の種類について理解を深める必要があります。

WMI が提供する情報は複数の名前空間に分けられています。デフォルトの名前空間は、Root、Root\Default、Root\security、および Root\CimV2 です。他のアプリケーションでは他の名前空間が追加されていることもあり、たとえば HPOM では root\Hewlett-Packard\OpenView\ という名前空間が追加されています。

Root\CimV2 という名前空間は、Windows オペレーティングシステムとコンピューターに取り付けられているハードウェアに関する大量の情報を含むことから、最も興味深い名前空間の 1 つです。最も便利なクラスには、Win32_Service、Win32_Desktop、Win32_Share、Win32_PhysicalDisk など、Win32_ という接頭辞が付いています。このような情報に精通するには、wbemtest や HP Operations のクラスブラウザといったツールを使用して、クラスの内容を調べるのが最も良い方法です。

- **ノード:** モニターする WMI データベースをホストするノードです。エージェントを使用しないノードも対象です。
ノードを指定しないと、HPOM は、このポリシーが配布されたノードの WMI データベースをモニターします。参照ボタン (🔍) を使用して HPOM ノードを選択するか、ボックスにノード名を入力します。
- **WMI 名前空間:** 管理するデータを含む名前空間です。
- **オブジェクトタイプ:** [イベント] または [インスタンス] を選択します。参照ボタン (🔍) を使用して [オブジェクトパス] フィールドに入力する方が、オブジェクトタイプを正しく設定できます。ただし、クラス階層でクラスを正しく特定しないと、設定が誤りになることがあります。

インスタンス

WMI リポジトリに書き込まれる静的情報です。この情報は、変更が加えられるか削除されるまで、リポジトリに残ります。

イベント

WMI リポジトリに短期間書き込まれる情報です。この情報は一時的なもので、リポジトリには残りません。一部のイベントは、WMI がデフォルトで定義するもので、**固有イベント**と呼ばれます。固有イベントには、インスタンス、クラス、または名前空間の作成、変更、または削除などが含まれます。**外的イベント**と呼ばれる他のイベントは、名前空間の設計者が定義した場合にのみ、WMI ポリシーで使用できます。いずれの場合も、イベントに使用できるプロバイダーを名前空間の設計者が記述した場合にのみイベントが使用できます。ただし、固有イベントは、ポーリング周期を使用することで、WMI ポリシーによるシミュレートが可能です。

- **クラス名**: モニターするイベントまたはインスタンスを含むクラスを入力します。(クラスとは、WMI リポジトリに保存する情報に対して定義されたデータプロパティのコレクションです。)
- **非エージェント ユーザーとして接続**: 選択されている場合は、エージェントが以下のアカウント情報を使用してノードの WMI データベースにアクセスします。このアカウントは、エージェントを使用しないノードに存在し、ローカルの管理者権限が必要です。選択しない場合は、エージェントアカウントが使用されます。

● 照会タイプ

照会タイプは、モニターするオブジェクトタイプによって異なります。プロバイダーが定義されているイベントをモニターする場合は、ここでは何の情報も入力する必要はありません。プロバイダーが定義されていない固有イベントをモニターする場合は、ポーリング周期を指定する必要があります。インスタンスをモニターする場合は、以下の情報を指定する必要があります。

- クラス内に含まれる特定の値と一致させる場合は、**[クラスの照会 インスタンス]**を選択します。また、**[ポーリング周期]**で、選択したインスタンスを Windows Management Interface ポリシーがチェックする頻度を指定する必要があります。
- インスタンス、インスタンスを含むクラス、またはインスタンスを含む名前空間の作成、変更、または削除をチェックする場合は、**[これらのインスタンスの固有イベントを照会]**を選択します。また、イベントにプロバイダーが定義されていない場合は、**[ポーリング周期]**を設定し、選択したオブジェクトを Windows Management Interface ポリシーがチェックする頻度の指定も必要です。(これが、WBEM Query Language の **within** 句になります。)
- **グローバル WQL フィルタ (WQL の Where 句)**: グローバルフィルターはルールとして記述できます。グローバルフィルターは、ポリシーによる評価に先立ってインスタンスまたはイベントに適用されるテストです。グローバルフィルターを使用すると、フィルターを通過しないイベントやインスタンスがポリシーによって評価されないため、パフォーマンスを向上させることができます。(グローバルフィルターは、WBEM Query Language の **Where** 句です。)

グローバルフィルターの例

グローバルフィルターの構文は3つの部分に分かれています。

PROPERTY OPERATOR VALUE

例: `_PATH = "C:/program files"`

グローバルフィルターで固有イベントのフィルター処理を行う場合は、いくぶん構文が異なります。

`TargetInstance.PROPERTY OPERATOR VALUE`

または

`TargetClass.PROPERTY OPERATOR VALUE`

または

`TargetNamespace.PROPERTY OPERATOR VALUE`

例:

`TargetInstance.InteractWithDeskTop = 1`

`TargetNamespace.name = "CIMV2"`

WMI ポリシーでのメッセージデフォルトの設定

[メッセージ デフォルト] タブでは、ポリシーが送信するすべてのメッセージに対してデフォルトの属性を設定できます。

メッセージデフォルトは、新しいルールにのみ適用されます。個々のルールに対するデフォルトは、ルールの作成後に変更できます。ルールのメッセージに属性が指定されていない場合は、デフォルトの属性がエージェントで使用されます。以下の設定の詳細は、[「\[メッセージ デフォルト\] タブ」](#)を参照してください。

• メッセージ属性

WMI ポリシーに対するメッセージ属性です。

- **サービス ID:** デフォルトのサービス ID です。条件で無効にしない限り、生成されるメッセージで使用されます。
- **サービスの実行ホスト:** サービスをホストしているノードの名前を特定できます。必要な情報に合わせて、使用できるセクタ ([フィルタ]、[すべてのノード グループ]、[すべてのノード階層]、および [すべてのノード]) から選択します。
- **メッセージ グループ:** メッセージグループを特定できます。デフォルト値は条件部分に設定されています。必要な情報に合わせて、使用できるセクタ ([フィルタ] および [すべてのメッセージ グループ]) から選択します。
- **アプリケーション:** 「アプリケーション」属性です。デフォルト値は条件部分に設定されています。
- **オブジェクト:** 「オブジェクト」属性です。デフォルト値は条件部分に設定されています。
- **ノード:** 「ノード」属性です。必要な情報に合わせて、使用できるセクタ ([フィルタ]、[すべてのノード グループ]、[すべてのノード階層]、および [すべてのノード]) から選択します。

- **重要度**: 重要度を設定できます。重要度を [不明]、[通常]、[警戒域]、[重要警戒域]、[警告]、および [危険域] から選択します。これ以外の重要度が条件に指定されていない場合は、この重要度が使用されます。
- **[指示] タブ**: 適切なオプションを **[タイプ]** ドロップダウンメニューから選択します。[指示文を使用しない]、[指示文]、および [指示文 インタフェース] のいずれかを選択します。
- **[関連処理] タブ**: メッセージキーを定義します。チェックボックスを選択して、重複するメッセージを除外するかどうかを指定します。
- **[詳細] タブ**: 詳細設定です。[パターン マッチング] (フィールドセパレータを定義し、チェックボックスを選択して大文字と小文字を区別させるかどうかを指定します) および [メッセージストリーム インタフェース] (エージェント MSI とサーバー MSI を使用するかどうかを指定します)などを設定できます。

WMI 条件の設定

[条件] タブでは、Windows Management Interface ポリシーに対する条件を指定できます。これらのルールに対する条件には、WMI のイベントやインスタンスのプロパティに加え、これらのプロパティで正しくマッチング処理を行うために必要な値のセットがあります。

[条件] タブに指定する必要がある設定の説明は、**[条件] タブ**を参照してください。

WMI ポリシーオプションの設定

Windows Management Interface ポリシーエディタの **[オプション]** タブでは、ポリシーの動作をいくつか設定できます。

[オプション] タブに指定する必要がある設定の説明は、**[オプション] タブ**を参照してください。

すべての Smart Plug-in の一覧表示

[すべての Smart Plug-in] ページには、HP Operations 管理サーバーにインストールされている Smart Plug-in (SPI) が一覧表示されます。**[すべての Smart Plug-in]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。**[名前]** カラムのタイトルをクリックすると、SPI の一覧を昇順/降順に並べ替えることができます。

SPI の一覧をフィルター処理して表示数を減らすには、一覧の上部にある **[フィルタ]** リンクをクリックし、フィールドとドロップダウンメニューを使ってフィルター条件を定義します。名前、タイプ、ラベルなどの多様な条件に基づいてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。一覧にフィルターを適用する場合、表示とアクション実行のための一部のデフォルトオプションを使用できないことがあります。使用できないオプションはグレー表示され、選択できません。

Smart Plug-in の一覧

カラムタイトル	説明
---------	----

Smart Plug-in の一覧 (続き)

すべて	すべて、または個々の SPI を選択するためのチェックボックス。選択した SPI は、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクションの対象となります。
名前	Smart Plug-in の短縮名を示します。アクションボタン (🔍) をクリックすると、一覧に含まれる SPI に対して実行できるアクションが一覧表示されます。参照ボタン (🔗) をクリックすると、各 SPI について表示できる設定詳細が一覧表示されます。たとえば、選択した SPI に関連するすべてのポリシーを一覧表示したり、選択した SPI の設定に関する詳細情報を表示できます。
🔗	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択した Smart Plug-in (SPI) について表示できる設定の詳細を一覧表示します。たとえば、 [ポリシー] には、選択した SPI にリンクされているポリシーが一覧表示されます。
🔍	アクションボタンをクリックすると、選択した Smart Plug-in で実行可能なアクションが一覧表示されます。たとえば、 [表示] には選択した Smart Plug-in の現在の設定の概要と内容が表示されます。
詳細	選択した Smart Plug-in の対象となる技術領域の概要を示します。

Smart Plug-in を一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーが管理しているすべての SPI を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべての Smart Plug-in]** をクリックします。SPI がフラットリストで表示されます。SPI の数が多いときは、ノードの一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [一覧のソート](#)
- [一覧のフィルター処理](#)
- [SPI 詳細の表示](#)
- [すべての SPI 関連ポリシーの一覧表示](#)

Smart Plug-in の詳細の表示

[Smart Plug-in の詳細] ページには、**[すべての Smart Plug-in]** ページに一覧表示される個々の SPI の設定に関する詳細情報が表示されます。**[SPI の詳細]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。アクションアイコン (🔍) をクリックすると、選択した SPI に対して実行できるアクションが一覧表示されます。参照アイコン (🔗) をクリックすると、選択した SPI について表示できる設定詳細が一覧表示されます。たとえば、現在選択している SPI に所属するすべてのポリシーを一覧表示したり、選択した SPI の設定に関する詳細情報を表示できます。

Smart Plug-in の詳細

属性	値
名前	Smart Plug-in の名前です。Smart Plug-in の名前をクリックすると詳細情報が表示されます。
詳細	HPOM のグラフィカルユーザーインターフェースに表示される、特定の管理対象ノードのラベルです。

Smart Plug-in の詳細を表示するには

選択している SPI の現在の設定の詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. **[参照]** メニューで **[すべての Smart Plug-in]** をクリックします。SPI 数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
2. **[名前]** カラムで、詳細を確認する SPI の該当リンクをクリックします。

関連項目

- [すべての Smart Plug-in の一覧表示](#)

すべてのツール

[すべてのツール] ページには、HP Operations 管理サーバー上のユーザーが使用可能なすべてのツールが一覧表示されます。**[すべてのツール]** ページの情報は、下記の情報とともに表内に表示されます。**[名前]** カラムのカラムタイトルをクリックすると、ツール名を昇順または降順に並べ替えることができます。アクションボタン (🔍) をクリックすると、一覧内のツールで実行可能なアクションが一覧表示され、参照ボタン (🔗) をクリックすると、選択したツールについて表示できる設定の詳細が一覧表示されます。ツールで実行可能なアクションおよび参照可能な設定の詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ツールの一覧にフィルター処理をして表示される数を減らしたい場合は、一覧の上部にある **[フィルタ]** リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。広範な条件 (例、名前、タイプ、ラベル) に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

ツールの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のツールを選択するためのチェックボックス。選択したツールは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション(「ツールを追加」、「ツールグループにリンク...」、「削除...」など)の対象となります。
タイプ	アイコンにより一覧内のツールのタイプを表します。

ツールの一覧 (続き)

ラベル	[名前] カラムで定義したツールに関連付けられているラベルを表示します。ラベルは、選択したツールを HPOM グラフィカルユーザーインターフェース内で識別するのに使用します。ツールの一覧のツールラベルをクリックすると、ツールの詳細が表示されます。
名前	ツールの名前を表示します。ツール名をクリックすると、選択したツールが所属するツールグループを含む、選択したツールの詳細情報が表示されます。ツール名の横のアイコンのいずれかをクリックするとメニューが表示され、選択したツールの設定を参照したり、アクションを実行できます。
ターゲット	ツールを実行する場所です。たとえば、\$MGMTSV (管理サーバー)、選択したノード (現在選択している管理対象ノード)、または URL (指定した場所へのリンク)。
出力モード	ツールによって提供される情報の表示方法。たとえば、In/Out (ツールプロンプトに対して必要なユーザー入力)、出力専用 (ツールはデフォルトまたは要求されたターゲットにデータを書き込みます)、X (ツールは結果を表示するためにターミナルウィンドウなどのグラフィカルインターフェースを開きます)。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したツール (またはツールグループ) について表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能な詳細情報については、「 ツール(グループ)設定詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、一覧で選択したツール (またはグループ) に対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ツール(グループ)アクションの一覧 」を参照してください。
詳細	ツールが実行する作業を簡単に説明します (例、「ログファイル設定ファイルの編集に使用」)。

ツールを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、ツールを一覧表示するには、次の手順を実行します。ツールおよびグループの一覧は、階層構造またはフラットな一覧で表示できます。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、ツールおよびツールグループを階層ツリーで表示する場合は **[登録ツール]** を、フラットな一覧で表示する場合は **[すべてのツール]** または **[すべてのツールグループ]** をクリックします。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ツール\(グループ\)設定詳細の参照](#)

- [ツール\(グループ\)アクションの一覧](#)
- [すべてのツールグループ](#)
- [すべてのユーザー](#)
- [すべてのユーザープロフィール](#)

ツールの詳細の表示

[[ツールの詳細](#)] ページには、[[すべてのツール](#)] ページに表示される各ツールの設定に関する詳細情報が表示されます。[[ツールの詳細](#)] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。アクションボタン (🔍) またはページタイトルをクリックすると、一覧に含まれるツールに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。ナビゲーションボタン (📄) をクリックすると、参照可能なツールの設定詳細が一覧表示されます。

ツールの詳細

属性	値
名前	ツールの名前です。
ターミナルで起動	ツールの起動方法とツール出力の印刷先を示します。
ラベル	HPOM のグラフィカルユーザーインターフェースに表示される、特定のツールのラベルです。
詳細	ツールに関する簡単な説明。
タイプ	詳細を表示しているツールのタイプ (OM ツール、内部ツールなど)。
ターゲット	ツールの実行場所 (管理対象ノード上、管理サーバー上など)。
呼び出し	表示しているツールを起動するためのコマンド呼び出し。PATH 変数に場所が定義されていない場合は、コマンド呼び出しへのパスも指定する必要があります。
ユーザー	ツールを起動するオペレーティングシステムユーザーの名前 (root、「HP ITO Account」など)。

ツールの詳細を表示するには

選択したツールの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の [[参照](#)] メニューで、[[すべてのツール](#)] をクリックします。ツールの数が多いときは、ツールの一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
2. [[名前](#)] カラムで、詳細情報を表示するツールの該当リンクをクリックします。

関連項目

- [ツールアクションの一覧表示](#)
- [ツール設定の詳細の参照](#)

ツールの編集

[ツールの編集] ページでは、既存のツールのパラメータを変更できます。次に例を示します。

IT 環境の管理に使用するツールに変更を加えるときは、[ツールの編集] ページを使用します。

既存のツールを変更するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の [参照] メニューで、[すべてのツール] をクリックします。ツールの一覧から、変更するツールを選択します。[アクション] メニューから [編集...] オプションを選択します。
 - **ツールのプロパティ:**
編集したツールがユーザーインターフェースにどのように表示されるかに関する詳細情報です。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
 - **内部ツール:**
名前、実行プラットフォーム、実行ユーザーの名前/パスワードなど、内部ツールに関する詳細情報を指定する必要があります。
 - **OM ツール:**
起動する新しいコマンド/ツールと実行場所に関する詳細情報を指定する必要があります。
 - 起動するコマンド/ツールと、実行場所に関する詳細情報です。
2. 以下のボタンを使用すると、ツールに加えた変更を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたツールの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、[復元] ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ツール設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
ツールに加えたすべての変更を破棄します。

次の表では、[ツールの編集] ページの [プロパティ] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ツールの編集: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ツール名	変更中のツールの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、管理 UI にはこの名前が表示されます。変更中のツールの名前を変更することはできません。このフィールドは非アクティブです。	必須
ラベル	変更中のツールに割り当てるラベルです。ラベルは、ユーザーインターフェースでツールの識別に使用されます。	オプション
詳細	ツールに関する簡単な説明です。これは、ユーザーがツールの機能を確認する上で役立ちます。	オプション
親グループ	変更中のツールが属すツールグループの新しい名前 (存在する場合) を示します。	オプション

次の表では、[ツールの編集] ページの [OM ツール] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ツールの編集: [OM ツール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ツール呼び出し	変更したツールの起動時に実行するコマンド呼び出しです。	必須
パラメータ	[ツール呼び出し] フィールドに指定したコマンドのパラメータとオプションです。	オプション
起動	ドロップダウンメニューを使用して、変更したツールを実行する場所 (管理サーバー、管理対象ノードなど) を指定します。	必須
表示	ドロップダウンメニューを使用して、実行中のツールについて表示する情報と表示場所を指定します。たとえば、ウィンドウ (出力のみ) を指定すると、コマンド出力のみを専用ウィンドウに表示するように設定できます。	必須
ユーザー名	変更したツールを実行するユーザーの名前を指定します。	必須
パスワード	[ユーザー名] フィールドに指定したユーザーのパスワード (パスワードが必要な場合) を指定します。	オプション

ツール (グループ) の変更

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン () を使用すると、使用可能なアクションの一

覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。いずれのオプションも使用できない場合は、ページタイトルの横にあるアクションボタン () を使用します。次の表は、HPOM ツール(またはツールグループ)に対して実行できるアクションを示しています。たとえば、表示、編集などのアクションを実行できます。

[アクション] メニュー: ツール/ツールグループ

アクション	説明
表示	選択した OM ツール(またはツールグループ)の詳細情報を表示します。
内容とともにコピー...	既存のツール(またはツールグループ)をコピーできるように、ツール編集ページを表示します。このページでは、コピー操作の実行中に詳細情報(ただし、ツールの内容は除きます)を変更できます。ツールの内容は変更されずそのままコピーされます。
ツール/ツールグループの割り当て	選択したツール(またはツールグループ)を使用可能なツール(または使用可能なツールグループ)に追加します。
編集...	選択した OM ツール(またはツールグループ)の定義を変更します。
コピー...	既存のツール(またはツールグループ)をコピーできるように、ツール編集ページを表示します。このページでは、コピー操作の実行中に詳細情報を変更できます。
ツールグループにリンク...	所属グループから選択したツール(またはツールグループ)を、別のツールグループにリンクします。
ユーザー/プロフィールに割り当て...	選択したツール(またはツールグループ)をユーザーまたはユーザープロフィールに追加します。ユーザー/ユーザープロフィールは、表示される登録ユーザー/登録ユーザープロフィールの一覧から選択できます。
削除...	HPOM の登録ツール/登録ツールグループからツール/ツールグループを削除します。
ダウンロード...	HPOM データベースからツール(またはツールグループ)の設定をダウンロードします。
ショッピングカートに追加	選択したツール(またはツールグループ)オブジェクトをショッピングカートに追加します。ショッピングカートの内容をクリップボードディレクトリにダウンロードできます。クリップボードディレクトリからはパッケージを任意の管理サーバーにアップロードしたり、単に後で適切な時間に使用するためにパッケージをアーカイブしておくことができます。

ツール(またはツールグループ)に対して実行できるアクションを一覧表示するには

選択したツール(またはツールグループ)に対して実行できるアクションを一覧表示するには、以下の操作を実行します。

1. HPOM の [参照] メニューで、[すべてのツール] または [すべてのツールグループ] をクリックします。ツール(またはツールグループ)数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

あります。

2. アクションの実行対象となるツール(またはツールグループ)を特定します。
3. アクションボタン(🔍)をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
4. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、上の表を参照してください。

関連項目

- [ツール\(グループ\)設定詳細の参照](#)
- [ツール\(グループ\)設定詳細の表示](#)
- [ツール\(グループ\)設定詳細の編集](#)

ツール(グループ)詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン(🔍)を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン(🔍)を使用します。次の表は、HPOM ツール(またはツールグループ)について表示できる詳細を示しています。たとえば、ツール(ツールグループ)が割り当てられているユーザー(またはユーザープロフィール)を一覧表示します。

[参照] メニューツール/ツールグループ

設定の詳細	説明
親ツールグループ	選択したツールまたはツールグループが属するツールグループを一覧表示します。
ツール	ツールグループに割り当てられているツールの一覧を表示します。
ユーザー	選択したツールまたはツールグループが割り当てられた、すべてのHPOM ユーザーを一覧表示します。
プロフィール	選択したツールまたはツールグループが割り当てられた、すべてのHPOM ユーザープロフィールを一覧表示します。

ツールまたはツールグループの設定詳細を参照するには

選択した OM ツールまたはツールグループの現在の設定について参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [参照]メニューで、[すべてのツール]または[すべてのツールグループ]をクリックします。ツール(またはツールグループ)数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

3. 表示された一覧で、設定を参照するツール(またはツールグループ)を特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能な設定詳細の一覧が表示されます。
5. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細のタイプに対応するオプションをクリックします。表示できる設定詳細については、下の表を参照してください。

関連項目

- [ツール\(グループ\)アクションの一覧](#)

すべてのツールグループ

[すべてのツールグループ] ページには、HP Operations 管理サーバーで使用可能なツールグループが一覧表示されます。[すべてのツールグループ] ページの情報は、下記の情報とともに表内に表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、ツールグループ名を昇順または降順に並べ替えることができます。アクションボタン (🔍) をクリックすると、一覧内のツールグループで実行可能なアクションが一覧表示され、参照ボタン (🔍) をクリックすると、選択したツールグループについて表示できる設定の詳細が一覧表示されます。ツールグループで実行可能なアクションおよび参照可能な設定の詳細は、後述の関連項目の一覧を参照してください。

ツールグループの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のツールグループを選択するためのチェックボックス。選択したツールグループは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「ツールを追加」、「ツールグループを追加...」、「削除...」など) の対象となります。
タイプ	アイコンにより、一覧内のツールグループのタイプを表します。
ラベル	[名前] カラムで定義されたツールグループに関連付けられたラベルを表示します。このラベルは選択したツールグループを識別するために、HPOM の GUI で使用されます。ツールグループ一覧内のツールグループラベルをクリックすると、より詳細な情報が表示されます。
名前	ツールグループの名前が表示されます。グループ名をクリックすると、ツールグループに含まれるツールなど、選択したツールグループに関するより詳細な情報が表示されます。ツールグループ名の横にあるいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、選択したツールグループの設定を参照したり、アクションを実行できます。
内容	一覧されたツールグループに含まれるツールの数を示します。
詳細	一覧されたツールグループに含まれるツールの種類について、簡単に説明します。

ツールグループの一覧を表示するには

HP Operations 管理 サーバーに設定されている、ツールグループの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべてのツールグループ]** をクリックし、ツールグループをフラットリストで表示します。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ツール\(グループ\)設定詳細の参照](#)
- [ツール\(グループ\)アクションの一覧](#)
- [すべてのツール](#)
- [すべてのユーザー](#)
- [すべてのユーザープロフィール](#)

ツールグループの詳細の表示

[ツールグループの詳細] ページには、一覧表示されている個々のツールグループの内容に関する詳細情報が表示されます。情報は、以下の情報とともに表内に表示されます。アクションボタン (ⓘ) またはページタイトルをクリックすると、一覧に含まれるツールグループに対して実行可能なアクションが一覧表示されます。ナビゲーションボタン (🔍) をクリックすると、参照可能なツールグループの設定詳細が一覧表示されます。

ツールグループの詳細

属性	値
名前	内部で使用されるツールグループの名前です。
ラベル	HPOM のグラフィカルユーザーインターフェイスに表示される、特定のツールグループのラベルです。
詳細	選択したツールグループの簡単な説明です。

ツールグループの詳細を表示するには

選択したツール(またはツールグループ)の詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。

2. **[参照]**メニューで、**[すべてのツールグループ]**をクリックします。ツールグループの数が多いときは、ツールの一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
3. 詳細を表示するツールグループを選択し、**アクション** ()メニューで**[表示]**をクリックします。

関連項目

- [すべてのツールグループ](#)
- [ツールアクションの一覧表示](#)
- [ツール設定詳細の参照](#)

ツールグループの編集

[ツールグループの編集] ページでは、既存のツールグループのパラメータを変更できます。

このページを使用すると、運用中のIT環境のユーザーが使用可能なツールグループに変更を加えることができます。

既存のツールグループに変更を加えて、運用環境のユーザーに変更後のバージョンを使用させるには、次の手順を実行します。

1. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ**
ユーザーインターフェースに表示されるツールグループの表示方法に関する詳細です。表示されているフィールドに使用できる値についての詳細は、下記の表を参照してください。
2. 以下のボタンを使用すると、ツールグループへの変更を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更されたツールグループの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ツールグループ設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
ツールグループに加えたすべての変更を破棄します。

以下の表では、[ツールグループの編集]の[プロパティ]タブのフィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ツールグループの編集: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	変更するツールグループの名前です。[ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、HPOM 管理 UI にはこの名前が表示されます。変更中のツールグループの名前は変更できません。フィールドは無効となります。	必須
情報	説明に加えて、作成するツールグループに関連する有益なデータが含まれています。ツールグループの一般的な概要には表示されませんが、ドロップダウンメニュー ([表示] オプション) からアクセスできます。	オプション
ラベル	変更するツールグループの名前です。このラベルによって、ユーザーインターフェイス内のツールグループを識別します。	オプション
詳細	新しいツールグループの簡単な説明です。新しいツールグループに含まれるツール (またはツールグループ) のタイプが分かります。	オプション
親グループ	編集中のツールグループを含むツールグループの名前です。	オプション

すべての HPOM ユーザー

[すべてのユーザー] ページには、HP Operations 管理サーバー上で作業するように設定されているユーザーが一覧表示されます。[すべてのユーザー] ページの情報は、下記の情報とともに表内に表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、ユーザーの一覧を昇順または降順に並べ替えることができます。

ユーザーの一覧にフィルター処理をして表示される数を減らしたい場合は、一覧の上部にある [フィルタ] リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。幅広い条件 (例、名前、タイプ、ラベル) に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

HPOM ユーザーの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のユーザーを選択するためのチェックボックス。選択したユーザーは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「プロファイルへの割り当て」、「削除...」、「ユーザーを追加...」など) の対象となります。
タイプ	ユーザーのタイプ (管理者、オペレータ) をアイコンで示します。

HPOM ユーザーの一覧 (続き)

ラベル	ユーザーに割り当てられているラベルを示します。これは、管理 UI に表示されるラベルです。ラベルは、そのラベルのアイコンとともに表示メカニズムとして使用されます。
名前	HPOM ユーザーの名前 (「itop」、「netop」、「opc_op」など) を示します。HPOM ユーザー名をクリックすると、そのユーザーの詳細情報が表示されます。ユーザー名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ユーザーの詳細情報を表示したり、ユーザーに対してアクションを実行できます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したユーザーについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なユーザーの詳細情報については、「 ユーザー設定詳細の参照 」を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、選択したユーザー設定に対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、「 ユーザーアクションの一覧表示 」を参照してください。
実際の名前	一覧にある HPOM ユーザーの実際の名前です。
詳細	一覧にある HPOM ユーザーの簡単な説明を表示します。これを参照することで、管理者は、ロールや場所といった詳細情報を確認できます。
作業範囲	選択した HPOM ユーザーに作業範囲が割り当てられているかどうかを示します。作業範囲にはメッセージグループとノードグループの割り当てが含まれ、これにより、ユーザーが受信するメッセージのタイプと数量が決定されます。
ツール	選択した HPOM ユーザーにツール (またはツールグループ) が割り当てられているかどうかを示します。このツール (またはツールグループ内のツール) は、HPOM ユーザーが問題に対応するためのツールです。
プロフィール	ユーザー設定がユーザープロフィールによって定義されているかどうかを示します。

HPOM ユーザーを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、すべての HPOM ユーザーを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべてのユーザー]** をクリックします。ユーザーがフラットリストで表示されます。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ユーザーの追加/編集](#)

- [ユーザーアクションの一覧表示](#)
- [ユーザー設定詳細の参照](#)
- [すべてのHPOM ユーザープロフィール](#)

HPOM ユーザーまたはユーザープロフィールの設定

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン () を使用すると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。いずれのオプションも使用できない場合は、ページタイトルの横にあるアクションボタン () を使用します。次の表は、HPOM ユーザーおよびユーザープロフィールに対して実行可能なアクションの一覧です。たとえば、ユーザー設定 (またはユーザープロフィール) の表示または編集、ユーザーの作業範囲の編集、プロフィールの割り当てなどを実行できます。

[アクション] メニュー: HPOM ユーザーまたはユーザープロフィール

アクション	説明
表示	選択した HPOM ユーザー (またはユーザープロフィール) の設定の詳細情報を表示します。
編集...	選択した HPOM ユーザー (またはユーザープロフィール) の設定を変更します。
コピー...	選択した HPOM ユーザー (またはユーザープロフィール) の設定をコピーします。たとえば、類似したユーザー (またはプロフィール) を別の名前で作成できます。
プロフィールを割り当て...	登録ユーザープロフィールが開き、選択した HPOM ユーザー (またはプロフィール) にユーザープロフィールを割り当てることができます。
作業範囲を編集...	HPOM ユーザー (グループまたはプロフィール) に割り当てられているメッセージグループとノードグループの一覧を編集します。
ツールを割り当て...	登録ツールが開き、選択したユーザーまたはユーザープロフィールにツールまたはツールグループを割り当てることができます。
削除...	HPOM 登録ユーザーから HPOM ユーザー (またはプロフィール) を削除します。
オペレータに通知...	ダイアログが開き、簡単なメッセージを作成できます。メッセージは、送信の時点で選択した管理サーバーにログオンしているすべての HPOM ユーザーに送信されます。ユーザーへのメッセージ送信については、「 ユーザーへのメッセージの送信 」を参照してください。受信メッセージの一覧表示については、「 ユーザー通知メッセージの一覧表示 」を参照してください。

[アクション] メニュー: HPOM ユーザーまたはユーザープロフィール (続き)

ダウンロード...	HPOM 登録ユーザーから HPOM ユーザー (またはプロフィール) をダウンロードします。
ショッピングカートに追加	選択したユーザーまたはユーザープロフィールをショッピングカートに追加します。ショッピングカートの内容をクリップボードディレクトリにダウンロードできます。クリップボードディレクトリからはパッケージを任意の管理サーバーにアップロードしたり、単に後で適切な時間に使用するためにパッケージをアーカイブしておくことができます。

ユーザーまたはユーザープロフィールアクションを一覧表示するには

選択した HPOM ユーザーまたはユーザープロフィールに対して実行できるアクションを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのユーザー]** または **[すべてのユーザー プロファイル]** をクリックします。ユーザー (またはプロフィール) の数が多い場合、一覧を作成するのに多少時間がかかる場合があります。
3. アクションの実行対象となる HPOM ユーザー (またはプロフィール) を特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、ユーザーおよびユーザープロフィールで使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、上の表を参照してください。

関連項目

- [ユーザー \(プロフィール\) 設定詳細の参照](#)
- [すべての HPOM ユーザーの一覧表示](#)
- [すべての HPOM ユーザープロフィールの一覧表示](#)
- [HPOM ユーザーの作業範囲マトリックスの編集](#)
- [ユーザーへのメッセージの送信](#)
- [ユーザー通知メッセージの一覧表示](#)

ユーザー (ユーザープロフィール) 設定詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのオブジェクトの設定詳細を表示するかによって異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン () を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン () を使用します。以下の表には、選択したユーザーに割り当てられている

メッセージグループの一覧、選択したユーザーに継承されている作業範囲の一覧、選択したユーザーに割り当てられているツールなど、HPOM ユーザーまたはユーザープロフィールで参照可能な詳細の一覧が記載されています。

[参照] メニュー: HPOM ユーザーおよびプロフィール

設定の詳細	説明
ノード	選択した HPOM ユーザーに割り当てられているノードを一覧表示します。
割り当てられたプロフィール	選択したプロフィールに割り当てられているユーザープロフィールを一覧表示します。
親プロフィール	選択したプロフィールを含むユーザープロフィールを一覧表示します。
ユーザー	このプロフィールに割り当てられているユーザーを一覧表示します。
ノードグループ	選択した HPOM ユーザーに割り当てられているノードグループを一覧表示します。
メッセージグループ	選択したユーザーに割り当てられているメッセージグループを一覧表示します。このメッセージグループによって、選択した HPOM ユーザーが受信するメッセージのタイプが決まります。
作業範囲	選択したユーザーの完全な作業範囲マトリックスを表示します。作業範囲マトリックスには、選択したユーザーに割り当てられているメッセージグループ、さらに、選択したユーザーによるメッセージの受信が許可された発信先の管理対象ノードまたはノードグループが表示されます。
有効な作業範囲	選択したユーザーが継承した作業範囲を一覧表示します。ユーザーはユーザープロフィールから作業範囲を継承します。
プロフィール	選択した HPOM ユーザーに割り当てられているプロフィールを一覧表示します。ユーザープロフィールとは事前定義されるユーザー設定であり、HPOM ユーザーに作業範囲マトリックスを設定すると同時に、ツールおよびツールグループを割り当てられます。
ノード階層	HPOM ノード階層を表示します。階層を使用すると、管理対象ノードの参照および割り当てが可能です。
ツール	選択した HPOM ユーザーに割り当てられているツールを一覧表示します。ユーザーはツールを使用して、受信メッセージにより報告される障害を解決します。
有効なツール	選択したユーザーが継承しているツールが一覧表示されます。

ユーザー設定詳細を表示するには

選択した HPOM for UNIX ユーザーまたはユーザープロフィールの設定について参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのユーザー]**または**[すべてのユーザー プロファイル]**をクリックします。ユーザー (またはプロファイル) の数が多い場合、一覧を作成するのに多少時間がかかる場合があります。
3. 設定を参照する HPOM ユーザー (またはプロファイル) を特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能なユーザー設定詳細の一覧が表示されます。
5. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細に対応するオプションをクリックします。一部のメニューオプションは常に使用できるわけではありません。選択した HPOM ユーザー (例、HPOM オペレータまたはポリシー管理者) のタイプによって、表示されるメニューオプションが変化します。使用可能なメニューオプションについては、上の表を参照してください。

関連項目

- [すべての HPOM ユーザーアクションの一覧表示](#)
- [すべての HPOM ユーザーの一覧表示](#)
- [すべての HPOM ユーザープロファイルの一覧表示](#)

ユーザー詳細の表示

[ユーザー詳細] ページには、**[すべてのユーザー]** ページに一覧表示されている個々のユーザーに関する詳細情報が表示されます。**[ユーザー詳細]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ユーザー詳細

属性	値
ラベル	HPOM の GUI に表示される、選択したユーザーのラベルです (netop (ネットワークオペレータ)、opcop (opc オペレータ)、opcadm (ネットワーク管理者) など)。
名前	HPOM ユーザー名です。たとえば、標準 HPOM オペレータの場合、opc_op、HPOM for UNIX Smart Plug-in を担当するオペレータの場合、spi_op となります。 [ラベル] フィールドにラベルが指定されていない場合、管理 UI にはこの名前が表示されます。
詳細	選択したユーザーの簡単な説明 (例: HPOM ネットワークオペレータ、HPOM オペレータ、HPOM ネットワーク管理者など)。
タイプ	HPOM ユーザーのタイプ (例: オペレータ、管理者など)。
実際の名前	HPOM ユーザーの実際の名前です。
ノード階層	選択した HPOM ユーザーに割り当てられているノードを含むノード階層です (登録ノードなど)。

また、[ユーザー詳細] ページには、選択した HPOM ユーザーに割り当てられている機能と作業範囲の両方に関する情報が表示されます。次に例を示します。

- **機能:**
受諾、メッセージ属性の変更、アクションの実行、メッセージの所有。
- **作業範囲:**
選択した HPOM ユーザーに割り当てられているノードおよびメッセージグループの一覧です。

選択した HPOM ユーザーの詳細を表示するには

選択したユーザーの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の [参照] メニューで、[すべてのユーザー] をクリックします。
2. [名前] カラムで、詳細を表示、確認するユーザーの該当リンクをクリックします。

関連項目

- [ユーザープロフィール詳細の表示](#)
- [すべてのメッセージグループの表示](#)
- [すべてのポリシーの表示](#)
- [すべてのツールの表示](#)

ユーザー作業範囲

[作業範囲] ページには、選択したユーザーに割り当てられているメッセージグループと、選択したユーザーが受信できるメッセージの送信元管理対象ノードグループを示すマトリックスが表示されます。選択したユーザーが表示できるメッセージは、割り当てられている管理対象ノードから(ノードグループ経由で)送信されたメッセージと、割り当てられているメッセージグループに属すメッセージのみです。

次の表は、選択したユーザーが、バックアップ、データベース、ネットワーク、OS の各メッセージグループに属すメッセージと、ノードグループ「HP-UX」および「net devices」に含まれるノードから送信されるメッセージをどのように担当するかを示しています。マトリックスを見れば、データベースおよびオペレーティングシステム(OS)に関する問題を対象とした、「net devices」ノードグループからのメッセージは、ユーザーの作業範囲に含まれない(メッセージが表示されない)ことが簡単に分かります。

ユーザー作業範囲マトリックス

	hp-ux	net devices
バックアップ	✓	✓
データベース	✓	--
ネットワーク	✓	--
OS	✓	✓

ユーザー作業範囲を表示するには

選択したユーザーに割り当てられている作業範囲を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのユーザー]**をクリックします。
3. 表示されたユーザー一覧で、作業範囲を表示するユーザーを特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、選択したユーザーについて表示できる設定詳細が一覧表示されます。
5. **[作業範囲]**をクリックします。

関連項目

- [すべてのユーザー](#)
- [すべてのメッセージグループ](#)
- [すべてのノードグループ](#)

ユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲の編集

[作業範囲を編集] ページでは、特定のユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲マトリックスを変更できます。作業範囲マトリックスは、ユーザー(またはユーザープロファイル)に割り当てられる作業範囲の領域を指定します。たとえば、ユーザーがモニタリングを担当する管理対象ノードや、さらに、ユーザーが表示および作業可能なメッセージを持つメッセージグループを指定できます。作業範囲マトリックスを変更したら、必要な HPOM ユーザー(またはグループ)に修正したユーザープロファイルを再割り当てできます。正しく設定された作業範囲マトリックスを使用すれば、正しいユーザーが正しいメッセージを適切なノードから受信することができます。非管理対象ノードは作業範囲マトリックスの対象となりません。

以下の表では、**[作業範囲を編集]** タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分がある場合は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ユーザープロファイルの編集: 作業範囲マトリックス

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

ユーザープロファイルの編集: 作業範囲マトリックス (続き)

ビューの編集	<p>[マトリックスビューの編集] ダイアログが開き、作業範囲マトリックスに表示される項目の数および組み合わせを調整できます。つまり、作業範囲マトリックスに表示するメッセージグループおよびノードグループを定義できます。[表示可能なグループ] 一覧を使用して、編集中の作業範囲マトリックスに表示する項目を指定します。[使用可能なグループ] 一覧の項目は、選択可能であるが、まだ作業範囲マトリックスには入っていない項目です。ボタンを使用して、2つの一覧で項目をすべて移動 ([<<] [>>]) または選択して移動 ([<] [>]) させます。マトリックス内で「有効」(チェック済み) となっている項目は移動できません。[ビューの編集] ウィンドウを使用してユーザーの作業範囲マトリックスを設定する方法については、「作業範囲マトリックスビューの編集」を参照してください。</p>	--
選択項目の編集	<p>選択項目エディタが開き、現在選択しているユーザーまたはユーザープロファイルに対して有効または無効にする管理対象ノードおよびメッセージグループの組み合わせを選択できます。ノードグループやメッセージグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。現在アクティブなユーザーまたはユーザープロファイルに対して有効または無効にする管理対象ノードまたはメッセージグループを一覧から選択します。[選択項目の編集] ウィンドウを使用してユーザーの作業範囲マトリックスを設定する方法については、「作業範囲マトリックスの選択項目の編集」を参照してください。</p> <p>ヒント: 特定のノードグループまたはメッセージグループのコンテキストで選択項目エディタを開く場合など、選択項目エディタに簡単にアクセスしたい場合は、編集するグループを右クリックします。</p>	--
保存	<p>現在のセッションでユーザー作業範囲マトリックスに対して行った変更 (マトリックスビューまたは選択したノードおよびメッセージグループへの変更も含む) をすべてコミットし、ウィンドウを閉じます。</p>	--
キャンセル	<p>エディタを終了し、現在のセッションでユーザー作業範囲マトリックスに対して行った変更 (マトリックスビューまたは選択したノードおよびメッセージグループへの変更も含む) をすべて破棄します。</p>	--

ユーザーの作業範囲マトリックスを変更するには

既存のユーザーまたはユーザープロファイルに関連付けられている作業範囲マトリックスを変更し、HPOM 環境に変更を適用するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の [参照] メニューで、[すべてのユーザー] または [すべてのユーザー プロファイル] をクリックします。
2. [すべてのユーザー] または [すべてのユーザー プロファイル] ページで、変更するユーザーまたはユーザープロフィールを選択します。
3. アクションボタン () をクリックし、表示されたメニューから [作業範囲を編集] オプションを選択します。
4. [作業範囲を編集] ページで、ユーザー (またはユーザープロフィール) の作業範囲マトリックスに必要な変更を加えます。マトリックス自体を直接変更することも、[ビューの編集] および [選択項目の編集] ボタンを使用して変更を加え、問題がないことを確認した上で適用することもできます (適用した変更内容は直ちに反映されます)。
 - **ビューの編集**
特定のユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスに表示する (および表示しない) 項目を変更します。
 - **選択項目の編集**
特定のユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスで有効または無効にする項目を選択します。
5. 作業範囲マトリックスへの変更を保存または破棄します。

関連項目

- [作業範囲マトリックスビューの編集](#)
- [作業範囲マトリックスの選択項目の編集](#)

ビューの編集

[マトリックスビューの編集] ウィンドウでは、特定のユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスに表示する (および表示しない) 項目を変更できます。作業範囲マトリックスは、ユーザー (またはユーザープロフィール) に割り当てられる作業範囲の領域を指定します。作業範囲マトリックスにノードグループ/メッセージグループを追加したり、マトリックスからグループを削除するときは、[マトリックスビューの編集] ウィンドウを使用します。作業範囲マトリックスに表示するノードグループ/メッセージグループを設定したら、[選択項目エディタ](#)を使用して、その作業範囲マトリックスを割り当てるユーザーまたはユーザープロフィールの、ノードグループとメッセージグループの特定の組み合わせを有効または無効にします。ノードグループやメッセージグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。フィルターの適用はプロアクティブに行われます。一致が見つかる、一覧の内容は直ちに更新されます。

以下の表では、作業範囲マトリックスのビューエディタの各フィールドの意味について説明しています。

作業範囲マトリックス: ビューエディタ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

作業範囲マトリックス: ビューエディタ (続き)

<p>表示されるメッセージグループ</p>	<p>現在選択しているユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスに表示されるメッセージグループの一覧です。メッセージグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。フィルターの適用はプロアクティブに行われます。一致が見つかったら、一覧の内容は直ちに更新されます。[フィルタ] ボックスの横のボタンを使用することで、フィルターをロック/ロック解除できます。フィルターは、ロックすることで保存され、それ以後の検索に利用できます。フィルターのロックを解除すると、ロックは削除され、[フィルタ] ボックスの内容はクリアされます。表示されているボタンを使って2つの一覧の間で項目を移動することもできます。すべての項目を移動する場合は [<<] [>>] ボタン、選択した項目を移動する場合は [<] [>] ボタンを使用します。マトリックス内で有効化されている(チェックが付けられている)項目は削除できません。削除のために一覧のすべての項目を選択して [OK] をクリックしても一部の項目が残る(または再表示される)場合、それらの項目は作業範囲マトリックス内でアクティブである可能性が高いと考えられます。すべての項目の削除を再び試みる前に、[選択項目の編集] ウィンドウでそれらの項目を無効にする必要があります。[選択項目の編集] ウィンドウを使用してユーザーの作業範囲マトリックスを設定する方法については、「作業範囲マトリックスの選択項目の編集」を参照してください。</p>	<p>--</p>
<p>選択可能なメッセージグループ</p>	<p>現在選択しているユーザーまたはユーザープロフィールに追加するのに使用できるシステム上のメッセージグループです。メッセージグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。フィルターの適用はプロアクティブに行われます。一致が見つかったら、一覧の内容は直ちに更新されます。[フィルタ] ボックスの横のボタンを使用することで、フィルターをロック/ロック解除できます。フィルターは、ロックすることで保存され、それ以後の検索に利用できます。フィルターのロックを解除すると、ロックは削除され、[フィルタ] ボックスの内容はクリアされます。表示されているボタンを使って2つの一覧(「表示可能」と「利用可能」)の間で項目を移動することもできます。すべての項目を移動する場合は [<<] [>>] ボタン、選択した項目を移動する場合は [<] [>] ボタンを使用します。</p>	<p></p>

作業範囲マトリックス: ビューエディタ (続き)

<p>選択可能なノードグループ</p>	<p>現在選択しているユーザーまたはユーザープロフィールに追加するのに使用できるシステム上のノードグループです。ノードグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。フィルターの適用はプロアクティブに行われます。一致が見つかったら、一覧の内容は直ちに更新されます。[フィルタ] ボックスの横のボタンを使用することで、フィルターをロック/ロック解除できます。フィルターは、ロックすることで保存され、それ以後の検索に利用できます。フィルターのロックを解除すると、ロックは削除され、[フィルタ] ボックスの内容はクリアされます。表示されているボタンを使って2つの一覧(「表示可能」と「利用可能」)の間で項目を移動することもできます。すべての項目を移動する場合は [<<] [>>] ボタン、選択した項目を移動する場合は [<] [>] ボタンを使用します。</p>	
<p>表示可能なノードグループ</p>	<p>現在選択しているユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスに表示されるノードグループの一覧です。ノードグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。フィルターの適用はプロアクティブに行われます。一致が見つかったら、一覧の内容は直ちに更新されます。[フィルタ] ボックスの横のボタンを使用することで、フィルターをロック/ロック解除できます。フィルターは、ロックすることで保存され、それ以後の検索に利用できます。フィルターのロックを解除すると、ロックは削除され、[フィルタ] ボックスの内容はクリアされます。表示されているボタンを使って2つの一覧の間で項目を移動することもできます。すべての項目を移動する場合は [<<] [>>] ボタン、選択した項目を移動する場合は [<] [>] ボタンを使用します。マトリックス内で有効化されている(チェックが付けられている)項目は削除できません。削除のために一覧のすべての項目を選択して [OK] をクリックしても一部の項目が残る(または再表示される)場合、それらの項目は作業範囲マトリックス内でアクティブである可能性が高いと考えられます。すべての項目の削除を再び試みる前に、[選択項目の編集] ウィンドウでそれらの項目を無効にする必要があります。[選択項目の編集] ウィンドウを使用してユーザーの作業範囲マトリックスを設定する方法については、「作業範囲マトリックスの選択項目の編集」を参照してください。</p>	<p>--</p>
<p>OK</p>	<p>変更を設定に適用します。変更は、作業範囲マトリックスに直ちに反映されます。</p>	<p>--</p>
<p>キャンセル</p>	<p>ビューエディタを閉じ、現在のセッションで行った変更をすべて破棄します。</p>	<p>--</p>

ユーザーの作業範囲マトリックスを変更するには

既存のユーザーまたはユーザープロフィールに関連付けられている作業範囲マトリックスを変更し、HPOM 環境に変更を適用するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の **[参照]** メニューで、**[すべてのユーザー]** または **[すべてのユーザー プロファイル]** をクリックします。
2. 表示された **[すべてのユーザー]** または **[すべてのユーザー プロファイル]** ページで、変更するユーザーまたはユーザープロフィールを選択します。
3. アクションボタン () をクリックし、表示されたメニューから **[作業範囲を編集]** オプションを選択します。
4. **[作業範囲を編集]** ページで、ユーザー (またはユーザープロフィール) の作業範囲マトリックスに必要な変更を加えます。マトリックス自体を直接変更することも、**[ビューの編集]** および **[選択項目の編集]** ボタンを使用して変更を加え、問題がないことを確認した上で適用することもできます (適用した変更内容は直ちに反映されます)。
 - **ビューの編集**
特定のユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスに表示する (および表示しない) 項目を変更します。
 - **選択項目の編集**
特定のユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスで有効または無効にする項目を選択します。
5. 作業範囲マトリックスへの変更を保存または破棄します。

関連項目

- [作業範囲マトリックスの編集](#)
- [作業範囲マトリックスの選択項目の編集](#)

選択項目の編集

[選択項目の編集] ページでは、特定のユーザーまたはユーザープロフィールの作業範囲マトリックスで有効または無効にする項目を選択できます。ノードグループやメッセージグループの一覧が長い場合は、定義した文字列と一致する項目、またはその文字列を含む項目のみが表示されるようにフィルターを設定することで、一覧の内容を削減または調整できます。フィルターの適用はプロアクティブに行われます。一致が見つかったら、一覧の内容は直ちに更新されます。目的のノードグループまたはメッセージグループが一覧に表示されないときは、**[ビューの編集]** ウィンドウを開き、そのグループが表示対象項目の一覧に含まれていることを確認してください。

以下の表では、作業範囲マトリックスの選択項目エディタの各フィールドの意味と機能について説明しています。

作業範囲マトリックス: 選択項目エディタ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
----------	-------	------

作業範囲マトリックス: 選択項目エディタ (続き)

メッセージグループ	現在アクティブなユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲マトリックスで選択できるメッセージグループの一覧です。メッセージグループの一覧が長い場合は、フィルターを設定して一覧の内容を削減/調整できます。作業範囲マトリックスで有効/無効にするメッセージグループをこの一覧から選択 (有効化) または選択解除 (無効化) してください。	--
ノードグループ	現在アクティブなユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲マトリックスで選択できるノードグループの一覧です。ノードグループの一覧が長い場合は、フィルターを設定して一覧の内容を削減/調整できます。作業範囲マトリックスで有効/無効にするメッセージグループをこの一覧から選択 (有効化) または選択解除 (無効化) してください。	--
選択	ノードグループ/メッセージグループのカラムで選択した項目を有効にします (チェックを付けます)。変更は直ちに適用され、作業範囲マトリックスに反映されます。	--
選択解除	ノードグループ/メッセージグループのカラムで選択した項目を無効にします (チェックを外します)。変更は直ちに適用され、作業範囲マトリックスに反映されます。	--
閉じる	選択項目エディタを閉じ、変更をユーザーの作業範囲マトリックスに適用します。現在のセッションで加えた変更を保存または破棄するには、[作業範囲を編集] ページの [保存] または [キャンセル] ボタンをクリックします。	--

ユーザーの作業範囲マトリックスを変更するには

既存のユーザーまたはユーザープロファイルに関連付けられている作業範囲マトリックスを変更し、HPOM 環境に変更を適用するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の [参照] メニューで、[すべてのユーザー] または [すべてのユーザー プロファイル] をクリックします。
2. 表示された [すべてのユーザー] または [すべてのユーザー プロファイル] ページで、変更するユーザーまたはユーザープロファイルを選択します。
3. アクションボタン () をクリックし、表示されたメニューから [作業範囲を編集] オプションを選択します。
4. [作業範囲を編集] ページで、ユーザー (またはユーザープロファイル) の作業範囲マトリックスに必要な変更を加えます。マトリックス自体を直接変更することも、[ビューの編集] および [選択項目の編集] ボタンを使用して変更を加え、問題がないことを確認した上で適用することもできます (適用した変更内容は直ちに反映されます)。
 - ビューの編集
 - 特定のユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲マトリックスに表示する (および表示し

ない)項目を変更します。

■ **選択項目の編集**

特定のユーザーまたはユーザープロファイルの作業範囲マトリックスで有効または無効にする項目を選択します。

5. 作業範囲マトリクスへの変更を保存または破棄します。

関連項目

- [作業範囲マトリクスビューの編集](#)
- [作業範囲マトリクスの編集](#)

すべてのユーザープロファイル

[すべてのユーザー プロファイル] ページには、HP Operations 管理サーバーで現在使用できるユーザープロファイルが一覧表示されます。[すべてのユーザー プロファイル] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。[名前] カラムのタイトルをクリックすると、ユーザープロファイルの一覧を昇順/降順に並べ替えることができます。

HPOM ユーザープロファイルの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のユーザープロファイルを選択するためのチェックボックス。選択したユーザープロファイルは、表の最下部にある [アクションを選択...] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「ユーザー/プロファイルに割り当て...」、 「ツールを割り当て...」、 「削除...」など) の対象となります。
ラベル	ラベルは、ユーザープロファイルの意味をすばやく確認するのに役立ちます。HPOM のグラフィカルユーザーインターフェースに表示される、固定ユーザープロファイルのラベルです。
名前	HPOM ユーザープロファイルの名前 (「HPUX 管理者」、 「Linux オペレータ」など) を示します。HPOM ユーザープロファイル名をクリックすると、選択したユーザープロファイルの詳細情報が表示されます。ユーザープロファイル名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、そのユーザープロファイルの詳細情報を表示したり、そのユーザープロファイルに対してアクションを実行できます。
	[詳細の参照] ボタンをクリックすると、選択したユーザープロファイルについて表示できる設定の詳細を一覧表示します。表示可能なユーザーの詳細情報については、 「ユーザープロファイル設定詳細の参照」 を参照してください。
	[アクション] ボタンをクリックすると、選択したユーザープロファイル設定に対して実行可能なアクションが一覧表示されます。実行可能なアクションの詳細は、 「ユーザープロファイルアクションの一覧表示」 を参照してください。

HPOM ユーザープロフィールの一覧 (続き)

詳細	一覧表示された HPOM ユーザープロフィールの簡単な説明を示します。この情報を参照することで、HPOM 管理者は、そのプロフィールの対象となる HPOM ユーザーのタイプを確認できます。
作業範囲	選択した HPOM ユーザープロフィールに作業範囲が割り当てられているかどうかを示します。作業範囲にはメッセージグループとノードグループの割り当てが含まれ、これにより、そのプロフィールのユーザーが受信するメッセージのタイプと数量が決定されます。
ツール	ツールグループ内で選択した HPOM ユーザープロフィールツールに割り当てられたツール (アプリケーション) またはツールグループが、HPOM ユーザーが使用できるアプリケーションであり、それらが特定の問題に対応できるかどうかを示します。
プロフィール	HPOM プロフィールにユーザープロフィールが割り当てられているかどうかを示します。

HPOM ユーザープロフィールを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、すべての HPOM ユーザープロフィールを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべてのユーザー プロファイル]** をクリックし、ユーザープロフィールをフラットリストで表示します。

関連項目

- [ユーザープロフィールアクションの一覧表示](#)
- [ユーザープロフィール設定詳細の参照](#)
- [すべての HPOM ユーザー](#)
- [HPOM ユーザープロフィールの作業範囲マトリックスの編集](#)

ユーザープロフィール詳細の表示

[ユーザープロフィールの詳細] ページには、**[すべてのユーザープロフィール]** ページに一覧表示されている個々のユーザープロフィールに関する詳細情報が表示されます。**[ユーザープロフィールの詳細]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ユーザー詳細

属性	値
名前	HPOM の GUI に表示される、選択したユーザープロフィールのラベルです (OSSPI_Tru64_admin、OSSPI_Linux_admin など)。

ユーザー詳細 (続き)

ラベル	HPOM のグラフィカルユーザーインターフェースに表示される、ユーザープロフィールのラベルです。
詳細	選択したユーザープロフィールの簡単な説明 (例: Tru64 ノード用の Unix OS SPI 管理者プロフィールなど)。

また、[ユーザープロフィールの詳細] ページには、選択した HPOM ユーザープロフィールに割り当てられている作業範囲に関する情報が表示されます。次に例を示します。

- **作業範囲:**
選択した HPOM ユーザープロフィールに割り当てられているノードおよびメッセージグループの一覧です。

選択した HPOM ユーザープロフィールの詳細を表示するには

選択したユーザープロフィールの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. [参照] メニューで、[すべてのユーザー プロファイル] をクリックします。
2. [名前] カラムで、詳細を表示、確認するユーザープロフィールの該当リンクをクリックします。

関連項目

- [ユーザー詳細の表示](#)
- [すべてのメッセージグループの表示](#)
- [すべてのポリシーの表示](#)
- [すべてのツールの表示](#)

管理ノードインストールメンテーション

[管理ノード インストールメンテーション] ページには、サーバーで現在使用可能なすべてのインストールメンテーションについての詳細が表示されます。[管理ノード インストールメンテーション] ページの情報は、次のテーブルとして表示されます。

管理ノード インストールメンテーション: ディレクトリ

カラムタイトル	説明
名前	HPOM 管理 UI で、選択したインストールメンテーションを表す名前。
日付	インストールメンテーションの作成日。
ファイルタイプ	インストールメンテーションのタイプ。
サイズ	インストールメンテーションのディレクトリまたはファイルのサイズ。

管理ノードインストールメンテーションの内容を表示するには

HP Operations 管理 サーバーの管理 ノード インストールメンテーションの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[管理ノード インストールメンテーション]**をクリックすると、内容がフラットリストで表示されます。

関連項目

- [ファイルの追加](#)

ファイルの追加/編集

[ファイルの追加] ページでは、新しいファイルを作成 (または既存のファイルを変更) し、HP Operations 管理 サーバー上の管理対象ノードのインストールメンテーションディレクトリ (またはそのサブディレクトリの1つ) にアップロードできます。以下の表では、**[ファイルの追加]** ページおよび **[ファイルの編集]** ページに表示される情報を説明しています。

HPOM: ファイルの追加

属性	値
パス	HPOM 管理サーバー上の管理対象ノードのインストールメンテーションディレクトリに追加 (変更) するファイルの場所です。表示されるパスは常に、管理サーバー上のインストールメンテーションディレクトリ (/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/) への相対パスとなります。たとえば、/ は絶対パス /var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node を指し、/vendor は絶対パス /var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/vendor を指します。
エンコーディング	エンコード (UTF-8 など) を選択するドロップダウンメニューです。
名前	作成するファイルの名前です。新しいファイルをインストールメンテーションディレクトリに追加する場合は、このフィールドへの入力が必要となります。ファイル名がすでに使用されている場合は、ファイルを保存しようとしたときエラーが表示され、新しい名前を選択するまで新しいファイルを保存できません。
最終変更日時	選択したファイルが最後に変更された日時を示します。ファイルが新規の場合は、フィールドは空白のままとなります。
サイズ	追加したファイルの大きさをバイト単位で表示します。ファイルが新規の場合は、フィールドは空白のままとなります。
行のフォーマット	UNIX と Windows のどちらのテキストファイルと互換性のある改行文字を使用するかを選択します。
エディタの切り替え	ファイル編集ツールバーを表示または非表示にします。このツールバーには、文字列を検索/特定、特定の行へジャンプ、コード構文の強調表示を実行するための編集ツールがあります。また、用意されているドロップダウンメニューを使用すると、フォントサイズの変更や、新しいファイルに適用する構文ルール (例、C、Perl、Ruby、XML) の選択が可能です。

HPOM システムファイルを追加、編集するには

新しいHPOM システムファイルを追加、または既存のファイルを変更するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[管理ノード インストールメンテーション]**をクリックすると、インストールメンテーションディレクトリが表示されます。
 - 新しいファイルを追加するには: **[管理ノード インストールメンテーション]** ページで、表の最下部にある**[アクションを選択]**ドロップダウンメニューを使用してアクションを選択し、**[ファイルを追加...]**をクリックします。
 - 既存のファイルを編集するには: 編集するインストールメンテーションファイルを参照し、アクションメニュー(○)で**[編集...]**オプションをクリックします。
3. テキストエディタを使用して、追加するファイルを作成または変更します。テキストエディタで利用できる機能については、上記の表の**[エディタの切り替え]**オプションを参照してください。
4. **[保存]**をクリックするとファイルが追加または更新され、**[復元]**をクリックするとファイルの以前保存したバージョンがあればそのファイルに戻され、**[キャンセル]**をクリックするとすべての変更を破棄してテキストエディタを終了します。新しいファイルを追加するときと同じように、ファイルの以前に保存したバージョンがない場合に**[復元]**ボタンをクリックすると、セッションのその時点までの変更がすべてクリアされ、画面が空白となります。

ショッピングカート

[HPOM ショッピングカート] ページには、将来使用するために保存しておいたHPOM オブジェクトのスナップショットが表示されます。たとえば、ショッピングカートを使用すれば、設定ダウンロード定義を保存しておいて、保存したすべての設定を一度にダウンロードできます。ショッピングカートの中身は、アクティブな管理 UI セッションを起動した HP Operations Manager ユーザーおよび HP Operations 管理サーバーに所属します。その内容がショッピングカートに表示されている管理サーバーの名前は、ショッピングカートのタイトルに表示されます。複数の管理サーバーを選択している場合は、ショッピングカートのタイトルを利用してナビゲートできます。表示中のショッピングカートの内容をダウンロードするときは、ページ下部のアクションメニューも使用できます。ショッピングカートダウンロードすると、ショッピングカートの中身がクリップボードに移動します。クリップボードはディレクトリ構造になっており、必要に応じて参照、確認が可能です。

チェックボックスで、アクションの対象となるすべての、または個別のショッピングカート内の項目を選択します。アクションは、表の最下部にある**[アクションを選択...]**ドロップダウンメニューを使用して実行します (例:「ショッピングカートから削除...」)。

[ショッピングカート] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ショッピングカートの内容

アクションタイトル	説明
-----------	----

ショッピングカートの内容 (続き)

オブジェクト クラス	ショッピングカートに配置した HPOM オブジェクトのクラスを示します。たとえば、HPOM ポリシーグループ (ovo:policygroup) や、OM ツール (ovo:application) のクラスが表示されます。
名前	ショッピングカートに配置した HPOM オブジェクトの名前を示します。オブジェクト名には、親オブジェクトの名前も含まれます。たとえば、「[opc_adm]: [Remedy SPI Admin]:Stop AR Server - Unix」というオブジェクト名は、「opc_adm」という HPOM 管理者が使用できるツールグループに属す、「Remedy SPI Admin」という OM ツールグループに含まれる、「Stop AR Server -Unix」という AR Remedy SPI ツールを意味します。一覧表示されるオブジェクト名はリンクになっており、これをクリックすると、そのオブジェクトの詳細情報が表示されます。
タイプ	ショッピングカート内の HPOM オブジェクトのタイプをアイコンで示します。たとえば、「統合」ツールは、HPOM データベースにアップロードされているツールであり、HPOM の GUI に表示されます。
バージョン	ショッピングカート内のファイルにバージョンがある場合、そのバージョンを示します。

HPOM ショッピングカートの内容を表示するには

HP Operations 管理サーバーのショッピングカートの内容を表示するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の **[参照]** メニューで、**[ショッピングカート]** をクリックします。ショッピングカート内のオブジェクト数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

サーバー設定メニュー

[サーバー設定] メニューには、HP Operations 管理サーバーのさまざまな重要事項を設定するための多数のオプションが用意されています。たとえば、設定されている通知サービス、使用できる指示文インタフェース、データベース保守の基本設定などを確認できます。メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、管理 UI の起動時に設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、**[サーバー設定]** メニューには以下の設定オプションが表示されます。

HPOM メニュー: サーバー設定オプション

メニューオプション	説明
指示文インタフェース	[指示文インタフェース] ページを表示します。[すべての指示文インタフェース] ページでは、HPOM が現在認識しているすべての指示文インタフェースの設定を確認できます。指示文インタフェースは、メッセージ条件との一致によってメッセージが生成される場合に、外部アプリケーション (Web ブラウザなど) を通じて HPOM ユーザーに指示文を伝えます。

HPOM メニュー: サーバー設定オプション (続き)

<p>グループ替え条件</p>	<p>現在存在するグループ替え条件を一覧表示した [グループ替え条件] ページを表示します。グループ替え条件は、HPOM 管理サーバーが受信したメッセージをフィルター処理し、あるメッセージグループまたはサービスから送信されたメッセージを別のグループまたはサービスに再構成します。グループ替え条件を使用することで、送信元は多種多様であっても同じ種類のイベントや問題に関連しているメッセージを、論理的に関連付けられたグループとして構成できます。</p>
<p>通知サービス</p>	<p>[通知サービス] ページを表示します。このページでは、HPOM がすでに認識している外部通知サービスの設定を確認できます。HPOM では電子メール、ポケットベルまたはショートメッセージサービス (SMS) などの外部通知サービスを利用して、HPOM オペレータに重要なイベントを通知できます。</p>
<p>トラブルチケット インタフェース</p>	<p>[トラブル チケット インタフェース] ページを表示します。このページでは、HPOM で有効化されているトラブルチケットインタフェースのステータスと設定を確認できます。トラブルチケットインタフェースの起動/停止、およびシステムコールの定義は、このページで行います。</p>
<p>管理サーバーの 設定</p>	<p>HP Operations 管理サーバーの現在の設定詳細を示す [管理サーバーの設定] ページを表示します。このページでは、外部メッセージストリームインタフェースを定義するか、グローバルオプションを設定できます。</p>
<p>サーバーポリシー</p>	<p>HP Operations 管理サーバーの [ノード "\$MGMTSV" のポリシー] ページが表示されます。[管理サーバーのポリシー] ページには、HP Operations 管理サーバーに現在配布されているポリシー (およびポリシーグループ) の詳細が表示されます。このページでは、選択した管理サーバーで現在アクティブなポリシー/ポリシーグループ (たとえば、イベント相関処理 (EC) ポリシー) を確認できます。</p>
<p>DB 保守設定</p>	<p>HPOM データベースの現在の設定詳細を示す [DB 保守設定] ページを表示します。このページでは、データベース設定の概要 (使用可能アクティブメッセージの最大数、監査のタイプとレベルなど) を確認できます。データベース保守設定の編集については、後述の関連項目の一覧を参照してください。</p>
<p>設定パラメータ</p>	<p>HPOM 管理サーバーとHTTPS エージェントの現在の設定詳細を示す [設定パラメータ] ページを表示します。このページでは、HPOM の設定の概要 (名前空間、キー、キーに割り当てられている値など) を確認できます。</p>
<p>フレキシブル管理 - アクティブ</p>	<p>HPOM フレキシブル管理機能のアクティブな設定を表示します。</p>
<p>フレキシブル管理 - テンプレート</p>	<p>フレキシブル管理環境に設定されている管理サーバーに配布できる HPOM フレキシブル管理ポリシーを表示します。</p>
<p>フレキシブル管理 - 機能</p>	<p>使用可能ではあるが、必ずしもアクティブ化されていない設定を表示します。</p>
<p>選択的配布</p>	<p>選択的配布設定ファイルの内容を示す [選択的配布ポリシー] ページを表示します。</p>

HPOM メニュー: サーバー設定オプション (続き)

レポート	[すべてのレポート] ページを表示します。このページには、HP Operations 管理サーバーに設定されている、HPOM ユーザーが利用できるレポートが一覧表示されます。たとえば、アクティブなすべてのメッセージや、ノードの概要などのレポートがあります。
レポート SQL スクリプト	[フィルタ処理後の HPOM レポート] ページを表示します。このページでは、call_sqlplus.sh スクリプトが、HPOM 環境 (アクティブユーザー、ノード設定、ポリシー割り当て、ユーザープロファイルなど) に関するレポートの生成に使用する SQL スクリプトを確認できます。レポートのリンクをクリックすると、そのレポートの生成に使用される SQL スクリプトが表示されます。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバーメニュー](#)

すべての指示文インタフェース

[すべての指示文インタフェース] ページには、HPOM が認識している設定済みの指示文インタフェースが一覧表示されます。HPOM では、指示文を使用してユーザーの障害の解決を手伝うことができます。指示文は手動で記述することも、外部アプリケーションから提供することもできます。[すべての指示文インタフェース] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

すべての指示文インタフェースの一覧

カラムタイトル	説明
名前	HPOM が使用する指示文インタフェースの名前です (「DB2SPI_Helper」など)。リンクをクリックすると、選択した指示文インタフェースに関する詳細が表示されます。
呼び出し	指示文インタフェースを起動する実行可能ファイルのパスおよび名前です (例、/opt/OV/db2spi/bin/db2s_helptext.pl)。
詳細	定義済みの指示文インタフェースの簡単な説明です (例、「DB2SPI のヘルプテキストインタフェース」)。

すべての指示文インタフェースを一覧表示するには

すべての指示文 インタフェースを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [指示文 インタフェース] をクリックします。

指示文 インタフェース数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [指示文カタログの内容の表示](#)
- [新しい指示文 インタフェースの追加](#)
- [既存の指示文 インタフェースの編集](#)

指示文 インタフェースの編集

[指示文 インタフェースの編集] ページには、メッセージ条件との一致によってメッセージが生成される場合に、Web ブラウザなどの外部アプリケーションを通じて HPOM ユーザーに指示文を伝えるよう設定する際に必要なパラメータが表示されます。問題の解決に役立つ指示文を HPOM オペレーターに表示する、外部アプリケーションの呼び出しを作成するときは、このページを使用します。

次の表では、[指示文 インタフェースの編集] ページの [設定] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

指示文 インタフェースの編集: [設定] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	指示文 インタフェース呼び出しの名前です。	✓
詳細	指示文 インタフェース呼び出しの簡単な説明です。	--
呼び出し	HPOM ユーザーに指示文を表示するアプリケーションを起動するコマンドです。コマンドは、[起動] フィールドに指定した管理対象ノード上で、[ユーザーとして実行] フィールドに指定したユーザーのコンテキストで実行されます。	✓
ユーザーとして実行	指示文表示アプリケーションを実行するユーザーです。	✓

指示文インタフェースの編集: [設定] タブ (続き)

出力モード	(出力専用): 指示文インタフェース呼び出しによって起動されるアプリケーションの出力先が stdout である場合は、このオプションを選択します。指示文は、シンプルなウィンドウに表示されます。 ウィンドウなし (X アプリケーション): アプリケーションが指示文の表示用に独自の出力ウィンドウを表示できる場合は、このオプションを選択します。	✓
トラブルチケット インタフェースまたは通知インタフェースにメッセージを転送するとき	指示文を無視: 指示文インタフェース呼び出しによって起動されたアプリケーションが X ウィンドウを必要とする場合、またはメッセージ内の変数の解決に長時間かかる場合は、このオプションを選択します。 指示文を解決: 指示文インタフェースからの指示文を通知サービスとトラブルチケットインタフェースに使用させる場合は、このオプションを選択します。この場合、メッセージを表示する上で、変数の解決が必要になることがあります。	--
起動先	指示文表示アプリケーションを起動する場所に、HP Operations 管理サーバー、または HP Operations Agent が稼働中の管理対象ノードのいずれかを選択します。	✓

指示文を編集/公開するには

指示文を編集し、HPOM ユーザーが利用できるようにするには、次の手順を実行します。

- HP Operations 管理サーバーの [設定] メニューで [指示文インタフェース] を選択します。表示された指示文インタフェースの一覧で、変更する指示文インタフェースを特定します。
- アクションボタン () をクリックして、表示されたメニューから [編集...] オプションを選択します。以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
設定:
指示文表示アプリケーションの詳細情報、アプリケーションの起動場所、指示文の表示方法を示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
- 以下のボタンを使用すると、指示文の詳細を保存または破棄できます。
 - 保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更された指示文の定義を保存します。
 - バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、[復元] ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - 復元**
[バックアップ] ボタンをクリックして作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている

場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、指示文設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- キャンセル
指示文に加えたすべての変更を破棄します。

グループ替え条件の一覧表示

[グループ替え条件] ページには、あるメッセージグループから別のメッセージグループに移動されたメッセージ条件が一覧表示されます。グループ替え条件は、HP Operations 管理サーバーが受信したメッセージのテキストと属性を解析し、あるメッセージグループまたはサービスから送信されたメッセージを別のグループまたはサービスに再構成します。グループ替え条件を使用することで、メッセージの送信元は多種多様であっても、同じ種類のイベントや問題に関連しているメッセージを、論理的に関連付けられたグループとして構成できます。[グループ替え条件の一覧表示] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

グループ替え条件

フィールドラベル	説明
アプリケーション	グループ替え条件のアプリケーションの名前です。
フィールド セパレータ	フィールド間のセパレータを示します。フィールド間のセパレータは大文字と小文字を区別することも、または大文字と小文字を区別しないようにすることもできます。
メッセージ グループ	グループ替え条件のメッセージグループの名前です。
メッセージ テキスト	グループ替え条件のテキストを示します。
新しいサービス名	グループ替え条件のサービス名を示します。
ノード	グループ替え条件のノードの名前です。
オブジェクト	グループ替え条件のオブジェクトの名前です。
位置	グループ替え条件の位置を示します。
重要度	グループ替え条件の重要度を示します。

メッセージグループ条件を一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、すべてのグループ替えメッセージ条件を一覧表示し、必要に応じて変更を加えるには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [グループ替え条件] をクリックします。

注: 一覧表示されるグループ替え条件の順序も変更できます。メッセージは、グループ替え条件との最初的一致で直ちに別のメッセージグループに再割り当てされるため、条件の順序は重要です。つまり、より一般的な条件は、より詳細な条件より後に指定する必要があります。

関連項目

- [すべてのメッセージソースポリシーの一覧表示](#)
- [すべてのメッセージグループの一覧表示](#)

通知サービスの一覧表示

[通知の一覧] ページには、HPOM が認識しているすべての通知サービスが一覧表示されます。HPOM では電子メール、ポケットベルまたはショートメッセージサービス (SMS) などの外部サービスを利用して、HPOM オペレータに重要なイベントを通知できます。また、時間帯に応じて異なるサービスを使用するように設定できます (例、営業時間内は電子メール、夜間はポケットベルまたは SMS)。一部またはすべての既存通知サービスを変更/削除するときは、このページを使用します。[通知の一覧] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

HPOM 通知サービスの一覧表示

カラムタイトル	説明
名前	HPOM が使用する通知サービスの名前。
呼び出し	通知サービスを起動するために呼び出す実行可能ファイルのパスと名前。
スケジュール	指定した通知サービスを起動/停止する時刻。

既存の通知サービスを一覧表示するには

既存の通知サービスを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで **[通知サービス]** をクリックして、現在設定されているすべての通知サービスを一覧表示します。

関連項目

- [通知サービスの詳細の表示](#)
- [新しい通知サービスの追加](#)
- [既存の通知サービスの編集](#)

通知サービスの詳細の表示

[通知サービスの表示] ページには、表示するために選択した HPOM 通知サービスの詳細が表示されます。HPOM では電子メール、ポケットベルまたはショートメッセージサービス (SMS) などの外部サービスを利用して、HPOM オペレータに重要なイベントを通知できます。[通知サービス] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

HPOM 通知サービスの表示

属性	値
名前	HPOM が使用する通知サービスの名前 (電子メールクライアント、ポケットベルクライアントなど)。
呼び出し	HP Operations Manager が通知サービスを起動するのに呼び出す実行可能ファイルのパスと名前です (例、/usr/bin/mailclient)。
スケジュール	選択した通知サービスに設定されている開始および停止の日付および時刻です。

既存の通知サービスの詳細を表示するには

既存の通知サービスの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [通知サービス] をクリックして、現在設定されているすべての通知サービスを一覧表示します。
3. 表示された通知サービス一覧で、表示する通知サービスを特定します。
4. [名前] カラムで、詳細を表示する通知サービスをクリックします。

関連項目

- [新しい通知サービスの追加](#)
- [既存の通知サービスの編集](#)

通知サービスの編集

[通知サービスの編集] ページでは、HPOM がすでに認識している外部通知サービスの定義を変更できます。HPOM では電子メール、ポケットベルまたはショートメッセージサービス (SMS) などの外部通知サービスを利用して、HPOM オペレータに重要なイベントを通知できます。

次の表では、[通知設定] ページの [通知サービス] タブの各フィールドに入力できる情報を示しています。青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

通知設定: [通知サービス] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	使用する通知サービスの名前です。変更中の通知サービスの名前は変更できません。フィールドは無効となります。	必須
呼び出し	通知サービスを起動するのに使用するコマンドです。	必須

以下の表では、[通知スケジュール] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。通知スケジュールはオプションです。

通知設定: [通知スケジュール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
日	ドロップダウンメニューを使用し、通知サービスを開始する日を選択します。ドロップダウンメニューの横にあるアイコンをクリックすると、追加のスケジュールを一覧に追加したり、一覧から削除できます。	オプション
開始時刻	通知スケジュールを開始する時刻です。	オプション
終了時刻	通知スケジュールを終了する時刻です。	オプション

既存の通知サービスの編集

既存の通知サービスを編集するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [通知サービス] をクリックして、現在設定されているすべての通知サービスを一覧表示します。
3. 変更する通知サービスを特定し、アクションボタン (ⓘ) をクリックします。
4. 表示されたメニューで [編集...] をクリックします。
5. 以下のタブに表示されたフィールドに情報を入力します。
 - **通知サービス**
重要なイベントを HPOM のオペレータに通知するために使用する外部通知サービスの詳細と、その通知サービスを開始する方法およびタイミングを表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
 - **通知スケジュール**
通知サービスを使用するタイミングおよび頻度についての詳細を表示します。表示されているフィールドに使用できる値に関する詳細は、上記の表を参照してください。
6. 以下のボタンを使用すると、通知サービスの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての必須情報が適切に入力されている場合、変更さ

れた通知 サービスの定義が保存されます。

- **キャンセル**
通知 サービスに加えたすべての変更を破棄します。

関連項目

- [通知 サービスの詳細の表示](#)
- [新しい通知 サービスの追加](#)
- [既知の通知 サービスを追加の一覧表示](#)

トラブルチケット インタフェース

[トラブルチケット インタフェース] ページには、トラブルチケット インタフェースのステータスと可用性に関する情報が表示されます。[トラブルチケット インタフェース] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

トラブルチケット インタフェース

カラムタイトル	説明
属性	トラブルチケット インタフェースが有効であるかどうか、およびインタフェースを起動するために呼び出されるプログラムを示します。
値	[属性] カラムに表示される属性の現在の値。次に例を示します。 有効 = Yes/No 呼び出し = <トラブルチケット インタフェースの実行可能ファイルへのパス>

既存のトラブルチケット インタフェースを一覧表示するには

既存のトラブルチケット インタフェースを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで **[トラブルチケット インタフェース]** をクリックすると、現在設定されているトラブルチケット インタフェースが表示されます。

関連項目

- [トラブルチケット インタフェースの編集](#)

管理サーバーの設定

[管理サーバーの設定] ページには、許可されている管理対象ノードへの同時配布の数、メッセージストリームインタフェースが有効になっているかどうかなどの、HP Operations 管理サーバーの現在の設定の概要が表示されます。[管理サーバーの設定] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

HP Operations 管理サーバーの設定

カラムタイトル	説明
属性	HPOM 管理者 インタフェースで設定した HPOM データベース属性を表します (例、許可されている同時配布の数、メッセージストリームインタフェースが有効になっているかどうか)。
値	[属性] カラムに一覧表示される属性の現在の値です。

HPOM 管理サーバーの設定を表示するには

HP Operations 管理サーバーの現在の設定を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [管理サーバーの設定] をクリックします。

関連項目

- [現在の HPOM 管理ポリシーの配布の表示](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定の編集](#)
- [選択的配布ファイルの内容の表示](#)

管理サーバーのポリシー

[ノード "\$MGMTSV" のポリシー] ページには、HP Operations 管理サーバーに現在配布されているポリシーおよびポリシーグループの概要が表示されます。たとえば、イベント関連処理 (EC) ポリシーなどの情報が表示されます。[管理サーバーのポリシー] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

HP Operations 管理サーバーのポリシーの配布

カラムタイトル	説明
割り当て済み	カラムには HPOM 管理サーバーに割り当てられたポリシーのバージョンが表示されます。バージョン番号をクリックすると、ポリシービュー (ポリシー詳細) がグラフィカルに表示されます。
内容	このグループ内のポリシーグループまたはポリシーの数。
詳細	使用法や機能など、このポリシーに関する情報が含まれます。
タイプ	選択した HPOM 管理サーバーに配布されているポリシーまたはポリシーグループのタイプ (「ECS ポリシー」など)。
[参照] メニュー	ポリシーの既存の関係を表示するか、影響分析を実行できます。

HP Operations 管理サーバーのポリシーの配布 (続き)

[アクション] メニュー	編集、割り当て、配布などのタスクを迅速に実行できます。
名前	HP Operations 管理サーバーに配布されているポリシーまたはポリシーグループの名前 (「Alarm Correlation」など)。

HPOM 管理サーバーのポリシーの配布を表示するには

HP Operations 管理サーバーの現在のポリシーの配布を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [サーバー ポリシー] をクリックします。

関連項目

- [HP Operations 管理サーバー設定の表示](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定の編集](#)
- [選択的配布ファイルの内容の表示](#)

データベースの設定の表示

[DB 保守設定] ページには、HPOM データベースの現在の設定の概要が表示されます。このページでは、たとえば、HPOM がデータベース内で維持するアクティブ/ペンディング/履歴メッセージの最大数を指定したり (最大数を超過すると、メッセージブラウザに警告メッセージが送信されます)、受諾メッセージがファイルに自動的にダウンロードされるように設定できます。[DB 保守設定] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

DB 保守設定

カラムタイトル	説明
属性	HPOM 管理者 インタフェースで設定した HPOM データベース属性を示します。たとえば、履歴メッセージや監査メッセージの許容最大数などが表示されます。
値	[属性] カラムに一覧表示される属性の現在の値です。これらの値を編集するときは、[編集] メニューの [DB 保守設定の編集] オプションを使用します。

HPOM データベース設定を表示するには

HPOM データベース設定を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [DB 保守設定] をクリックします。

関連項目

- [トラブルチケットインタフェースの編集](#)
- [選択的配布ファイルの内容の表示](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定の表示](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定の編集](#)

設定パラメータ

[設定パラメータ] ページには、HP Operations 管理サーバーに設定されているパラメータの完全な一覧が表示されます。たとえば、HTTPS 認証サーバーの名前および IP アドレス、OPC_INSTALLED_VERSION などのすべての HPOM 変数、利用可能なセキュリティ証明書の一覧などが表示されます。[設定パラメータ] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

設定パラメータの一覧

カラムタイトル	説明
リソースグループ	パラメータが設定されている技術的なフレームワークがアイコンによって表されます (例: 「サーバー」(HPOM 管理サーバー)、「エージェント」(HPOM エージェント))。
名前空間	一覧表示されたパラメータ (またはキー) が設定されている名前空間を表します (例: 「bbccb」(HTTP 通信ブローカ)、「eeagt」(サーバーエージェント)、「sec.cm」(証明書マネージャ))。
キー	特定の命名空間に設定されているパラメータを表示します。たとえば、管理サーバーおよびエージェントにインストールされているソフトウェアバージョンを表す「OPC_INSTALLED_VERSION」や、証明書サーバーをホストしているマシンの名前を表す「CERTIFICATE_SERVER」などがあります。
値	「キー」カラムに一覧表示されているパラメータの設定値を表示します (例、「08.13.000」(OPC_INSTALLED_VERSION)、「host.name.com」(CERTIFICATE_SERVER))。

HPOM for UNIX 設定パラメータを一覧表示するには

HPOM 管理サーバーに設定されている、すべての HPOM 設定パラメータを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [設定パラメータ] をクリックします。

関連項目

- [現在の HPOM 管理ポリシーの配布の表示](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定の編集](#)

- [選択的配布ファイルの内容の表示](#)

フレキシブル管理ファイルの一覧表示

このページを使用すると、HPOM のフレキシブル管理機能に関連付けられているファイルを一覧表示し、各種の条件で出力をフィルター処理できます。以下はその例です。

- 現在アクティブな設定ファイル
- 現在作成中のフレキシブル管理設定ファイル
- 使用可能なすべてのフレキシブル管理「テンプレート」

設定ファイルの場所については、下の表を参照してください。

[名前] カラムのリンクをクリックして、選択したフレキシブル管理設定ファイルの詳細情報を表示します。表示される情報には、担当の管理サーバーの名前、設定がアクティブになっているタイムゾーン、メッセージルールおよび条件が含まれます。ファイル名の横のアイコンのいずれかをクリックするとメニューが表示され、選択したファイルの追加情報を参照したり、アクションを実行できます。参照 (🔍) メニューとアクション (🔧) メニューおよび、それぞれのオプションについては、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

フレキシブル管理のための設定ファイルの開発、テストおよび配布プロセスは、ディレクトリ位置を明確にすることで制御します。たとえば、ソフトウェアのセットアップ時にインストールされる基本テンプレートは変更しないでください。これらのテンプレートは作業ディレクトリにコピーし、そのディレクトリでローカル要件に合わせて変更します。

テストにより安定性が確認された後に、作業ファイルを管理 UI で「アクティブ化」し、新しいファイル内の最新の設定をサーバープロセスに強制的に読み込ませます。アクティブ化プロセスでは、アクティブファイルディレクトリ (respmgrs) に設定ファイルがコピーされ、opccfgout コマンド (-update オプションを使用) を実行することで新しい設定が明示的にロードされます。フレキシブル管理設定ファイルについては、以下の表を参照してください。

フレキシブル管理: 設定ファイルの場所

ディレクトリのタイプ	場所	説明
ベース	/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/	ベースディレクトリには、すべてのサブディレクトリ、ファイル、担当管理設定用のテンプレートが保存されています。
テンプレート	<ベース>/tmp1_respmgrs/	ソフトウェアの設定時にインストールされたデフォルトの設定ファイルテンプレートです (例、escmgr、outage、hierarchy)。

フレキシブル管理: 設定ファイルの場所 (続き)

作業中	<ベース>/work_respmgrs/	開発中のため配布およびアクティブ化の前にさらなるテストが必要な設定ファイルです。
アクティブ	<ベース>/respmgrs/	配布、アクティブ化され、運用環境で使用中的設定ファイルです。

フレキシブル管理設定ファイルを一覧表示するには

フレキシブル管理設定ファイルまたはテンプレートを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定]メニューで [フレキシブル管理 - テンプレート] をクリックします。テンプレート数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。表示されるテンプレートの一覧は tmp1_respmgrs ディレクトリから読み込まれます。このディレクトリにはソフトウェアのインストール時に保存されたデフォルトのテンプレートがあります。各種設定ファイルの内容については、上記の表を参照してください。

関連項目

- [すべてのフレキシブル管理ファイルアクションの一覧表示](#)
- [フレキシブル管理ファイルの詳細の参照](#)
- [フレキシブル管理ファイルの内容の表示](#)
- [新しいフレキシブル管理設定ファイルの作成](#)

フレキシブル管理設定ファイルの表示

[フレキシブル管理設定ファイル] ページには、選択したフレキシブル管理設定ファイルの詳細情報が表示されます。この情報には、適用する時刻テンプレート、定義済みのメッセージターゲットルールおよび関連する操作 (処理中、除外、ログ専用など)、個々の条件を一時的に無効にするのに使用する条件ステータス変数などが含まれます。

フレキシブル管理設定ファイルの詳細を表示するには

選択したフレキシブル管理設定ファイルの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定]メニューで [フレキシブル管理 - テンプレート] をクリックします。テンプレート数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。表示されるテンプレートの一覧は tmp1_respmgrs ディレクトリから読み込まれます。このディレクトリにはソフトウェアのインストール時に保存されたデフォルトのテンプレートがあります。デフォルトテンプレートの作業用のコ

ピーは、work_respmgrs ディレクトリに保存されており、現在アクティブな設定ファイルは respmgrs ディレクトリに保存されています。

3. **[名前]** カラムで、表示するテンプレートをクリックします。
4. また、アクションボタン (🔍) をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されますので、表示されたメニューで、**[表示]** をクリックします。

関連項目

- [フレキシブル管理設定ファイルの作成](#)
- [すべてのフレキシブル管理ファイルアクションの一覧表示](#)
- [フレキシブル管理ファイル詳細の参照](#)
- [すべてのフレキシブル管理設定ファイルの一覧表示](#)

フレキシブル管理詳細の参照

HPOM オブジェクトの詳細を参照できます。参照する情報の種類は、設定を参照するオブジェクトのタイプによって異なります。また、詳細を参照するオブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。1つのオブジェクトの詳細を表示するには、一覧からオブジェクトを特定し、参照ボタン (🔍) を使用して表示可能な情報を一覧表示するか、ページタイトルの横の参照ボタン (🔍) を使用します。

フレキシブル管理ファイルの設定詳細を参照するには

フレキシブル管理設定ファイルおよびテンプレートの現在の内容について参照できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのHPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューの [フレキシブル管理 - アクティブ]、[フレキシブル管理 - テンプレート]、または [フレキシブル管理 - 機能] をクリックします。
3. 表示されたファイル一覧で、アクションの実行対象ファイルを特定します。
4. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能な設定詳細の一覧が表示されます。
5. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細のタイプに対応するオプションをクリックします。

関連項目

- [フレキシブル管理ファイルアクションの一覧表示](#)
- [すべてのフレキシブル管理ファイルの一覧表示](#)

- [フレキシブル管理ファイルの内容の表示](#)

フレキシブル管理設定の変更

HPOM オブジェクトに対して実行可能なアクションを一覧表示できます。表示されるアクションは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。また、対象オブジェクトの数が1つであるか、複数であるかによっても異なります。アクションを単一のオブジェクトに対して実行するには、一覧内のオブジェクトを特定し、アクションボタン () を使用すると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。複数のオブジェクトに対してアクションを実行する場合は、編集するオブジェクトの横のボックスをチェックし、テーブルの下部にあるドロップダウンメニューを使用します。いずれのオプションも使用できない場合は、ページタイトルの横にあるアクションボタン () を使用します。次の表は、フレキシブル管理設定オブジェクトに対して実行できるアクションの一覧を示しています。

[アクション] メニュー: フレキシブル管理の設定

アクション	説明
表示	選択したフレキシブル管理ファイルの詳細情報を表示します。
表示 (Raw モード)	選択したフレキシブル管理ファイルの ASCII バージョンの詳細情報を表示します。
編集 (Raw モード)...	上級者専用。選択したフレキシブル管理ファイルの ASCII バージョンをテキストエディタで表示します。行番号の表示/非表示の切り替え、Unix/Windows の改行 (行末を示すマーカ) の選択、文字エンコーディング (UTF-8、ISO-8859 など) の選択が可能です。[チェック] オプションを使用することで、手動編集しているファイルに含まれる構文エラーを強調表示できます。
チェック	選択したフレキシブル管理設定ファイルを保存、配布する前に、構文エラーをチェックします。
ファイルをコピー...	現在選択しているフレキシブル管理設定ファイルをコピーします。そのファイルの既存バージョン (存在する場合) を上書きするかどうかを指定し、新しいコピーの保存場所を定義する必要があります。保存場所を定義するには、エイリアスディレクトリを指定します。
ファイルを移動...	現在選択しているフレキシブル管理設定ファイルを別の場所に移動します。そのファイルの既存バージョン (存在する場合) を上書きするかどうかを指定し、移動するファイルの保存場所を定義する必要があります。新しい場所を定義するには、エイリアスディレクトリを指定します。
ファイルの名称を変更...	現在選択しているフレキシブル管理設定ファイルの名前を変更します。そのファイルの既存バージョン (存在する場合) を上書きするかどうかを指定する必要があります。
削除...	現在選択しているフレキシブル管理設定ファイルをファイルシステムから削除します。削除操作は取り消し不可能であるため、削除の確認が求められます。

フレキシブル管理ファイルを表示するには

HPOM のフレキシブル管理機能の設定とアクティブ化に関連するファイルを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの **HPOM アイコン** をクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[サーバー設定]** メニューの **[フレキシブル管理 - アクティブ]**、**[フレキシブル管理 - テンプレート]**、または **[フレキシブル管理 - 機能]** をクリックします。
3. 表示されたファイル一覧で、アクションの実行対象ファイルを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。

関連項目

- [フレキシブル管理ファイルの詳細の参照](#)
- [すべてのフレキシブル管理ファイルの一覧表示](#)
- [フレキシブル管理ファイルの内容の表示](#)
- [ショッピングカートの中身の表示](#)

新しいフレキシブル管理設定ファイル

フレキシブル管理のための設定ファイルの開発、テストおよび配布プロセスは、ディレクトリ位置を明確にすることで制御します。たとえば、ソフトウェアのセットアップ時にインストールされる基本テンプレートは変更しないでください。これらのテンプレートは作業ディレクトリにコピーし、そのディレクトリでローカル要件に合わせて変更します。テストにより安定性が確認された後に、作業ファイルを管理 UI で「アクティブ化」し、新しいファイル内の最新の設定をサーバープロセスに強制的に読み込ませます。アクティブ化プロセスでは設定ファイルがアクティブなファイルディレクトリにコピーされます。フレキシブル管理設定ファイルの場所に関する詳細は、「[フレキシブル設定管理ファイルの一覧](#)」を参照してください。

新しいフレキシブル管理設定ファイルを作成するには

新しいフレキシブル管理設定ファイルを作成して HPOM に追加するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの **HPOM アイコン** をクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[サーバー設定]** メニューから **[フレキシブル管理 - 機能]** を選択します。
3. **[フレキシブル管理 - 機能]** ウィンドウで、ドロップダウンメニューから **[フレキシブル管理ファイルを追加 (Raw モード)...]** を選択し、**[選択したアクションを処理]** ボタンをクリックします。
4. 新しいポリシーを設定したら、以下のボタンを使用してポリシーの詳細を保存または破棄します。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の場合は、情報の入力が必要なフィールド

ドに赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ポリシーの構文がチェックされ、設定ファイルが保存されます。特に指定されていない場合、バージョンは自動的に次に使用可能な番号に設定されます。すでに使用されている番号を新しいバージョン番号として手動入力すると、既存のバージョン番号の上書き、別のバージョン番号の入力、新しいポリシー名の入力、または保存操作のキャンセルを促すメッセージが表示されます。

- **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
- **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、作成したフレキシブル管理設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、**「すべての復元ポイント (バックアップ) の一覧表示」** を参照してください。
- **キャンセル**
設定ファイルへのすべての変更を破棄し、設定ファイルエディタを閉じます。

関連項目

- [フレキシブル管理設定ファイルの一覧表示](#)
- [フレキシブル管理設定ファイルの内容の表示](#)
- [フレキシブル管理設定ファイルのプロパティの表示](#)

[プロパティ] タブ

フレキシブル管理設定ファイルの**[プロパティ]** タブには、作成または変更する HPOM フレキシブル管理設定ファイルの一般パラメータが表示されます。HPOM 環境のフレキシブル管理設定の名前を定義するときは、このページを使用します。

青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

フレキシブル管理設定: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成/変更するフレキシブル管理ファイルの名前。この名前は、HPOM の [フレキシブル管理 - 機能] ページの設定ファイル一覧に表示されます。 [フレキシブル管理 - アクティブ] ページには、明示的にアクティブ化されたファイルのみが表示されます。	✓

フレキシブル管理設定: [プロパティ] タブ (続き)

行のフォーマット	このファイルをサーバーに保存するときに Unix 形式と Windows 形式のどちらの改行を使用するか選択できます。	✓
エンコーディング	希望するエンコーディングを選択できます (例、UTF-8)。	✓

関連項目

- [フレキシブル管理設定ファイルの内容の表示](#)
- [新しいフレキシブル管理設定ファイルの作成](#)

選択的配布

[**選択的配布**] ページには、選択的配布設定ファイル (seldist) の内容が表示されます。このファイルは、配布時に「強制更新」オプションが有効な場合でも、特定のノード (およびノードグループ) に配布する設定データを制限する場合に使用されます。一覧に表示されるノードグループをクリックすることで、そのグループの詳細情報を表示できます。選択的配布ファイルは、`/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/seldist` に配置する必要があります。また、seldist ファイルに変更を加えた後は、`opcseldist` ユーティリティを使って配布マネージャを再設定する必要があります。[**選択的配布**] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

選択的配布設定ファイル

カラムタイトル	説明
ノードグループ	配布操作の実行時に選択的配布が適用されるノードグループの名前。
ファイル名	アクション/コマンド/モニタースクリプトの名前、および選択的配布操作の一部として配布されるファイルの名前。

すべてのレポート

[**すべてのレポート**] ページには、HP Operations 管理サーバー上に設定されている HPOM ユーザーが使用可能なレポートが一覧表示されます。たとえば、現在アクティブなすべてのメッセージや、管理対象ノードへのポリシーの配布などのレポートがあります。レポートは、管理サーバーの `/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/reports/C` ディレクトリに保存されています。[**すべてのレポート**] ページに表示されるレポートの一覧には HP Reporter で生成されたレポートは含まれません。[**すべてのレポート**] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

HPOM レポートの一覧

カラムタイトル	説明
タイプ	生成するレポートのタイプがアイコンで示されます (内部  、プログラム  など)。
名前	レポートの名前を示します («全アクティブメッセージ」、「ノードレポート」など)。

HPOM レポートの一覧 (続き)

詳細	レポートの簡単な説明を表示します (内部レポート用の「選択したアクティブメッセージに関するレポート」、外部プログラムを使用するレポート用の「エラーログファイルに関するレポート」など)。
コマンド	プログラムタイプのレポートのみ。レポートを生成するのに呼び出されるプログラムを表示します (例、エラーログファイルを読み込むための <code>/bin/cat</code>)。
パラメータ	レポートのタイプとレポートの内容を決定するオプションパラメータです (例、内部レポートの「 <code>\$operator</code> 、 <code>ACTIVE</code> 、 <code>DETAILED</code> 」)。 <code>/bin/cat</code> などの外部プログラムを使用してレポートにファイルを読み込む場合、読み込まれるファイル名がパラメータカラムに表示されます (例、 <code>/var/opt/OV/log/System.txt</code>)。

HPOM レポートを一覧表示するには:

HPOM 管理サーバーのすべての HPOM レポートを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [レポート] をクリックします。

関連項目

- [新しいレポート定義の追加](#)

レポートの詳細

[レポートの詳細] ページには、現在選択している HPOM レポートの概要が表示されます。表示される情報には、レポートの名前、タイプ、レポートの内容の簡単な説明などがあります。以下の表では、[レポートの詳細] ページに表示される情報を説明しています。

HPOM: タスクの詳細

属性	内容の説明
名前	レポートの名前を表します (「選択したアクティブメッセージ」、「すべてのペンディングメッセージ」など)。
詳細	レポートの簡単な説明を表示します (内部レポート用の「選択したアクティブメッセージに関するレポート」、外部プログラムを使用するレポート用の「エラーログファイルに関するレポート」など)。
タイプ	生成されたレポートのタイプがアイコンで表されます (内部 )、プログラム ) など)。
コマンド	プログラムタイプのレポートのみ。レポートを生成するのに呼び出されるプログラムを表示します (例、エラーログファイルを読み込むための <code>/bin/cat</code>)。

HPOM: タスクの詳細 (続き)

パラメータ	レポートのタイプおよびレポートの内容を決定するオプションパラメータです (例、内部レポート用の「DETAILED, \$message_active」)。/bin/cat などの外部プログラムを使用してレポートにファイルを読み込む場合、読み込まれるファイル名がパラメータカラムに表示されます (例、/var/opt/OV/log/System.txt)。
-------	---

レポートの詳細を表示するには

特定のレポートの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [レポート] をクリックします。
3. 表示されたレポートの一覧から、生成および表示するレポートをクリックします。

関連項目

- [すべてのレポートの一覧表示](#)
- [新しいレポート定義の追加](#)
- [サーバー設定メニューオプションの一覧表示](#)

SQL レポート スクリプト

[レポート SQL スクリプト] オプションは、HPOM 環境に関するレポート (ノード設定、ポリシー割り当て、ユーザープロファイルなどのレポート) の生成に使用される SQL スクリプトを一覧表示します。レポートスクリプトと、その内容を参照できます。ソート機能を利用することで、一覧の内容を昇順/降順に並べ替えることもできます。また、フィルターを適用すると、一覧内のオブジェクトの数やタイプを制限できます。一覧が長い場合、インデックスを使用すれば、迅速かつ簡単にページを切り替えることができます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

[レポート SQL スクリプト] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

SQL レポートスクリプトの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	ボックスをチェックして、アクションの対象となるすべての、または個別のレポートスクリプトを選択します。アクションは、表の最下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューを使用して実行します (「削除...」、「ファイルをアップロード...」など)。

SQL レポートスクリプトの一覧 (続き)

名前	レポートスクリプトの名前です。レポートスクリプト名は、スクリプトによって生成されるレポートの対象オブジェクトのタイプ (ノード、メッセージ、ポリシー) など、スクリプトの内容を示唆します。[名前] カラムで項目ごとに使用できる参照 () メニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の「 関連項目 」を参照してください。
日付	スクリプトが作成された日付と時刻を表します。
ファイルタイプ	一覧表示されたレポートスクリプトのファイルタイプを表示します (例、「バイナリ」)。
サイズ	保存したスクリプトのサイズを表示します (バイト単位)。

SQL レポートスクリプトを一覧表示するには

HP Operations 管理 サーバーのすべてのレポートスクリプトを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [レポート SQL スクリプト] をクリックします。スクリプト数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。必要に応じて、スクリプトは複数のページに表示されます。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [SQL レポートスクリプトに対するアクションの実行](#)

SQL レポートスクリプトアクション

HPOM レポートの生成に使用される SQL スクリプトに対して実行されるアクションを一覧表示できます。表示されるアクションのタイプは、アクションの実行対象となるオブジェクトのタイプによって異なります。たとえば、レポートスクリプトの内容の表示、スクリプトの編集/変更、ローカルファイルシステムへのスクリプトのダウンロードといったアクションが可能です。次の表は、SQL レポートスクリプトに対して実行できるアクションを示しています。

[アクション] メニュー: SQL レポートスクリプト

アクション	説明
内容の表示	選択したレポートスクリプトの内容を表示します。
ファイルの名称を変更...	SQL レポートファイルの名称を変更します。

[アクション] メニュー: SQL レポートスクリプト (続き)

ダウンロード...	SQLレポートファイルを HPOM 管理サーバーにダウンロードします。
ローカルコンピュータにダウンロード	選択したレポートスクリプトを、管理サーバーのファイル保存場所にダウンロードします。
編集...	選択したレポートスクリプトに変更を加えるために、その内容をファイルエディタで開きます。
ファイルをコピー...	選択したレポートスクリプトの内容をコピーします。
削除...	選択したレポートスクリプトを指定したディレクトリから削除します。
ファイルを移動...	選択したスクリプトを別の場所に移動して、名前を変更します。

レポートスクリプトアクションを一覧表示するには

選択した SQL レポートスクリプトに対して実行できるアクションを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. [サーバー設定] メニューで [SQL レポート スクリプト] をクリックします。スクリプト数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。この場合、一覧は複数のページに表示されます。
3. アクションの実行対象となるレポートスクリプトを特定します。
4. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
5. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、上の表を参照してください。

関連項目

- [すべての SQL レポートスクリプトの一覧表示](#)

[検索] メニュー

[検索] メニューでは、HPOM データベース内のオブジェクトを検索できます。特に、インベントリの要素を検索したり、要素が更新されている、または移動しているかどうかを確認する場合に、検索機能を使用すると便利です。[検索] メニューには、以下の表に一覧表示されているオプションがあります。

HPOM メニュー: 検索オプション

メニューオプション	説明
検索...	[設定オブジェクトの検索] ページが表示され、HP Operations 管理サーバー上の HPOM データベース内のあらゆるタイプのオブジェクトの検索が可能となります。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理 サーバー設定 メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理 サーバーメニュー](#)

HPOM オブジェクトの検索

[設定オブジェクトの検索] ページでは、すべてのタイプの HPOM オブジェクトを検索し、特定できません。[設定オブジェクトの検索] ページの各種フィールドとボタン、および入力できるデータの詳細は、下の表を参照してください。

HPOM オブジェクトの検索

フィールドラベル	内容の説明	必須テキスト?
検索対象	検索するオブジェクトのタイプをドロップダウンメニューから選択します。たとえば、ノード、ツール、ポリシーグループ、ユーザープロファイル、タスクなどを指定できます。表示されるフィールドの数とタイプは、選択したオブジェクトのタイプによって異なります。	--
名前	検索方法として使用するパターンマッチの方法をドロップダウンメニューから選択します。たとえば、「部分一致」、「完全一致」、「パターンマッチ」などを指定できます。検索に使用する文字列も入力する必要があります。検索方法については、後述の「 検索方法の選択 」を参照してください。	✓
ネットワークタイプ	ネットワークタイプに基づいて管理対象ノードを検索する場合は、検索する管理対象ノードのネットワークタイプをドロップダウンメニューから選択します。たとえば、すべて、IP、IP (DHCP)などを指定できます。	--
マシンタイプ	マシンタイプに基づいて管理対象ノードを検索する場合は、検索する管理対象ノードのマシンタイプをドロップダウンメニューから選択します。たとえば、すべて、UNIX、Windowsなどを指定できます。	--

HPOM オブジェクトの検索 (続き)

IP アドレス	IP アドレスに基づいて管理対象ノードを検索する場合は、検索方法として使用するパターンマッチの方法をドロップダウンメニューから選択します。たとえば、「部分一致」、「完全一致」、「パターンマッチ」などを指定できます。検索に使用する IP アドレスの全体または一部も入力する必要があります。検索方法については、後述の「 検索方法の選択 」を参照してください。	✓
ノード カテゴリ	ノードに割り当てられたカテゴリ。割り当てられているカテゴリでノードを検索できます。	--

検索方法の選択

いずれかの検索方法を選択して、入力する文字列の評価方法を定義します (例、「部分一致」、「完全一致」、「パターンマッチ」)。文字列の評価方法によって表示結果が異なります。下の表は、検索方法ごとの違い、および各方法でオブジェクト一覧を表示した場合に予想される結果を表しています。

オブジェクトの検索方法

検索方法	出力の詳細	検索文字列の例	検索出力の例
部分一致	検索オプション「CONTAINS (部分一致)」は、指定したオブジェクトの詳細 (ノード名、ツールラベルなど) を評価し、入力した文字列を含むすべてのオブジェクトを一覧に表示します。文字列「and」を入力すると、CONTAINS (部分一致) フィルターはオブジェクトの一覧を評価し、文字列「and」を含む (位置は任意) オブジェクトのみを表示します (例、「and」、「blueand」、「andblack」、「blueandblack」)。	「and」	「and」、 「blueand」、 「andblack」、 「blueandblack」
完全一致	検索オプション「IS (完全一致)」は、指定したオブジェクトの詳細 (名前、ツールラベルなど) を評価し、入力した文字列に一致するすべてのオブジェクトを一覧に表示します。検索文字列に「and」と入力すると、IS (完全一致) 検索オプションはオブジェクトの一覧を評価し、文字列「and」に一致するオブジェクトのみを表示します。「IS (完全一致)」検索オプションと文字列「and」の組み合わせでは、文字列「blueand」、「andblack」、「blueandblack」は表示されません。	「and」	「and」

オブジェクトの検索方法 (続き)

パターン マッチ	検索オプション「MATCHES PATTERN (パターン マッチ)」は、指定したオブジェクトの詳細 (名前、ツールラベルなど) を評価し、入力した文字列で定義したパターンに何らかの形式で一致するすべてのオブジェクトを一覧に表示します。アスタリスク (*)、山括弧 (<>) といった、通常のパターンマッチに使用される特殊文字をすべて使用できます。たとえば、文字列「an*」と入力すると、MATCHES PATTERN (パターン マッチ) フィルターはオブジェクトの一覧を評価し、定義した文字列パターンを含むすべてのオブジェクトを表示します (例、「and」、「blueand」、「andblack」、「blueandblack」)。ただし、「ant」、「blueanx」、「anycolour」、「blueankle」といった文字列も表示されてしまいます。	「an*」	「and」、 「blueand」、 「andblack」、 「blueandblack」、 「ant」、 「blueanx」、 「anycolour」、 「blueankle」など
	Perl のパターンマッチを使用すれば、さらにコンテキストを制限できます。たとえば、「[hp][hp][hp].net.*」とすれば「b」、「e」、「s」の文字の任意の組み合わせに「.net」が続くすべてのノードグループ名と任意の文字列 (*) となり、「hp.net.com」、「ebs.net.com」、「sbe.net.biz」、「seb.net.eu」などが表示されます。	「[hp][hp][hp].net.*」	「hp.net.com」、 「ebs.net.com」、 「sbe.net.biz」、 「seb.net.eu」など

HPOM オブジェクトを検索するには

HPOM オブジェクトを検索するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[検索]** メニューで、**[検索...]** をクリックします。
3. 表示されるチェックボックスとフィールドに情報を入力します。各チェックボックスが実行するアクションと、表示されているフィールドに使用できる値の詳細は、上記の表を参照してください。
4. **[検索]** ボタンをクリックすると、検索が開始されます。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [すべての管理対象ノードの一覧表示](#)
- [すべてのノードグループの一覧表示](#)
- [すべてのメッセージグループの一覧表示](#)
- [すべてのツールの一覧表示](#)
- [すべてのポリシーの一覧表示](#)

【解析】メニュー

【解析】メニューには、HP Operations 管理 サーバーの設定に関する情報を要求するための多数のオプションがあります。たとえば、まだポリシーが配布されていないノードや、ユーザーに割り当てられていないメッセージグループなどを確認できます。メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、管理 UI の起動時に設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、**【解析】**メニューには以下の設定オプションが表示されます。

【解析】メニュー: オプション

メニューオプション	説明
親のないノード	ノードグループに属さない、すべての管理対象ノードを一覧表示します。
未割り当てのノード	HPOM ポリシーがまだ割り当てられていない HP Operations 管理サーバーのすべての管理対象ノードを一覧表示します。
未使用のノード	ユーザー作業範囲マトリックスによって HPOM ユーザーに割り当てられていない、すべてのノードを一覧表示します。
未割り当てのノードグループ	HPOM ポリシーがまだ割り当てられていない HP Operations 管理サーバーのすべての管理対象ノードグループを一覧表示します。
未使用のノードグループ	ユーザー作業範囲マトリックスによって HPOM ユーザーに割り当てられていない、すべてのノードグループを一覧表示します。
未使用のメッセージグループ	ユーザー作業範囲マトリックスによって HPOM ユーザーに割り当てられていない、すべてのメッセージグループを一覧表示します。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)

- [HP Operations 管理 サーバー設定メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理 サーバーメニュー](#)

【配布】メニュー

【配布】メニューに用意された多数のオプションを使用すると、配布に関するHPOM 管理タスクを実行できます。たとえば、HP Operations Agent をインストールまたは削除したり、ペンディング中のHPOM 配布操作がないかをチェックしたりします。特に、サブエージェントパッケージのHP Operations Agent を管理したり、簡単な配布や配布操作を実行したりする場合は、配布機能を使用すると便利です。また、HTTPS エージェントからのセキュリティ証明書要求がペンディングになっているかどうかをチェックできます。**【配布】**メニューには、以下の表に一覧表示されているオプションがあります。

【配布】メニュー: オプション

メニューオプション	説明
設定の配布	HPOM 管理対象ノードを対象とした配布のためのパッケージを設定します。パッケージには、ポリシー、アクション、コマンド、モニターの他に、ノード情報やフレキシブル管理設定データなどのインストールメンテーションデータを含めることができます。
サーバーポリシーの配布	システム上のしきい値モニターポリシーなどのメッセージソースポリシーを配布または更新します。
エージェントの(アン)インストール	新しいHP Operations Agent のインストール、既存のHP Operations Agent の更新、または管理対象ノードからのHP Operations Agent の削除を行います。
エージェントインストールのログ	管理対象ノードで完了したエージェントインストールのログを一覧表示します。
ペンディングの証明書要求	HTTPS エージェントからHPOM 証明書マネージャに送信された、セキュリティ証明書に対するペンディング要求を一覧表示します。要求は、承諾されると一覧からすぐに削除されます。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理 サーバー設定メニュー](#)

- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバーメニュー](#)

HPOM for UNIX の設定の配布

[設定の配布] ページでは、HP Operations 管理サーバーから管理対象ノードに配布する、HPOM のインストールコンポーネントを指定できます。また、どの管理対象ノード (またはノードグループ) にインストールを配布するかも指定できます。[配布] ページの各種フィールド、チェックボックス、ボタン、および入力できるデータについては、下の表を参照してください。

配布パラメータ

フィールドラベル	内容の説明
ポリシー	配布パッケージにポリシーを含める場合は、[ポリシー] ボックスをチェックします。
アクション	配布パッケージにアクションを含める場合は、[アクション] ボックスをチェックします。
モニタ	配布パッケージにモニターを含める場合は、[モニタ] ボックスをチェックします。
コマンド	配布パッケージにコマンドを含める場合は、[コマンド] ボックスをチェックします。
インストールメンテーション	配布パッケージ内のカテゴリディレクトリにインストールメンテーションファイルを含める場合は、[インストールメンテーション] ボックスをチェックします。(HPOM 9 のみ)
サブエージェント	配布パッケージにサブエージェントを含める場合は、[サブエージェント] ボックスをチェックします。(HPOM 9 のみ)
ターゲット ノード	[...] ボックスを使って使用できる管理対象ノードを参照し、HPOM インストールメンテーションの配布先となるノード (またはノードグループ) を選択します。
強制更新	選択したインストールメンテーションコンポーネントを強制的に配布する場合は、[強制更新] ボックスをチェックします。この場合、選択した管理対象ノードの既存のインストールメンテーションと競合が生じる場合でも、選択したコンポーネントが配布されます。
パーズ	選択したインストールメンテーションコンポーネントを強制的にパーズする場合は、[パーズ] ボックスをチェックします。この場合、選択した管理対象ノードの既存のインストールメンテーションと競合が生じる場合でも、選択したコンポーネントがパーズされます。(HPOM 9 のみ)

HPOM インストールメンテーションを配布するには

管理対象ノードにHPOM の設定を配布するには、次の手順を実行します。

1. [配布] メニューで **[設定の配布]** をクリックします。
2. 表示されるチェックボックスを使って、配布するコンポーネントのタイプ (ポリシー、アクション、コマンド、モニターなど) を選択します。各チェックボックスの機能の詳細は、上の表を参照してください。
3. HPOM のインストールコンポーネントの配布先となる管理対象ノードを選択します。管理対象ノード (またはノードグループ) を選択し、**[削除]** ボタンをクリックすることで、そのノード (またはノードグループ) を一覧から削除できます。
4. 配布時に管理対象ノード上の既存データを上書きするときは、**[強制更新]** オプションをチェックします。
5. **[配布]** ボタンをクリックすると、配布が開始されます。

関連項目

- [HPOM オブジェクトの検索](#)

新しいエージェントのインストール

[エージェントの (アン) インストール] ページでは、管理対象ノードへの HP Operations Agent のインストールと更新、および管理対象ノードからの HP Operations Agent の削除を迅速かつ簡単に実行できます。次の表は、管理対象ノードでの HP Operations Agent のインストール、更新、削除を設定する上で指定する必要がある情報を示しています。

エージェントのインストール/アンインストール: [プロパティ] タブ

フィールド名	説明	必須情報
インストールのタイプ	ドロップダウンメニューを使用して、HP Operations Agent のインストール (または更新) または削除を選択します。	✓
ノード	[...] ボタンを使って管理対象ノードを参照し、HP Operations Agent をインストールまたは削除するノードを選択します。	✓

HP Operations Agent を新たにインストールする、または既存の HP Operations Agent を削除するには

新しい管理対象ノードに HP Operations Agent をインストールする、既存の管理対象ノードの HP Operations Agent を更新する、あるいは管理対象ノードから HP Operations Agent を削除するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[配布]** メニューで **[エージェントの (アン) インストール]** をクリックします。

3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **インストールのタイプ**
ド롭ダウンメニューを使用して、[インストール] または [アンインストール] を選択します。インストールのタイプを選択すると、**[インストール前チェック]** ボタンが有効になります。これをクリックすると、設定済みのエージェントインストールジョブの要約が表示され、情報が正しいことを確認したり、必要に応じて変更を加えることができます。
 - **ノード**
[...] ボタンをクリックすると、使用可能な管理対象ノードを参照できます。マウスでダブルクリックすれば、新しいエージェントのインストール先として選択できます。選択したノードは、[ノード] ボックスに一覧表示されます。
4. 次のボタンを使用して、新しいエージェントのインストールを続行またはキャンセルします。
 - **インストール前チェック**
インストール前のチェックでは、ノードがアクセス可能かどうかなど、いくつかの基本的チェックが行われます。チェックが完了すると、エージェントのインストールジョブの設定時に入力したすべての情報が表形式で表示されます。ここでは、パスワードの変更や、詳細情報の確認を行うことができます。また、エージェントのインストールプロセスを継続したり、処理をキャンセルするためのオプションもあります。
 - **キャンセル**
新しいエージェントのインストールジョブについて入力したすべての情報を破棄し、直前の操作に戻ります。

関連項目

- [エージェントインストールの詳細の確認](#)
- [HP Operations Agent のすべてのインストールログの一覧表示](#)

新しいエージェントのインストールの概要

エージェントの(アン)インストールの**[プロパティ]** ページには、設定済みのエージェントインストールジョブの概要が表示されます。ここでは、データの不足または不正がないかを確認し、必要に応じてパスワードを入力して管理対象ノードへのインストールを開始させます。詳細を修正したり、詳細が正しいことを確認してインストールプロセスを続行したりできます。次の表は、エージェントインストールの要約に表示される情報を示しています。

エージェントのインストール/アンインストール: インストールの概要

オブジェクト	説明
選択	HP Operations Agentをインストールまたは削除するノードの選択に使用するチェックボックスです。
ノード名	HP Operations Agentをインストールまたは削除する管理対象ノードのホスト名です。
IP アドレス	HP Operations Agent をインストールまたは削除するホストに関連付けられている IP アドレスです。

エージェントのインストール/アンインストール: インストールの概要 (続き)

マシンタイプ	HP Operations Agent をインストール (更新) または削除するマシンのハードウェア仕様、さらにエージェントのタイプ (例、HP PA-RISC、SUN Sparc (HTTPS)) を表します。
ネットワークタイプ	HP Operations Agent がインストール、更新、削除されるマシンのネットワークタイプを表します。たとえば、[IP] は IP ネットワーク、[その他の IP ネットワーク] はブリッジ、スイッチ、プリンターなどのサポート外 のオペレーティングシステムを実行するハードウェアを表します。
方法	エージェントのインストール方法を示します。たとえば、標準 (自動) 方法の使用、FTP、ssh、または、選択した管理対象ノードにデータを転送して手動でインストールを完了させる方法があります。
ステータス	必要に応じてエージェントのインストール、更新、削除プロセスを完了させるのに必要な情報を示し、詳細つきのコメント (かっこ内) を追加します。たとえば、「標準 (ok)」は必要な情報がすべて揃っている標準インストールを示し、インストール要求に存在しないノードなどの無効なデータが含まれると「無効 (ノードなし)」となります。
説明	一覧内のインストールジョブのステータスを補完するための追加情報を表示します。たとえば、インストールジョブのためデータが揃っており誤りがなければ「ok」、インストールジョブに無効なデータ (例、存在しないノード) が含まれていれば「ノードなし」となります。
強制	エージェントのインストールジョブの設定時に [強制更新] オプションを有効にしたかどうかを示します。[強制更新] オプションを使用すると、エージェントのインストールにより既存のデータが必ず上書きされます。
ユーザー	エージェントのインストール、更新、削除を実行するのに使用するアカウントを持つユーザーの名前が表示されます。
パスワード	エージェントのインストール、更新、削除を実行するのに使用するアカウントを持つユーザーのパスワードを入力します。

HP Operations Agent を新たにインストールする、または既存の HP Operations Agent を削除するには

新しい管理対象ノードに HP Operations Agent をインストールする、既存の管理対象ノードの HP Operations Agent を更新する、あるいは管理対象ノードから HP Operations Agent を削除するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[配布]** メニューで **[エージェントの (アン) インストール]** をクリックします。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **インストールのタイプ**
ドロップダウンメニューを使用して、[インストール] または [アンインストール] を選択します。インストールのタイプを選択すると、**[インストール前チェック]** ボタンが有効になります。このボタンを

使用すると、設定済みのエージェントインストールジョブの一覧が表示され、詳細を変更したり、設定データが正しいことを確認したりできます。

- **ノード**
[...] ボタンをクリックすると、使用可能な管理対象ノードを参照できます。マウスでダブルクリックすれば、新しいエージェントのインストール先として選択できます。選択したノードは、[ノード] ボックスに一覧表示されます。
- 4. 以下のオプションを使用すると、エージェントインストールの詳細を確認したり、新しいエージェントのインストールをキャンセルできます。
 - **インストール前チェック**
選択した管理対象ノード上の HP Operations Agent のインストール、更新、削除の概要を表示します。
 - **キャンセル**
新しいエージェントのインストールに関する情報をすべて破棄し、エージェントのインストール作業を開始する前に表示されていたページに戻ります。
- 5. 以下のオプションを使用すると、インストールプロセスを開始またはキャンセルします。
 - **インストール**
選択した管理対象ノード上の HP Operations Agent のインストール、更新、削除を開始します。インストールはバックグラウンドで自動的に行われます。詳細は関連するログファイルを確認してください。ログファイルの場所は Web ページに表示されます。ブラウザに直接表示することもできます。
 - **対話型インストール**
選択した管理対象ノード上の HP Operations Agent のインストール、更新、削除を開始します。インストールは xterm 内で実行されます。**[対話型インストール]** は、ログオン画面で表示値を設定した場合にのみ使用可能です。ブラウザが実行されているシステムで xterm を実行するには X-Server が必要となり、管理サーバーへの X 接続を許可するにはセキュリティ設定 (xhost) が必要となります。
 - **キャンセル**
新しいエージェントのインストールに関する情報をすべて破棄し、エージェントのインストール作業を開始する前に表示されていたページに戻ります。

関連項目

- [HP Operations Agent のインストール、更新、削除](#)
- [HP Operations Agent のすべてのインストールログの一覧表示](#)

エージェントインストールのログ

[エージェント インストールのログ] ページには、完了したエージェントインストールのログファイルが一覧表示されます。ここには、ステータス情報や、必要に応じて終了コードも含まれます。以下の表では、**[エージェント インストールのログ]** ページに表示される情報を示しています。

エージェントのインストール/アンインストール: インストールのログ

オブジェクト	説明
選択	アクションの実行対象となるインストールのログの横にあるボックスをチェックし、テーブル下部のドロップダウンメニューから実行するアクションを選択します。
名前	HP Operations Agent のインストールが行われた管理対象ノードのホスト名です。
ステータス	インストールジョブの現在のステータスを表します (ペンディング、完了など)。
終了コード	インストールジョブが完了したかどうかを表す終了コードを表示します。
日付	インストールのログが作成された日付と時刻を表します。

HP Operations Agent のインストールログを一覧表示するには:

HPOM 管理サーバーが管理しているノードで使用可能なすべての HP Operations Agent インストールのログを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[配布]**メニューで **[エージェント インストールのログ]** をクリックします。

関連項目

- [HP Operations Agent のインストール、更新、削除](#)
- [エージェントインストールの詳細の確認](#)

ペンディングの証明書要求

[ペンディングの証明書要求] ページには、HP Operations 管理サーバーによってまだ承諾されていない、セキュリティ証明書を求める HTTPS 管理対象ノードからの要求が一覧表示されます。HTTPS エージェントは、インストール後の最初の起動時に、証明書サーバーに対してセキュリティ証明書を要求します。HTTPS エージェントが HP Operations 管理サーバーと通信するには、証明書が必要です。次の表は、**[ペンディングの証明書要求]** ページに表示される情報を示しています。

HPOM: ペンディングの証明書要求

オブジェクト	説明
選択	アクションの実行対象となるペンディング中のセキュリティ証明書要求の横のボックスをチェックし、実行するアクションをテーブル下部のドロップダウンメニューから選択します。
ホスト	セキュリティ証明書要求を送信した HPOM 管理対象ノードの名前を示します。

HPOM: ペンディングの証明書要求 (続き)

時刻	セキュリティ証明書が要求された時刻 (HPOM 管理対象ノード上の時刻) を示します。
IP アドレス	セキュリティ証明書要求を送信した HPOM 管理対象ノードに関連付けられている IP アドレスを示します。
マップ済み	セキュリティ証明書要求がリンクされている管理対象ノードの名前を示します。
プラットフォーム	セキュリティ証明書要求を送信した管理対象ノードにインストールされているオペレーティングシステムに関する追加の詳細情報を示します。
コア ID/要求 ID	セキュリティ証明書要求を送信した管理対象ノードの UUID を示します。UUID は、セキュリティ証明書の要求 ID の作成に使用されます。

ペンディングの証明書要求を一覧表示するには:

HPOM 管理サーバーによって管理されるノードが送信した、ペンディング中の証明書要求を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの HPOM アイコンをクリックして、データコンテキストを「HPOM for UNIX の設定」に設定します。
2. **[配布]**メニューで**[ペンディングの証明書要求]**をクリックします。

関連項目

- [設定の配布](#)
- [新しいエージェントのインストール](#)
- [エージェントインストールのログ](#)

[タスク] メニュー

メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、[タスク] メニューには以下の設定オプションが表示されます。

[タスク] メニュー: オプション

HPOM タスク	説明
----------	----

[タスク] メニュー: オプション (続き)

<p>opc.hosts ファイルの表示</p>	<p>ホスト名の解決に使用される HPOM 固有のファイルである opc.hosts ファイルの内容を表示します。このファイルの形式と内容は、システム全体を対象とした /etc/hosts ファイルに類似しています。opc.hosts ファイルの情報は、HPOM が /etc/hosts、resolv.conf、および nsswitch.conf に記録されている情報に基づいて管理対象ノードのホスト名を解決できない場合に、フォールバックメカニズムとして使用されます。opc.hosts ファイルはデフォルトでは作成されないの注意してください。必要な場合は作成する必要があります。ただし、opc.hosts が存在する場合、HPOM はそのファイルが /etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/opc.hosts に存在するものと見なします。</p>
<p>カテゴリのチェック</p>	<p>このメニューによって、opcinstrumcfg_check 要求が発行されます。出力は、Web インターフェイスに表示されます。</p>
<p>System.txt ログファイルの表示</p>	<p>XPL ログ (System.txt) の最新バージョンの内容が表示されます。XPL ログには、ovcs (証明書サーバー)、ovbbccb (通信ブローカ)、opcctlm (コントロールマネージャ) などの HPOM 管理サーバーコンポーネントに関連するエントリが記録されます。情報には「INF」という略号の接頭辞が付けられ、エラーには「ERR」という略号の接頭辞が付けられます。各ログエントリは、エントリがログに記録された日時、エラーをログに記録した HPOM コンポーネント (ovcs、ovbbccb など)、エントリの簡単な説明 (「HP Operations Manager for UNIX Certificate Server started」、「OV Communication Broker stopped. Exit code (0)」など) を指定します。</p>
<p>MSI 設定ファイルの表示</p>	<p>管理サーバーで msiconfget コマンドを実行して結果を表示します。この結果には、OV リソースグループに関する情報と、一覧表示されるリソースグループに関連付けられている名前空間が含まれます。</p>
<p>リモートアクション設定ファイルの表示</p>	<p>リモートアクションのセキュリティ設定に使用される remactconf.xml ファイルの現在の内容を表示します。この機能を有効にするには、ニーズに合わせてサンプルファイルを編集し、そのコピーを /etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/ に配置します。</p>
<p>オペレータに通知</p>	<p>ログオンしているすべての HPOM ユーザーに簡単なメッセージを送信するための [すべてのオペレータに通知] ページを表示します。</p>
<p>サーバー ステータス</p>	<p>opcsv -status コマンドを実行し、出力を Web ブラウザに表示します。また、同じ情報をログファイルに書き込みます。ログファイル名は、タスクが最後に実行された日時を示します。ログファイルは、<インストールディレクトリ>/conf/log4j.xml で設定されるログディレクトリに配置されます。</p>
<p>HBP ステータス</p>	<p>HP Operations 管理サーバーによって管理されるすべてのノード、および HBP (定期ポーリング) が有効なすべてのノードの HBP のステータスを求める最近の要求 (および応答) の一覧を示すページを表示します。ポーリング対象ノードの名前、定期ポーリングが有効かどうか、ポーリング周期などの情報が表示されます。たとえば、Node toba.hp.com ...HBP is off.Type: 0x3.Interval:0h30m0s。</p>

[タスク] メニュー: オプション (続き)

ライセンス	HP Operations 管理 サーバーでアクティブな HPOM ライセンスの明細を示すページを表示します。このページには、ライセンスの名前と数、有効期限、ライセンスの対象となる IP アドレス (またはアドレス範囲) などの情報が表示されます。
BBC ステータス	BBC の現在のステータスを示すページを表示します。BBC は、HP Operations 管理 サーバーによって管理される HTTPS ノードのポートを制御する、HPOM の通信ブローカです。関連する名前空間、ポート、バインドアドレス、オープンソケットなどの情報が表示されます。HP Operations Manager for UNIX の HTTP 通信用に現在開かれている、受信接続領域も確認できます (存在する場合)。同じ (またはそれ以上の) 情報は、bbcutil または ovbbccb コマンドを使って表示できます。
OV 設定	管理サーバーで ovconfget コマンドを実行して結果を表示します。この結果には、OV リソースグループに関する情報と、一覧表示されるリソースグループに関連付けられている名前空間が含まれます。ovconfget コマンドは、HP Operations 管理サーバーの現在の設定を読み取りません。ovconfget コマンドの詳細は、ovconfget のマニュアルページを参照してください。
すべてダウンロード	HP Operations 管理サーバーのクリップボードディレクトリに HPOM データベースの内容をダウンロードします。
タスク ログファイル	HP Operations 管理サーバーでのタスクの実行中に書き込まれたログを一覧表示します。ログのリンクをクリックすると、そのログファイルの内容が表示されます。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバーメニュー](#)

すべてのオペレータに通知

[すべてのオペレータに通知] ページでは、現在ログオンしているすべての HP Operations Manager ユーザーにテキストメッセージを送信できます。

すべての HPOM オペレータに通知するには

すべての HPOM オペレータに通知するには、次の手順を実行します。

1. HPOM の **[タスク]** メニューで、**[オペレータに通知]** をクリックします。
2. ログオンしている HPOM ユーザーに送信するメッセージを入力します。入力フィールドには、複数行のテキストを入力できます。
3. **[オペレータに通知]** ボタンをクリックして操作を完了します。

関連項目

- [使用可能な HPOM ユーザーの一覧表示](#)

[統合] メニュー

メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、管理 UI の起動時に設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、[統合] メニューには以下の設定オプションが表示されます。

[統合] メニュー: オプション

メニューオプション	説明
アドオン	ダウンロードおよび購入できる追加製品と機能の詳細情報を示すページを表示します。
HPOM for Unix Operational UI	HPOM オペレータ用の Java ベースの GUI を表示します。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバーメニュー](#)

[サーバー] メニュー

メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、管理 UI の起動時に設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、HPOM を参照するデータコンテキストとして選択すると、[サーバー] メニューには以下の設定オプションが表示されます。

[サーバー] メニュー: オプション

メニューオプション	説明
<ServerHostName>_server	参照および設定のために選択した HP Operations 管理サーバーが一覧表示されます。一覧では、サーバーは「<ServerHostName>_server」という形式で表示されます。この「<ServerHostName>」は、データを表示/設定するサーバーのホスト名です。現在のデータコンテキストを設定するには、いずれかのサーバー識別子をクリックします。

関連項目

- [HPOM \[編集\] メニュー](#)
- [HPOM \[参照\] メニュー](#)
- [HP Operations 管理サーバー設定メニュー](#)
- [HPOM \[検索\] メニュー](#)
- [HPOM \[解析\] メニュー](#)
- [HPOM \[配布\] メニュー](#)
- [HPOM \[タスク\] メニュー](#)
- [HPOM \[統合\] メニュー](#)

第2章: HP Operations 管理サーバーのオンラインヘルプ

HP Operations 管理サーバーのオンラインヘルプへようこそ。HP Operations 管理サーバーのコンテキストでは、設定データをモニターしている HP Operations 管理サーバーに関連付けられたオブジェクト (タスク、オブジェクトのロック、HPOM 固有データのダウンロード/アーカイブなど) を設定および管理できます。表示されるメニューとメニューオプションは、セッションの開始時に設定したデータコンテキストと、ログオンに使用した名前のユーザーに割り当てられているロール/作業範囲によって異なります。たとえば、参照するデータコンテキストとして [サーバー] を選択した場合は、以下に示されるメニューが表示されます。グローバル権限を持つ管理ユーザーである場合は、すべてのメニューの「すべての」メニューオプションが表示されます。ログインユーザーが実行権限を持たないメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを示します。HPOM メニューおよびメニューオプションに関する詳細は、「[すべてのサーバーメニューおよびオプション](#)」を参照してください。

サーバーオブジェクトの一覧

カラムタイトル	説明
オブジェクト	参照可能なサーバーオブジェクトの最上位グループの一覧です (ダウンロード、アーカイブ、タスク、ログなど)。

[すべてのオブジェクト タイプ] ページでは、サーバーオブジェクトを表示/変更し、その変更を適用することも、表示されているオブジェクトに対して管理タスクを実行することもできます。サーバーの [すべてのオブジェクト タイプ] ページに表示されている情報の利用方法については、以下の項目を参照してください。

- サーバーオブジェクトの詳細の表示
- サーバーオブジェクトに対する管理者タスクの実行
- サーバーオブジェクトに関連するヘルプトピックの印刷

関連項目

- [すべてのサーバーメニューおよびオプション](#)

すべてのサーバーメニューおよびオプション

HP Operations 管理サーバーのコンテキストでは、HP Operations 管理サーバー上のオブジェクトを設定/管理できます。たとえば、HP Operations 管理サーバーに設定されているタスクの参照、HP Operations 管理サーバーに固有のデータを含むダウンロードやアーカイブの一覧表示を実行できます。

表示されるメニューとメニューオプションは、セッションの開始時に設定したデータコンテキストと、ログオンに使用したユーザーアカウントに割り当てられているロール/作業範囲によって異なります。たとえば、参照するデータコンテキストとして [サーバー] を選択した場合は、以下に示されるメニューが表示されます。グローバル権限を持つ管理ユーザーである場合は、すべてのメニューの「すべての」メニュー

ログインユーザーが実行権限を持たないメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを示します。

サーバーメニューの一覧

メニュータイトル	説明
参照	サーバーの [参照] メニューでは、作成したタスクの一覧表示、監査時に参照するサーバーログファイルの表示、サーバー上のダウンロードとアーカイブの表示を実行できます。
タスク	[タスク] メニューでは、サポートサービスによる HP Operations 管理サーバー上の問題のトラブルシューティングに役立つファイルをまとめたアーカイブを生成できます。

[参照] メニュー

サーバーの**[参照]**メニューでは、作成したタスクの一覧表示、監査時に参照できるサーバーログファイルの一覧表示、ダウンロードとアーカイブの表示を実行できます。**[参照]**メニューには、次のオプションがあります。

[サーバー] メニュー: 参照

メニュータイトル	説明
フォーマット化された監査ログ	監査ログファイルに記録されたすべてのエントリのフォーマット化された一覧を表示します。サーバーログファイルの一覧には、audit.log も含まれます。
すべてのパスエイリアス	システム内の場所のすべての定義されたエイリアスを一覧表示します。この場所は、内容をユーザーに公開する1つのファイルであっても、ディレクトリ全体のコンテンツであっても構いません。
すべてのタスク	サーバー上に設定されているすべてのタスクグループを一覧表示します。
タスクログファイル	サーバーでの実行が設定されているタスクによって書き込まれたすべてのログファイルを一覧表示します。
ダウンロード	HP Operations 管理サーバーのクリップボードに現在含まれるすべてのダウンロードを一覧表示します。たとえば、サポート用のトラブルシューティングファイルやマイグレーションレポート(各種形式)などが含まれます。ダウンロードはディレクトリ構造として保存され、通常のファイルディレクトリと同じようにブラウズできます。
アーカイブ	ユーザーが保存したすべてのアーカイブを一覧表示します。アーカイブはディレクトリ構造として保存され、通常のファイルディレクトリと同じようにブラウズできます。
サーバーログファイル	現在アクティブなサーバーに書き込まれたすべてのサーバーログファイルを一覧表示します。たとえば、タスクログ、ファイルログ、バージョンコントロールログ、監査ログなどが表示されます。一覧をブラウズしてログを選択し、その内容を表示できます。

[サーバー] メニュー: 参照 (続き)

要求ログファイル	Web アプリケーションから HP Operations 管理 サーバーに対して送信されたデータ要求に関するトレース情報が記録されたログファイルを一覧表示します。デフォルトでは、Web アプリケーションからのデータ要求のトレースは無効化されています。Web アプリケーションからのデータ要求をログに記録するには、この機能を明示的に有効にする必要があります。詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。
監査ログファイル	サーバーに監査用書き込まれるすべてのログファイルを一覧表示します。たとえば、ログインや設定変更に関するエントリが書き込まれます。audit.log の内容を表示するには、[名前] カラムでこのファイルのリンクをクリックします。
要求の結果	Web アプリケーションから HP Operations 管理 サーバーに対して送信されたデータ要求の結果に関するエントリが記録されたログファイルを一覧表示します。デフォルトでは、Web アプリケーションからのデータ要求に対する結果のトレースは無効化されています。Web アプリケーションからのデータ要求への応答をログに記録するには、この機能を明示的に有効にする必要があります。詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。
ショッピングカート	HP Operations 管理 サーバーで将来使用するために保存することを選択したオブジェクトのスナップショットを表示します。

関連項目

- [サーバー: \[タスク\] メニュー](#)
- [サーバー: \[サーバー\] メニュー](#)

すべてのタスク

[すべてのタスク] ページには、HP Operations 管理 サーバーで使用可能なすべての HPOM タスクが一覧表示されます。Ant タスクは Ant ユーティリティにより管理および実行されます。たとえば、Ant タスクではフレキシブル管理設定ファイルのチェックとアクティブ化が実行可能です。normal タスクはプログラムまたはスクリプトです。たとえば、normal タスクでは opclirc コマンドを使用して HPOM ライセンスのチェックを実行できます。[タスク] ページの情報は、以下の詳細とともに表内に表示されます。

タスクの一覧をフィルター処理して表示数を減らす場合は、一覧の上部にある [フィルタ] リンクをクリックし、フィールドおよびドロップダウンメニューを使用してフィルター条件を定義します。広範な条件 (例、名前、タイプ、ラベル) に応じてオブジェクトをフィルター処理できます。使用できるフィルターオプションの範囲と複雑さは、一覧に表示するオブジェクトのタイプによって異なります。

タスクの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	ボックスをチェックして、アクションの対象となるすべての、または個別のタスクを選択します。アクションは、表の最下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューを使用して実行します (例: 「ダウンロード...」)。
タスクのタイプ	アイコンによってタスクのタイプが表されます (例、「Ant」())。

タスクの一覧 (続き)

ラベル	一覧表示されるタスクに割り当てる、管理 UI に表示される際のラベルです (例、「検索インデックスの生成」)。タスク名をクリックすると、選択したタスクの詳細が表示されます。
名前	一覧にあるタスクの名前です (例、「検索インデックスの生成」)。タスク名をクリックすると、選択したタスクの詳細が表示されます。[名前] リンクをクリックすると、タスクの一覧を昇順または降順に並べ替えます。
ビルド ファイル	タスク設定ファイルへのパスおよびファイルの名前が表示されます (例、classpath:conf/ant/search_index.xml)。
ターゲット	一覧にあるタスクのターゲット、つまりタスクが実行することになっている内容を表します。ターゲットはサブタスクとして設定可能で、メインのタスク設定ファイル内に定義します。
詳細	タスクの簡単な説明が表示されます (例、「検索インデックスを生成するターゲット」)。
コンテキスト	タスクが実行されるコンテキストを表します (例、ノード、ノードグループ、またはフレキシブル管理設定)。MOM は Manager-of-Manager (別称、担当マネージャ) 機能であり、管理サーバーで管理サーバー同士および双方のノードの管理を行い、世界的規模の 24 時間体制の管理環境を実現します。
パラメータ	選択したタスクの起動に使用されるコマンドに渡されるパラメータ ([タスクファイル] カラムに表示) を表します。たとえば、次のコマンドではノードのステータスが一覧表示されます。/opt/OV/bin/bbcutil -status %ノード% (パラメータは %ノード%)。

認識されているタスクを一覧表示するには

サーバー上にあるすべてのタスクを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのサーバーアイコンをクリックして、データコンテキストを「サーバー」に設定します。
2. [参照] メニューで、[すべてのタスク] をクリックします。ロック数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [タスクの詳細情報の表示](#)

サーバーログファイルについて

[サーバー ログ ファイル] メニューオプションを使用すると、サーバーで設定、実行されている重要なコンポーネントに関するログファイルを表示できます。一覧表示されたログファイルの内容は個々のコンポーネントに関連しており、各種コンポーネントに設定されたログとトレースのレベルによって異なります (例、「情報」、「すべて」、「デバッグ」)。ソート機能を利用することで、一覧の内容をオブジェクト名、ラベル、タイプなどの順に並べ替えることができます。また、フィルターを適用すると、一覧内のオブジェクトの数やタイプを制限できます。一覧が長い場合、インデックスを使用すれば、迅速かつ簡単にペー

ジを切り替えることができます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

以下の表には、よく目にする最も一般的なログファイルの一覧が記載されています。

一般的なサーバーログの一覧

ログファイルのタイプ	詳細
監査 ディレクトリ	日常の監査ログが記録されます。現在のログファイルは <code>audit.log</code> という名前であり、以前のログファイルにはファイルの接尾辞に日付が付きます (例、 <code>audit.log.2006-10-19</code>)。ロールバックやクリーンアップの機能はありません。ログレベルには「情報」(1行)と「デバッグ」(取得可能な全情報)があります。
<code>backend.log</code>	アダプタ固有のログファイルです。関連する HPOM アダプタをインストール、設定、および起動していない場合は、このログファイルは作成されません。HPOM アダプタはサーバーの設定に使用します。一部のアダプタは特定の XML データベースイベントに関する情報を <code>xml.db.log</code> ログファイルにも書き出します。
<code>dead.log</code>	HP Operations Manager コンポーネントで発生するすべての不正な要求を一覧表示します。
<code>file.log</code>	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、設定、および起動していない場合は、このログファイルは作成されません。 <code>file</code> アダプタはコピーやFTPなどのファイル管理ユーティリティに使用します。
<code>lock.log</code>	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、設定、および起動していない場合は、このログファイルは作成されません。 <code>lock</code> アダプタはロックの管理に使用します。ロックは、ログオンユーザーが修正のために現在開いているオブジェクトに対して存在します。
<code>midas.log</code>	一般的なデフォルトのログファイルであり、他のログファイルに書き出すように特別に設定されていないすべてのイベントをキャッチします。
<code>nnm.log</code>	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、および設定していない場合は、このログファイルは作成されません。 <code>nnmconfig</code> アダプタは Network Node Manager の設定に使用します。
<code>ovo.log</code>	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、設定、および起動していない場合は、このログファイルは作成されません。 <code>ovoconfig</code> アダプタは HPOM の設定に使用し、 <code>opccfg</code> アダプタは HPOM 設定アップロードおよび設定ダウンロードタスクの管理に使用します。
要求 ディレクトリ	HP Operations 管理サーバーに対して Web アプリケーションから送信されるデータ要求ごとにログファイルが作成されます。この機能は手動で有効にする必要があります。詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。

一般的なサーバーログの一覧 (続き)

結果ディレクトリ	HP Operations 管理サーバーに対して Web アプリケーションから送信されるデータ要求の結果を一覧表示するログファイルが作成されます。データ要求ログ機能は手動で有効にする必要があります。詳細は、『HPOM 管理者リファレンスガイド』を参照してください。
servicemix.log	インストール済みアダプタの起動、実行およびシャットダウンに関する情報が記録されます。
task.log	task.log ファイルには、タスク関連プロセス(例、task、file)を起動するアダプタコンポーネントからのエントリが記録されます。これらのコンポーネントにより起動される個々のタスクについては、タスク自身がそれぞれのログファイルを tasks ディレクトリに書き出します。
タスクディレクトリ	アダプタコンポーネントにより起動される個々のタスクについては、タスク自身がそれぞれのログファイルを tasks ディレクトリに書き出します。特定のタスクの障害に関連する特定の情報はここで検索します。たとえば、log_opcerror_20061019_1244.xml ファイルには、2006 年 10 月 19 日に HP Operations 管理サーバーで記録されたエラーに関連する情報が記録されています。
usermgmt.log	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、および設定していない場合は、このログファイルは作成されません。usermgmt アダプタはユーザーの設定および管理に使用します。一部のアダプタは特定の XML データベースイベントに関する情報を xmldb.log ログファイルにも書き出します。
vcs.log	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、および設定していない場合は、このログファイルは作成されません。vcs アダプタはバージョンコントロールツールの設定および管理に使用します。
web.log	webapp ユーティリティのステータスおよびその実行時に発生した障害に関する情報を記録します。
wrapper.log	wrapper プロセスによって stdout に書き出される情報は、ログファイル wrapper.log にも書き込まれます。
xmldb.log	アダプタ固有のログファイルです。関連するアダプタをインストール、および設定していない場合は、このログファイルは作成されません。HPOM アダプタおよび usermgmt アダプタは XML データベースに関する情報を xmldb.log ログファイルに書き出します。

サーバーログファイルを一覧表示するには

サーバー上で実行中のサーバープロセスについてのすべてのログファイルを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのサーバーアイコンをクリックして、データコンテキストを「HP Operations 管理サーバー」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[サーバー ログ ファイル]**、**[要求ログ ファイル]**、**[監査ログ ファイル]**のいずれかをクリックします。ロック数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)

すべての要求結果

Web アプリケーションから HP Operations 管理 サーバーに対して送信されたデータ要求の結果に関するエントリが記録されたログファイルを一覧表示します。Web アプリケーションから送信されたデータ要求の一覧については、[要求ログファイル] も参照してください。デフォルトでは、Web アプリケーションからのデータ要求に対する結果のトレースは無効化されています。Web アプリケーションからのデータ要求への応答をログに記録するには、この機能を明示的に有効にする必要があります。

[要求の結果] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

要求結果の一覧

カラムタイトル	説明
UID	HP Operations Manager が生成した内部 ID で、監査ログ内の個々のエントリを参照するのに使用します。
要求	このプロパティは要求タイプ (認証、取得、作成、実行など) を示します。
オブジェクトクラス	監査ログで参照した操作によって影響を受けたオブジェクトクラスの名前です。たとえば、メッセージグループ設定への変更の場合は <code>ovo:msggroup</code> 、管理対象ノード設定への変更の場合は <code>ovo:node</code> 、HPOM アプリケーションへの変更の場合は <code>ovo:application</code> となります。
日付	選択したエントリが監査ログに記録された日時を含むタイムスタンプです。
オブジェクト名	監査ログで参照した操作によって影響を受けたオブジェクトの名前です。たとえば、メッセージグループ設定への変更の場合は <code>ovo:msggroup</code> 、管理対象ノード設定への変更の場合は <code>ovo:node</code> 、HPOM アプリケーションへの変更の場合は <code>ovo:application</code> となります。
オブジェクトタイプ	監査ログで参照した操作によって影響を受けたオブジェクトタイプの名前です。たとえば、メッセージグループ設定への変更の場合は <code>ovo:msggroup</code> 、管理対象ノード設定への変更の場合は <code>ovo:node</code> 、HPOM アプリケーションへの変更の場合は <code>ovo:application</code> となります。
コンテキスト	監査ログに記録された HPOM 関連のアクションおよび操作によって影響を受ける技術または設定領域です (例、フレキシブル管理設定ファイル、計画休止)。all はより広範な技術コンテキストのオブジェクトに関連するエントリを参照します。
コンテキスト オブジェクトの名前	監査ログで参照した操作の影響を受けるオブジェクトのコンテキストの名前です。エントリの「コンテキスト」に関しては、この表内のコンテキストのエントリを参照してください。
コンテキスト オブジェクトのタイプ	監査ログで参照した操作の影響を受けるオブジェクト「タイプ」のコンテキストの名前です。オブジェクトの「コンテキスト」に関しては、この表内のコンテキストのエントリを参照してください。

要求結果を一覧表示するには:

Web アプリケーションから HP Operations 管理 サーバーに対して送信されたデータ要求について受信した結果を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのサーバーアイコンをクリックして、データコンテキストを「サーバー」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[要求の結果]**をクリックします。
3. 要求結果は表内に表示されます。この表の内容は上記のとおりです。

関連項目

- [ログファイルについて](#)

すべてのパス エイリアス

選択した管理サーバー上のファイル位置を定義したエイリアスの一覧を表示/参照できます。ほとんどのエイリアスは、ソフトウェアのインストール時に事前に定義/設定されています。エイリアスは、ブラウザで表示できる、ファイルシステム内の具体的な場所へのリンクです。この場所は、内容をユーザーに公開する1つのファイルであっても、ディレクトリのコンテンツであっても構いません。セキュリティ上の理由から、アクセスは、エイリアスによって指定されるファイル/ディレクトリに制限されます。エイリアス定義に指定されているターゲットの外部のファイルシステムを参照することはできません。また、パスエイリアスによって指定される場所へのアクセスのタイプ(読み取り表示、書き込み/変更、実行/起動)は、ユーザーロールによってさらに制限される場合があります。

[すべてのアーカイブ] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

既存のパスエイリアスの一覧

カラムタイトル	説明
作成	パスエイリアスのフラグが TRUE に設定されている場合にエイリアスパスのディレクトリが再帰的に作成される場合、チェックマーク(✓)で示します。
タイプ	パスエイリアスに指定されているターゲットのタイプ(単一ファイルまたはディレクトリなど)を示します。
名前	定義されているエイリアスの名前を示します。名前をクリックすると、そのエイリアスの簡単な説明が表示されます。詳細は「 選択しているエイリアスの詳細の表示 」を参照してください。
パス	エイリアスがポイントするファイルシステム上の場所を示します。この場所は、1つのファイルまたはディレクトリのいずれかです。エイリアスの構文は file:/<パス> で、パスは絶対パスまたは相対パスです。たとえば、file:/opt/OV/bin または file:data/clipboard のように表示されます。目的のパスエイリアスのリンクをクリックすると、内容が表示されます。
詳細	定義されているエイリアスの簡単な説明を表示します。これは、エイリアスに定義されているディレクトリの内容や、ファイルの目的などを確認する上で役立ちます。

既存のパスエイリアスの一覧 (続き)

絶対	選択したエイリアスがポイントする場所がルートディレクトリ (/) から順に定義されている (絶対パスである) 場合に、チェックマーク (✓) で示します。たとえば、エイリアス <code>ovbindir</code> は、バイナリ OV が格納された <code>file:/opt/OV/bin</code> ディレクトリをポイントします。エイリアス <code>clipboard</code> は、ダウンロード済みファイルの場所を示す <code>file:/data/clipboard</code> をポイントしますが、これは絶対パスではありません。
----	---

パスエイリアスを一覧表示するには

管理サーバー上で定義されている、すべてのパスエイリアスを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのサーバーアイコンをクリックして、データコンテキストを「サーバー」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのパス エイリアス]**をクリックします。多数のエイリアスが定義されているときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。また、一覧が複数ページに分割される場合もあります。

関連項目

- [選択しているエイリアスの詳細の表示](#)
- [ファイルの一覧表示](#)
- [ユーザーロールの一覧表示](#)

パスエイリアスの表示

個々のパスエイリアスの詳細を表示できます。エイリアスは、ブラウザで表示できる、ファイルシステム内の具体的な場所へのリンクです。この場所は、1つのファイルであっても、ディレクトリのコンテンツであっても構いません。セキュリティ上の理由から、エイリアスによって指定されるファイル/ディレクトリにアクセスが制限されます。エイリアス定義に指定されているターゲットの外部のファイルシステムを参照することはできません。**[パス エイリアスの詳細]** ページには、パスエイリアスの一覧に表示される以上の情報が表示されます。

選択したパスエイリアスの詳細

属性	説明
名前	定義されているエイリアスの名前を示します。名前をクリックすると、そのエイリアスの簡単な説明が表示されます。
パス	エイリアスがポイントしているファイルシステム上の場所を示します。構文は <code>file:/<パス></code> で、パスは絶対パスまたは相対パスです。例: <code>file:/opt/OV/bin</code> または <code>file:/data/clipboard</code>
詳細	定義されているエイリアスの簡単な説明を表示します。たとえば、エイリアスに定義されているディレクトリの内容や、ファイルの目的などを示します。

選択したパスエイリアスの詳細 (続き)

絶対	選択したエイリアスがポイントする場所がルートディレクトリ (/) から順に定義されている (絶対パスである) かどうかを示します。たとえば、エイリアス ovbindir は、バイナリ OV が格納された file:/opt/OV/bin ディレクトリをポイントします。エイリアス clipboard は、ダウンロード済みファイルの場所を示す file:data/clipboard をポイントしますが、これは絶対パスではありません。
----	--

パスエイリアスの詳細を表示するには

選択したパスエイリアスの概要を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのサーバーアイコンをクリックして、データコンテキストを「サーバー」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのパス エイリアス]**をクリックします。多数のエイリアスが定義されているときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。また、一覧が複数ページに分割される場合もあります。
3. **[名前]**カラムで、詳細を表示するパスエイリアスの名前をクリックします。

関連項目

- [選択しているエイリアスの詳細の表示](#)
- [ファイルの一覧表示](#)
- [ユーザーロールの一覧表示](#)

[タスク] メニュー

[タスク]メニューでは、サポートサービスによる HP Operations 管理サーバー上の問題のトラブルシューティングに役立つファイルをまとめたアーカイブを生成できます。メニューの範囲とタイプ、表示されるメニューオプションは、設定したデータコンテキストによって異なります。たとえば、参照対象のデータコンテキストとしてサーバーを選択すると、[タスク]メニューには以下の設定オプションが表示されます。

[サーバー]メニュー: タスクオプション

サーバー タスク	説明
サポート Zip の生成	サポートサービスによる問題のトラブルシューティングに役立つファイルをまとめたアーカイブを生成します。タスクが完了すると、タスクの実行結果である Zip ファイルがダウンロードディレクトリ ([参照] > [ダウンロード]) に生成されます。このファイルの名前には、/opt/midas41/data/clipboard/support_20091016112251.zip のように、サポートファイルの生成日時が付けられます。

関連項目

- [サーバー: \[参照\]メニュー](#)

第3章: 管理のオンラインヘルプ

管理のオンラインヘルプへようこそ。管理コンテキストでは、ログオンしている Web アプリケーションに関連付けられている管理オブジェクト (ユーザー、オブジェクトのロック、Web アプリケーションに登録されている HP Operations 管理サーバーなど) を設定および管理できます。表示されるメニューとメニューオプションは、セッションの開始時に設定したデータコンテキストと、ログオンに使用した名前のユーザーに割り当てられているロール/作業範囲によって異なります。たとえば、参照するデータコンテキストとして [管理者] を選択した場合は、以下に示されるメニューが表示されます。グローバル権限を持つ管理ユーザーである場合は、すべてのメニューの「すべての」メニューオプションが表示されます。ログインユーザーが実行権限を持たないメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを示します。HPOM メニューおよびメニューオプションに関する詳細は、「[すべての管理者メニューおよびオプション](#)」を参照してください。

管理者オブジェクトの一覧

カラムタイトル	説明
オブジェクト	参照可能な管理者オブジェクトの最上位グループの一覧です (ユーザーとユーザーグループ、オブジェクトのロックなど)。

[すべてのオブジェクト タイプ] ページでは、管理者オブジェクトを表示/変更し、その変更を適用することも、表示されているオブジェクトに対して管理タスクを実行することもできます。管理者の [すべてのオブジェクト タイプ] ページに表示されている情報の利用方法については、以下の項目を参照してください。

- 管理者オブジェクトの詳細の表示
- 管理者オブジェクトに対する管理タスクの実行
- 管理者オブジェクトに関連するヘルプトピックの印刷

関連項目

- [すべての管理者メニューおよびオプション](#)

メニューとオプション

管理者コンテキストでは、ユーザー、ユーザーロール、ロックなどの管理オブジェクトを設定/管理できます。

表示されるメニューとメニューオプションは、セッション開始時に選択したデータコンテキストだけでなく、ログイン時に使ったユーザーアカウントに割り当てられているロールと作業範囲によっても異なります。たとえば、参照するデータコンテキストとして「管理」を選択した場合は、次に示す各メニューが表示されます。グローバル権限を持つ管理ユーザーには、すべてのメニューの「すべての」メニューオプションが表示されます。ログインユーザーが実行権限を持たないメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを示します。

[管理者] メニューの一覧

メニュータイトル	説明
----------	----

[管理者]メニューの一覧 (続き)

編集	[編集] メニューには、新しいユーザー、ユーザーグループ、ユーザーロールを作成するための多数のオプションがあります。ユーザーロールは、ユーザーの作業範囲と能力を定義することで、個々のユーザーがどのアクションを実行でき、どのアクションを実行できないかを決定する便利な方法です。ユーザーは論理「ユーザーグループ」に属し、ユーザーグループには、グループの権限と作業範囲を定義するユーザーロールが割り当てられます。
参照	[参照] メニューには、既存のユーザー、ユーザーグループ、ユーザープロフィールを表示/一覧表示するための多数のオプションがあります。
解析	[解析] メニューを使用することで、HP Operations Manager 環境に定義されているユーザーとユーザーロールを管理できます。たとえば、ユーザーグループに属さないすべてのユーザーや、どのユーザーも属していないすべてのユーザーグループを一覧表示できます。また、ユーザーロールが割り当てられていないすべてのユーザーグループも表示できます。
サーバー	[サーバー] メニューには、認識されているすべてのサーバーを表示するためのオプションがあります。

関連項目

- [ユーザーの追加](#)
- [オブジェクトロックの管理](#)

HP Operations Manager ユーザーモデル

HP Operations Manager のユーザーモデルは、セキュリティとアクセシビリティのバランスの上に成り立っています。すべてのオブジェクトに対する完全なアクセス権を持つグローバル管理者から、厳密に制限された一部のオブジェクトのみを表示できる(ただし変更できない)初歩的オペレータに至るまで、さまざまなユーザーを定義できます。このユーザーモデルは、ユーザーグループとユーザーロールのコンセプトに基づいています。ユーザーはユーザーグループに属する必要があります。ユーザーグループのメンバーに割り当てられる権限と作業範囲は、ユーザーロールに定義されます。ユーザーグループに属さないユーザーは、オブジェクトを表示できず、タスクを実行できません。ユーザーグループにユーザーロールが割り当てられていない場合、そのグループのメンバーは、オブジェクトを表示できず、タスクを実行できません。ログオン時に、すべてのメニューとメニューオプションはグレー表示され、使用できないことを表します。

ユーザーロールは、グローバルレベルで定義することも、より詳細なレベルで定義することもできます。ユーザーロールを詳細レベルで定義する場合は、個々のオブジェクトに対するアクセス権(作成、読み取り、変更、割り当て)も割り当てます。ユーザーロールを詳細レベルで定義するときは、さまざまなオブジェクトの間の結びつきと依存関係に注意する必要があります。ユーザーがオブジェクトを変更する、または割り当てる必要があるにも関わらず、読み取り権限のみが割り当てられている、といった問題の原因となります。たとえば、HPOM では、ノードグループ、メッセージグループ、ポリシーグループの間に依存関係があります。ノードグループを変更できるユーザーは、ポリシーとメッセージグループの一覧を表示できる必要があります。さらに、ノードに対してポリシーとメッセージグループを割り当てることができる必要があります。ユーザーの権限は排他的かつ累積的であり、明示的に付与されるまでは、ユーザーは何の権限も持ちません。

次の表は、HP Operations Manager のユーザーモデルを支える3本の柱について説明しています。

HP Operations Manager ユーザーモデル

ユーザーコンセプト	説明	定義が必要
ユーザー	admin ユーザーは、HP Operations Manager 環境内のオブジェクトの管理と保守を担当します。ユーザーが担当するオブジェクトとアクセス権のタイプ(作成、読み取り、変更、割り当て)は、そのユーザーが属するユーザーグループ(複数も可)によって、より厳密には、そのユーザーグループに割り当てられているユーザーロールによって決定されます。	✓
ユーザーグループ	admin ユーザーグループは、データベースの管理、ノードの管理、ポリシーの割り当てなど、同じ(または類似した)タスクを実行するユーザーの論理グループです。ユーザーは、複数のユーザーグループに属することができます。ユーザーグループのメンバーは、そのグループに割り当てられているユーザーロールによって定義される権限と作業範囲を継承します。ユーザーが複数のユーザーグループに属する場合、限定性が最も低いユーザーロールによって付与される権限が、そのユーザーが属するその他すべてのユーザーグループに適用されます。これにより、特定のオブジェクトに対する、通常であれば禁止されるアクセス権がユーザーに割り当てられる可能性があります。	✓
ユーザーロール	admin ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、特定のユーザーグループに属するすべてのユーザーのロールと作業範囲を指定します。ユーザーに割り当てられるロールと作業範囲から、ユーザーが表示できるオブジェクト、オブジェクトに対するユーザーのアクセス権(作成、読み取り、変更、割り当て)、ユーザーインターフェースに表示されるメニューオプションが決定されます。また、その結果としてユーザーが実行できるアクションも決定されます。	✓

新しいユーザーを設定するには

新しいユーザーを定義してユーザーグループに追加し、ユーザーの権限と作業範囲を割り当ててログインを許可するには、以下の手順を実行します。

1. ユーザー環境の要件を満たすユーザーモデルを設計します。たとえば、データベースの管理、ノードの管理、ポリシーの割り当て、初歩的オペレータなどの権限を考慮してください。
2. [新しいユーザーロールの作成と追加](#)
追加するユーザーのタイプごとにユーザーロールを作成します。ロールは、ユーザーに割り当てられる権限と作業範囲を定義します。たとえば、どのサーバーのどのオブジェクトにアクセスできるか、どのようなアクセス権を持つかなどを定義します。ユーザーロールの権限と作業範囲の定義については、後述の関連項目の一覧を参照してください。

3. **新しいユーザーグループの作成と追加**
作成するユーザーの論理タイプ(グローバル管理者、データベース管理者、ポリシー管理者など)ごとにユーザーグループを作成します。
4. **新しいユーザーグループへの新しいユーザーロールの割り当て**
適切なユーザーグループに適切なユーザーロールを割り当てます。ロールは、ユーザーグループに属すユーザーに割り当てられる権限と作業範囲を定義します。
5. **新しいユーザーの追加**
名前、ラベル、パスワードなどを指定して、新しいユーザーを作成/定義します。
6. **ユーザーグループへのユーザーの割り当て**
ユーザーの役割に最も適した権限と作業範囲が割り当てられているユーザーグループにユーザーを追加します。たとえば、データベース管理者ユーザーは、データベース管理者ユーザーグループに追加されます。このユーザーグループには、データベースオブジェクトへの完全アクセス権(読み取り書き込み)がユーザーロールを通じて付与されます。

関連項目

- [ユーザーロールのプロパティ](#)

[編集] メニュー

[管理者] の [編集] メニューには、HPOM や HP Operations Manager 自体など、存在するさまざまなデータコンテキストを管理するユーザーを管理するためのオプションがあります。[編集] メニューには、次のオプションがあります。

[管理者] メニュー: 編集

メニュータイトル	説明
ユーザーの追加	現在アクティブなサーバーに新しいユーザーを設定します。選択しているサーバーを変更したり、現在アクティブなサーバーを調べるときは、[管理者] > [サーバー] メニューを使用します。
ユーザーグループの追加	現在アクティブなサーバーに新しいユーザーグループを設定します。ユーザーグループは、たとえば、作業範囲が同じ、または類似しているユーザーの論理集合です。選択しているサーバーを変更したり、現在アクティブなサーバーを調べるときは、[管理者] > [サーバー] メニューを使用します。
ユーザーロールの追加	現在アクティブなサーバーに新しいユーザーロールを設定します。ユーザーロールは、ユーザーグループ(複数も可)に割り当てられる、事前に設定された権限と作業範囲の定義です。ユーザーグループに属すユーザーは、割り当てられているユーザーロールによって定義される権限と作業範囲を継承します。選択しているサーバーを変更したり、現在アクティブなサーバーを調べるときは、[管理者] > [サーバー] メニューを使用します。

関連項目

- [ユーザーコンセプトについて](#)
- [管理者: \[参照\] メニュー](#)
- [管理者: \[解析\] メニュー](#)
- [管理者: \[サーバー\] メニュー](#)

ユーザーの追加

[ユーザーの追加] ページには、新規 admin ユーザーの設定に必要なパラメータが表示されます。このページでは、admin ユーザーを迅速かつ完全に設定できます。admin ユーザーは、HP Operations Manager 環境内のオブジェクトの管理と保守を担当します。ユーザーが担当するオブジェクトは、そのユーザーが属するユーザーグループと、そのユーザーグループに割り当てられているユーザーロールによって決定されます。

新たに作成したユーザーは、いずれかのユーザーグループに所属させる必要があります。ユーザーグループにユーザーロールを割り当てることで、オブジェクトへのアクセスと管理に関する同じ権限と作業範囲をそのユーザーグループの全員に割り当てることができます。ユーザーグループのメンバーに割り当てられる権限と作業範囲により、そのグループのメンバーのユーザーインターフェースで使用できるメニューとメニューオプションが決定されます。ユーザーが実行できるタスクは、使用できるメニューとメニューオプションによって決定されます。ユーザーが実行できないタスクのメニューオプションは、無効になります。たとえば、限定的なロールが割り当てられた初歩的オペレータには、グローバルな権限と作業範囲を持つ管理者が使用できるメニューとメニューオプションの一部しか表示されず、それ以外は使用できません。ユーザーグループとユーザーロールの詳細については、後述の「[関連項目](#)」の一覧を参照してください。以下の表では、[ユーザーの追加] ページの[プロパティ] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。ユーザーインターフェースで青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

ユーザーの追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ユーザーの有効化	新しく追加したユーザーを有効または無効にすることができます。このチェックボックスは、デフォルトで選択されます。	
電子メール	新しく追加したユーザーの電子メールアドレスです。	
名前	新たに作成するユーザーの名前です。たとえば、グローバルな権限を持つ標準的な管理者であれば「Admin」、設定のコンセプトを担当するユーザーであれば「Configurator」、ドキュメントのスナップショットを作成するユーザーであれば「Documentor」、特定のオブジェクトクラスを担当するオペレータであれば「Operator」などの名前を付けます。[名前] フィールドに定義する名前は、最初のログオン画面の[ユーザー名] フィールドに入力する名前です。また、名前はユーザーインターフェースにも表示され、ログオンしているユーザーや、現在のセッションを所有するユーザーを表します。	✓

ユーザーの追加: [プロパティ] タブ (続き)

ラベル	新たに作成するユーザーに割り当てるラベルです。定義済みの場合は、ユーザーインターフェースのユーザー一覧では、ユーザーを表すのにラベルが使用されます。	--
実際の名前	新たに作成するユーザーの実際の名前です。ユーザーインターフェースのユーザー一覧では、必要に応じて [実際の名前] フィールドに入力する名前が使用されます。	--
詳細	新しいユーザーの簡単な説明です。管理者が、そのユーザーのタイプを確認する上で役立ちます。	--
パスワード	HP Operations Manager へのログイン時に新しいユーザーが入力するパスワードです。パスワードは、6 ~ 32 文字で設定します。	✓
パスワードの確認	[パスワード] フィールドに入力したパスワードと同じものを再度入力します。	✓

ユーザーを作成または変更するには

新しいユーザーを作成し (または既存のユーザーを変更し)、設定を適用するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. [管理者] の [編集] メニューで [ユーザーの追加] をクリックします。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - ユーザープロパティ
ユーザー名、パスワード、ユーザータイプ (HPOM オペレータ、HPOM ポリシー管理者など) に関する詳細を定義します。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザーの詳細を保存または破棄できます。
 - 保存
すべての必須情報の入力チェックが完了し、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - バックアップ
現時点までの編集セッションのバックアップコピーを作成します。このバックアップを使用することで、編集セッションを後から復元できます。
 - 復元
過去の編集セッションを、[バックアップ] ボタンを使ってバックアップを作成した時点の状態に復元します。
 - キャンセル
新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。

5. 新しいユーザーをユーザーグループ(複数も可)に割り当てます。ユーザーグループは、同じ(または類似した)役割を担当するユーザーの論理グループです。既存のユーザーを変更した場合、変更は直ちに、かつ自動的に有効になります。変更後のユーザーを割り当てなおす必要はありません。

関連項目

- [新しいユーザーロールの追加](#)
- [新しいユーザーグループの追加](#)
- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [ユーザーの割り当て](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

ユーザーグループの追加

[ユーザーグループの追加] ページには、新しいユーザーグループのパラメータが表示されます。このページでは、新しいユーザーグループを迅速かつ完全に定義できます。ユーザーグループには、グループがユーザーロールを用いて定義する権限および担当範囲を持つユーザーが含まれます。たとえば、特定のユーザーグループのメンバーに対して、特定のサーバー上のロックの管理、特定の HPOM ノードまたは HPOM メッセージグループへのアクセスを許可するユーザーロールを定義できます。ユーザーグループのすべてのメンバーは、ユーザーグループに割り当てられているユーザーロール定義に指定された権限と担当範囲を持ちます。[新しいユーザーグループ] ページを使用すると、使用中の環境内のユーザーの論理グループを作成できます。次の表は、ユーザーグループの定義に必要とされる情報の概要を示しています。

ユーザーグループの追加: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいユーザーグループの名前です。たとえば、標準の HPOM オペレータの場合「HPOM Operators」、HPOM Smart Plug-in を担当するオペレータの場合「HPOM SPI Administrators」となります。[ラベル] フィールドにラベルが定義されていない場合は、[ユーザーグループ] の [名前] フィールドに入力した名前が管理 UI で使用されます。	✓
ラベル	作成する新しいユーザーグループに適用する名前です。これはユーザーインターフェースに表示されるラベルです。	--
詳細	新しいユーザーグループの簡単な説明です。これにより、管理者はユーザーグループに含まれるオブジェクトのタイプを確認できます。	--

ユーザーグループを作成または変更するには

新しいユーザーグループを作成し (または既存のユーザーグループを変更し)、設定を適用するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの **管理者** アイコンをクリックして、データコンテキストを「**管理者**」に設定します。
2. [管理者] の **[編集]** メニューで **[ユーザーグループの追加]** をクリックします。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ:**
ユーザーグループの名前、ラベル、簡単な説明を定義します。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザーグループの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード階層設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。
5. ユーザーを新しいユーザーグループに割り当てます。ユーザーロールは、そのユーザーグループのすべてのユーザーに割り当てられる権限と担当範囲を定義します。既存のユーザーグループを変更した場合、変更は直ちに、かつ自動的に有効になります。変更後のユーザーグループをユーザーロールに割り当てなおす必要はありません。

関連項目

- [ユーザーの割り当て](#)
- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [新しいユーザーの追加](#)
- [新しいユーザーロールの追加](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

ユーザーロールの追加

[ユーザーロールの追加] ページには、新しいユーザーロールのパラメータが表示されます。このページでは、新しいユーザーロールを迅速かつ完全に定義できます。ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、特定のユーザーグループに属すすべてのユーザーのロールと作業範囲を指定します。ユーザーに割り当てられるロールと作業範囲から、ユーザーが表示できるオブジェクト、オブジェクトに対するユーザーのアクセス権 (作成、読み取り、変更、割り当て)、ユーザーインターフェースに表示されるメニューオプションが決定されます。また、その結果としてユーザーが実行できるアクションも決定されます。たとえば、特定のユーザーグループのメンバーに対して、データベースの管理、特定の HPOM ノードと HPOM メッセージグループへのアクセス、または特定のサーバー上のすべてのポリシーとポリシーグループへのアクセスを許可するユーザーロールを定義できます。ユーザーロールによって割り当てられる、管理対象オブジェクトに対するアクセス権は、詳細に定義できます (読み取り、変更、割り当てなど)。ユーザーグループに新しいユーザーロールを割り当てると、そのユーザーロールに指定されている権限と作業範囲が、そのユーザーグループのすべてのメンバーに適用されます。

ロールは、グローバルレベルで定義することも、より詳細なレベルで定義することもできます。グローバルレベルで定義した場合、ユーザーは定義の範囲内で場所を問わずに何でも実行できます。より詳細なレベルで定義するときは、個々のオブジェクトに対する権限と作業範囲を特定のユーザーまたはユーザーグループに割り当てます。ユーザーロールを詳細レベルで定義するときは、さまざまなオブジェクトの間の結びつきと依存関係に注意する必要があります。ユーザーがオブジェクトを変更する必要があるにもかかわらず、読み取り権限のみが割り当てられている、といった問題の原因となります。オブジェクトに対する権限の詳細は、「新しいユーザーロールの権限」を参照してください。

カスタムユーザーロールを定義したり、自分の環境にロールを追加するときは、[ユーザーロールの追加] ページを使用します。

ユーザーロールを作成するには

新しいユーザーロールを作成して、自分の環境に設定を適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. [管理者] の [編集] メニューで [ユーザーロールの追加] をクリックします。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - **プロパティ:**
ユーザーロールの名前、ラベル、簡単な説明を定義します。
 - **ユーザーロール:**
定義しているユーザーロールに割り当てる権限と作業範囲を定義します。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザーロールの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力がチェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が適切に入力されている場合は、新しいユーザーロールの定義が保存されます。

- **バックアップ**
現時点までのユーザーロール編集セッションのバックアップコピーを作成します。このバックアップを使用することで、編集セッションを後から復元できます。
 - **復元**
過去のユーザーロール編集セッションを、[バックアップ] ボタンを使ってバックアップを作成した時点の状態に復元します。
 - **キャンセル**
新しいユーザーロールについて入力したすべての情報を破棄します。
5. ユーザーロールをユーザーグループ (複数も可) に割り当てます。ユーザーロールは、そのユーザーグループのすべてのユーザーに割り当てられる権限と作業範囲を定義します。既存のユーザーロールを変更した場合、変更は直ちに、かつ自動的に有効になります。変更後のユーザーロールを割り当てなおす必要はありません。

関連項目

- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [新しいユーザーの追加](#)
- [新しいユーザーグループの追加](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

[ユーザー ロール] の [プロパティ] タブ

[ユーザー ロール] の [プロパティ] タブには新しいユーザーロールのための一般的なパラメータが表示されます。ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てる権限と担当範囲を定義するルールのセットです。ユーザーグループのすべてのメンバーが、所属するグループに割り当てられている権限と担当範囲を継承します。[プロパティ] タブを使用すると、新しいユーザーロールの名前やラベルを定義できます。簡単な説明も入力できます。以下の表では、[ユーザー ロールの追加] の [プロパティ] タブのフィールドに入力する情報を説明しています。ユーザーインターフェースで青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

新しいユーザー ロール: [プロパティ] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
名前	作成する新しいユーザーの名前です。たとえば、標準の HPOM オペレータの場合「opc_op」、HPOM Smart Plug-in を担当するオペレータの場合「spi_op」となります。[ラベル] フィールドにラベルが定義されていない場合は、[ユーザー] の [名前] フィールドに入力した名前が管理 UI で使用されます。	✓
ラベル	新たに作成するユーザーに割り当てるラベルです。ユーザーインターフェースに表示されるのは、このラベルです。	--

新しいユーザー ロール: [プロパティ] タブ (続き)

詳細	新しいユーザーの簡単な説明です。HPOM 管理者が、そのユーザーのタイプを確認する上で役立ちます。	--
----	---	----

ユーザーロールのプロパティを追加または変更するには

新しいユーザーロールのプロパティを追加、または既存のユーザーロールのプロパティを修正し、新規または変更後の設定を適用するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザツールバーの[管理者] ボタンをクリックして、データコンテキストを「Admin」に設定します。
2. 新しいユーザーロールを追加する場合: **[編集]** メニューで **[ユーザー ロールの追加]** をクリックします。
既存のユーザーロールを修正する場合: **[参照]** メニューの **[すべてのユーザー ロール]** をクリックして修正するユーザーロールを探します。次に、**[アクション]** メニューを使って **[ユーザー ロールの編集]** ページを開きます。
3. **[プロパティ]** タブのフィールドに情報を入力します。このタブのフィールドについては、上の表を参照してください。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザーの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、**[復元]** ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード階層設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - **キャンセル**
新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [ユーザーロールの \[ロール\] タブ](#)
- [新しいユーザーロールの追加](#)
- [新しいユーザーグループの追加](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

[ユーザー ロール] タブ

[ユーザー ロール] タブでは、管理 UI の新しい、または既存のユーザーに適用する権限と作業範囲を事前に定義できます。ユーザーロールをユーザーグループに割り当てることで、そのユーザーグループのすべてのメンバーに対して、そのユーザーロールに定義されている権限と作業範囲を適用できます。たとえば、ユーザーが管理できるノードを指定する新しいロールや、ユーザーが表示 (または表示/変更) できるポリシーを指定する新しいロールを定義できます。ユーザーインターフェイスに表示されるメニューとメニューオプションは、ユーザーロールに定義されている権限によって決定されます。このため、ユーザーとユーザーグループが実行できるアクションは、ユーザーロールに定義されている権限と作業範囲によって決定されます。

ユーザーロールは、グローバルレベルで定義することも、個別のフィルターを使ってより詳細なレベルで定義することもできます。ユーザーロールを詳細レベルで定義する場合は、個々のオブジェクトに対する権限も割り当てます。ユーザーロールを詳細レベルで定義するときは、さまざまなオブジェクトの間の結びつきと依存関係に注意する必要があります。ユーザーがオブジェクトを変更する必要があるにも関わらず、読み取り権限のみが割り当てられている、といった問題の原因となります。たとえば、HPOM では、ノードグループ、メッセージグループ、ポリシーグループの間に依存関係があります。ノードグループを変更できるユーザーは、ノードにポリシーとメッセージグループを割り当てることができるように、ポリシーとメッセージグループの一覧を (少なくとも) 表示する必要があります。

以下の表では、[ユーザー ロール] タブの各フィールドに入力する情報を説明しています。ユーザーインターフェイス内の青いアスタリスク (*) が表示されている部分は、入力が必須となるフィールドを表しています。

ユーザー ロールの追加: [ユーザー ロール] タブ

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
オブジェクト クラス	設定中のユーザーロールに追加 (または削除) できるオブジェクトのクラス (ノード、ポリシー、アプリケーション、ユーザー、メッセージグループなど) です。アクセス可能なオブジェクトクラスの一覧にオブジェクトクラスを追加 (および削除) する方法については、後述の説明を参照してください。従属オブジェクトにも適切な権限を必ず定義してください。たとえば、HPOM 管理対象ノードグループ、HPOM メッセージグループ、HPOM ポリシーグループは、緊密に関連しています。管理対象ノードグループを編集できるユーザーには、HPOM メッセージグループを (少なくとも) 表示する権限も必要です。ファイル、ディレクトリ、エージェントインストール、フレキシブル管理ファイル、タスク、ロック、配布、サーバー設定のオブジェクトクラスのフィルターを設定することはできません。	--
読み取り	選択したオブジェクトに対する読み取り専用権限を割り当てるときは、このボックスをチェックします。エージェントインストール、ロック、および配布オブジェクトに対する読み取り専用権限を割り当てることはできません。	--

ユーザー ロールの追加: [ユーザー ロール] タブ (続き)

全権限	選択したオブジェクトに対するすべての権限 (たとえば、オブジェクトの読み取り/作成/変更/削除/割り当て/実行の権限) を割り当てるときは、このボックスをチェックします。すべてのオブジェクトクラスの「すべての」権限を有効にすると、ユーザーロール権限のより詳細な定義を行うためのチェックボックスは無効になり、それ以上、より詳細なレベルで個々のオブジェクトに権限を定義できなくなります。この制限は、単一のオブジェクトクラスにも適用されます。	-
-----	--	---

新しいユーザーロールを定義するには

新しいユーザーロールに割り当てる権限を定義し、設定に適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. 新しいユーザーロールを追加する場合: [管理者] の [編集] メニューで [ユーザー ロールの追加] をクリックします。
既存のユーザーロールを修正する場合: [管理者] の [参照] メニューで、[すべてのユーザー ロール] をクリックして修正するユーザーロールを探します。次に、[アクション] メニュー  の [編集...] オプションを使って [ユーザー ロール] ページを開きます。
3. [ユーザー ロール] タブをクリックし、ユーザーロールがアクセスできるオブジェクトの一覧に新しいオブジェクトを追加するときは、 ボタンを使用します。アクセス可能オブジェクトの一覧から既存のオブジェクトを削除するときは、 ボタンを使用します。
4. 必要に応じて Perl ベースの正規表現で文字列を定義し、オブジェクト名をその文字列に制限できます。たとえば、「[hp][hp][hp]-internal-*」という文字列は、名前が「b」、「e」、「s」の任意の組み合わせで始まり、「-internal-」が続き、それ以後が任意の文字列 (*) のすべてのノードグループに相当します。
5. 以下のボタンを使用すると、ユーザーロールの詳細を保存または破棄できます。
 - **保存**
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が適切に入力されている場合は、新しいユーザーロールの定義が保存されます。
 - **バックアップ**
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、[復元] ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - **復元**
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード階層設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。

- キャンセル

新しいユーザーロールについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [ユーザーロールの \[プロパティ\] タブ](#)
- [\[ユーザー ロール\] タブ](#)
- [新しいユーザーロールの追加](#)
- [新しいユーザーグループの追加](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

[参照] メニュー

[管理者] の [参照] メニューには、HPOM や HP Operations Manager 自体など、存在するさまざまなデータコンテキストを管理するユーザーを管理するためのオプションがあります。[参照] メニューには、次のオプションがあります。

[管理者] メニュー: 参照

メニュータイトル	説明
すべてのユーザー	現在アクティブなサーバーに設定され、使用できるすべてのユーザーを一覧表示します。たとえば、admin ユーザー、HPOM 管理者、HPOM オペレータなどが表示されます。選択しているサーバーを変更したり、現在アクティブなサーバーを調べるときは、[管理者] > [サーバー] メニューを使用します。
すべてのユーザーグループ	現在アクティブなサーバーに設定され、使用できるすべてのユーザーグループを一覧表示します。ユーザーグループは、ユーザーロールを割り当てることができる、ユーザーの論理集合です。ユーザーロールは、ユーザーグループのメンバーに適用される権限と作業範囲を定義します。選択しているサーバーを変更したり、現在アクティブなサーバーを調べるときは、[管理者] > [サーバー] メニューを使用します。
すべてのユーザーロール	現在アクティブなサーバーに設定され、使用できるすべてのユーザーロールを一覧表示します。ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、特定のユーザーグループに属すユーザーに適用される権限と作業範囲を指定します。選択しているサーバーを変更したり、現在アクティブなサーバーを調べるときは、[管理者] > [サーバー] メニューを使用します。
すべてのロック	ユーザーが現在変更しているオブジェクトに存在するロックを一覧表示します。別のユーザーによってロックされているオブジェクトを変更しようとする、警告が表示されます。
ログオン ユーザー	HP Operations 管理サーバーにログオンしているユーザーを一覧表示します。

[管理者]メニュー: 参照 (続き)

すべての復元ポイント	メッセージソースポリシーやノードグループなどのオブジェクトの編集時に作成した手動バックアップ ([バックアップ] ボタンを使用します)を一覧表示します。この一覧を使用することで、特定の日の特定の時刻に作成したバックアップを選択し、そのバックアップを元のエディタで表示できます。これにより、編集していたオブジェクトをバックアップ時の状態に復元できます。
通知	現在のブラウザセッションを実行しているユーザーに送信されるすべての通知メッセージを一覧表示します。

関連項目

- [ユーザーコンセプトについて](#)
- [管理者: \[編集\]メニュー](#)
- [管理者: \[解析\]メニュー](#)
- [管理者: \[サーバー\]メニュー](#)

すべてのユーザー

[管理者]の[すべてのユーザー]ページには、サーバーに設定されているユーザー (admin ユーザー、HPOM 管理者、HPOM オペレータなど) が一覧表示されます。ソート機能を使用すると、一覧の内容を名前、ラベル、タイプごとに表示できます。また、**フィルター**を適用すると、一覧内のオブジェクトの数やタイプを制限できます。一覧が長い場合、インデックスを使用すれば、迅速かつ簡単にページを切り替えることができます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

[すべてのユーザー]ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

admin ユーザーの一覧

カラムタイトル	説明
詳細	表示される admin ユーザーの簡単な説明。これは、管理者がロールやグループ割り当てなどの詳細情報を確認する上で役立ちます。
有効	このオプションは、ユーザーの状態を示します。新しく作成したユーザー (admin) について、このオプションを変更できます。
名前	ユーザーが初期ログオン画面に入力するユーザー名。また、名前はユーザーインターフェイスにも表示され、ログオンしているユーザーや、現在のセッションを所有するユーザーを表します。ユーザー名をクリックすると、そのユーザーの詳細情報が表示されます。ユーザー名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ユーザーの詳細情報を表示したり、ユーザーに対してアクションを実行できます。[名前]カラムで項目ごとに使用できる参照アクション ()メニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の「 関連項目 」を参照してください。
実際の名前	一覧表示されたユーザー (ログオン名)に関連付けられている個人の実際の名前を表示します。

admin ユーザーを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、すべての admin ユーザーを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのユーザー]**をクリックします。ユーザー数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)
- [ユーザーの割り当て](#)
- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [ユーザーアクションの表示 \(🔍\)](#)
- [ユーザー設定詳細の参照 \(📄\)](#)

ユーザー詳細の表示

[ユーザー詳細] ページには、個々のユーザーの設定に関する詳細情報が表示されます。**[ユーザー詳細]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ユーザー詳細

属性	値
認証方法	admin ユーザーの認証方法を表示します。
有効	ユーザー詳細の表示を有効にするには、このチェックボックスを選択し、またユーザー詳細の表示を無効にするには、このチェックボックスを選択解除します。
名前	表示されるユーザーに定義されている名前。この名前は、インタフェース (一覧など) で、そのユーザーの表示に使用されます。
ラベル	定義されている場合、選択したユーザーがユーザーインタフェースに表示される際に、ユーザー名に優先してこのラベルが使用されます。
実際の名前	選択したユーザーの実際の名前 (「Linux ノードの管理」など)。
詳細	選択したユーザーの簡単な説明 (「Linux ノードの管理」など)。

表示したユーザーが属するユーザーグループの詳細、または表示したユーザーの権限と作業範囲を定義するユーザーロールに関する情報を表示するには、**[参照]**メニューの**[ユーザーグループ]**オプション

または [ユーザー ロール] オプションを使用します。[すべてのユーザー...] メニューについては、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

選択したユーザーの詳細を表示するには

選択したユーザーの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]** メニューで、**[すべてのユーザー]** をクリックします。
3. **[名前]** カラムで、詳細情報を確認するユーザーの該当リンクをクリックするか、またはアクションボタン (🔍) をクリックしてアクションメニューを表示し、**[表示]** をクリックします。

関連項目

- [すべてのユーザーの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーグループの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーロールの一覧表示](#)
- [ユーザーの割り当て](#)

ユーザー設定詳細の参照

admin ユーザーの設定に関する詳細情報を表示できます。表示される情報のタイプは、どのタイプのユーザーの設定詳細を表示するかによって異なります。次の表は、HPOM ユーザーおよびユーザープロファイルについて表示できる情報を示しています。

[参照] メニュー: ユーザー、ユーザーロール、ユーザーグループ

設定の詳細	説明	ロック	ユーザー ロール	ユーザー	ユーザー ロール	ユーザー グループ
ロック	ロックには、現在編集しているオブジェクトに存在するロックを一覧表示します。別のユーザーによってロックされているオブジェクトを変更しようとすると、警告が表示されます。	--	✓	✓	✓	✓

[参照] メニュー: ユーザー、ユーザーロール、ユーザーグループ (続き)

<p>解決済みのユーザーロール</p>	<p>選択した admin ユーザーのユーザーロール、および固有の権限と一般的な権限を表示します。</p>	<p>✓</p>	<p>--</p>	<p>✓</p>	<p>✓</p>	<p>✓</p>
<p>ユーザー</p>	<p>選択したユーザーグループに属している、または選択したユーザーロールが割り当てられているユーザーを一覧表示します。ユーザーはユーザーグループに属し、ユーザーグループにはユーザーロールが割り当てられます。ユーザーは、ユーザーロール(複数も可)を通じてユーザーグループに割り当てられている権限と作業範囲を継承します。</p>	<p>✓</p>	<p>✓</p>	<p>--</p>	<p>✓</p>	<p>✓</p>

[参照] メニュー: ユーザー、ユーザーロール、ユーザーグループ (続き)

ユーザー ロール	選択したユーザーグループまたはユーザーに割り当てられているユーザーロールを一覧表示します。ユーザーロールは、ユーザーグループと、そのグループに属するユーザーに割り当てられる権限/作業範囲を定義します。	✓	✓	✓	-	✓
ユーザーグループ	選択したユーザーが属している、または選択したユーザーロールが割り当てられているユーザーグループを一覧表示します。ユーザーグループは、定義済みのロール(複数可)を割り当てることができる、ユーザーの論理集合です。	✓	✓	✓	✓	-

ユーザー設定詳細を表示するには

選択したユーザー、ユーザーロール、ユーザーグループの設定について要求できる追加情報を一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. [管理者] の [参照] メニューで、[すべてのユーザー]、[すべてのユーザー ロール]、または [すべてのユーザー グループ] をクリックします。ユーザー (またはプロフィール) の数が多い場合、一覧を作成するのに多少時間がかかる場合があります。
2. 設定を表示する admin ユーザー (またはユーザーロール、ユーザーグループ) を特定します。
3. 参照ボタン (🔍) をクリックすると、使用可能なユーザー設定詳細の一覧が表示されます。
4. 表示されているメニューで、表示および参照する設定詳細に対応するオプションをクリックします。一部のメニューオプションは常に使用できるわけではありません。表示されるメニューオプションは、選択するユーザーのタイプによって異なります。使用可能なメニューオプションについては、上の表を参照してください。

関連項目

- [すべてのユーザーアクションの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーグループの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーロールの一覧表示](#)

すべてのユーザーアクション

ユーザーに対して実行されるアクションを一覧表示します。使用可能なアクションのタイプは、ユーザーオブジェクトのタイプ、アクションの実行対象 (例、ユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループ) によって異なります。以下の表は、ユーザー、ユーザーロール、ユーザーグループで実行可能なアクションの一覧です。

[アクション] メニュー: admin ユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループ

アクション	説明
表示	選択したユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループの設定の詳細情報を表示します。
編集	選択したユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループの設定を変更します。
コピー...	[プロパティ] ダイアログが表示され、選択したユーザー、ユーザーグループ、ユーザーロールのコピーを作成できます。コピーには、元のユーザー、ユーザーグループ、ユーザーロールに定義されている割り当て (ノードグループ、メッセージグループなど) は含まれません。
割り当てとともにコピー...	[プロパティ] ダイアログが表示され、元のユーザー、ユーザーグループ、ユーザーロールに定義されている割り当て (ノードグループやメッセージグループなど) を含む、選択したユーザー、ユーザーグループ、ユーザーロールのコピーを作成します。

[アクション] メニュー: admin ユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループ (続き)

グループに割り当て...	ユーザーグループの選択ダイアログが表示され、選択したユーザーを特定のユーザーグループに割り当てることができます。
ユーザーグループに割り当て...	ユーザーグループの選択ダイアログが表示され、ユーザーロールを特定のユーザーグループに割り当てることができます。
ユーザーを割り当て...	admin ユーザーの選択ダイアログが表示され、ユーザーを特定のユーザーグループに割り当てることができます。
ロールを割り当て...	admin ユーザーの選択ダイアログが表示され、ユーザーを特定のユーザーロールに割り当てることができます。
ユーザーに通知...	情報を他のユーザーに送信するためのメッセージダイアログが表示されます。
削除...	選択したユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループを削除します。
ユーザーのロックを削除...	ポリシー、ノードグループといったユーザーが現在編集のオブジェクトに対して存在するロックを削除します。ユーザーがロックしているオブジェクトを一覧表示する方法については、「 ユーザーロックの一覧表示 」を参照してください。
ダウンロード...	選択したユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループの設定をファイルにダウンロードします。
ユーザーに通知...	選択したユーザー、ユーザーグループのメンバー、現在 HP Operations Manager にログオンしているすべてのユーザーにテキストメッセージを送信できます。 通知の一覧表示 機能を使用すると、各ユーザーは自分が受信したすべてのメッセージを一覧表示できます。
ユーザーの無効化	選択したユーザーが、HP Operations Manager へのログインすること、またはブラウザセッションを開始することを許可しないように設定します。
ユーザーの有効化	選択したユーザー (複数可) に HP Operations Manager へのログイン、またはブラウザセッションの開始を許可します。

ユーザーアクションを一覧表示するには

選択したユーザー、ユーザーロール、またはユーザーグループで実行可能なアクションの一覧を表示するには、以下の操作を実行します。

1. [管理者] の [参照] メニューで、[すべてのユーザー]、[すべてのユーザー ロール]、または [すべてのユーザー グループ] をクリックします。ユーザー数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。
2. アクションを実行する admin ユーザー (ロール、またはグループ) を特定します。
3. アクションボタン () をクリックすると、使用可能なアクションの一覧が表示されます。
4. 表示されたメニューで、開始するアクションをクリックします。使用可能なアクションおよびその内容についての詳細は、上の表を参照してください。

関連項目

- [ユーザー設定詳細の参照](#)
- [すべてのユーザーグループの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーロールの一覧表示](#)
- [ユーザーへのメッセージの送信](#)
- [ユーザー通知メッセージの一覧表示](#)
- [ユーザーロックの一覧表示](#)

ユーザー設定の編集

[ユーザー設定の編集] ページには、既存ユーザーのパラメータが表示され、設定を変更することができます。ユーザーグループに割り当てられたユーザーロールによって定義されているタスクおよびアクションを実行するには、ユーザーはユーザーグループに属している必要があります。以下の表では、[ユーザー設定の編集] ページの各フィールドに入力する情報を説明しています。ユーザーインターフェースで青いアスタリスク(*)が表示されている部分は、入力が必要となるフィールドを表しています。

管理者: ユーザー設定の編集

フィールドラベル	内容の説明	必須情報
ユーザーの有効化	新しく追加したユーザーを有効または無効にすることができます。このチェックボックスは、デフォルトで選択されます。	--
電子メール	新しく追加したユーザーの電子メールアドレスです。	--
ラベル	作成または変更するユーザーに適用するラベルです。定義済みの場合は、ユーザーインターフェースのユーザー一覧では、ユーザーを表すのにラベルが使用されます。	--
実際の名前	作成または変更するユーザーの実際の名前です。ユーザーインターフェースのユーザー一覧では、必要に応じて[実際の名前]フィールドに入力する名前が使用されます。	--
詳細	作成または変更するユーザーの簡単な説明です。管理者がユーザーのタイプを特定するのに使用します。	--
パスワード	ユーザーがログオン時に入力するパスワードです。パスワードは、6 ~ 32文字で設定します。ユーザーがHPOMオペレータの場合、パスワードを使用してHPOMにログオンできます。新しいユーザーがHP Operations Manager管理者の場合、パスワードを使用してHP Operations Manager管理UIにログオンできます。	✓
パスワードの確認	[パスワード]フィールドに入力したパスワードと同じものを再度入力します。	✓

ユーザーを変更するには

既存のユーザーを変更し、設定を適用するには、以下の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. [管理者] の [参照] メニューで [すべてのユーザー] をクリックします。編集または変更するユーザーを選択します。[アクション] メニューで [編集...] オプションをクリックします。
3. 表示されたタブ内のフィールドに情報を入力します。
 - プロパティ
ユーザー名、パスワード、ユーザータイプ (HPOM オペレータ、HPOM ポリシー管理者など) に関する詳細を定義します。
4. 以下のボタンを使用すると、ユーザーの詳細を保存または破棄できます。
 - 保存
すべての必須情報の入力チェックされ、未入力の箇所があれば、入力が必要な情報に赤い感嘆符 (!) が表示されます。すべての情報が入力されており、かつ誤りがない場合は、ユーザーの新しい定義が保存されます。
 - バックアップ
現在の編集セッションで、現時点までに入力したデータのバックアップを作成します。バックアップファイルには名前を割り当てることができ、[復元] ボタンを使用すると、このバックアップバージョンを後で呼び戻して作業を続けることができます。
 - 復元
[バックアップ] オプションを使って作成した復元ポイントが一覧表示されます (作成されている場合)。この一覧から復元ポイントを選択し、ノード階層設定のバックアップバージョンを呼び戻すことができます。現在ログインしているユーザーが作成したすべての復元ポイントを一覧表示する方法については、「[すべての復元ポイント \(バックアップ\) の一覧表示](#)」を参照してください。
 - キャンセル
新しいユーザーについて入力したすべての情報を破棄します。

関連項目

- [新しいユーザーの追加](#)
- [新しいユーザーロールの追加](#)
- [新しいユーザーグループの追加](#)

ユーザーグループへのユーザーの割り当て

グループのメンバーに割り当てられるロールと作業範囲を継承するには、ユーザーは少なくとも1つのユーザーグループに属している必要があります。ユーザーグループに割り当てられるロールと作業範囲から、そのグループのユーザーが表示できるメニューオプションが決定されます。また、その結果としてユーザーが実行できるアクションも決定されます。どのユーザーグループにも属さないユーザーは、アクションやタスクを実行できません。たとえば、データベースの管理、または特定のサーバー上の特定のHPOM ノードとHPOM メッセージグループへのアクセスをメンバーに許可するユーザーグループを定義できます。

ユーザーグループにユーザーを割り当てるには

新しいユーザーをユーザーグループに割り当て、ユーザーグループに定義されているすべての権限と作業範囲を継承させるには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. [管理者] の [参照] メニューで [すべてのユーザー] をクリックします。
3. 表示されるユーザー一覧で、割り当てるユーザーの横にあるチェックボックスをクリックします。
4. 一覧の下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューから [グループに割り当て...] オプションを選択します。
5. 表示されたユーザーグループの一覧で、ユーザーを割り当てるユーザーグループを特定して選択します。
6. [OK] をクリックします。

関連項目

- [ユーザーグループの一覧表示](#)
- [ユーザーロールの一覧表示](#)
- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

すべてのユーザーグループ

[すべてのユーザーグループ] ページには、現在選択しているサーバーに設定されているユーザーグループが一覧表示されます。ユーザーグループは、ユーザーロールを割り当てることができる、ユーザーの論理集合です。ユーザーロールは、ユーザーグループのメンバーに適用される権限と作業範囲を定義します。ソート機能を使用すると、一覧の内容を名前、ラベル、タイプごとに表示できます。また、フィルターを適用すると、一覧内のオブジェクトの数やタイプを制限できます。一覧が長い場合、インデックスを使用すれば、迅速かつ簡単にページを切り替えることができます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

[すべてのユーザーグループ] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ユーザーグループの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	1つまたは複数のユーザーグループを選択するためのチェックボックス。選択したユーザーグループは、表の最下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション（「ロールに割り当て...」、「ユーザーに割り当て...」など）の対象となります。

ユーザーグループの一覧 (続き)

詳細	一覧表示されるユーザーグループの簡単な説明を表示します。これは、管理者がユーザーやユーザーロールの割り当てなどの詳細情報を確認する上で役立ちます。
ラベル	ユーザーインターフェースを通してユーザーグループ一覧のユーザーグループを示します。
名前	ユーザーグループの名前を示します。ユーザーグループ名をクリックすると、選択したユーザーグループの詳細情報が表示されます。ユーザーグループ名の横の参照アイコンまたはアクションアイコンをクリックするとメニューが表示され、ユーザーグループの詳細情報を表示したり、ユーザーに対してアクションを実行できます。ブラウズメニューとアクションメニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の「 関連項目 」を参照してください。
ユーザー	ユーザーグループに少なくとも1人のユーザーが含まれていることを示します。
ユーザー ロール	ユーザーグループに少なくとも1つのユーザーロールが割り当てられていることを示します。

ユーザーグループを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、すべてのユーザーグループを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]**メニューで**[すべてのユーザー グループ]**をクリックします。ユーザーグループ数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [すべてのユーザーの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーロールの一覧表示](#)
- [ユーザーグループアクションの表示](#)
- [ユーザーグループ設定詳細の参照](#)

ユーザーグループ詳細の表示

[ユーザーグループの詳細] ページには、個々のユーザーグループの設定に関する詳細情報が表示されます。**[ユーザーグループの詳細]** ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ユーザーグループの詳細

属性	値
名前	表示されるユーザーグループに定義されている名前 (「管理者」など)。この名前は、インタフェース (一覧など) で、そのユーザーグループの表示に使用されます。
ラベル	定義されている場合、選択したユーザーグループがユーザーインタフェースに表示される際に、ユーザーグループ名に優先してこのラベルが使用されます。
詳細	選択したユーザーグループの簡単な説明 (「Linux ノードグループの管理」など)。

選択したユーザーグループの詳細を表示するには

選択したユーザーグループの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]** メニューで **[すべてのユーザー グループ]** をクリックします。
3. アクションボタン () をクリックし、詳細を確認するユーザーグループのアクションメニューを表示して、**[表示]** をクリックします。

関連項目

- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [すべてのユーザーの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーグループの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーロールの一覧表示](#)

すべてのユーザーロール

[管理者] の **[すべてのユーザー ロール]** ページには、サーバーに設定されているユーザーロールが一覧表示されます。ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、特定のユーザーグループに属すユーザーに適用される権限と作業範囲を指定します。ソート機能を使用すると、一覧の内容を名前、ラベル、タイプごとに表示できます。また、**フィルター** を適用すると、一覧内のオブジェクトの数やタイプを制限できます。一覧が長い場合、インデックスを使用すれば、迅速かつ簡単に **ページを切り替える** ことができます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の **「関連項目」** を参照してください。

すべて、または個々のユーザーロールを選択するためのチェックボックス。選択したユーザーロールは、表の最下部にある **[アクションを選択]** ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション (「ユーザーロールの追加」、「ユーザーグループへの割り当て」、「ユーザーグループからの割り当て解除」、「削除」など) の対象となります。

[すべてのユーザー ロール] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

管理者ユーザーロールの一覧

カラムタイトル	説明
名前	ユーザーロールの名前を示します。ユーザーロール名をクリックすると、選択したユーザーロールの詳細情報が表示されます。ユーザー名の横のいずれかのアイコンをクリックするとメニューが表示され、ユーザーの詳細情報を表示したり、ユーザーに対してアクションを実行できます。ブラウズメニューとアクションメニュー、およびそれぞれのオプションについては、後述の「 関連項目 」を参照してください。
詳細	一覧表示される admin ユーザーロールの簡単な説明を示します。これを参照することで、管理者は、そのユーザーロールが定義の対象としているユーザータスクを確認できます。
ラベル	ユーザーインターフェースを通してユーザーロール一覧のユーザーロールを示します。

ユーザーロールを一覧表示するには

HP Operations 管理サーバーに設定されている、すべてのユーザーロールを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. [\[参照\]](#)メニューで [\[すべてのユーザーロール\]](#) をクリックします。

ユーザーロール数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [すべてのユーザーの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーグループの一覧表示](#)
- [ユーザーグループアクションの表示](#)
- [ユーザーグループ設定詳細の参照](#)

ユーザーロール詳細の表示

[\[ユーザーロールの詳細\]](#) ページには、個々のユーザーロールの設定に関する詳細情報が表示されます。[\[ユーザーロールの詳細\]](#) ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

ユーザーロールの詳細

属性	値
----	---

ユーザーロールの詳細 (続き)

名前	表示されるユーザーロールに定義されている名前 (「Linux マネージャ」など)。この名前は、インタフェース (一覧など) で、そのユーザーロールの表示に使用されます。
ラベル	定義されている場合、選択したユーザーグループがユーザーインタフェースに表示される際に、ユーザーグループ名に優先してこのラベルが使用されます。
詳細	選択したユーザーロールの簡単な説明 (「Linux ノードグループの管理」など)。

[ユーザーロールの詳細] ページには、選択したユーザーロールに関連付けられているロールとユーザーの両方に割り当てられている権限に関する情報も表示されます。次に例を示します。

• グローバル権限

ユーザーが属すユーザーグループに関連付けられているユーザーロールを通じてユーザーに割り当てられる権限。グローバル権限の一覧は、ユーザーが何を実行できるかを示します。たとえば、どのサーバーを表示、変更、または管理できるか、どのようなアクセス権を持っているか (R - 読み取り、C - 作成、M - 変更、D - 削除、A - 割り当て、E - 実行) などを示します。フィルター処理などによって明示的に除外しない限り、「グローバル」レベルでユーザーに割り当てられた権限は、より詳細なレベルでオブジェクトに渡されます。

• 特定の権限

ユーザーロールを通じてアクセス権が付与される領域を示します (HP Operations 管理サーバー、設定オブジェクト、任意のフィルター処理済オブジェクトなど)。また、グローバルレベルで付与される権限が特定のオブジェクトでどのように制限されるか、および特定のオブジェクトに対してユーザーがどのようなアクセス権を持っているか (R - 読み取り、C - 作成、M - 変更、D - 削除、A - 割り当て、E - 実行) も示されます。

選択したユーザーロールの詳細を表示するには

選択したユーザーロールの詳細な説明を表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]**メニューで**[すべてのユーザーロール]**をクリックします。
3. **[名前]**カラムで、詳細情報を確認するユーザーロールの該当リンクをクリックするか、またはアクションボタン () をクリックしてアクションメニューを表示し、**[表示]**をクリックします。

関連項目

- [ユーザーロールの割り当て](#)
- [ユーザーの割り当て](#)
- [すべてのユーザーロールの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーの一覧表示](#)
- [すべてのユーザーグループの一覧表示](#)

ユーザーグループへのユーザーロールの割り当て

ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、グループのすべての既存メンバーと、今後グループに割り当てられるユーザーのロールと作業範囲を指定します。ユーザーに割り当てられるロールと作業範囲から、ユーザーインターフェースに表示されるメニューオプションが決定されます。また、その結果としてユーザーが実行できるアクションも決定されます。たとえば、特定のユーザーグループのメンバーに対して、データベースの管理、HPOM ノードと HPOM メッセージグループのみへのアクセス、または特定のサーバー上のオブジェクトの保守を許可するユーザーロールを定義できます。ユーザーグループに新しいユーザーロールを割り当てると、そのユーザーグループのすべてのメンバーは、そのユーザーロールに指定されている権限と作業範囲を継承します。

ユーザーグループにユーザーロールを割り当てるには

ユーザーロールをユーザーグループに割り当て、ユーザーロールに定義されている権限と作業範囲をユーザーグループのすべて既存メンバーおよび将来のメンバーに適用するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. Admin (管理) の [\[参照\]](#) メニューで [\[すべてのユーザー ロール\]](#) をクリックします。
3. 表示されるユーザーロール一覧で、割り当てるユーザーロールの横にあるチェックボックスをクリックします。
4. 一覧の下部にある [\[アクションを選択\]](#) ドロップダウンメニューから [\[ユーザー グループに割り当て...\]](#) オプションを選択します。
5. 表示されたユーザーグループの一覧で、ユーザーロールを割り当てるユーザーグループを特定して選択します。
6. [\[OK\]](#) をクリックします。

関連項目

- [ユーザーロールの一覧表示](#)
- [ユーザーグループの一覧表示](#)
- [ユーザーの割り当て](#)
- [ユーザーコンセプトについて](#)

すべてのロック

[\[すべてのロック\]](#) ページには、ユーザーが現在変更しているオブジェクトに存在するロックが一覧表示されます。別のユーザーによってロックされているオブジェクトを変更しようとする、警告が表示されます。ロックされているオブジェクトを変更しようとするユーザーは、以下のオプションのいずれかを選択できます。

- **オブジェクトの表示**
オブジェクトを読み取り専用モードで表示します。オリジナルのロックはそのまま変わりません。このオプションを使用してオブジェクトの内容を表示し、オブジェクトの状態を確認します。必要に応じて、管理者に誰がオブジェクトを変更しているかを調べるように依頼し、ロックを除去して他のユーザーによる変更を可能とすることもできます。
- **オブジェクトの編集**
ロックをリセットし、編集モードでオブジェクトを表示します。新しいユーザーがオブジェクトのロックの所有者となります。このオプションは注意して使用してください。オブジェクトのロックをリセットしてオブジェクトを変更すると、ロックのオリジナルの所有者がそのオブジェクトに対して作業中の場合、データの破損または損失につながる可能性があります。(注記:このオプションは、現在のユーザーのユーザーロールが、オブジェクトクラスのロックのオブジェクトに設定された作成権限を保有している場合のみ使用できます。)
- **キャンセル**
変更要求をキャンセルします。オブジェクトは表示されず、オリジナルのロックの所有者はそのまま変わりません。

ソート機能を利用することで、一覧の内容をオブジェクト名、ラベル、タイプなどの順に並べ替えることができます。また、**フィルター**を適用すると、一覧内のオブジェクトの数やタイプを制限できます。一覧が長い場合、インデックスを使用すれば、迅速かつ簡単に**ページを切り替える**ことができます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

[すべてのロック] ページの情報は、以下の情報を持つ表として表示されます。

ロックの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	ボックスをチェックして、アクションの対象となるすべての、または個別のロックを選択します。アクションは、表の最下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューを使用して実行します (例: 「削除...」など) の対象となります。
ID	すべてのロッカー の覧からのロック識別の一意の ID です。
名前	ロック名は、ロックがファイルシステムで表示されるときに与えられる名前です。
サーバー	オブジェクトが変更されているサーバーの名前を示します。
タイプ	ロックされたオブジェクトのタイプを示します。
ユーザー	一覧されたロックを所有する admin ユーザーの名前を示します。
オブジェクト クラス	ロックされたオブジェクトのクラスを示します。
開始日	一覧されたロックのタイムスタンプ (例: 2006-10-19 17:36:21.160)
バージョン	ロックされたオブジェクトのバージョンを示します。

オブジェクトのロックを一覧表示するには

サーバーに属するオブジェクトに存在するすべてのロックを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべてのロック]**をクリックします。多数のロックが存在する場合は、一覧の作成に少し時間がかかることがあります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)
- [すべてのタスクの一覧表示](#)

すべての復元ポイント

[すべての復元ポイント] ページには、現在ログオンしているユーザーが編集したオブジェクトのバックアップコピーが一覧表示されます。復元ポイントは、ユーザーが修正中のオブジェクト (ポリシーなど) の一時バックアップを作成した時点を示します。復元ポイントの一覧を使用することで、たとえば、**[保存]** または **[キャンセル]** ボタンをクリックする以外の方法で編集セッションをキャンセルした後に、その編集セッションを復元できます。復元ポイントは、メッセージソースポリシーなどのオブジェクトの編集中に **[バックアップ]** ボタンをクリックすることで、いつでも作成できます。また、**[復元]** ボタンをクリックし、復元するオブジェクトを選択することで、いつでもオブジェクトのバックアップコピーを復元できます。オブジェクトのバックアップコピーは、オブジェクトの保存時に使用していたエディタで表示されます。オブジェクトの一覧のソートおよびフィルター方法については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

[すべての復元ポイント] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

保存済み復元ポイントの一覧

カラムタイトル	説明
すべて	ボックスをクリックして、アクションの対象となるすべての、または個別の復元ポイントを選択します。アクションは、表の最下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューを使用して実行します (「削除...」など)。削除機能は、アクションボタン (●) ボタンのクリックによって表示されるアクションメニューからも選択できます。
オブジェクトクラス	復元ポイントの作成時に編集していたオブジェクトのタイプ (メッセージソースポリシーなど) を示します。
名前	復元ポイントに割り当てられている名前を示します。復元ポイント名は、復元ポイントの作成時に編集していたオブジェクトのタイプなど (ポリシー、ポリシーグループなど)、復元対象に関する何らかの情報を示唆します。
作成日	バックアップ用の復元ポイントを作成した日時を示します。
エディタセッション ID	復元ポイントの保存に使用されたエディタの ID 番号を示します。

保存済み復元ポイントの一覧 (続き)

詳細	復元ポイントの対象オブジェクトに関する簡単な説明を示します。
タイプ	復元されたオブジェクトのタイプを示します。
バージョン	復元されたオブジェクトのバージョンを示します。

復元ポイントを一覧表示するには

現在ログオンしているユーザーが保存したすべての復元ポイントを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーの管理者アイコンをクリックして、データコンテキストを「管理者」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[すべての復元ポイント]**をクリックします。復元ポイントの数が多いときは、一覧が表示されるまで少し時間がかかる場合があります。

関連項目

- [オブジェクト一覧のソート](#)
- [オブジェクト一覧のフィルター処理](#)

すべての通知

現在のブラウザセッションを実行しているユーザーに送信されるすべての通知メッセージを一覧表示します。個々のユーザー(またはユーザーグループ)へのメッセージの送信については、後述の「[関連項目](#)」を参照してください。

[すべての通知] ページの情報は、次の情報を示すテーブルとして表示されます。

通知の一覧

カラムタイトル	説明
すべて	すべて、または個々のユーザー通知メッセージを選択するためのチェックボックス。選択したユーザー通知メッセージは、表の最下部にある [アクションを選択] ドロップダウンメニューを使用して実行するアクション(「追加...」、「削除...」など)の対象となります。
時刻	通知を受信した日付と時刻(例、「Mar 24, 2009 7:05:10 AM」)。
ユーザー	メッセージの送信先ユーザーの名前(例、「admin」)。
メッセージ	送信された通知メッセージのテキスト(例、「Outage planned for 10:00 today, Tuesday, 24/03/2009 (本日 2009/03/24 (火) 10:00 に計画休止)」)。

通知メッセージを一覧表示するには

現在ログオンしているユーザーに対するすべての通知メッセージを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. ツールバーのホームアイコンをクリックして、データコンテキストを「ホーム」に設定します。
2. **[参照]**メニューで、**[通知]**をクリックします。

関連項目

- [ユーザーへのメッセージの送信](#)
- [使用可能な HPOM ユーザーの一覧表示](#)

[解析] メニュー

[解析]メニューを使用することで、HP Operations Manager 環境に定義されているユーザーとユーザーロールを管理できます。たとえば、ユーザーグループに属さないすべてのユーザーや、どのユーザーも属していないすべてのユーザーグループを一覧表示できます。また、ユーザーロールが割り当てられていないすべてのユーザーグループも表示できます。[管理者]の[解析]メニューには、次のオプションがあります。

[管理者]メニュー: 解析

メニューオプション	説明
グループの割り当てのないユーザー	グループが割り当てられていないユーザーを一覧表示します。どのユーザーグループにも属さないすべてのユーザーが表示されます。
ユーザーのないユーザーグループ	どのユーザーも属していないユーザーグループを一覧表示します。ユーザーが割り当てられていないすべてのユーザーグループが表示されます。ユーザーグループは、ユーザーの論理集合です。ユーザーには、ユーザーロールによってユーザーグループに定義される権限と作業範囲が割り当てられます。
ロールの割り当てのないユーザーグループ	ユーザーロールが割り当てられていないユーザーグループを一覧表示します。ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、特定のユーザーグループに属すすべてのユーザーのロールと作業範囲を指定します。ユーザーに表示されるオブジェクトとメニューオプションは、そのユーザーに割り当てられているロールと作業範囲によって決定されます。
グループの割り当てのないユーザーロール	どのユーザーグループにも割り当てられていないユーザーロールを一覧表示します。ユーザーロールは、ユーザーグループに割り当てられる、事前に設定されたユーザー定義です。これは、特定のユーザーグループに属すすべてのユーザーのロールと作業範囲を指定します。ユーザーに表示されるオブジェクトとメニューオプションは、そのユーザーに割り当てられているロールと作業範囲によって決定されます。

関連項目

- [管理者: \[編集\]メニュー](#)
- [管理者: \[参照\]メニュー](#)

- [管理者: \[サーバー\] メニュー](#)

[サーバー] メニュー

[管理者] の [サーバー] メニューでは、HP Operations 管理サーバーを表示/管理できます。この管理サーバーは、ログインしている Web アプリケーションのデータソースとして使用できます。適切なユーザー権限と作業範囲が割り当てられている場合、[管理者] の [サーバー] メニューには次の設定オプションが表示されます。

[管理者] メニュー: サーバー

メニューオプション	説明
<hostname>_server	設定データのソースとして利用できるサーバーの論理名を示します。サーバー ID のカラムでいずれかのリンクをクリックすると、そのサーバーは、現在アクティブなサーバーとして設定されます。アクティブなサーバーの設定データは、操作を行っているユーザーの権限と作業範囲に応じて表示/変更可能です。

関連項目

- [管理者: \[編集\] メニュー](#)
- [管理者: \[参照\] メニュー](#)
- [管理者: \[解析\] メニュー](#)

